

# 感染症発生動向調査事業報告書

平成27年（2015年）



# 序

感染症発生動向調査事業は、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、一類感染症から五類感染症、新型インフルエンザなど全症例の届出が義務付けられている疾患、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っています。

2015年からブラジルを中心に中南米および周辺地域で流行が続いているジカウイルス感染症は、日本国内ではヒトスジシマカによって感染拡大する恐れがあり、2016年2月5日に感染症法上の四類感染症に指定されました。妊娠中のジカウイルス感染と胎児の小頭症との関連が強く示唆され、新たな健康への脅威となっています。ジカウイルス感染症は、2014年に100人を超える国内発生例が報告されたデング熱などと同様に、海外から患者や無症状病原体保有者を通じて都内にウイルスが持ち込まれ流行するおそれがあります。そのため東京都は、蚊媒介感染症対策の対象に新たにジカウイルス感染症を加え、蚊の発生抑制・早期診断体制の整備・国内患者発生時の感染拡大を未然に防止する取り組みを進めています。

さらに、2015年5月から数か月にわたり、近隣の韓国で中東地域からの帰国者を発端として30人以上の死亡を数えたMERS（中東呼吸器症候群）の感染拡大事例があり、我が国における水際対策を含めた感染症危機管理の重要性が再確認されるなど、新興・再興感染症に対する備えを怠ることが出来ない状況となっています。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における2015年の感染症発生情報の評価や予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向につきましては、「小児科・内科疾患」、「基幹定点医療機関における週報告疾患」及び「基幹定点医療機関における月報告疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いしました。また、「一～四類、五類感染症（全数把握対象）、指定感染症」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報担当が、「病原体情報」につきましては微生物部が担当いたしました。

末筆ではございますが、感染症発生動向調査事業にご協力くださいました東京都医師会、定点医療機関および保健所等の関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

関係各位におかれましては、感染症対策の一助として本書を広くご活用くださいますようお願い申し上げます。

平成28年7月

東京都健康安全研究センター所長 大井 洋



## 目 次

### 第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾患	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年(2015年)の概況	
(1) 一～四類、五類(全数把握対象)、指定感染症	5
(2) 五類感染症(定点把握対象)	7
(3) 疑似症(法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症)	9
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(一～四類、五類全数、新型)	10
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(全数動物)	11
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(インフルエンザ定点・小児科定点)	12
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(眼科定点)	13
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点週報告分)	13
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(基幹定点月報告分)	14
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(性感染症定点)	14
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(疑似症定点)	14
3 各疾患の動向	
(1) 一～四類、五類感染症(全数把握対象)、指定感染症	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	22
オ 五類感染症(全数把握対象)	29
表3-1 一～四類、五類(全数把握)感染症 週別患者報告数	48
表3-2 一～四類、五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数	51
表3-3 一～四類、五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数	54
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	57
イ RSウイルス感染症	58
ウ 咽頭結膜熱	59

エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60
オ	感染性胃腸炎	61
カ	水痘	62
キ	手足口病	63
ク	伝染性紅斑	64
ケ	突発性発しん	65
コ	百日咳	66
サ	ヘルパンギーナ	67
シ	流行性耳下腺炎	68
ス	不明発しん症	69
セ	川崎病	70
(3)	眼科疾患	
ア	急性出血性結膜炎	71
イ	流行性角結膜炎	72
(4)	基幹定点医療機関における週報告疾患	
ア	細菌性髄膜炎	73
イ	無菌性髄膜炎	74
ウ	マイコプラズマ肺炎	75
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	76
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	77
カ	インフルエンザ入院	78
(5)	基幹定点医療機関における月報告疾患	
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	79
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	80
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	81
(6)	性感染症	
ア	性器クラミジア感染症	82
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	83
ウ	尖圭コンジローマ	84
エ	淋菌感染症	85
オ	膣トリコモナス症	86
カ	梅毒様疾患	87
表 4-1	週別患者報告数	88
表 4-2	週別定点当たり患者報告数	90
表 5-1	保健所別患者報告数	92
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	94
表 6	年齢階級別患者報告数	96

表 7-1	二次医療圏別患者報告数	97
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	98
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	99
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	99
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	99
表 8-4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	100
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	100
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	100
表 9-3	月別・性別患者報告数（性感染症）	101
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	101
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	102
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	103
表 9-7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	104
表 10	検査結果別報告数（基幹）	104
表 11	疑似症サーベイランス報告数	105

## 第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

### 1 ウイルス検査結果

#### (1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	109
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	110
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	111
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	113
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	117

#### (2) 内科病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

ア	2014/2015年シーズンのウイルス検出状況	117
イ	2015/2016年シーズンのウイルス検出状況	117
ウ	インフルエンザウイルスの抗原解析	118

### 2 細菌検査結果

(1)	二類感染症の病原体検索	121
(2)	三類感染症の病原体検索	121
(3)	四類感染症の病原体検索	121
(4)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	121
(5)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	122

### 3 性感染症の病原体検索

(1) クラミジア・トラコマチス、淋菌、梅毒トレポネーマ及び臍トリコモナス検査	123
(2) ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査	126
(3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1型およびHSV-2型）の遺伝子検査	127

## 第3章 資料

1 東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	131
2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿	147
3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ	148
東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	149
別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	158
2 五類感染症（全数把握）	159
3 新型インフルエンザ等感染症	160
4 五類感染症（定点把握）	160
5 疑似症	160
別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	161
別表3 疑似症の調査単位と報告時期	161
別記様式一覧表	162
別記様式1	163
別記様式2	164
別記様式3	165
別記様式4	166
別記様式5	167
別記様式6-1	168
別記様式6-2	169
別記様式7	170
別記様式8	171
保健所における麻しん対応調査票	172
別記様式9	173
別記様式10	174

# 第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報



# 東京都感染症発生動向調査事業報告

2015 年

(2014 年 12 月 29 日～2016 年 1 月 3 日)

2012 年 9 月以降、サウジアラビアやアラブ首長国連邦など中東地域で広く発生していた中東呼吸器症候群 (MERS) は 2014 年 7 月に感染症法の指定感染症となり、2015 年 1 月には感染症法の二類感染症として追加されました。2015 年 5 月にわが国の隣国である韓国で MERS の最初の患者が確認され、その後 12 月の終息までに感染者 186 人 (このうち死亡者 38 人) の大きな流行となりました。幸いなことに我が国での MERS の発生はありませんでした。

一方 1947 年ウガンダのジカ森林のアカゲザルから初めて分離されたジカウイルスは、2013 年にフランス領ポリネシアで約 1 万人の感染が報告され 2014 年にはチリのイースター島、2015 年にはブラジル及びコロンビアを含む南アメリカ大陸での流行が見られました。日本への最初の輸入症例はフランス領ポリネシアでの感染症例でした。こうした状況からわが国は 2016 年 2 月にジカウイルス感染症を四類感染症の届け出疾患として追加し、対策を開始しております。また 2016 年 3 月に WHO は妊娠中のジカウイルス感染と胎児の小頭症との関連が示唆されることから、妊婦はジカウイルス流行地域への渡航をするべきでないとの勧告を行っています。

2015 年の小児科・内科の定点把握疾患では、インフルエンザ、水痘、ヘルパンギーナの 3 疾患が前年より報告数が減少しました。一方、9 疾患で報告数が増加しており、特に RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑の 4 疾患はここ 10 年で最多の報告数になっています。報告数が減少しているインフルエンザは 2015/16 シーズンの流行開始が遅く 2016 年 1 週 (1.4～1.10) になって定点当たり 1.67 件の報告数があり、流行開始の目安である 1.00 件を超えています。流行開始の遅れが暖冬の影響なのか、また 2015/16 シーズンに初めて導入されたインフルエンザ 4 価ワクチンの評価など今後の検討が待たれます。

本年も報告書を取りまとめることができました。これはひとえに定点医療機関の諸先生方を始め調査事業にご協力いただいた多くの医療関係者の方々のお力添えによるものです。改めて厚くお礼を申しあげます。またご指導いただいた東京都医師会の鳥居明理事、副委員長の岡部信彦、武隈孝治の両先生を始めとする検討委員会の先生方、事務局の皆様へ感謝申し上げます。

平成 28 年 7 月

東京都医師会感染症予防検討委員会  
委員長 長岡常雄

## 1 発生動向調査の概略

### (1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、臍トリコモナス症と梅毒様疾患を性感染症に加えている。

2015年1月に、中東呼吸器症候群と鳥インフルエンザ（H7N9）が指定感染症から二類感染症へ変更された。

### (2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 24 が設定され、このうち 70 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点と内科定点は、インフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たしている。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

(2015年12月31日現在)

定点種別 (疾患数)	患者定点数	病原体定点数
小児科定点 (14)	264	26
内科定点 (1)	155	15
眼科定点 (2)	39	4
基幹定点 (9)	25	21
性感染症定点 (6)	55	4
疑似症単独定点 (2)	24	

### (3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は7日以内、ただし侵襲性髄膜炎菌感染症及び麻しんは診断後直ちに）保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関は年齢及び検出病原体名を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の年齢別患者数、基幹定点医療機関は当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において報告基準を満たす患者が発生した場合に、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し直ちに保健所に送付する（疑似症単独定点は、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する）。なお、発生がない場合であってもその旨週単位で報告する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに

入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報担当（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

#### （４）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>）で公開され、広く都民に情報還元が図られている。さらに都医ニュースの特定の感染症を取り上げ、週報に「感染症豆知識」として掲載している。

また、隔月第４木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近２か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。

## ２ 本年（2015年）の概況

### （１）一～四類、五類（全数把握対象）、指定感染症

#### ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

#### イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなく、結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

#### ウ 三類感染症

コレラ：2015年は１人届出があり、推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢：53人届出があった。菌型の内訳は *sonnei* 41件、*flexneri* 9件、*boydii* 3件で、推定感染地は国内23人、国外30人であった。

腸管出血性大腸菌感染症：335人届出があり、患者257人（うち溶血性尿毒症症候群6人）、無症状病原体保有者78人であった。血清型・毒素型では、O157 VT1・VT2が検出された例が116件で最も多かった。

腸チフス：14人届出があり、推定感染地は国外13人、国内又は国外1人であった。

パラチフス：9人届出があり、推定感染地はすべて国外であった。

#### エ 四類感染症

E型肝炎：39人届出があり、性別は男性32人、女性7人であった。推定感染地は国内36人、国外2人、国内又は国外1人であった。

A型肝炎：40人届出があり、推定感染地は国内30人、国外8人、国内又は国外2人であった。

エキノコックス症：1人届出があった。

コクシジオイデス症：2人届出があった。

チクングニア熱：7人届出があり、推定感染地はすべて国外であった。

つつが虫病：14人届出があり、推定感染地は国内12人、国外2人であった。

デング熱：92人（うちデング出血熱2人）届出があり、推定感染地はすべて国外であった。

**日本紅斑熱**：1人届出があった。

**ブルセラ症**：2人届出があった。

**マラリア**：16人届出があった。病型は熱帯熱マラリア 11人、三日熱マラリア 3人、四日熱マラリア 1人、不明 1人であり、推定感染地はすべて国外であった。

**ライム病**：2人届出があった。

**類鼻疽**：1人届出があった。

**レジオネラ症**：153人届出があり、病型は肺炎型 146人、ポンティアック熱型 6人、無症状病原体保有者 1人で、死亡例が 3人見られた。水系感染によると推定された届出は 53人であった。

**レプトスピラ症**：10人届出があり、推定感染地は国内 8人、国外 2人であった。

四類感染症のうち、ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、サル痘、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱の届出はなかった。

#### オ 五類感染症（全数把握対象）

**アメーバ赤痢**：205人届出があった。腸管アメーバ症 172人、腸管外アメーバ症 27人、腸管及び腸管外アメーバ症 6人であった。推定感染経路は、性的接触 77人、飲食物による経口感染 38人、2経路以上 6人、不明 84人であった。

**ウイルス性肝炎**：53人届出があった。内訳は、B型肝炎 41人、C型肝炎 11人、サイトメガロウイルス肝炎 1人であり、推定感染地は国内 48人、国外 4人、国内又は国外 1人であった。

**カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**：236人届出があった。分離された菌種のうち *Enterobacter cloacae* が 122件、*Enterobacter aerogenes* が 63件、*Klebsiella pneumoniae* が 11件、*Escherichia coli* が 11件、*Serratia marcescens* が 10件、*Citrobacter freundii* が 5件であった。

**急性脳炎**：47人届出があった。病原体はインフルエンザウイルス 11件、アデノウイルス 2件、エンテロウイルス 2件、ヒトヘルペスウイルス 2件、単純ヘルペスウイルス 2件、サルモネラ菌 2件、ロタウイルス 1件、マイコプラズマ 1件、不明 24件であった。

**クリプトスポリジウム症**：3人届出があった。推定感染経路では性的接触による感染が 1人、経口感染 1人、性的接触または経口感染 1人であった。

**クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)**：24人届出があり、孤発性プリオン病が 23人、感染性プリオン病が 1人であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：62人届出があった。血清型は A 群 35件、B 群 11件、G 群 11件、不明 5件で、死亡例は 13人報告された。

**後天性免疫不全症候群**：435人届出があり、AIDS 患者 71人、その他（指標疾患以外の有症者） 51人、HIV 感染者（無症候性キャリア） 313人であった。推定感染地は国内 358人、国外 31人、国内又は国外 3人、不明 43人で、推定感染経路では性的接触 394人のほか、静注薬物使用 1人、入れ墨 1人などが見られた。

**ジアルジア症**：19人届出があり、推定感染地は国内 10人、国外 9人、推定感染経路は飲食物による経口感染 8人などのほか、性的接触による感染が 3人見られた。

**侵襲性インフルエンザ菌感染症**：29 人届出があった。血清型は b 群 3 人、f 型 1 人、判定不能 7 人、不明 18 人であった。ワクチン接種歴は、4 回接種が 2 人、1 回接種が 1 人のほか、接種なし 7 人、不明 19 人であった。

**侵襲性髄膜炎菌感染症**：8 人届出があり、血清群は Y 群 3 人、W-135 群 2 人、B 群 1 人、C 群 1 人、Y 群及び W-135 群 1 人であった。ワクチン接種歴は、なし 4 人、不明 4 人であった。

**侵襲性肺炎菌感染症**：323 人届出があった。血清型は 24F 型 12 人、15A 型 9 人、12F 型 8 人、19A 型 8 人、35B 型 5 人、3 型 4 人、10A 型 4 人、1 型 2 人、4 型 2 人、7F 型 2 人、24B 型 2 人、34 型 2 人、8 型 1 人、9V 型 1 人、11A 型 1 人、15B 型 1 人、15C 型 1 人、18C 型 1 人、20 型 1 人、22 型 1 人、23A 型 1 人、24A 型 1 人、38 型 1 人、24 (24A 又は 24B 又は 24F) 型 2 人、不明 250 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 38 人、3 回接種 15 人、2 回接種 2 人、1 回接種 14 人、なし 143 人、不明 111 人であった。

**水痘 (入院例)**：55 人届出があった。ワクチン接種歴は 1 回接種 7 人、なし 20 人、不明 28 人であった。

**梅毒**：1,044 人届出があり、調査開始以降で最多となった。早期顕症梅毒 I 期 304 人、早期顕症梅毒 II 期 443 人、晩期顕症梅毒 22 人、無症候 273 人、先天梅毒 2 人であった。

**播種性クリプトコックス症**：11 人届出があった。推定感染国はすべて国内で、推定感染原因はすべて免疫不全であった。

**破傷風**：2 人届出があり、推定感染地はすべて国内であった。

**バンコマイシン耐性腸球菌感染症**：2 人届出があった。菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子はすべて *vanB* であった。

**風しん**：33 人届出があり、推定感染地は国内 29 人、国外 3 人、国内又は国外 1 人であった。ワクチン接種歴は、2 回接種 1 人、1 回接種 8 人、接種歴なし 6 人、不明 18 人であった。

**麻疹**：10 人届出があり、推定感染地は国内 6 人、国外 4 人であった。ワクチン接種歴は、接種なし 5 人、不明 5 人であった。

**薬剤耐性アシネトバクター感染症**：13 人届出があった。

五類感染症のうち、先天性風しん症候群 (CRS)、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

## (2) 五類感染症 (定点把握対象)

### ア 小児科・内科疾患

2014 年と比較して定点当たり 10%以上報告数が減少した疾患はインフルエンザ、水痘、ヘルパンギーナの 3 疾患であった。定点当たりの報告数が前年並みであった疾患は咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、突発性発しんの 3 疾患であった。定点当たり前年比 10%以上増加した疾患は RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑、百日咳、流行性耳下腺炎、不明発しん症、川崎病の 8 疾患であった。

### [前年比減少疾患]

**インフルエンザ**：2015 年の報告数は 59,435 件、定点当たり 145.11 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.39 であった。

**水痘**：2015 年の報告数は 6,765 件、定点当たり 26.04 件であった。定点あたりの当年/前年比は 0.66

であった。

**ヘルパンギーナ**：2015年の報告数は7,200件、定点当たり27.91件であった。定点当たりの当年/前年比は0.46であった。

#### [前年並みであった疾患]

**咽頭結膜熱**：2015年の報告数は5,385件、定点当たり20.77件であった。定点当たりの当年/前年比は0.96であった。

**感染性胃腸炎**：2015年の報告数は91,052件、定点当たり350.13件であった。定点当たりの当年/前年比は1.08であった。

**突発性発しん**：2015年の報告数は7,816件、定点当たり30.10件であった。定点当たりの当年/前年比は0.97であった。

#### [前年比増加疾患]

**RSウイルス感染症**：2015年の報告数は7,197件、定点当たり27.82件であった。定点当たりの当年/前年比は1.17であった。

**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**：2015年の報告数は35,039件、定点当たり134.57件であった。定点当たりの当年/前年比は1.27であった。

**手足口病**：2015年の報告数は32,599件、定点当たり126.39件であった。定点当たりの当年/前年比は5.39であった。

**伝染性紅斑**：2015年の報告数は10,174件、定点当たり39.08件であった。定点当たりの当年/前年比は2.01であった。

**百日咳**：2015年の報告数は300件、定点当たり1.15件であった。定点あたりの当年/前年比は1.89であった。

**流行性耳下腺炎**：2015年の報告数は4,883件、定点当たり18.83件であった。定点当たりの当年/前年比は1.63であった。

**不明発しん症**：2015年の報告数は1,312件、定点当たり5.06件であった。定点当たりの当年/前年比は1.14であった。

**川崎病**：2015年の報告数は199件、定点当たり0.77件であった。定点当たりの当年/前年比は1.12であった。

#### イ 眼科疾患

**急性出血性結膜炎**：報告数は14人、定点当たり0.36人だった。過去10年間で定点あたり報告数が最少だった2014年(0.34人)とほぼ同等の少ない報告だった。

**流行性角結膜炎**：報告数は1,256人、定点当たり32.49人だった。2007年と2012年に報告数が多かったが、2015年は2007年や2012年と同等に多い報告だった。

#### ウ 基幹定点における週報告疾患

**細菌性髄膜炎**：2015年の報告数は39件で、定点当たり1.56件であった。定点当たりの当年/前年比は1.77であった。

**無菌性髄膜炎**：2015年の報告数は72件、定点当たり2.88件であった。定点当たりの当年/前年比は

0.70 であった。

**マイコプラズマ肺炎**：2015 年の報告数は 770 件、定点当たり 30.85 件であった。定点当たりの当年/前年比は 3.29 であった。

**クラミジア肺炎（オウム病を除く）**：2015 年の報告数は 59 件、定点当たり 2.36 件であった。定点当たりの当年/前年比は 2.81 であった。

**感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）**：2015 年の報告数は 99 件、定点当たり 3.96 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.74 であった。

**インフルエンザ入院**：2015 年の報告数は 486 件、定点当たり 19.44 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.66 であった。

## エ 基幹定点における月報告疾患

**メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症**：2015 年の報告数は 877 件、定点当たり 35.21 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.97 であった。

**ペニシリン耐性肺炎球菌感染症**：2015 年の報告数は 158 件、定点当たり 6.36 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.85 であった。

**薬剤耐性緑膿菌感染症**：2015 年の報告数は 28 件、定点当たり 1.12 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.33 であった。

## オ 性感染症

**性器クラミジア感染症**：報告数は 2,678 人であり、そのうち男性は 1,519 人、定点当たり 27.84 人（前年比 1.11）、女性は 1,159 人、定点当たり 21.24 人（前年比 1.07）であった。

**性器ヘルペスウイルス感染症**：報告数は 1,329 人であった。男性 920 人、定点当たり 16.87 人（前年比 1.11）、女性 409 人、定点当たり 7.50 人（前年比 0.86）で、2006 年以降男性に多い状況が続いている。

**尖圭コンジローマ**：報告数は 1,237 人であった。男性 940 人、定点当たり 17.23 人（前年比 1.40）、女性 297 人、定点当たり 5.45 人（前年比 0.92）で、男性が多い。

**淋菌感染症**：報告数は 1,394 人であった。男性 1,005 人、定点当たり 18.42 人（前年比 1.14）、女性 389 人、定点当たり 7.13 人（前年比 1.00）で、男性は女性の 2 倍以上の報告数が続いている。

**膣トリコモナス症**：報告数は 151 人であり、男性 10 人、定点当たり 0.18 人（前年比 2.50）、女性 141 人、定点当たり 2.58 人（前年比 1.13）であった。

**梅毒様疾患**：報告数は 221 人であり、男性 141 人、定点当たり 2.58 人（前年比 1.37）、女性 80 人、定点当たり 1.47 人（前年比 2.40）であった。過去 10 年の定点当たり患者報告数では、男女とも、徐々に増加傾向である。

### （3）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 126 人、発熱及び発しん又は水疱は 21 人報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一～四類、五類全数、新型)

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	1	-	-	-	-
	結核	3,219	3,045	3,022	2,874	2,671	2,533	集計中
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 <sup>*11</sup>	/	/	/	/	/	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) <sup>*1</sup>	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9) <sup>*8</sup>	/	/	/	/	-	-	-
三类	コレラ	3	2	3	-	-	3	1
	細菌性赤痢	48	86	86	75	36	41	53
	腸管出血性大腸菌感染症	317	339	257	258	382	362	335
	腸チフス	11	12	6	13	23	27	14
	パラチフス	12	5	9	11	20	8	9
四類	E型肝炎	6	9	9	21	32	27	39
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	24	45	27	35	19	38	40
	エキノコックス症	1	1	2	1	-	-	1
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	1	-	3	-	2	3	-
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	1	-	-	-
	キャサナル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	1	-	-	-	3	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	1	1	2	1	4	-	2
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-
	重症熱性血小板減少症候群 <sup>*5</sup>	/	/	/	/	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 <sup>*2</sup>	/	/	-	3	4	5	7
	つつが虫病	14	14	13	19	12	18	14
	デング熱	32	70	27	56	66	163	92
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	1	1	-	-	-	1
	日本脳炎	-	-	1	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	1	-	-	-	-	4	2
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-	
ポツリヌス症	-	-	-	-	-	-	-	
マラリア	26	27	27	24	12	27	16	
野兔病	-	-	-	-	-	-	-	
ライム病	1	1	3	-	7	2	2	

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
四 類	リッサウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	-	-	-	-
	類鼻疽	-	1	-	-	1	-	1
	レジオネラ症	53	55	72	60	80	107	153
	レプトスピラ症	-	2	5	6	6	6	10
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	-	-	-
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	140	180	178	198	187	229	205
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	35	48	40	60	72	48	53
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *9	/	/	/	/	/	56	236
	急性脳炎	45	14	19	33	46	52	47
	クリプトスポリジウム症	4	3	2	2	7	82	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	19	15	13	18	19	17	24
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	19	30	23	37	41	62
	後天性免疫不全症候群	471	509	409	461	469	512	435
	ジアルジア症	24	13	13	16	22	15	19
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *6	/	/	/	/	12	22	29
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *6	/	/	/	/	11	9	8
	侵襲性肺炎球菌感染症 *6	/	/	/	/	124	225	323
	水痘(入院例) *9	/	/	/	/	/	11	55
	髄膜炎菌性髄膜炎 *7	1	-	2	-	-	/	/
	先天性風しん症候群	-	-	-	-	13	3	-
	梅毒	196	173	248	297	419	507	1,044
	播種性クリプトコックス症 *9	/	/	/	/	/	4	11
	破傷風	7	5	8	5	4	10	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	15	17	6	10	8	6	2
風しん *3	19	15	32	672	3,445	99	33	
麻しん *3	110	76	178	84	69	94	10	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *10	/	/	/	/	/	3	13	
新型	新型インフルエンザ *4	1,160	/	/	/	/	/	/

- \*1 2008年5月12日より追加指定。  
 \*2 2011年2月1日より追加指定。  
 \*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。  
 \*4 AH1pdm09は、2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定。全数届け出は2009年7月23日まで。  
 \*5 2013年3月4日より追加指定。  
 \*6 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。  
 \*7 2003年11月5日より四類(全数把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった後、2013年4月1日より届出対象から除外。  
 \*8 2013年4月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。  
 \*9 2014年9月19日より追加指定。  
 \*10 2011年2月1日より五類(定点把握対象)に追加指定、2014年9月19日に五類(全数把握対象)に変更。  
 \*11 2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。  
 病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数 (全数動物)

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
エボラ出血熱のサル	-	-	-	-	-	-	-
マールブルグ病のサル	-	-	-	-	-	-	-
バスタのプレーリードッグ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	-	-	-	-	-	-	-
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	-	-	-	-	-	-	-
結核のサル	-	-	-	-	-	-	-
中東呼吸器症候群のラクダ *1	/	/	/	/	/	-	-
鳥インフルエンザ(H5N1又はH7N9)の鳥類	1 *2	-	-	-	-	-	-
細菌性赤痢のサル	-	-	-	-	-	-	-
ウエストナイル熱の鳥類	-	-	-	-	-	-	-
エキノコックス症の犬	-	-	-	-	-	-	-

- \*1 2014年7月26日より追加指定  
 \*2 2009年の報告は動物実験による感染

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
小児科定点数 *1	142	150	150	150	150	264	264	264	264	264
インフルエンザ定点数 *2	178	290	290	290	290	419	419	419	419	419
インフルエンザ	23,953 134.57	53,927 191.41	23,059 80.47	142,140 495.53	12,614 43.97	99,940 240.03	135,064 323.29	75,328 181.11	152,421 367.55	59,435 145.11
RSウイルス感染症 *3	818 5.76	1,403 9.57	1,722 11.71	845 5.73	2,153 14.52	3,628 13.94	6,349 24.51	6,058 23.48	6,183 23.70	7,197 27.82
咽頭結膜熱	3,929 27.67	2,793 18.96	2,927 19.86	1,339 9.07	1,979 13.37	4,936 18.95	5,510 21.20	6,184 23.89	5,607 21.54	5,385 20.77
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	11,213 78.96	11,913 81.32	13,925 93.97	10,058 68.03	11,231 75.80	25,487 97.66	25,224 96.60	24,801 95.29	27,581 105.60	35,039 134.57
感染性胃腸炎	51,945 365.81	46,783 318.41	58,681 395.92	37,599 254.50	63,372 427.41	95,910 367.56	118,967 455.28	102,987 395.81	84,091 322.84	91,052 350.13
水痘	8,345 58.77	8,874 60.77	8,682 58.68	7,079 47.94	9,472 63.93	15,679 60.11	12,995 49.75	11,452 44.22	10,314 39.69	6,765 26.04
手足口病	2,885 20.32	4,382 29.73	4,487 30.60	3,426 23.36	6,257 42.52	24,786 95.84	5,411 20.90	29,320 114.72	6,089 23.44	32,599 126.39
伝染性紅斑	3,109 21.89	2,879 19.73	1,168 7.90	1,558 10.54	2,929 19.79	6,317 24.23	1,626 6.23	1,608 6.19	5,069 19.44	10,174 39.08
突発性発しん	4,119 29.01	4,691 31.95	4,944 33.49	4,463 30.24	4,397 29.74	8,447 32.44	8,547 32.85	8,299 32.00	8,120 31.18	7,816 30.10
百日咳	23 0.16	151 1.02	278 1.88	225 1.53	506 3.42	450 1.73	286 1.10	91 0.35	158 0.61	300 1.15
風しん *4	21 0.15	35 0.24								
ヘルパンギーナ	5,900 41.55	6,804 46.10	6,470 44.08	2,574 17.63	8,400 57.06	14,431 55.78	13,548 52.28	8,480 33.06	15,874 61.25	7,200 27.91
麻しん *4	25 0.18	303 2.05								
流行性耳下腺炎	4,481 31.56	1,940 13.24	3,662 24.83	5,175 35.05	5,154 34.87	4,488 17.23	3,089 11.88	2,549 9.83	3,003 11.57	4,883 18.83
不明発しん症 *5	966 6.80	665 4.52	734 4.98	657 4.48	622 4.21	1,506 5.78	1,400 5.40	1,094 4.24	1,158 4.45	1,312 5.06
川崎病 *5	101 0.71	110 0.75	109 0.73	71 0.48	89 0.60	217 0.83	177 0.68	221 0.85	180 0.69	199 0.77

\*1 2007年は、12月末時点の定点数

\*2 2007年は、12月末時点の定点数

\*3 2003年45週より実施

\*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

\*5 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(眼科定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
定点数*	14	39	39	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	8 0.57	82 2.15	64 1.66	53 1.37	74 1.91	31 0.84	19 0.50	17 0.45	13 0.34	14 0.36
流行性角結膜炎	535 38.21	968 32.04	865 22.41	703 18.28	951 24.60	842 22.73	1,140 30.01	891 23.68	913 23.79	1,256 32.49

\* 2007年は、12月末時点の定点数

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
定点数	25	25	24	24	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	15 0.60	28 1.14	24 1.01	24 1.02	18 0.76	52 2.14	42 1.68	48 1.93	22 0.88	39 1.56
無菌性髄膜炎	40 1.60	50 2.03	34 1.42	28 1.17	38 1.61	96 3.91	121 4.86	126 5.06	102 4.09	72 2.88
マイコプラズマ肺炎	218 8.72	247 10.11	298 12.53	305 12.93	416 17.76	1,143 46.78	1,067 42.84	514 20.66	234 9.37	770 30.85
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	13 0.52	20 0.81	25 1.05	46 1.96	20 0.85	18 0.74	14 0.56	40 1.60	21 0.84	59 2.36
感染性胃腸炎*1 (ロタウイルスによる)								22 0.88	134 5.36	99 3.96
インフルエンザ入院*2						12 0.48	610 24.40	518 20.89	735 29.40	486 19.44
成人麻しん*3	3 0.12	262 10.70								

\*1 2013年42週より実施

\*2 2011年36週より実施

\*3 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
定点数	25	25	24	24	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25	918 37.26	908 36.44	877 35.21
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55	440 17.72	467 18.94	186 7.47	158 6.36
薬剤耐性緑膿菌感染症	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52	24 0.97	32 1.29	21 0.84	28 1.12
薬剤耐性アシネト* バクテリア感染症						0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

\* 2011年2月より2014年9月18日まで実施。

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(性感染症定点)

上段:年間報告数  
下段:定点当たり

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
定点数*1	41	55	55	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64	2,286 42.46	2,427 44.90	2,678 49.09
性器ヘルペスウイルス感染症	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17	1,216 22.60	1,298 24.00	1,329 24.36
尖圭コンジローマ	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31	877 16.17	959 17.84	986 18.22	1,237 22.68
淋菌感染症	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09	1,070 19.87	1,259 23.31	1,394 25.55
膣トリコモナス症*2	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49	129 2.38	113 2.10	127 2.36	151 2.77
梅毒様疾患*2	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14	120 2.21	136 2.53	135 2.50	221 4.05

\*1 2007年は、12月末時点の定点数

\*2 東京都独自疾患

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数  
(疑似症定点)

	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
定点数			315	315	315	443	443	443	443	443
発熱及び呼吸器症状*			11	147	20	9	10	38	147	126
発熱及び発しん・水疱*			8	6	9	4	15	16	20	21

\* 2008年7月より実施

### 3 各疾患の動向

#### (1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）、指定感染症

##### ア 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は届出がなかった。

##### イ 二類感染症

###### ① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況」で報告する。

###### ② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は届出がなかった。

##### ウ 三類感染症

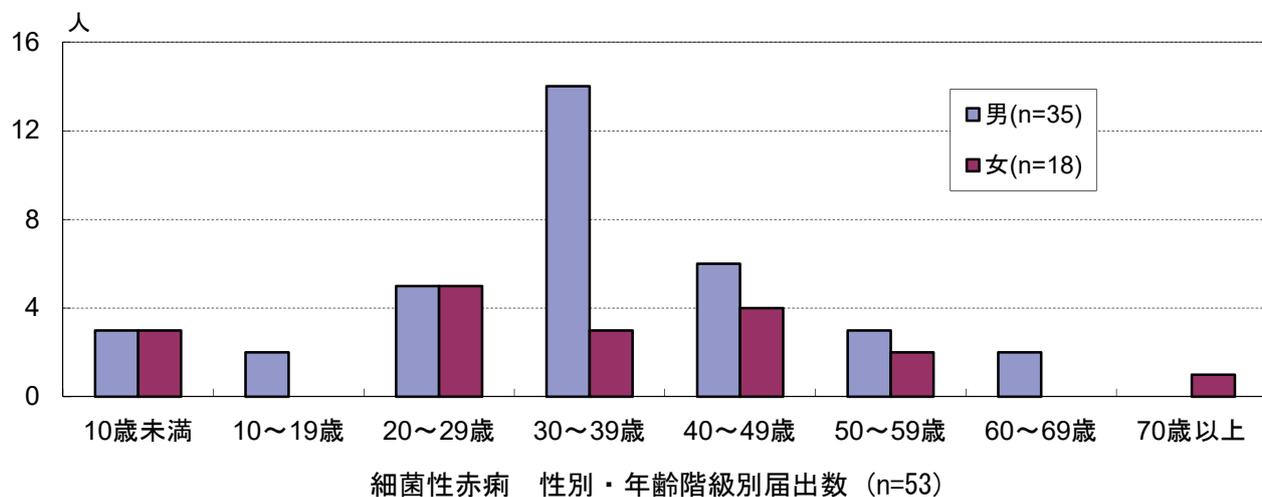
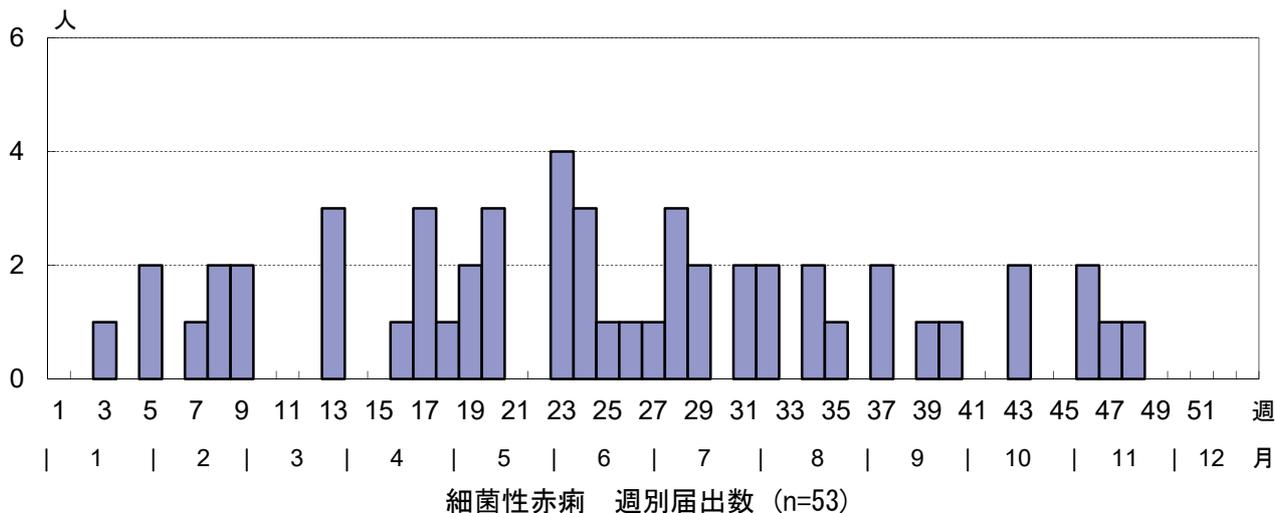
###### ① コレラ

2015年は1人の届出があった。菌型はO1アジア小川型であった。性別は男性、年齢階級別は30歳代であった。推定感染地はフィリピンであった。

###### ② 細菌性赤痢

2015年は53人の届出があった。菌種は*sonnei* 41件、*flexneri* 9件、*boydii* 3件であった。性別は男性35人、女性18人で、年齢階級別では10歳未満6人、10～19歳2人、20～29歳10人、30～39歳17人、40～49歳10人、50～59歳5人、60～69歳2人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内23人、国外30人であった。国内感染と推定された23人の年齢階級別の内訳は10歳未満4人、10～19歳2人、20～29歳1人、30～39歳9人、40～49歳3人、50～59歳2人、60～69歳1人、70歳以上1人であり、同性間性的接触によると推定される感染例が3例報告された。国外感染例の推定感染地域は東南アジア13人、南アジア12人、アフリカ2人、東アジア1人、2地域以上2人であり、推定感染国別に見ると、2人以上の届出があった国はインド11人、インドネシア6人、ミャンマー3人、フィリピン2人、エチオピア2人であった。



細菌性赤痢 国内感染例 (n=23)

受理日	性別	年齢	菌種	症状	備考
1/26	男	31	ソンネ	有	性的接触 (同性間)
2/18	男	31	ソンネ	有	性的接触 (同性間)
3/23	男	32	ソンネ	有	
3/23	男	36	ソンネ	有	
4/21	女	8	ソンネ	有	集団事例 (初発)
4/24	男	6	ソンネ	有	集団事例
4/25	女	8	ソンネ	有	集団事例
4/29	男	64	ソンネ	無	集団事例
5/7	男	6	ソンネ	有	
5/10	女	53	ソンネ	有	集団事例
5/12	女	36	ソンネ	有	
5/12	男	37	ソンネ	有	

6/1	男	39	ソンネ	有	
6/3	女	51	ソンネ	有	
6/10	女	41	ボイド	有	患者の妻
7/6	男	19	ソンネ	有	
7/10	男	40	ソンネ	有	
7/10	男	28	ソンネ	有	性的接触（同性間）
7/13	男	34	ソンネ	有	弁当の寿司
8/1	男	30	フレキシネル	有	
9/30	女	75	フレキシネル	有	
10/19	男	19	ソンネ	有	再感染
10/21	男	45	ソンネ	有	

#### 細菌性赤痢 国外感染例 (n=30)

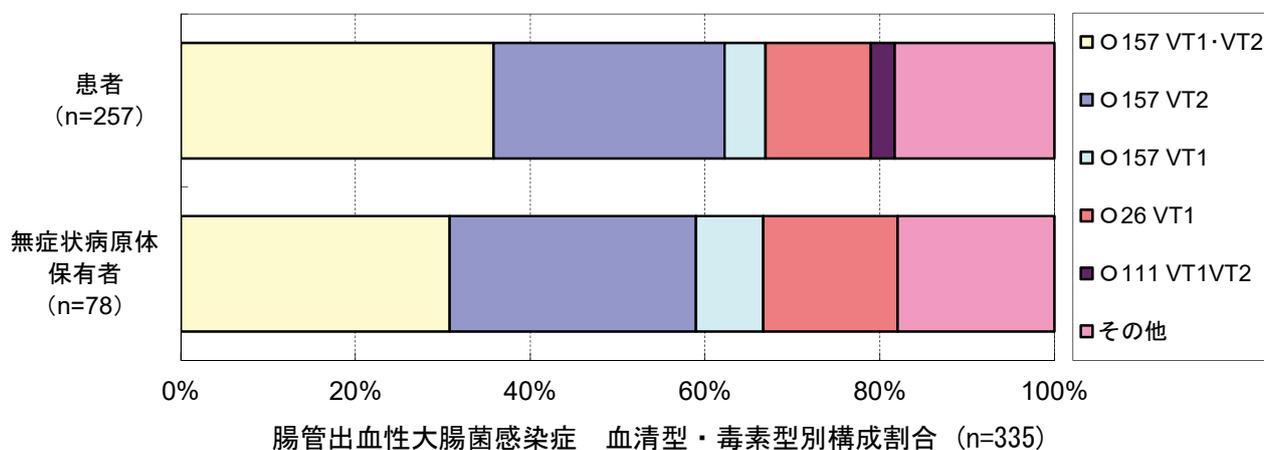
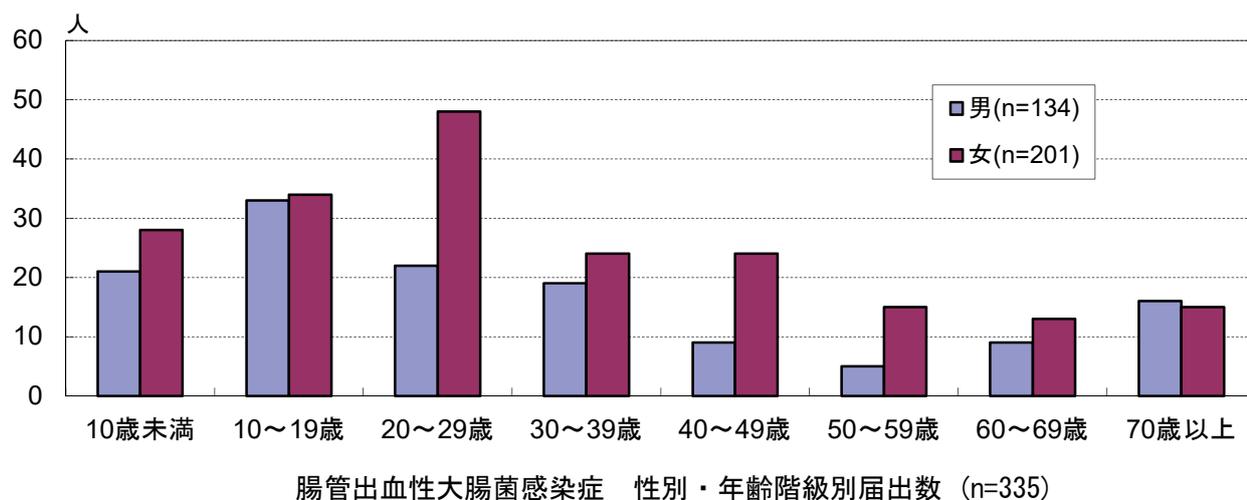
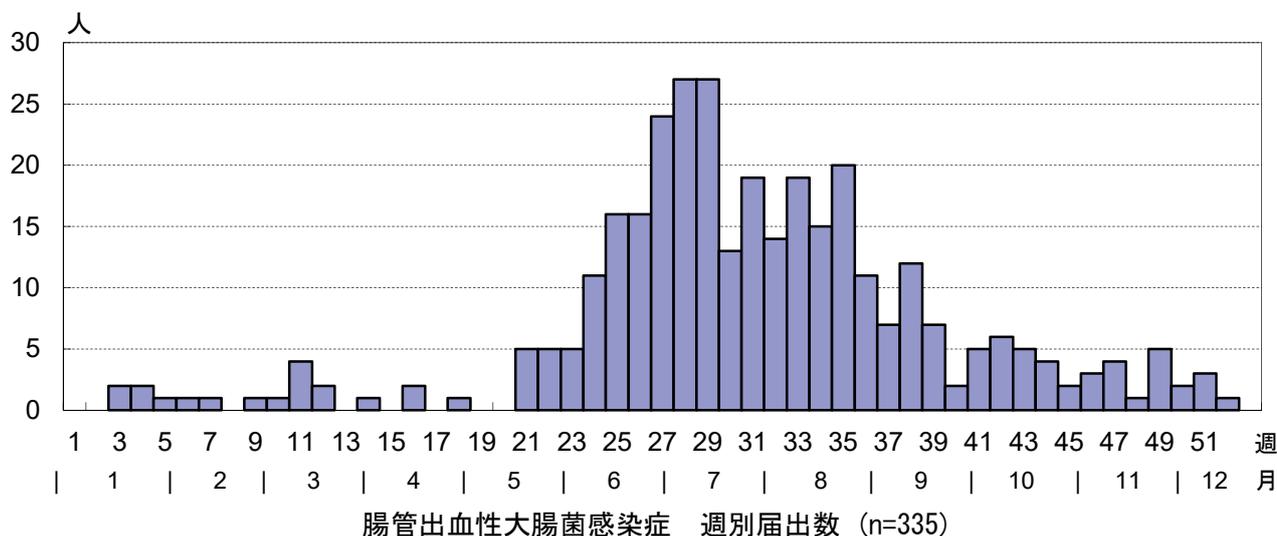
推定感染地域	人数	推定感染国	人数
東南アジア	13	インドネシア	6
		ミャンマー	3
		フィリピン	2
		ラオス	1
		ベトナム又はカンボジア	1
南アジア	12	インド	11
		パキスタン	1
アフリカ	2	エチオピア	2
東アジア	1	中国	1
2 地域以上	2	タイ又はバングラデシュ	1
		タイ又はマレーシア又は香港	1
合計	30		30

### ③ 腸管出血性大腸菌感染症

2015 年は 335 人の届出があり、症状別では患者 257 人、無症状病原体保有者 78 人であった。届出はほぼ 1 年を通して見られたが、特に夏期から秋期にかけて増加した。性別は男性 134 人、女性 201 人で、年齢階級別では 10 歳未満 49 人（うち 5 歳未満 26 人）、10～19 歳 67 人、20～29 歳 70 人、30～39 歳 43 人、40～49 歳 33 人、50～59 歳 20 人、60～69 歳 22 人、70 歳以上 31 人であった。血清型・毒素型は O157 VT1・VT2 が 116 件で最多であり、推定感染地は国内 325 人、国外 7 人（米国 2 人、アルゼンチン 1 人、オーストラリア 1 人、ベトナム 1 人、台湾 1 人、ペルー又はボリビア 1 人）、国内または国外 3 人（米国（ハワイ）1 人、フィリピン 1 人、渡航先不明 1 人）であった。

症例の集積は、第 27～29 週に O157 VT2 による国内飲食店関連が 12 人、第 29～30 週に O157 VT1・VT2 による保育園関連が 7 人、第 32～34 週に O157 VT1・VT2 および O157 毒素型不明による国内飲食店関連が 5 人であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは6人おり、年齢は10歳未満4人（うち5歳未満2人）、10～19歳1人、70歳以上1人で、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が2件、O157 VT2が1件、O121 毒素型不明が1件、O血清型不明が2件（毒素型 VT1VT2が1件、毒素型不明1件）であった。推定感染地はすべて国内であった。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=335)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O26	VT1	43*	O157	VT1	18*
	VT1・VT2	6		VT2	90*
	不明	2		VT1・VT2	116*
O91	VT1	3		不明	13
	不明	1	O159	VT1・VT2	1
O103	VT1	2	O165	VT1・VT2	1
O111	VT1	2	O166	VT2	2
	VT1・VT2	7	不明	VT1	3
O121	VT2	6		VT2	12
	不明	2		VT1・VT2	2
O145	VT2	4	不明	不明	3
	VT1・VT2	1			

\* 他の血清型・毒素型との重複感染例を含む

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=6)

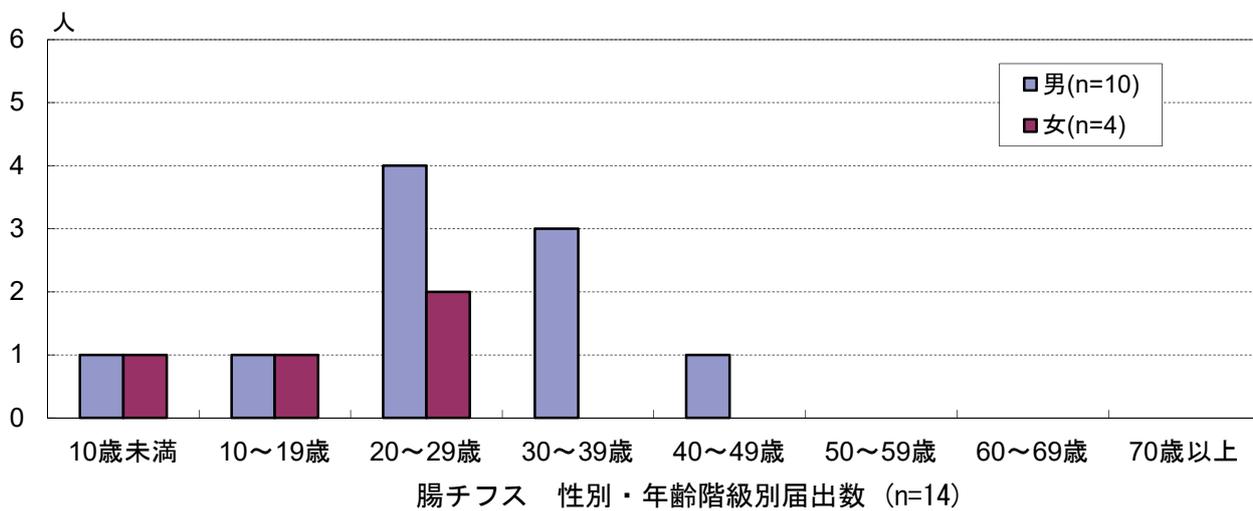
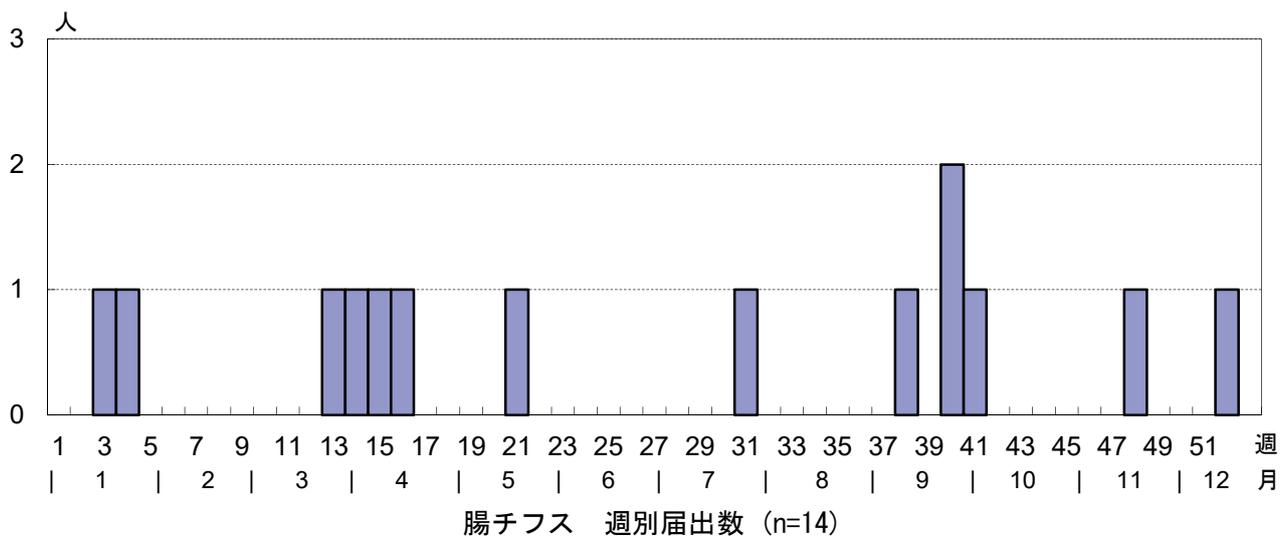
受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地	備考
7/15	男	1	O157 VT1・VT2	国内	便でのペロ毒素検出
8/17	女	5	血清型・毒素型不明	国内	血清でのO抗原凝集抗体
8/17	女	5	O121・毒素型不明	国内	
8/28	女	88	血清型不明 VT1・VT2	国内	便でのペロ毒素検出
9/9	女	3	O157 VT2	国内	便でのペロ毒素検出
9/24	男	15	O157 VT1・VT2	国内	血清でのO抗原凝集抗体

#### ④ 腸チフス

2015年は14人の届出があった。全員が患者で無症状病原体保有者はいなかった。性別では男性10人、女性4人、年齢階級別では10歳未満2人、10～19歳2人、20～29歳6人、30～39歳3人、40～49歳1人であった。

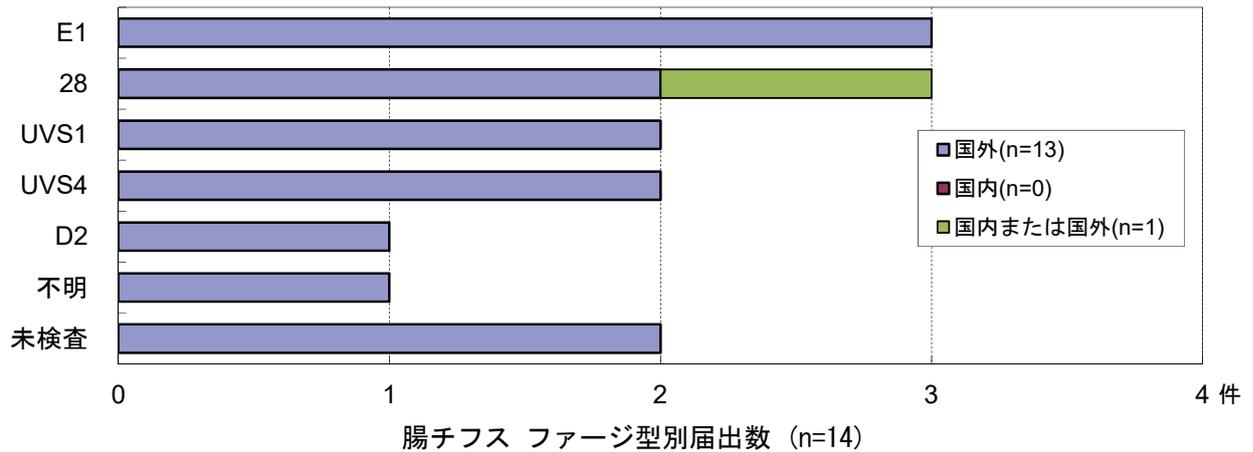
ファージ型はE1が3人、28が3人、UVS1が2人、UVS4が2人、D2が1人、不明1人、未検査2人であった。

推定感染地は国外13人、国内又は国外（タイ又はマレーシア）1人であった。国外感染例13人を推定感染地域別に見ると、南アジア6人、東南アジア6人、アフリカ1人であり、推定感染国はインド5人、ミャンマー3人のほか、バングラデシュ、フィリピン、マレーシア、モザンビーク、フィリピン又はマレーシア又はカンボジア各1人であった。再感染者が1人あった。



腸チフス 国外感染例 (n=13)

推定感染地域	人数	推定感染国	人数
南アジア	6	インド	5
		バングラデシュ	1
東南アジア	6	ミャンマー	3
		フィリピン	1
		マレーシア	1
		フィリピン又はマレーシア又はカ	1
		ンボジア	1
アフリカ	1	モザンビーク	1
合計	13	合計	13



### ⑤ パラチフス

2015年は9人の届出があった。性別は男性5人、女性4人であり、年齢階級別では20～29歳1人、30～39歳3人、40～49歳2人、50～59歳1人、60～69歳1人、70歳以上1人であった。

フェージ型は1が7人、UT (untypeable) 1人、不明1人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染国はミャンマー7人のほか、ネパール、インドがそれぞれ1人であった。

パラチフス届出例 (n=9)

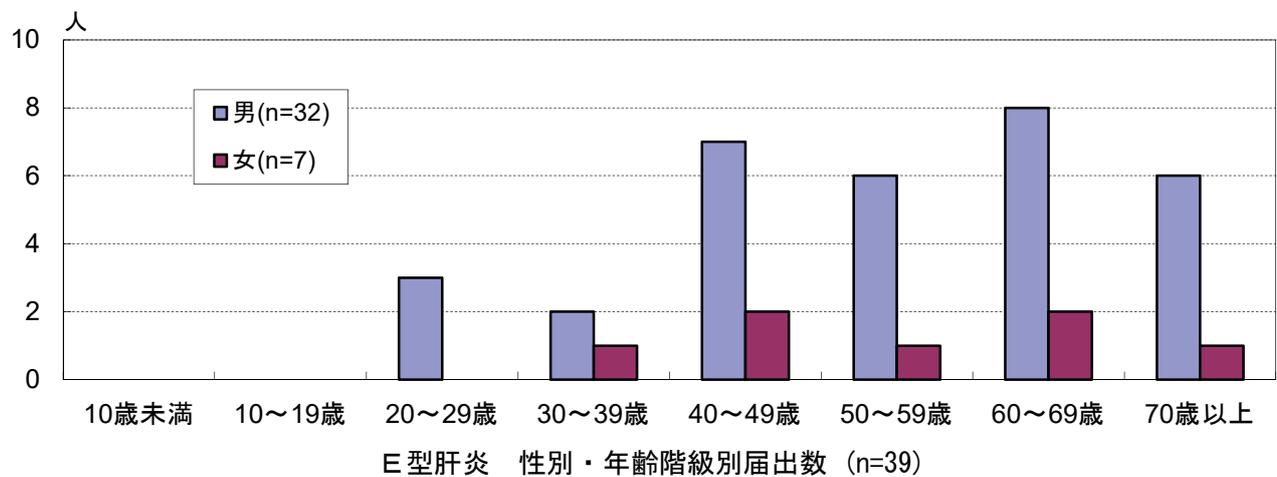
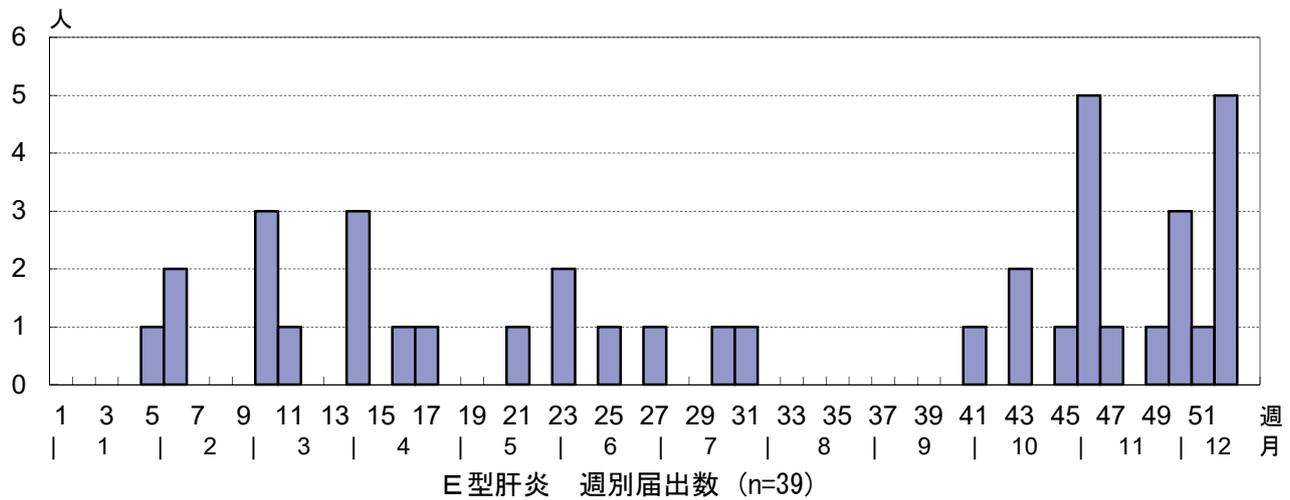
受理日	性別	年齢	フェージ型	推定感染地
1/9	女	54	1	ミャンマー
1/26	男	39	1	ミャンマー
4/20	男	34	1	ミャンマー
5/28	男	60	1	ミャンマー
6/18	女	27	UT	ネパール
9/3	男	44	1	ミャンマー
9/24	男	42	1	ミャンマー
10/19	女	37	1	インド
12/2	女	70	不明	ミャンマー

## エ 四類感染症

### ① E型肝炎

2015年は39人の届出があった。性別は男性32人、女性7人で、年齢階級別では20～29歳3人、30～39歳3人、40～49歳9人、50～59歳7人、60～69歳10人、70歳以上7人であった。

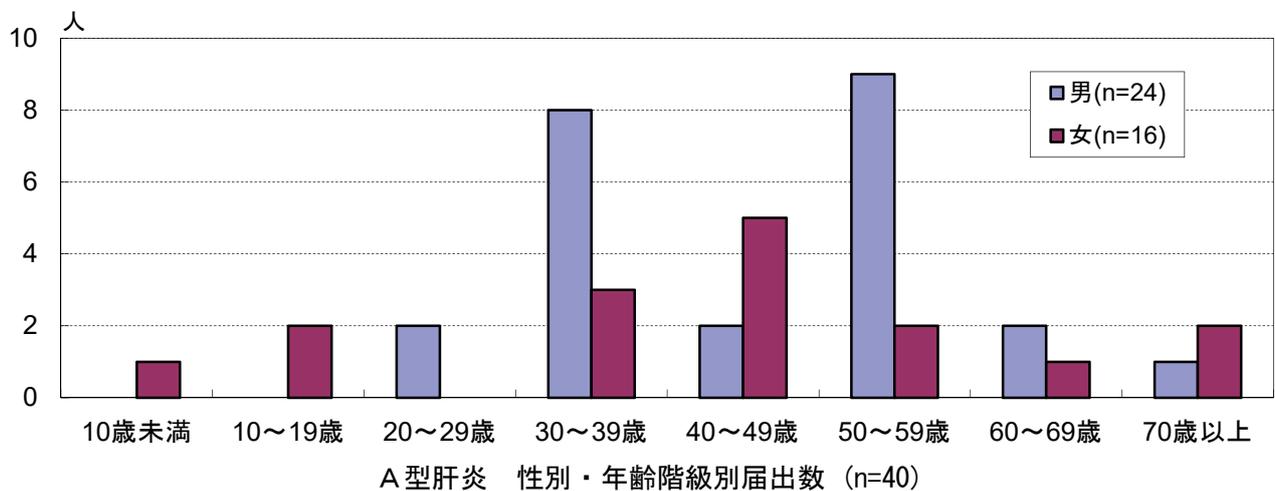
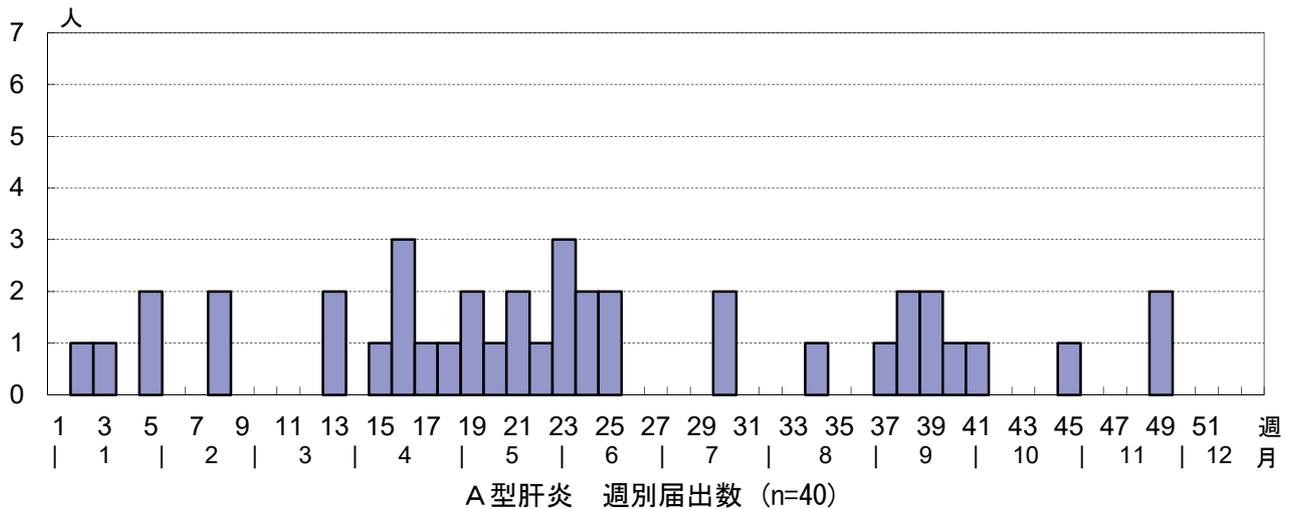
推定感染地は国内36人、中国1人、パキスタン1人、国内または国外（中国）1人であった。推定感染経路は経口感染が29人、不明が10人で、経口感染のうちレバーが6人（うち5人は豚レバー、1人は鳥レバー）、鹿肉の喫食が1人であった。



### ② A型肝炎

2015年は40人の届出があった。性別は男性24人、女性16人で、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳2人、20～29歳2人、30～39歳11人、40～49歳7人、50～59歳11人、60～69歳3人、70歳以上3人であった。

推定感染地は国内30人、国外8人、国内または国外2人（シンガポール又は中国1人、渡航先不明1人）であった。国外感染と推定された8人の推定感染国はフィリピン2人、タイ、ミャンマー、韓国、カナダ各1人、タイ又はパキスタン1人、ボリビア又はブラジル1人であった。



推定感染経路は、飲食物を介した経口感染 31 人、性的接触 2 人、不明 7 人であり、経口感染 31 人の推定原因食品は魚介類が 9 人、生もの 1 人、寿司 1 人、生水 1 人、焼肉 1 人、不明 18 人であった。

### ③ エキノコックス症

2015 年は 1 人の届出があった。性別は女性、年齢階級別は 50 歳代であった。推定感染地は国内（北海道に在住歴あり）、感染経路は不明であった。

### ④ コクシジオイデス症

2015 年は 2 人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は 20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人であった。推定感染地はすべて国外（米国）であった。推定感染経路は塵埃感染 1 人、不明 1 人であった。

### ⑤ チクングニア熱

2015 年は 7 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 5 人であり、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はソロモン諸島 1 人、インドネシア 1 人、ニカラグア 1 人、コロンビア 1 人、仏領ポリネ

シア 1 人、ボリビア 1 人、メキシコ 1 人であった。

チクングニア熱届出例 (n=7)

受理日	性別	年齢	推定感染国	推定感染経路
1/13	男	71	ソロモン諸島 (ホニアラ島)	動物・蚊・昆虫等からの感染
2/24	女	37	インドネシア (バリ島)	蚊からの感染
5/15	女	44	ニカラグア	蚊からの感染
5/20	女	50	コロンビア	動物・蚊・昆虫等からの感染
6/17	女	40	仏領ポリネシア (ボラボラ島)	動物・蚊・昆虫等からの感染
7/6	男	30	ボリビア	動物・蚊・昆虫等からの感染
11/24	女	18	メキシコ	動物・蚊・昆虫等からの感染

### ⑥ つつが虫病

2015 年は 14 人の届出があった。性別は男性 7 人、女性 7 人であった。年齢階級別では 10～19 歳 1 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 3 人であった。

推定感染地は国内 12 人、国外 (韓国) 2 人であり、国内の推定感染地は東京都 8 人 (多摩地区 5 人、島しょ地区 3 人)、千葉県 1 人、山梨県 1 人、静岡県 1 人、新潟県 1 人であった。

つつが虫病届出例 (n=14)

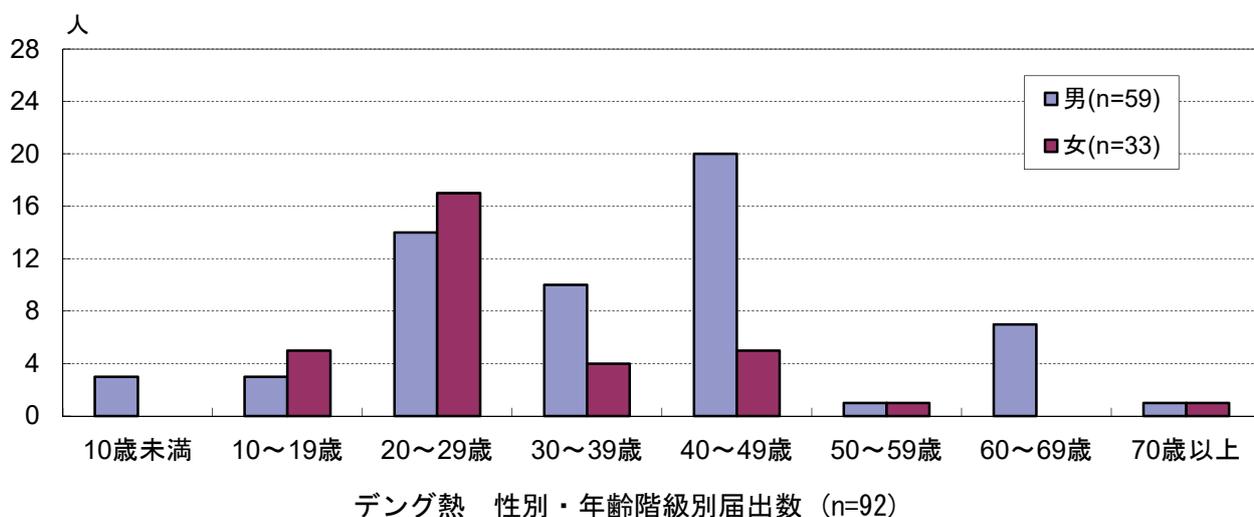
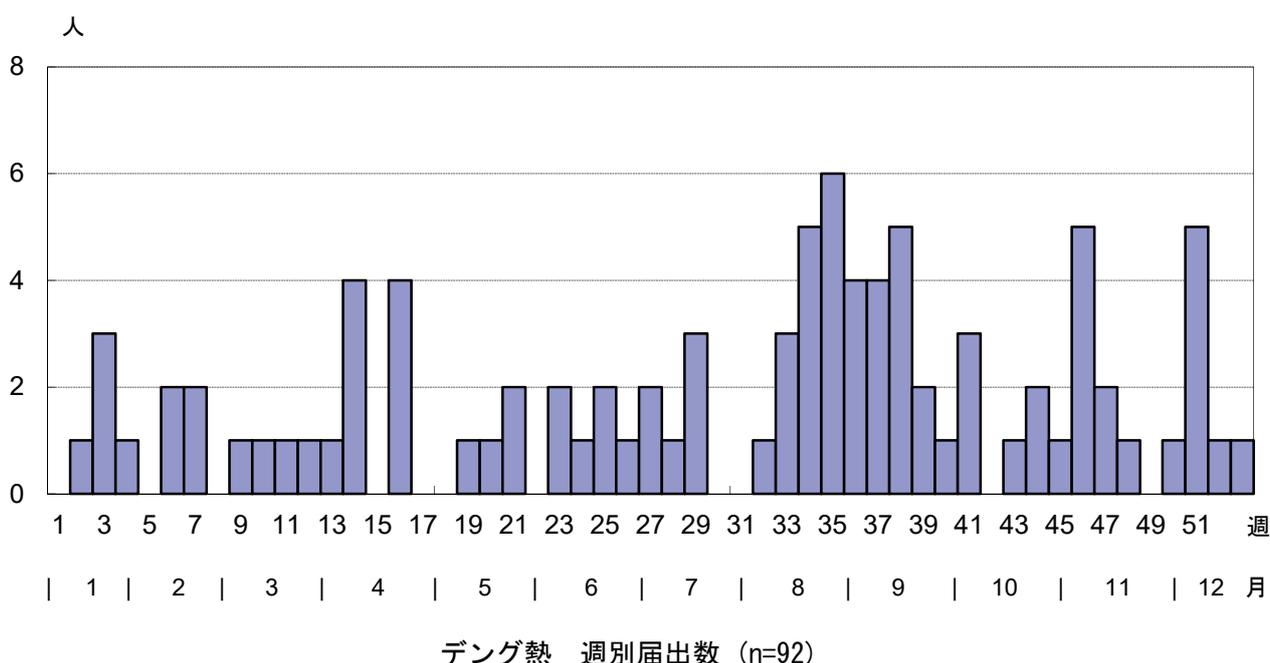
受理日	性別	年齢	推定感染地	野外地への旅行、立入り歴等
4/6	女	66	国内	有 (畑仕事中)
6/24	男	33	国内	不明
8/18	女	35	国内	不明
8/21	男	11	国内	不明
11/5	女	42	国内	不明
11/6	女	80	国内	不明
11/17	男	71	国内	有 (クルミ拾い)
11/18	男	32	国内	有 (演習場)
11/19	女	63	韓国	不明
12/1	男	92	韓国	不明
12/1	女	65	国内	有 (農作業中)
12/8	男	66	国内	有 (落ち葉掃除)
12/9	女	50	国内	不明
12/24	男	55	国内	不明

### ⑦ デング熱

2015 年は 92 人 (うちデング出血熱 2 人) の届出があった。昨年 69 年ぶりに確認された国内感染は 2015 年は確認されなかったが、国外感染者は過去 10 年で最も多い届出数となった。性別は男性 59 人、女性 33 人、年齢階級別では 10 歳未満 3 人、10～19 歳 8 人、20～29 歳 31 人、30～39 歳 14 人、40～

49歳25人、50～59歳2人、60～69歳7人、70歳以上2人であった。血清型は66件報告されており、その内訳は1型26件、2型20件、3型11件、4型9件であった。

推定感染地はすべて国外で、感染地域別では東南アジアが78人（85%）と多くの割合を占め、他は南アジア7人、東アジア2人、オセアニア2人、2地域以上3人であった。推定感染国はフィリピン31人、インドネシア16人、マレーシア9人、タイ4人、ベトナム4人、ミャンマー4人、インド3人、マレーシア又はシンガポール3人、バングラデシュ2人、台湾2人、仏領ポリネシア2人、シンガポール、ラオス、スリランカ、モルディブ、フィリピン又はミャンマー、マレーシア又はミャンマー、ベトナム又はミャンマー、カンボジア又はラオス、フィリピン又はマレーシア又はタイ、ベトナム又はバングラデシュ、フィリピン又はインドネシア又はオーストラリア、インドネシア又はシンガポール又はオーストラリアが各1人であった。



⑧ 日本紅斑熱

日本紅斑熱は2012年以降届出がなかったが、2015年には1人の届出があった。性別は女性、年齢階級別は70歳代であった。推定感染地は国内、推定感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

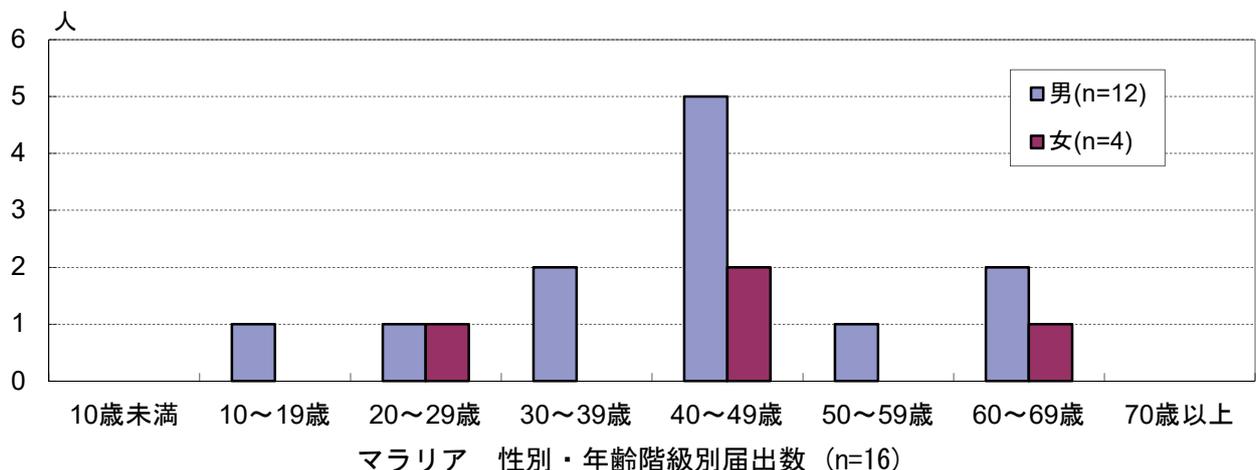
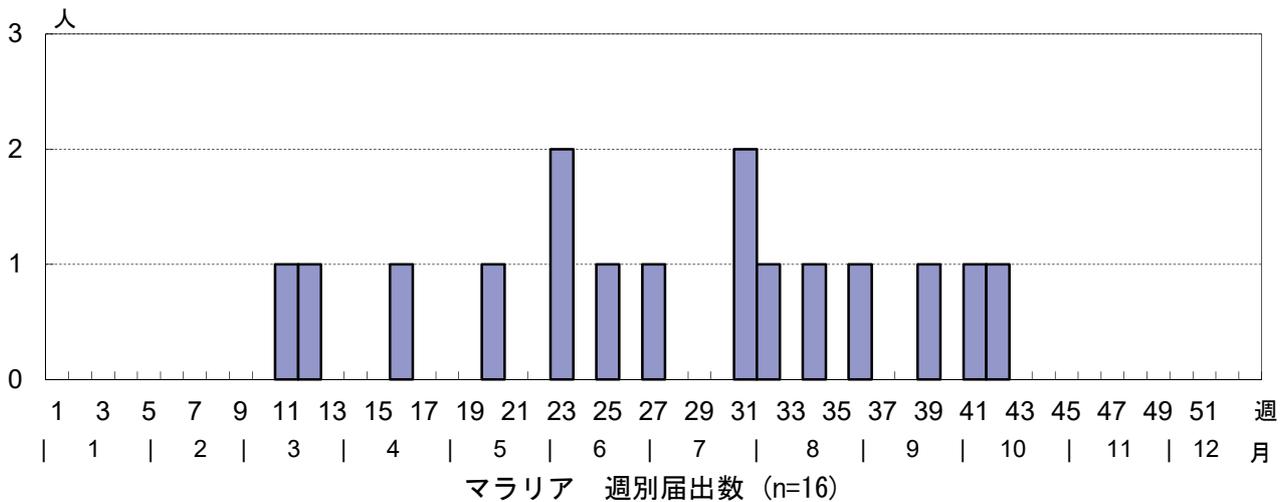
⑨ ブルセラ症

2015年は2人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は50～59歳2人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はカメルーン、ソマリアが各1人であった。推定感染経路はすべて経口感染であった。

⑩ マラリア

2015年は16人の届出があった。病型は熱帯熱マラリア11人、三日熱マラリア3人、四日熱マラリア1人、不明1人であった。性別は男性12人、女性4人、年齢階級別では10～19歳1人、20～29歳2人、30～39歳2人、40～49歳7人、50～59歳1人、60～69歳3人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域はアフリカ12人、南アジア2人、オセアニア2人であった。推定感染国はコートジボアール2人、パプアニューギニア2人、ウガンダ、ガーナ、ガボン、ケニア、コンゴ民主共和国、ザンビア、チャド、中央アフリカ、モザンビーク、リベリア、インド、パキスタンが各1人であった。



### ⑪ ライム病

2015年は2人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢は50～59歳2人であった。推定感染地は国内1人、国内又は国外（米国）1人であった。また推定感染経路は全て動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

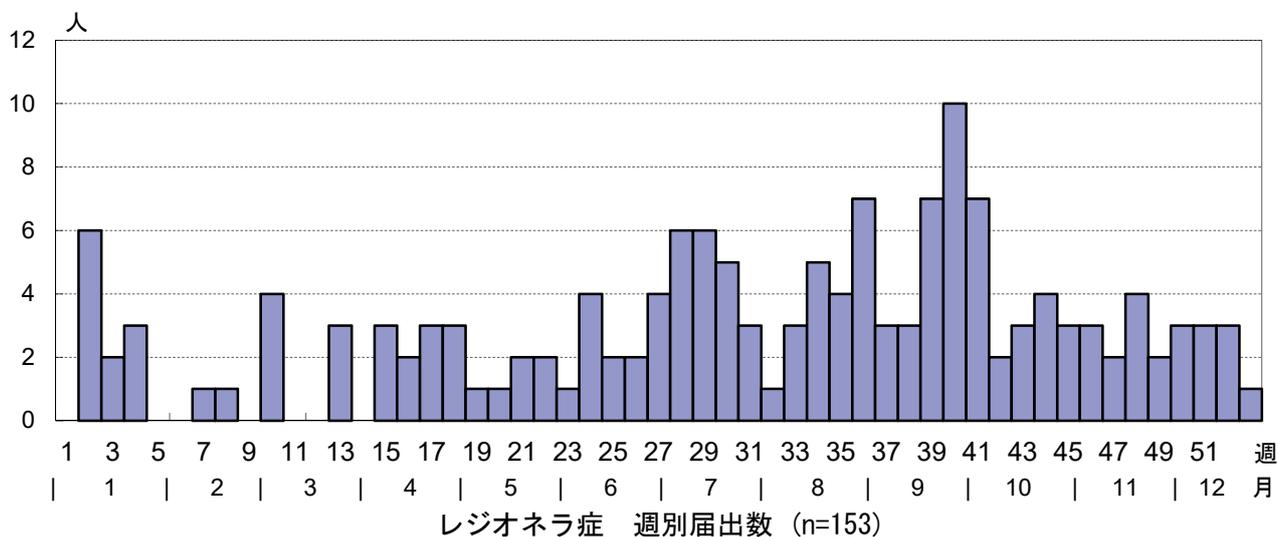
### ⑫ 類鼻疽

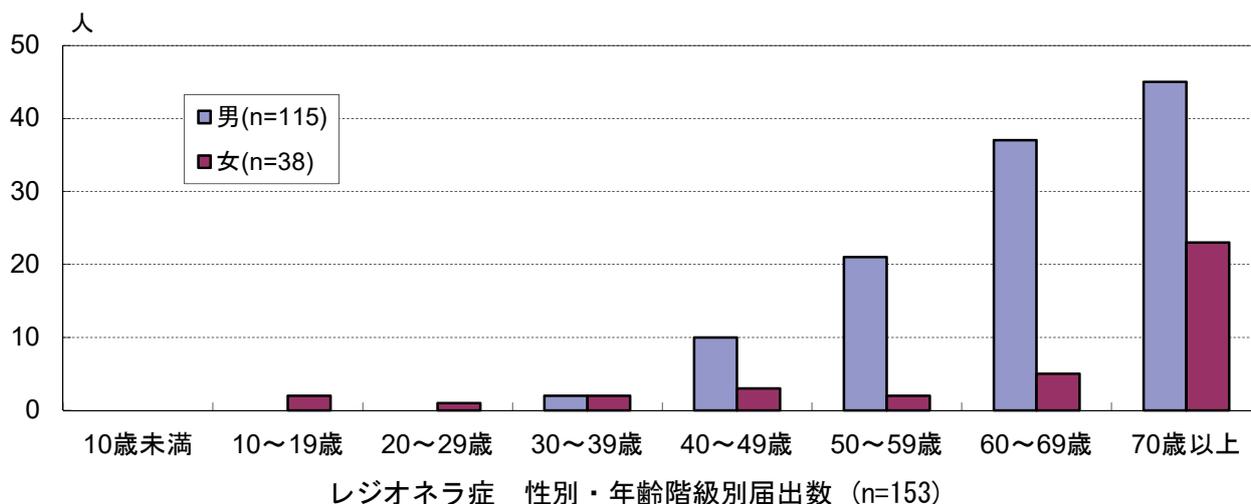
2015年は1人の届出があり、2010年、2013年の届出に次ぐ3人目となった。性別は男性、年齢階級別は40歳代であった。推定感染地は国外（インドネシア）、推定感染経路は水系感染であった。

### ⑬ レジオネラ症

2015年は153人の届出があり、過去10年で最も多い届出数となった。病型は肺炎型146人、ポンティアック熱型6人、無症状病原体保有者1人で、死亡例が3人見られた。性別は男性115人、女性38人、年齢階級別では10～19歳2人、20～29歳1人、30～39歳4人、40～49歳13人、50～59歳23人、60～69歳42人、70歳以上68人であった。

推定感染地は国内142人、国外9人（中国3人、ブラジル2人、タイ、フィリピン、インドネシア、韓国が各1人）、不明2人であった。推定感染経路は水系感染53人、塵埃感染9人、水系または院内感染1人、不明90人であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは28人であった。





#### ⑭ レプトスピラ症

2015年は10人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢は30～39歳3人、40～49歳1人、60～69歳4人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内8人、インドネシア1人、マレーシア1人であった。推定感染経路は、国内感染事例ではネズミとの接触によるものが8件中6件であった。

レプトスピラ症届出例 (n=10)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路
3/4	男	67	国内	天井裏にネズミその後雨漏り
3/31	男	33	インドネシア	
4/21	男	39	マレーシア	
4/28	男	67	国内	
5/13	男	81	国内	ネズミとの接触
9/10	男	36	国内	
9/30	男	73	国内	ネズミからの感染
10/1	男	68	国内	市場でネズミ退治とドブ掃除
10/23	男	64	国内	清掃中にネズミと接触
11/2	男	46	国内	ネズミ (市場)

#### ⑮ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、サル痘、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱

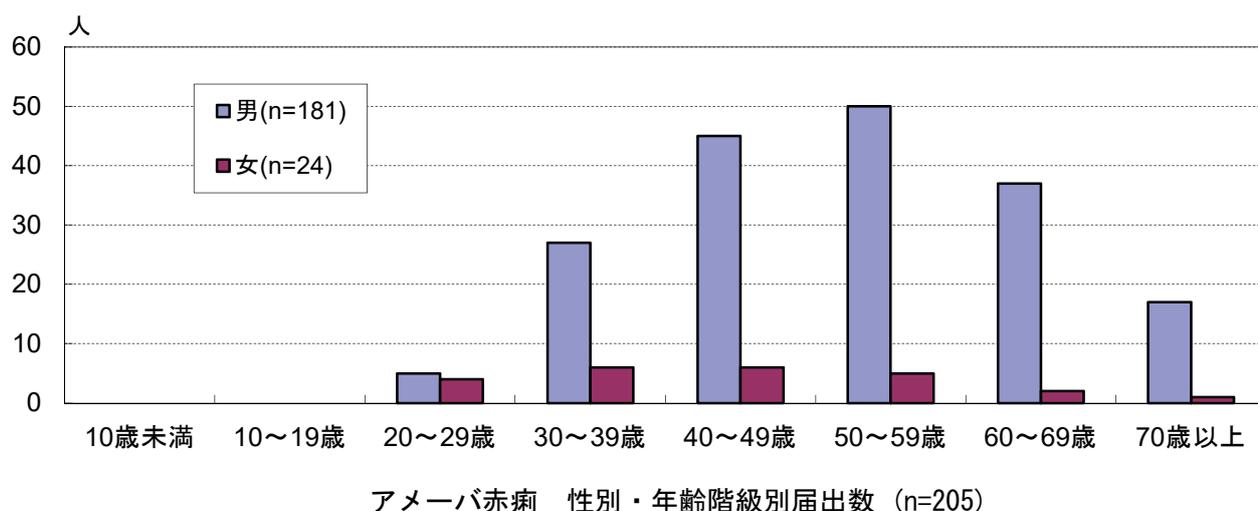
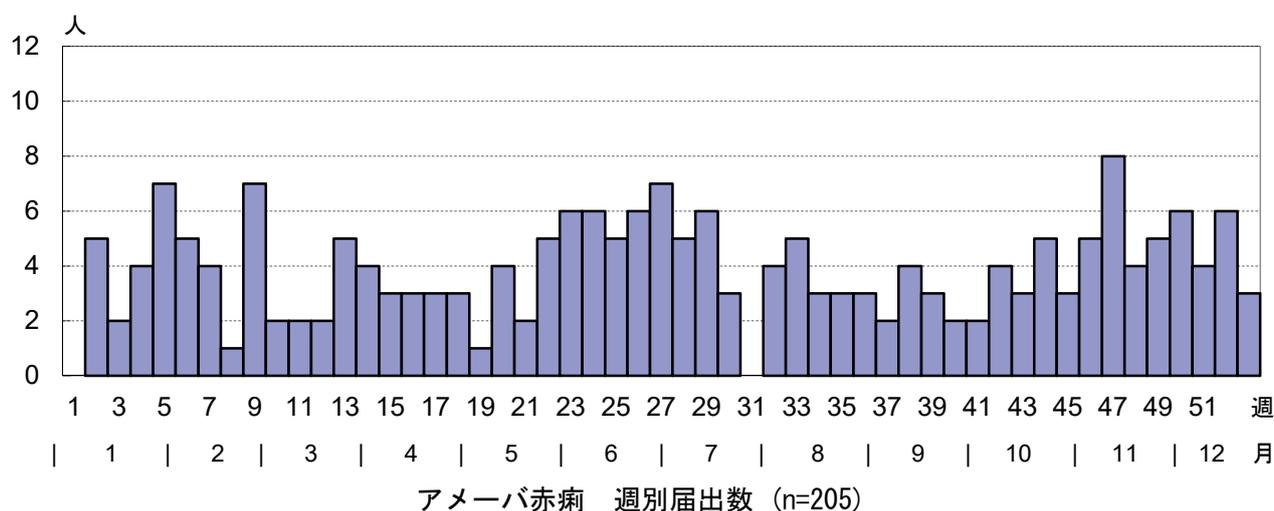
## オ 五類感染症（全数把握対象）

### ① アメーバ赤痢

2015年は205人の届出があった。腸管アメーバ症172人、腸管外アメーバ症27人、腸管及び腸管外アメーバ症6人であった。性別は男性181人、女性24人で、年齢階級別では20～29歳9人、30～39歳33人、40～49歳51人、50～59歳55人、60～69歳39人、70歳以上18人であった。

推定感染地は国内161人、国外32人、国内又は国外12人であり、国外感染例32人を推定感染地域別にみると、東南アジア14人、東アジア9人、西アジア1人、オセアニア1人、2地域以上6人、渡航先不明1人であった。渡航先不明の人を除く推定感染国はインドネシア5人、中国5人、タイ4人、台湾、フィリピン、ベトナム各2人、香港、米国（グアム）、レバノン各1人のほか、中国又はタイ2人、タイ又はフィリピン1人、韓国又は香港1人、韓国又は米国1人、香港又はタイ1人、マカオ又はマレーシア1人、インドネシア又はサモア1人であった。

推定感染経路は、性的接触77人（同性間29人、異性間34人、性別不明14人）、飲食物による経口感染38人、2経路以上6人、不明84人であった。



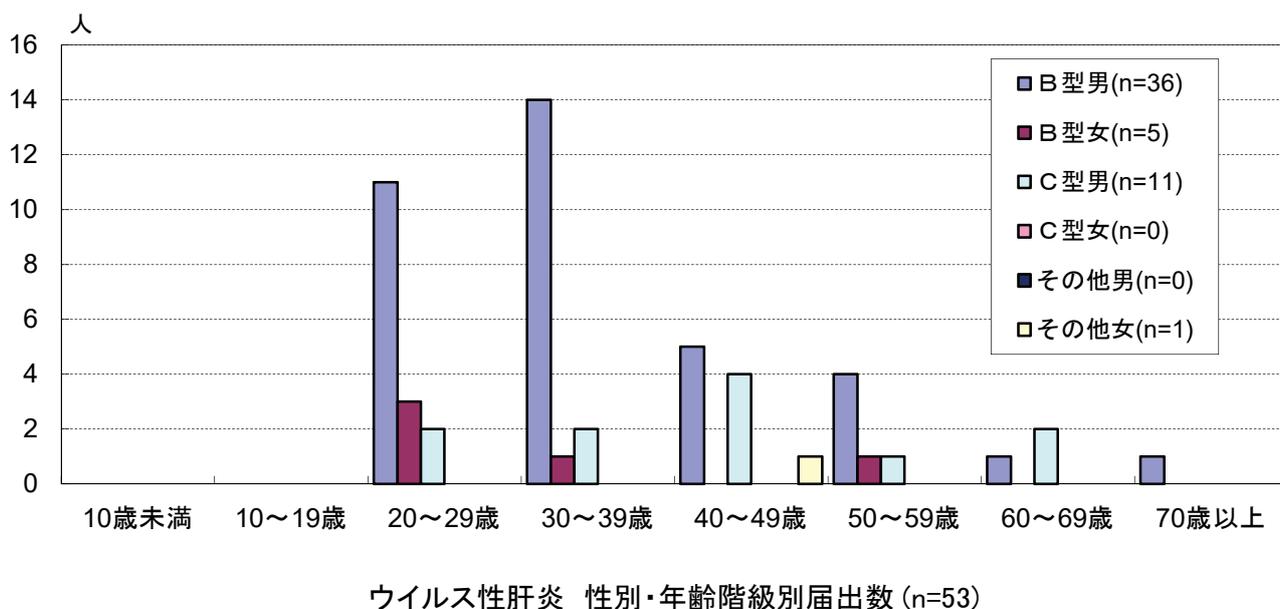
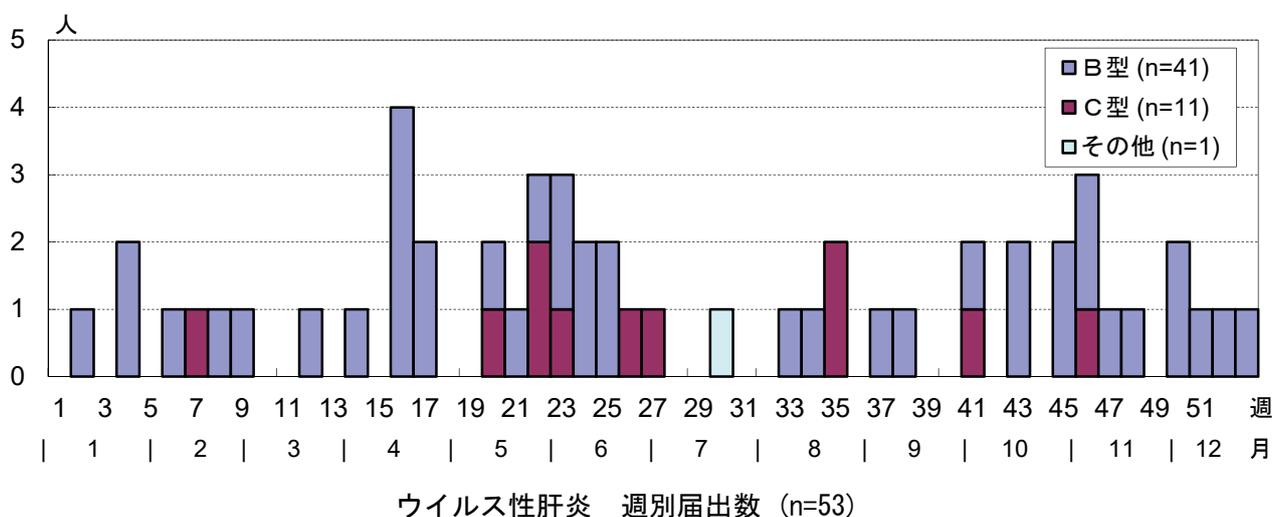
### ② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

2015年は53人の届出があった。内訳は、B型肝炎41人、C型肝炎11人、その他（サイトメガロウイルス肝炎）1人であった。

B型肝炎41人の届出のうち男性は36人、女性は5人で、年齢階級別では20～29歳14人、30～39歳15人、40～49歳5人、50～59歳5人、60～69歳1人、70歳以上1人であった。推定感染地は国内37人、国外3人（中国2人、タイ1人）、国内又は国外（渡航先不明）1人で、推定感染経路は性的接触35人（同性間14人、異性間16人、両性間2人、性別不明3人）、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、不明5人であった。

C型肝炎11人の性別はすべて男性で、年齢は20～29歳2人、30～39歳2人、40～49歳4人、50～59歳1人、60～69歳2人であった。推定感染地は国内10人、国外（中国）1人で、推定感染経路は性的接触9人（同性間6人、異性間2人、性別不明1人）、性的接触又は静注薬物常用1人、針等の鋭利なものの刺入による感染1人であった。

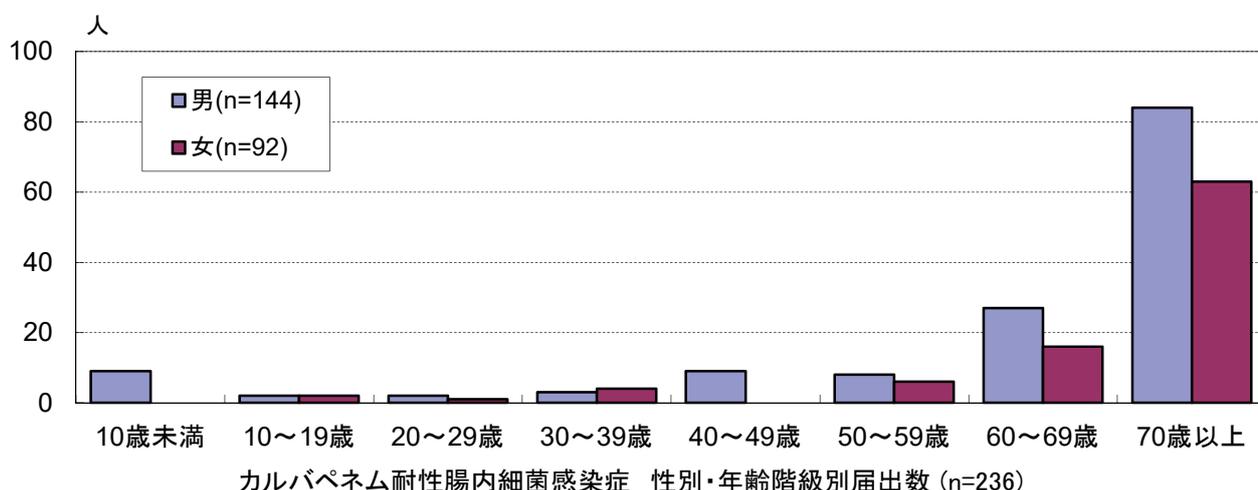
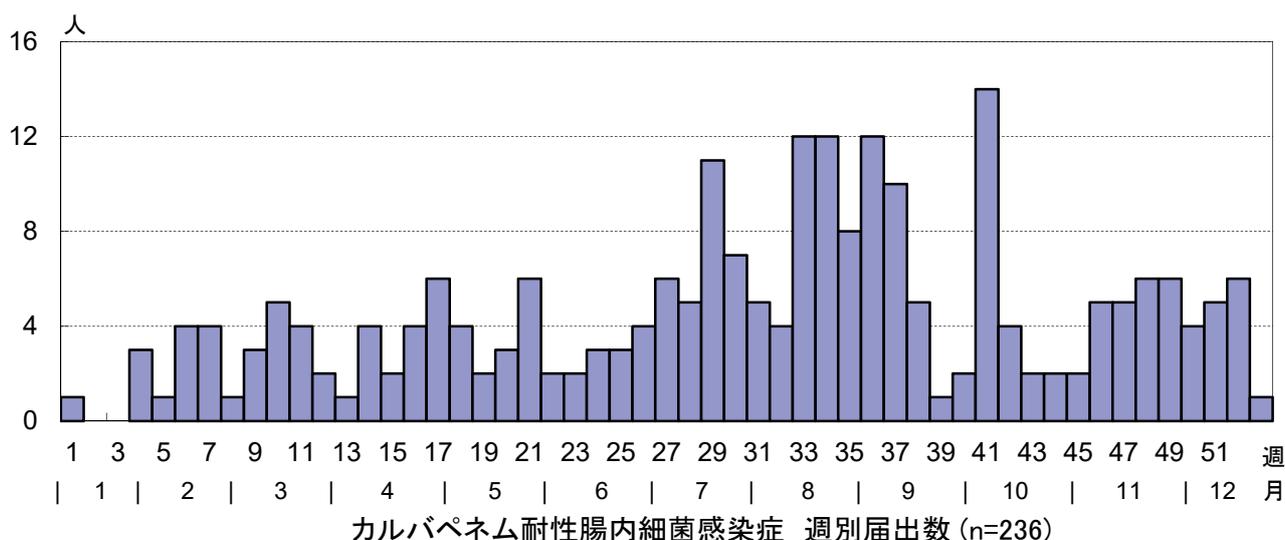
サイトメガロウイルス肝炎の1人は、40代の女性で、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。



### ③ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2015年は236人の届出があった。性別は男性144人、女性92人で、年齢階級別では10歳未満9人、10～19歳4人、20～29歳3人、30～39歳7人、40～49歳9人、50～59歳14人、60～69歳43人、70歳以上147人であった。死亡例は7人（すべて70歳以上）が報告された。推定感染地は国内235人、国内または国外（渡航先不明）1人であった。

分離された菌種のうち *Enterobacter cloacae* が122件、*Enterobacter aerogenes* が63件、*Klebsiella pneumoniae* が11件、*Escherichia coli* が11件、*Serratia marcescens* が10件、*Citrobacter freundii* が5件であった。

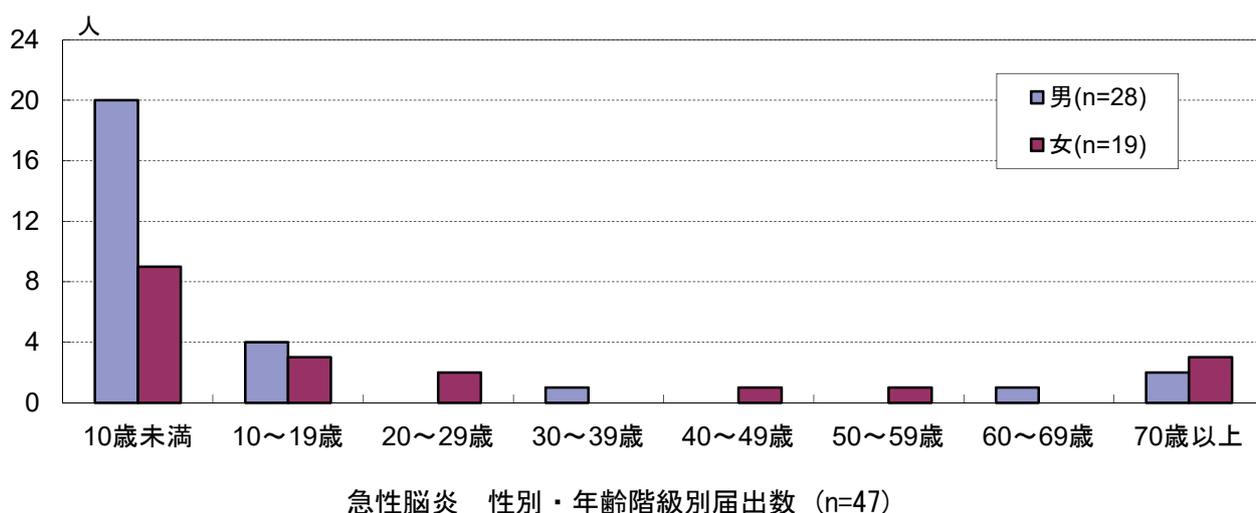
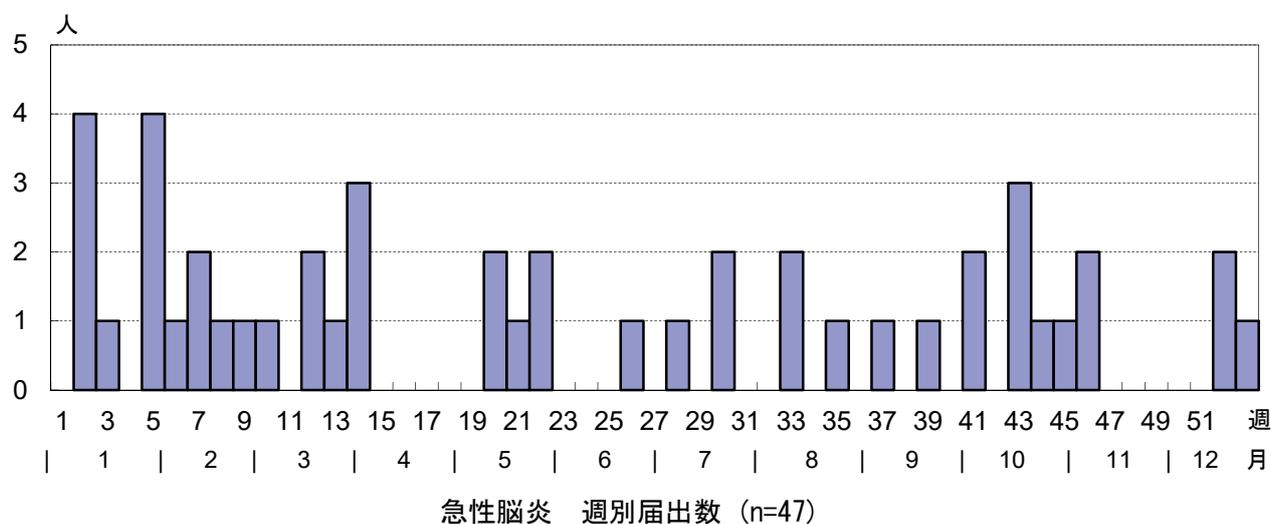


### ④ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2015年は47人の届出があった。性別は男性28人、女性19人で、年齢階級別では10歳未満29人（うち5歳未満21人）、10～19歳7人、20～29歳2人、30～39歳1人、40～49歳1人、50～59歳1人、60～69歳1人、70歳以上5人、推定感染地は国内46人、国内または国外（米国）1人であった。

病原体はインフルエンザウイルス11件、アデノウイルス2件、エンテロウイルス2件、ヒトヘルペ

スウィルス 2 件、単純ヘルペスウィルス 2 件、サルモネラ菌 2 件、ロタウィルス 1 件、マイコプラズマ 1 件、不明 24 件であった。



### ⑤ クリプトスポリジウム症

2015 年は 3 人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢は 20～29 歳 1 人、30～39 歳 2 人であった。推定感染地は国内 2 人、国外（ネパール）1 人であった。推定感染経路は経口感染 1 人、性的接触 1 人、経口感染又は性的接触 1 人であった。

### ⑥ クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)

2015 年は 24 人の届出があった。孤発性プリオン病が 23 人（ほぼ確実 12 人、疑い 11 人）であり、うち古典型 CJD が 21 人を占めた。また感染性プリオン病（疑い）が 1 人あり、医原性 CJD であった。性別は男性が 12 人、女性が 12 人で、年齢は 50～59 歳 4 人、60～69 歳 6 人、70 歳以上 14 人であった。

孤発性プリオン病 23 人の症状のうち、進行性認知症が 23 人すべてに認められたほか、錐体外路症状 18 人、記憶障害 16 人、精神・知能障害 16 人、ミオクローヌス 15 人、錐体路症状 14 人、小脳症状 12 人、筋強剛 12 人、無動性無言状態 11 人、視覚異常 9 人、臨床的に頑固な不眠 4 人、異常感覚 2 人、

瘻性対麻痺 2 人が認められた。

感染性プリオン病の 1 人の症状は、進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状、小脳症状、記憶障害、精神・知能障害、臨床的に頑固な不眠が認められた。

クロイツフェルト・ヤコブ病届出例 (n=24)

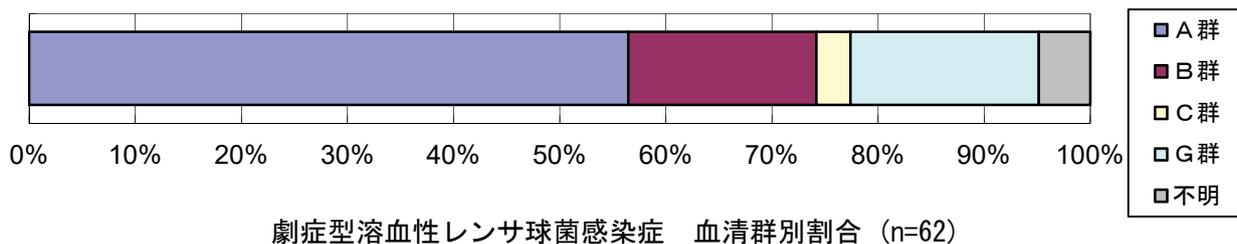
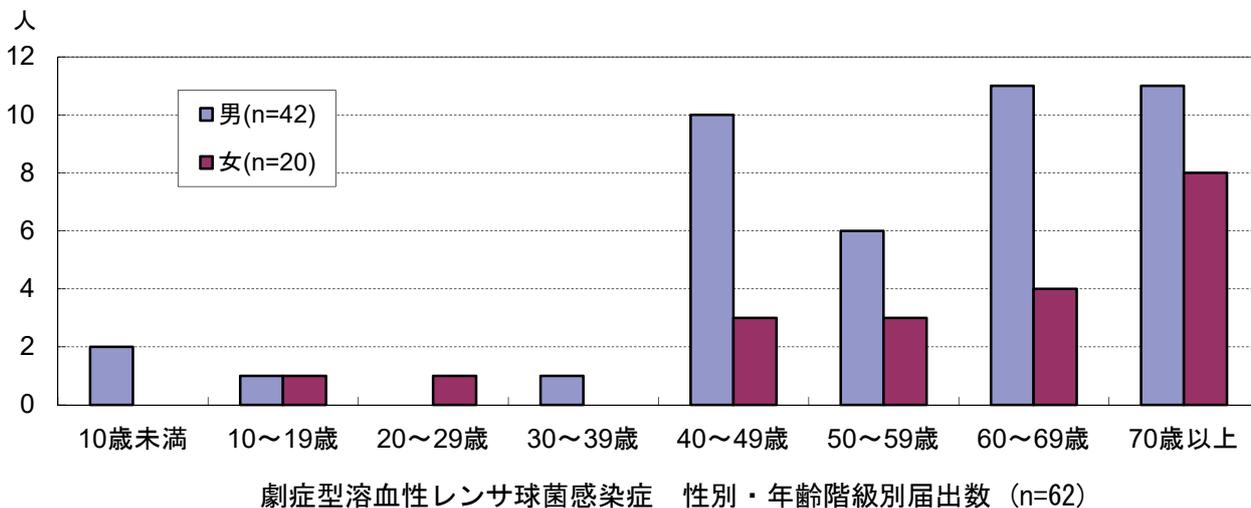
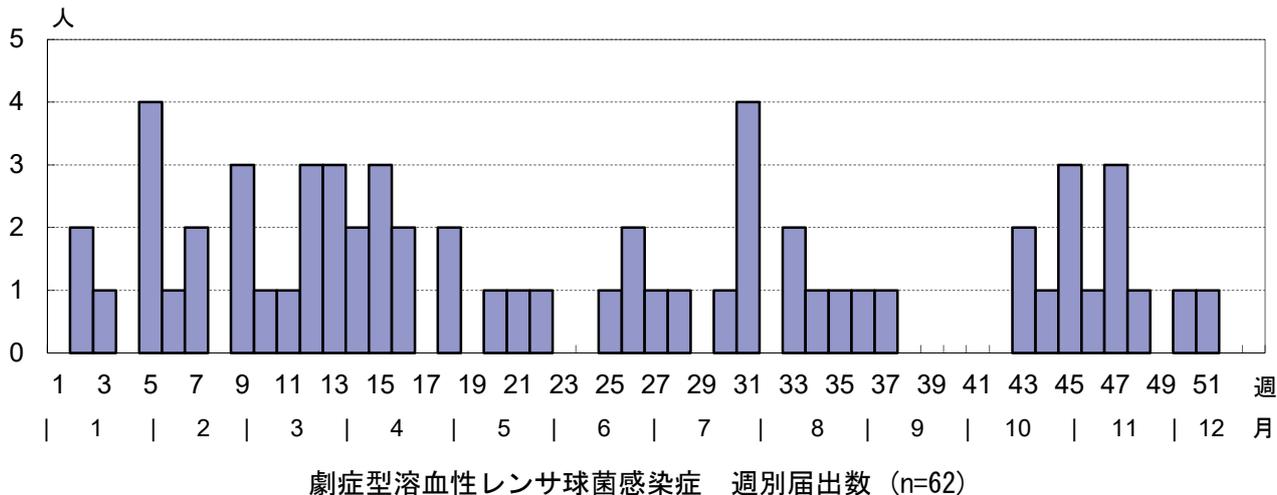
受理日	性別	年齢	病型	確実度
1/5	女	71	孤発性－古典型 CJD	疑い
1/7	男	76	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
1/21	男	56	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
2/26	女	71	孤発性－古典型 CJD	疑い
3/11	女	75	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
3/19	女	65	孤発性－古典型 CJD	疑い
3/31	女	75	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
4/21	女	66	孤発性－古典型 CJD	疑い
4/30	女	54	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
5/26	女	80	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
6/25	男	66	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
6/29	男	73	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
7/1	男	69	感染性－医原性 CJD	疑い
7/7	男	73	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
7/14	女	77	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
7/17	男	87	孤発性－古典型 CJD	疑い
8/3	男	57	孤発性－古典型 CJD	疑い
8/12	男	65	孤発性－古典型 CJD	疑い
9/9	女	58	孤発性－その他	疑い
9/14	女	86	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
9/30	男	60	孤発性－その他	疑い
10/13	男	70	孤発性－古典型 CJD	ほぼ確実
11/20	女	83	孤発性－古典型 CJD	疑い
12/4	男	76	孤発性－古典型 CJD	疑い

#### ⑦ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2015 年は 62 人の届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。性別は男性 42 人、女性 20 人、年齢階級別では 10 歳未満 2 人（すべて 5 歳未満）、10～19 歳 2 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 1 人、40～49 歳 13 人、50～59 歳 9 人、60～69 歳 15 人、70 歳以上 19 人であった。死亡例は 13 人（5 歳未満 1 人、40～49 歳 2 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 6 人）報告された。

血清型は A 群 35 件、B 群 11 件、G 群 11 件、C 群 2 件、不明 3 件であった。

また、推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 17 人、飛沫・飛沫核感染 5 人、接触感染 2 人、不明 38 人であった。



⑧ 後天性免疫不全症候群

2015年は435人の届出があり、AIDS患者71人、HIV感染者364人（うち指標疾患以外の有症者51人、無症候性キャリア313人）であった。

AIDS患者71人の内訳は男性70人、女性1人で、年齢階級別では20~29歳11人、30~39歳17人、40~49歳26人、50~59歳11人、60~69歳6人であった。

HIV感染者のうち指標疾患以外の有症者の51人は男性50人、女性1人で、20~29歳19人、30~39歳14人、40~49歳14人、50~59歳2人、60~69歳2人であった。

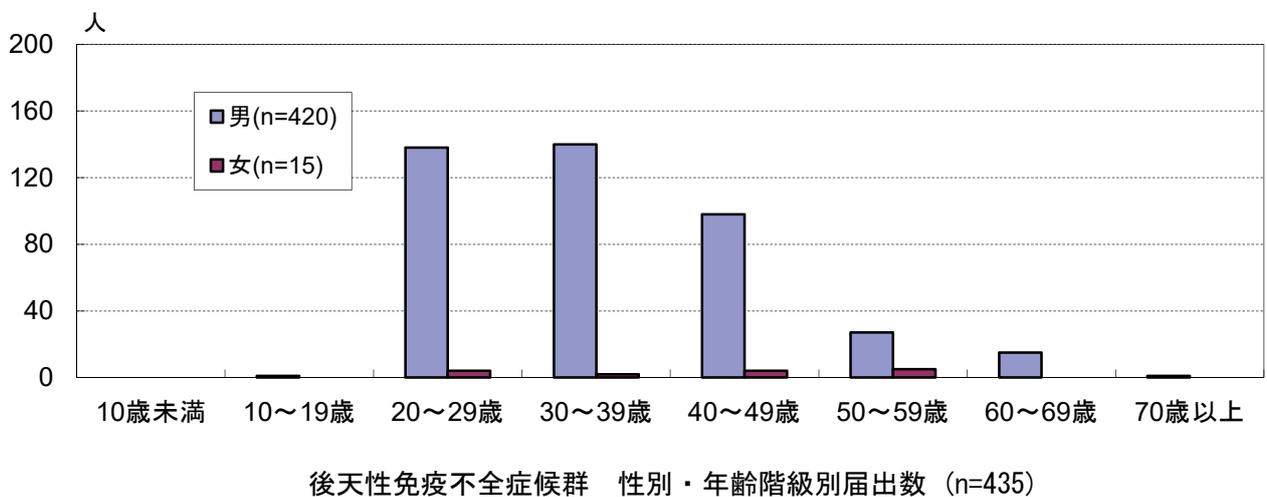
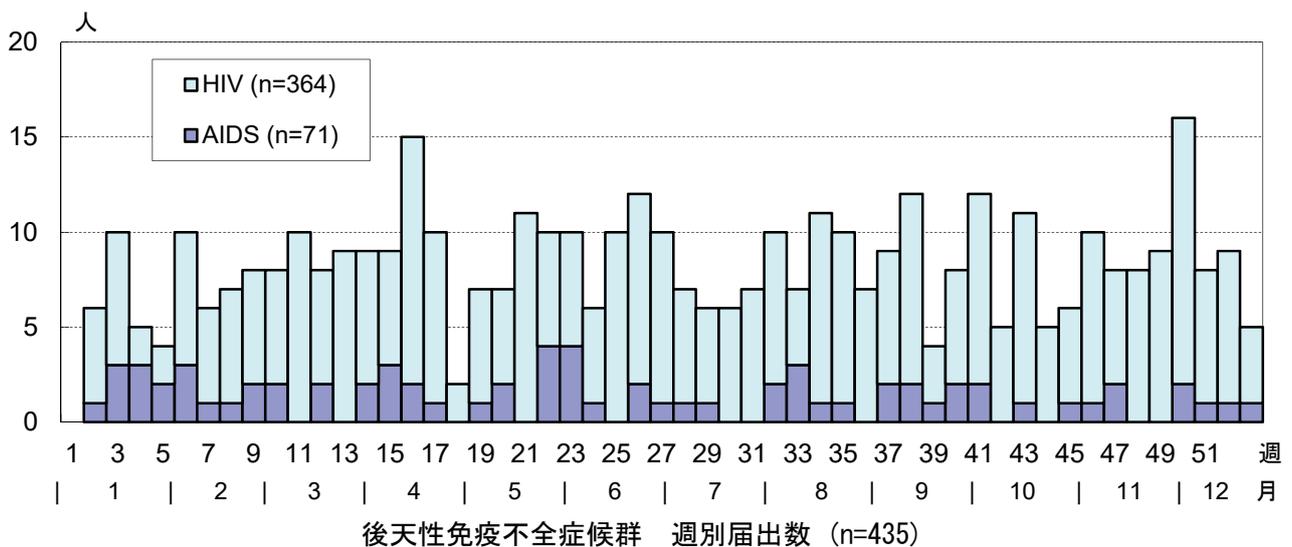
HIV感染者のうち無症候性キャリアの313人は男性300人、女性13人で、年齢は10~19歳1人、

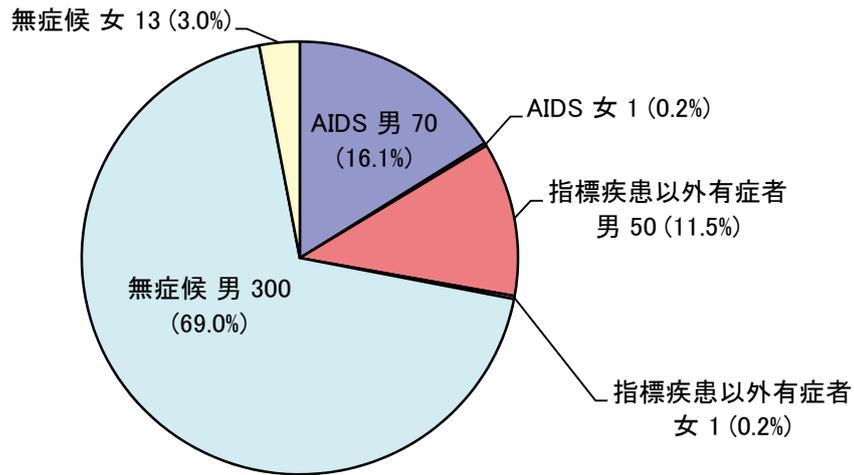
20～29 歳 112 人、30～39 歳 111 人、40～49 歳 62 人、50～59 歳 19 人、60～69 歳 7 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 358 人、国外 31 人、国内又は国外 3 人、不明 43 人であった。国外感染例 31 人の推定感染地域は、東南アジア 9 人、東アジア 9 人、アメリカ 4 人、アフリカ 3 人、南アジア 2 人、西アジア 1 人、東ヨーロッパ 1 人、オセアニア 1 人、不明 1 人であった。推定感染国別に見ると、タイ 4 人、中国 4 人、米国 3 人、インドネシア 2 人、韓国 2 人、台湾 2 人、インド 2 人、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、アラブ首長国連邦、ペルー、カメルーン、ジブチ、モザンビーク、ベラルーシ、オーストラリア各 1 人、中国又は韓国 1 人、渡航先不明 1 人であった。

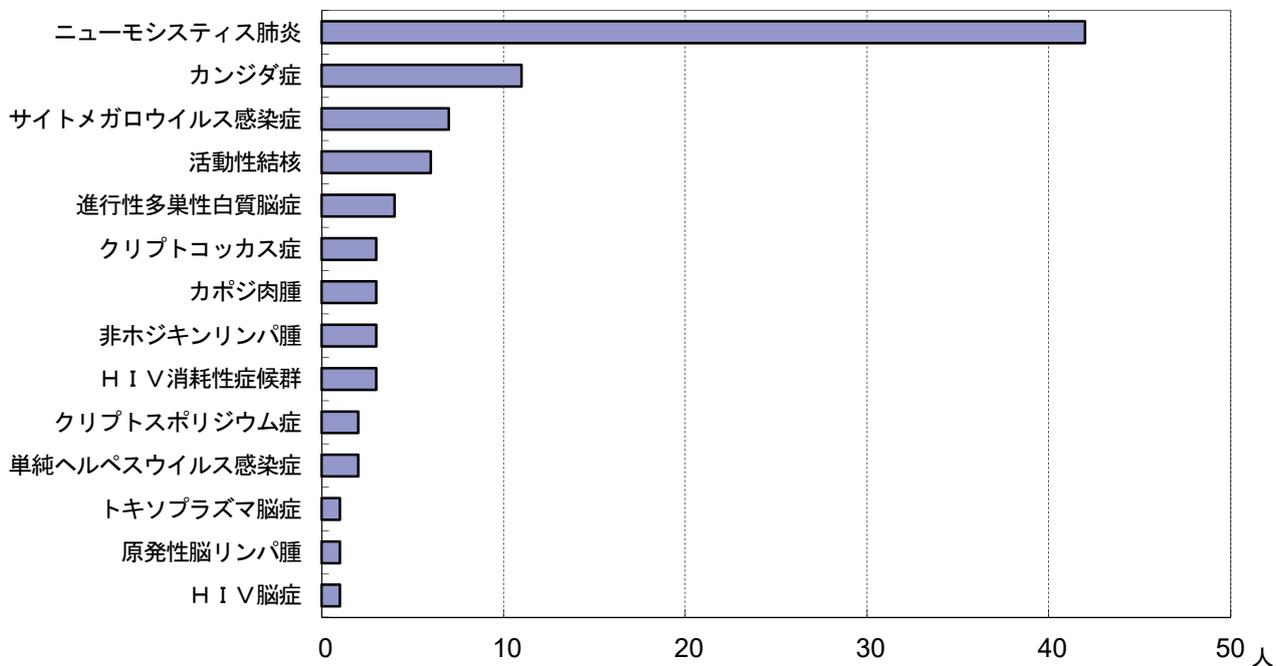
推定感染経路は性的接触 394 人（同性間 318 人、異性間 55 人、両性間 18 人、不明 3 人）、輸血 1 人、静注薬物使用 1 人、針刺し事故 1 人、2 経路以上 4 人（同性間性的接触又は静注薬物使用 3 人、性別不明性的接触又は入れ墨 1 人）、不明 34 人であった。

AIDS と診断した指標疾患のうちニューモシスティス肺炎が 42 人、カンジダ症が 11 人、サイトメガロウイルス感染症が 7 人、活動性結核が 6 人、進行性多巣性白質脳症が 4 人、クリプトコッカス症、カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫、HIV 消耗性症候群がそれぞれ 3 人であった。なお、これらの中には複数疾患発症者の報告 15 人（2 疾患 12 人、3 疾患 3 人）が含まれている。





後天性免疫不全症候群 性別届出割合 (n=435)



AIDSと診断した指標疾患 (n=71、重複あり)

### ⑨ ジアルジア症

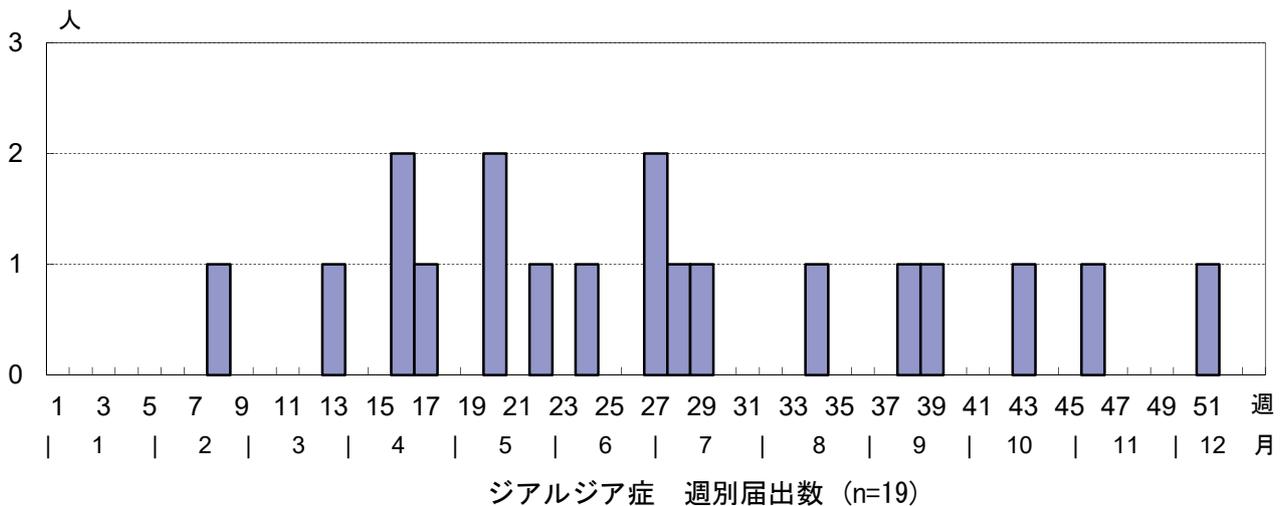
2015年は19人の届出があった。性別は男性15人、女性4人で、年齢は20～29歳1人、30～39歳7人、40～49歳4人、50～59歳5人、60～69歳1人、70歳以上1人であった。

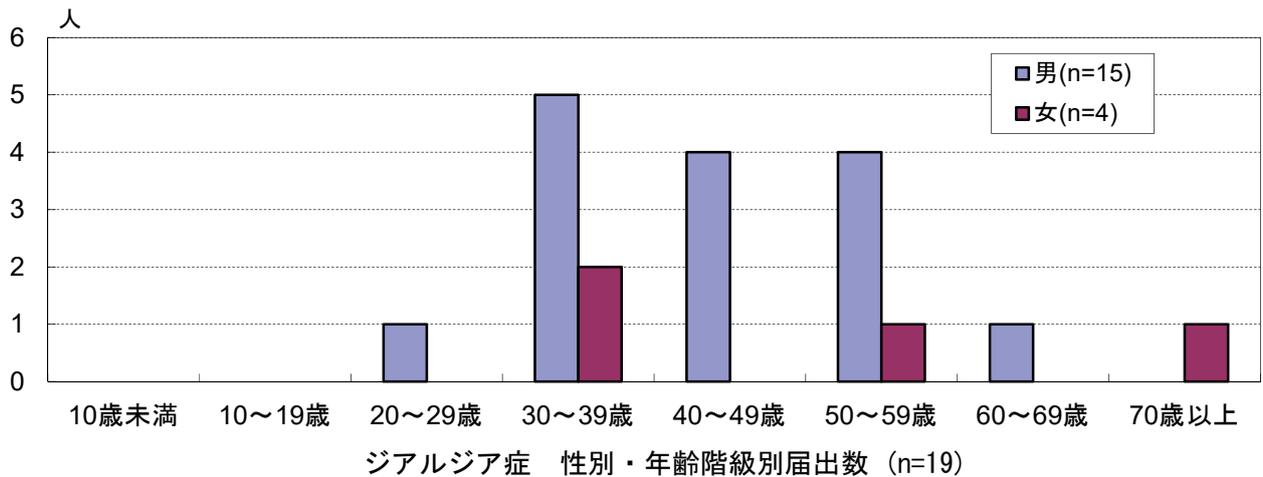
推定感染地は国内10人、国外9人であった。国外感染例9人を推定感染地域別に見ると、東南アジア4人（ミャンマー2人、タイ1人、カンボジア又はタイ又はベトナム1人）、南アジア4人（インド3人、インド又はネパール1人）、韓国1人であった。

推定感染経路は、経口感染8人、性的接触（同性間）3人、経口感染又は水系感染1人、経口感染又は代用膀胱直腸瘻由来疑い1人、不明6人であった。

ジアルジア症届出例 (n=19)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路
2/16	男	42	国内	不明
3/26	男	56	国内	不明
4/14	男	39	インド	経口感染
4/16	女	56	タイ	経口感染
4/24	男	57	インド	経口感染
5/11	女	85	国内	不明
5/12	男	62	カンボジア又はタイ又は ベトナム	経口感染又は水系感染
5/25	女	35	インド又はネパール	経口感染
6/11	女	35	インド	経口感染
6/29	男	34	国内	同性間性的接触
7/2	男	40	ミャンマー	経口感染
7/6	男	26	国内	不明
7/15	男	34	国内	同性間性的接触
8/18	男	51	国内	不明
9/15	男	57	国内	経口感染又は代用膀胱直腸瘻由来疑い
9/24	男	42	ミャンマー	経口感染
10/20	男	31	国内	同性間性的接触
11/11	男	32	大韓民国	経口感染
12/14	男	40	国内	不明



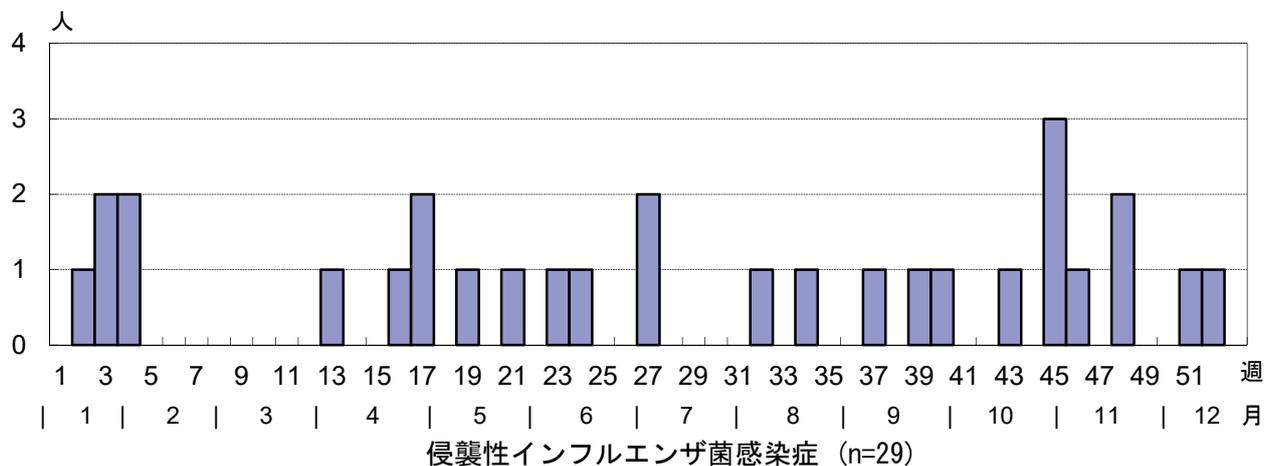


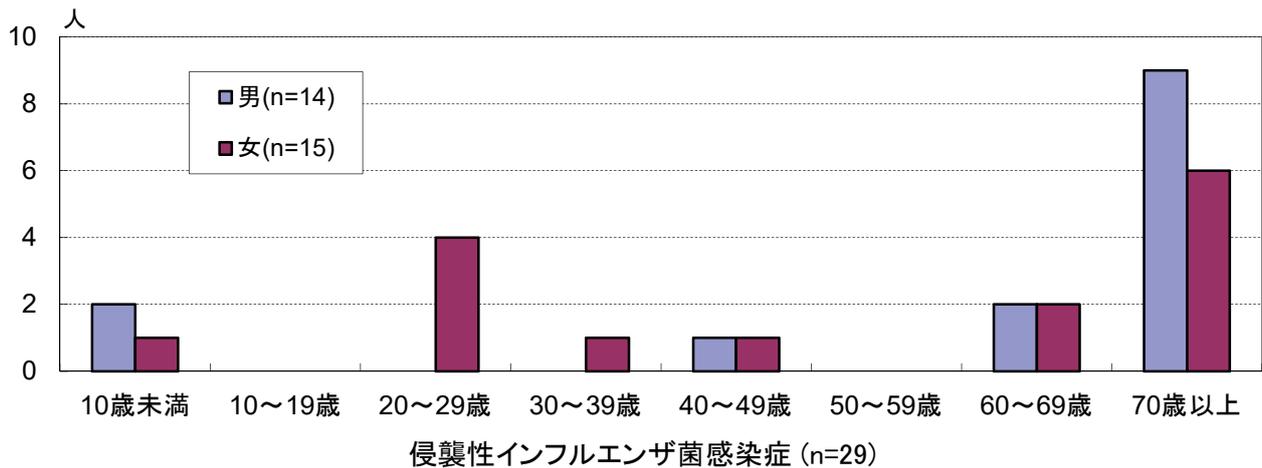
#### ⑩ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2015年は29人の届出があった。性別は男性14人、女性15人、年齢は10歳未満3人（すべて5歳未満）、20～29歳4人、30～39歳1人、40～49歳2人、60～69歳4人、70歳以上15人で、死亡例は2人報告された。

血清型はb群3人、f型1人、判定不能7人、不明18人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染11人、接触感染（性的接触の疑い）1人、不明17人であった。Hibワクチン接種歴は4回接種が2人、1回接種が1人（いずれも5歳未満）のほか、接種なし7人、不明19人であった。





### ⑪ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2015年は8人の届出があった。性別は男性7人、女性1人であった。年齢階級別では5歳未満1人、20～29歳1人、40～49歳3人、50～59歳2人、60～69歳1人で、死亡例は1人報告された。血清群はY群3人、W-135群2人、B群1人、C群1人、Y群及びW-135群1人であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染2人、不明6人であった。ワクチン接種歴は、なし4人、不明4人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症届出例 (n=8)

受理日	性別	年齢	血清群	推定感染地	推定感染経路	ワクチン接種歴
1/13	男	42	W-135群	国内	不明	なし
1/14	男	59	C群	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
3/5	男	45	W-135群	国内	不明	不明
4/7	男	26	Y群	国内	不明	不明
5/18	男	55	Y群	国内	不明	なし
5/29	女	61	Y群	国内	飛沫・飛沫核感染	不明
7/22	男	3	B群	国内	不明	なし
11/24	男	40	Y群及び W-135群	国内	不明	なし

### ⑫ 侵襲性肺炎球菌感染症

2015年は323人の届出があった。性別は男性197人、女性126人であった。年齢階級別では10歳未満58人（うち5歳未満55人）、10～19歳5人、20～29歳3人、30～39歳14人、40～49歳32人、50～59歳22人、60～69歳56人、70歳以上133人で、死亡例は12人報告された。

血清型は24F型12人、15A型9人、12F型8人、19A型8人、35B型5人、3型4人、10A型4人、1型2人、4型2人、7F型2人、24B型2人、34型2人、8型1人、9V型1人、11A型1人、15B型1人、15C型1人、18C型1人、20型1人、22型1人、23A型1人、24A型1人、38型1人、24(24A)

又は 24B 又は 24F) 型 2 人、不明 250 人であった。

推定感染地は国内 319 人、国外 (シンガポール) 1 人、国内又は国外 3 人 (フィリピン 1 人、渡航先不明 2 人) であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 94 人、接触感染 8 人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 3 人、飛沫・飛沫核感染又は中耳炎 1 人、不明 217 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 38 人、3 回接種 15 人、2 回接種 2 人、1 回接種 14 人、なし 143 人、不明 111 人であった。

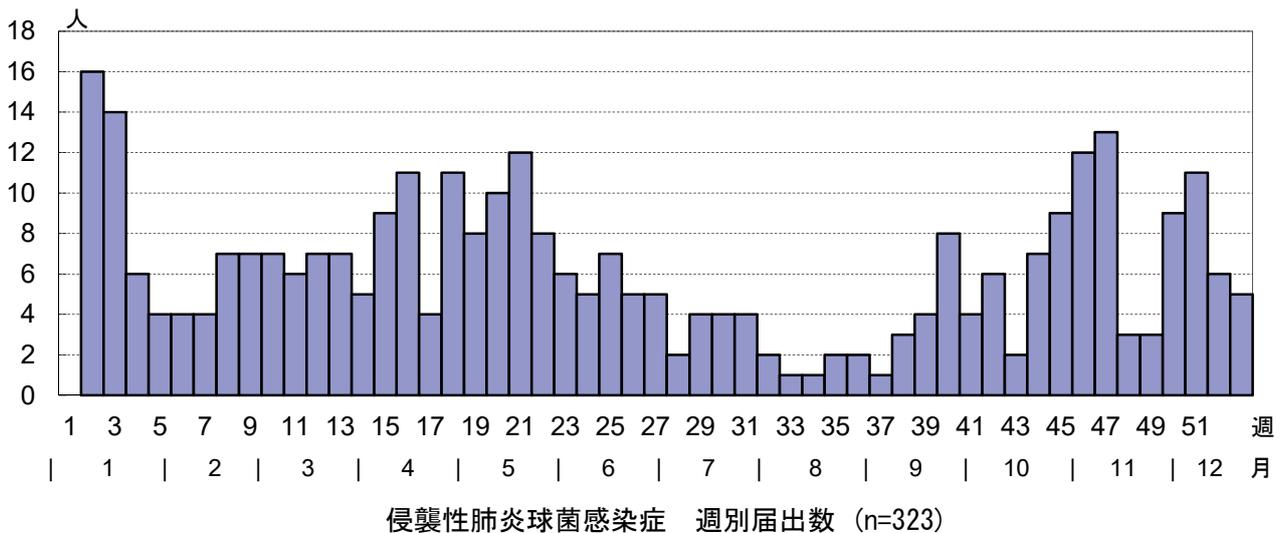
年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=323)

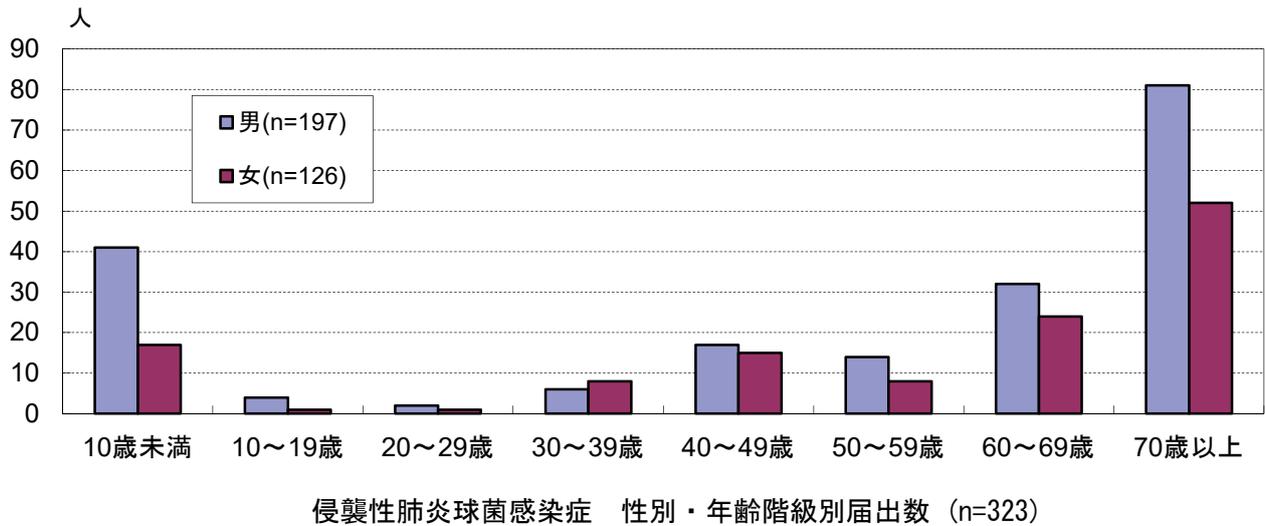
	7価4回	7価3回	13価4回	13価3回	23価3回	23価1回	7価3回と 13価1回	7価2回と 13価2回	7価2回と 13価1回
5歳未満	18	1	11	9			3	1	1
5～9歳							1		
10～64歳									
65歳以上					1	3			
合計	18	1	11	9	1	3	4	1	1

(表の続き)

年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=323)

	7価1回と 13価2回	13価2回と 不明1回	不明4回	不明3回	不明2回	不明1回	なし	不明	合計
5歳未満	1	1	4	1		1	1	2	55
5～9歳							2		3
10～64歳					1	1	71	29	102
65歳以上					1	9	69	80	163
合計	1	1	4	1	2	11	143	111	323

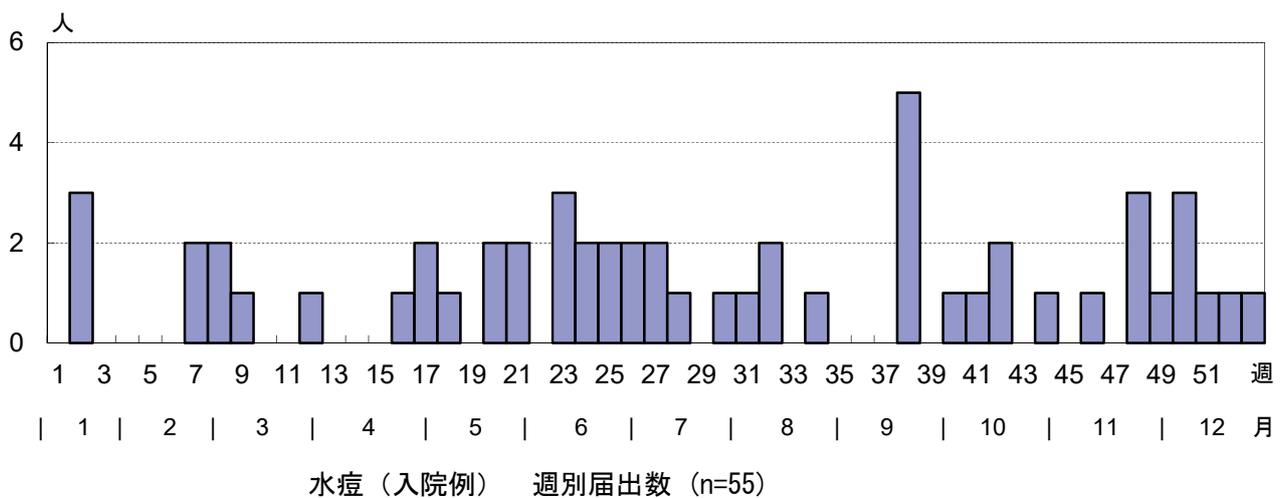


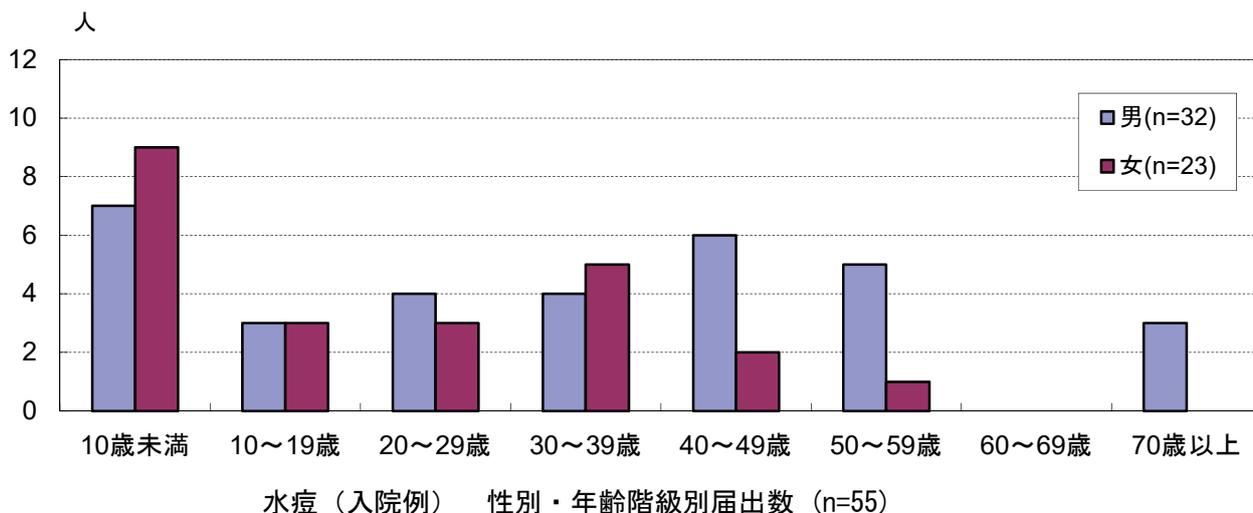


### ⑬ 水痘（入院例）

2015年は55人の届出があった。性別は男性32人、女性23人で、年齢階級別では10歳未満16人、10～19歳6人、20～29歳7人、30～39歳9人、40～49歳8人、50～59歳6人、70歳以上3人であった。死亡例は1人報告された。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染16人、接触感染9人、院内感染1人、接種ワクチン由来1人、不明28人であった。ワクチン接種歴は1回接種7人、なし20人、不明28人であった。



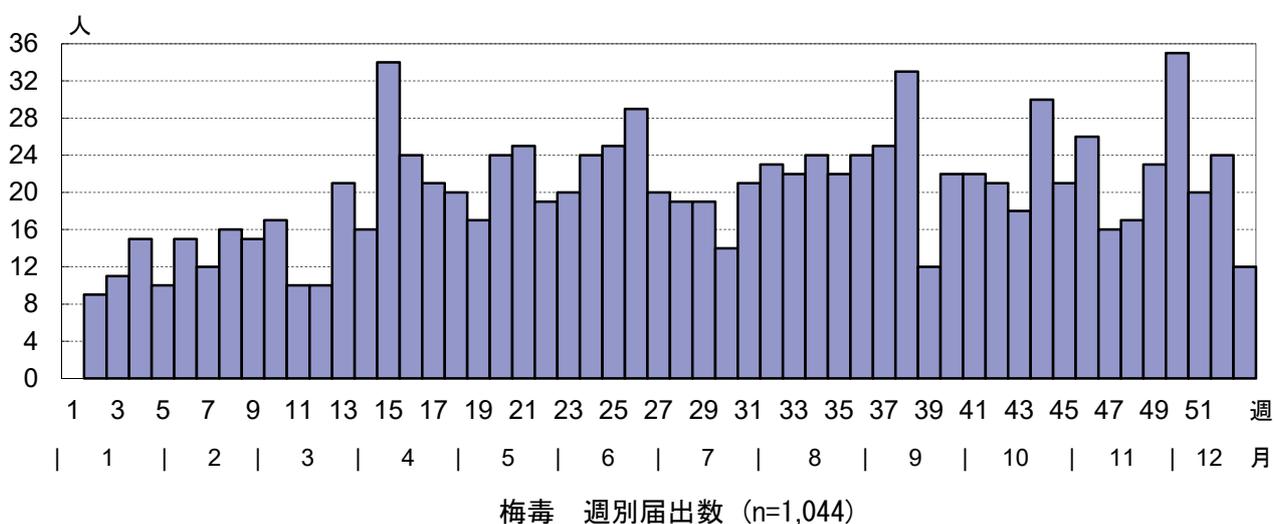


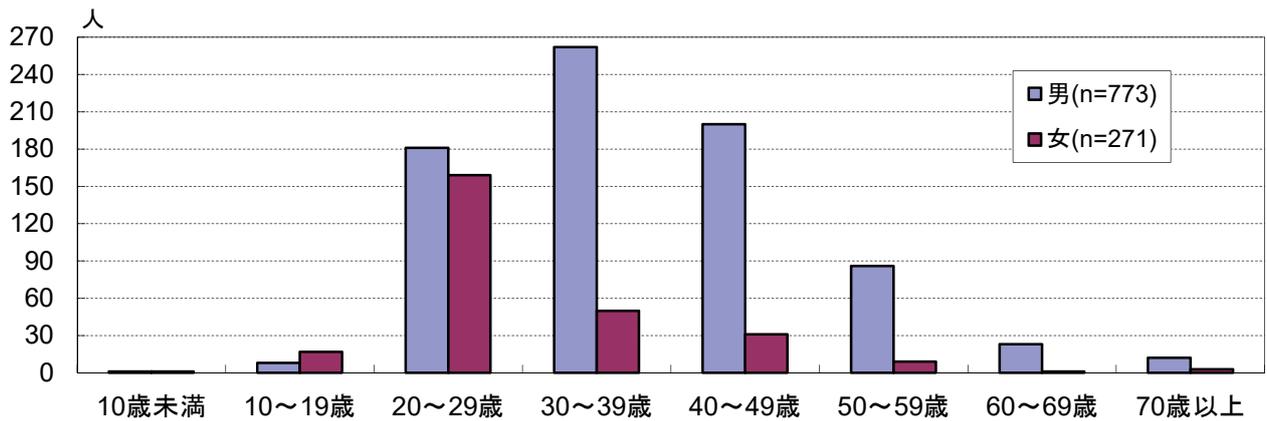
#### ⑭ 梅毒

2015年は1,044人届出があり、過去10年間で最も多い届出数となった。早期顕症梅毒Ⅰ期304人、早期顕症梅毒Ⅱ期443人、晩期顕症梅毒22人、無症候273人、先天梅毒2人であった。性別は男性773人、女性271人で女性は昨年の3倍以上の届出数となった。年齢階級別では10歳未満2人、10～19歳25人、20～29歳340人、30～39歳312人、40～49歳231人、50～51歳95人、60～69歳24人、70歳以上15人で、20～49歳の男性が全体の61.6%を占めた。一方、20～29歳では女性が46.8%を占めた。

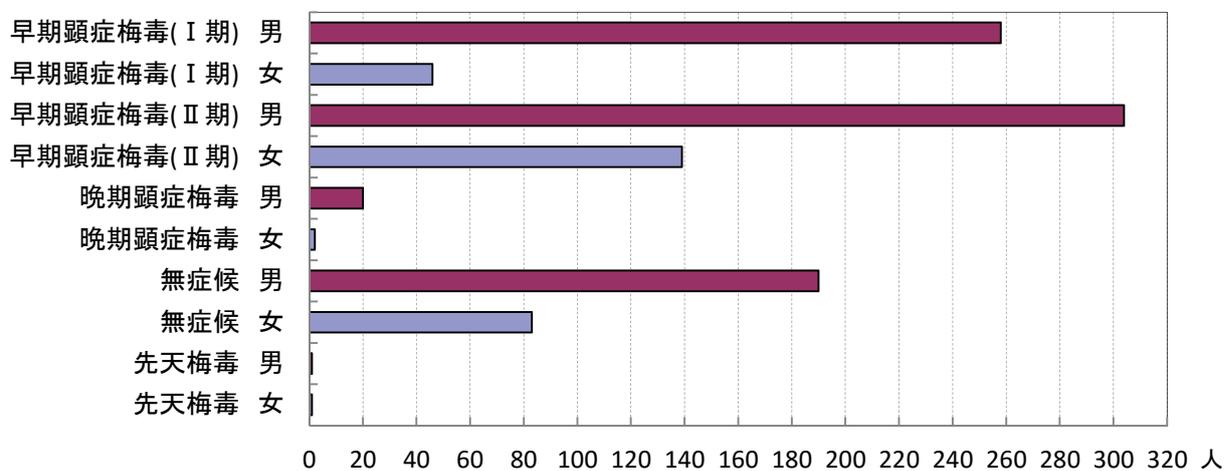
推定感染地は国内1,024人、国外10人、国内又は国外10人であり、国外感染例10人の推定感染国は、中国5人、台湾2人、タイ1人、インドネシア1人、アメリカ1人であった。

推定感染経路は性的接触992人（同性間288人、異性間549人、両性間6人、性別不明149人）、母子感染3人、静注薬物常用1人、性的接触（同性間）又は静注薬物常用1人、不明47人となり、男性の異性間性的接触の割合が増加した。

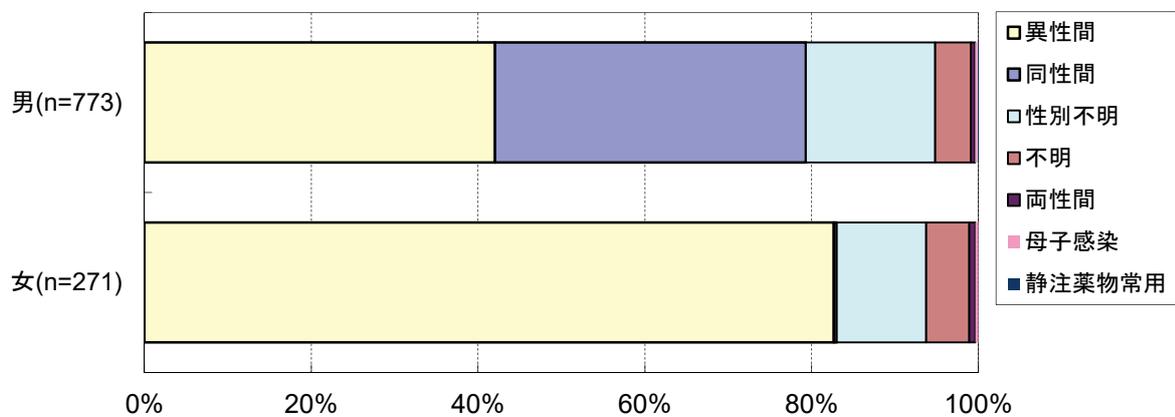




梅毒 性別・年齡階級別届出数 (n=1,044)



梅毒 性別病型届出数 (n=1,044)



梅毒 推定感染経路 (n=1,044)

⑮ 播種性クリプトコックス症

2015年は11人の届出があった。性別は男性7人、女性4人で、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳3人、70歳以上7人であった。推定感染国はすべて国内で、推定感染原因はすべて免疫不全(HIV3人、関節リウマチ治療中2人、胆管癌治療中1人、白血病リンパ腫治療中1人、ステロイド加療中1人、不明3人)であった。

⑯ 破傷風

2015年は2人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢は40～49歳1人、70歳以上1人であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は全て創傷感染であった。破傷風含有ワクチン接種歴はいずれも不明であった。

⑰ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症

2015年は2人の届出があった。性別は男性1人、女性1人、年齢は60～69歳1人、70歳以上1人であった。菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子はすべて *vanB* であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路は膀胱直腸瘻由来が1人、術後の創部感染1人であった。

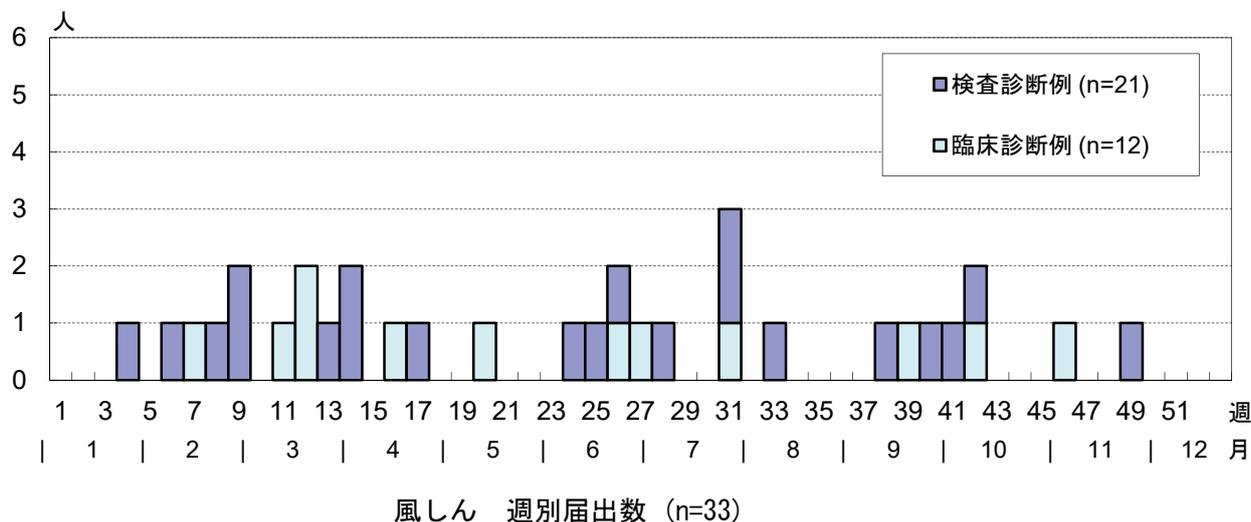
⑱ 風しん

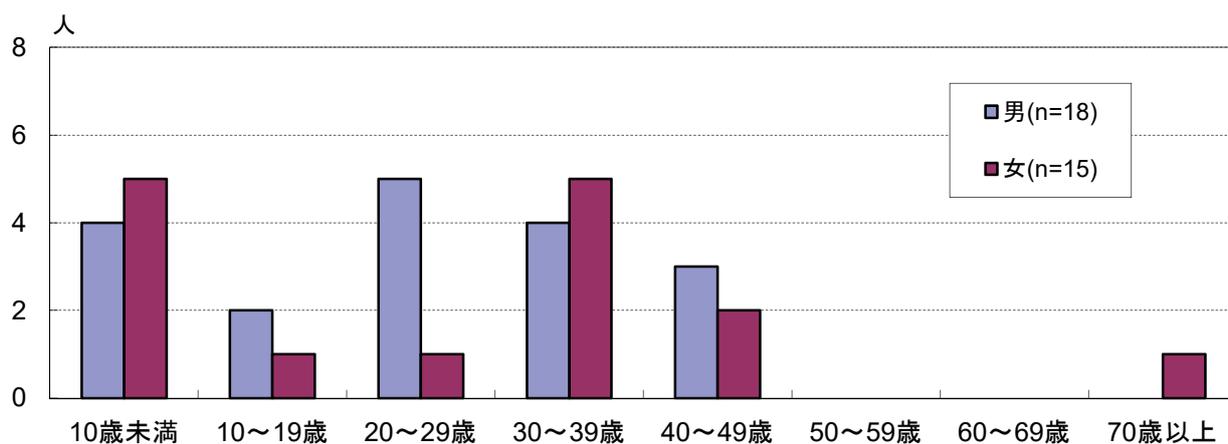
2015年の届出は33人であった。検査診断例21人(うちPCR陽性例は2例)、臨床診断例12人であった。

性別は男性18人、女性15人で、年齢階級別では10歳未満9人(うち5歳未満7人)、10～19歳3人、20～29歳6人、30～39歳9人、40～49歳5人、70歳以上1人であった。

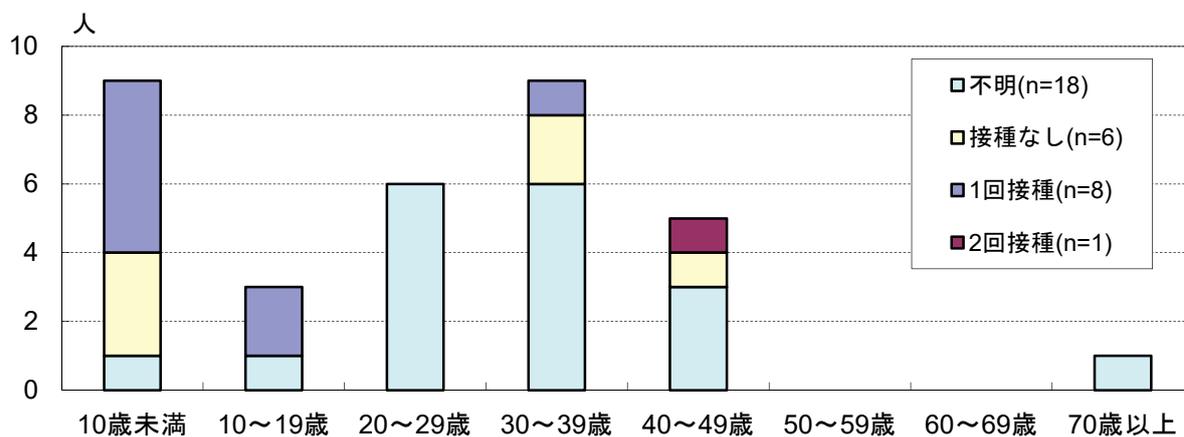
推定感染地は国内29人、国外3人、国内又は国外(渡航先不明)1人で、国外感染例3人の推定感染国は、中国1人、フィリピン又はブルネイ又はシンガポール1人、米国又はメキシコ1人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、2回接種1人(3.0%)、1回接種8人(24.2%)、接種歴なし6人(18.2%)、不明18人(54.5%)であった。





風しん 性別・年齢階級別届出数 (n=33)



風しん 年齢別・接種歴別届出数 (n=33)

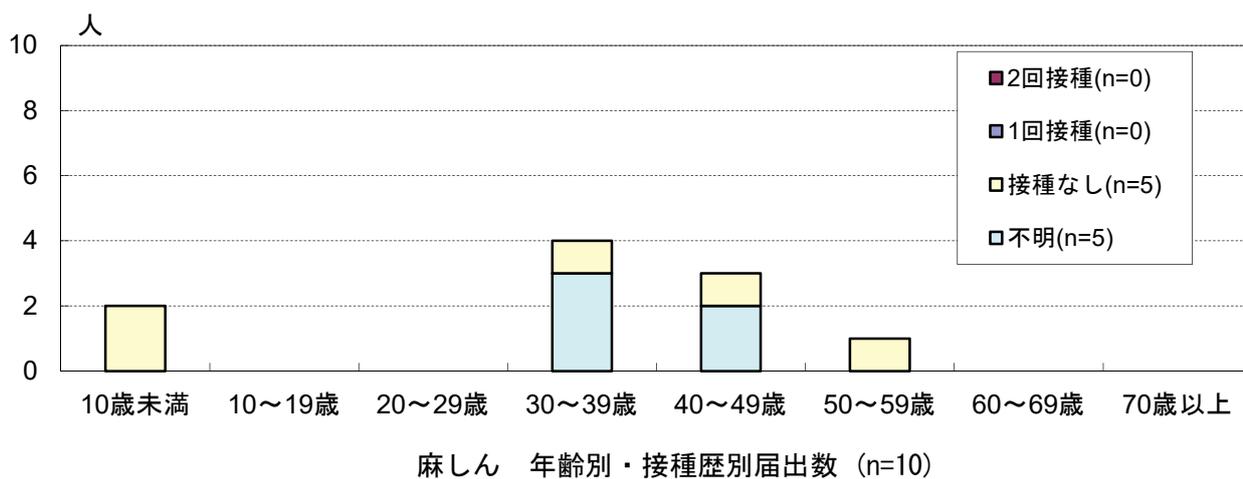
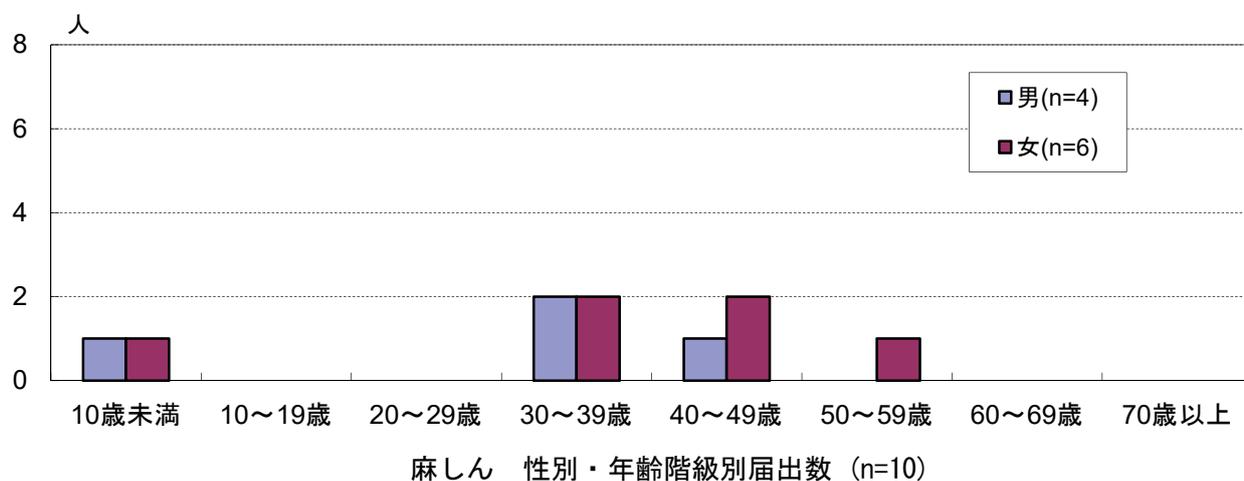
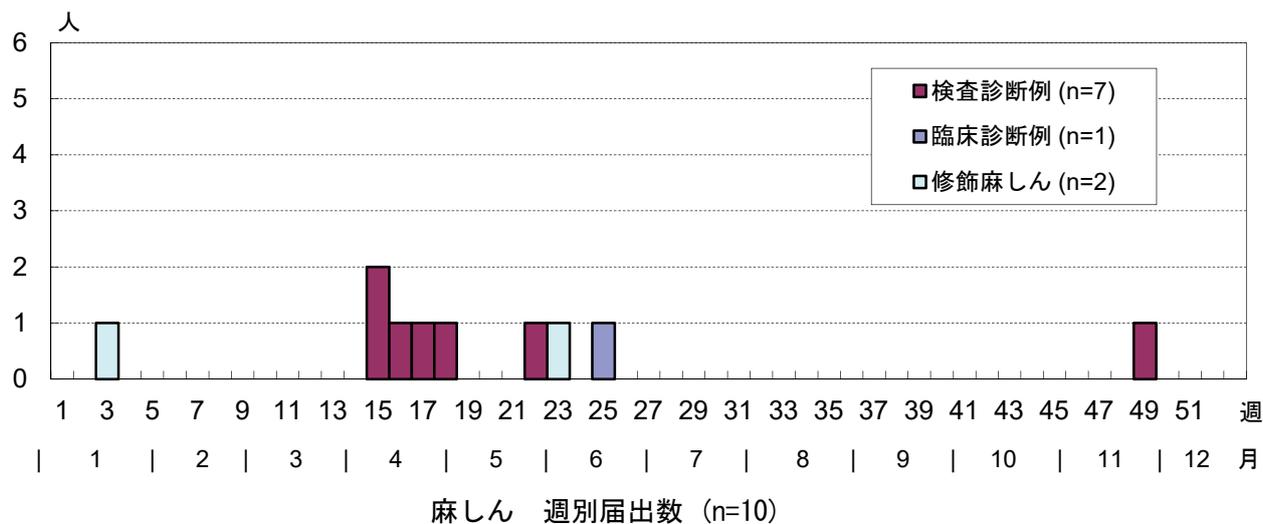
### ⑱ 麻しん

2015年は10人の届出があり、2008年に五類全数把握対象となってから最も少ない届出数となった。検査診断例7人、臨床診断例1人、修飾麻しん2人であり、肺炎、脳炎の合併は報告されなかった。2015年には同一施設での集積事例はなかった。

性別は男性4人、女性6人で、年齢階級別では10歳未満2人（すべて5歳未満）、30~39歳4人、40~49歳3人、50~59歳1人であった。推定感染地は国内6人、国外4人であった。国外感染例4人の推定感染国は、マレーシア、インドネシア、インド、モンゴル各1人であった。

麻しん含有ワクチン接種歴は、接種なし5人、不明5人であった。

2015年にPCR検査で麻しんウイルス陽性が確認された例は9件あり、それらの遺伝子型別の内訳はD9型3件、D8型2件、H1型1人、A型（ワクチン株のため届出対象外）3件であった。



⑳ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2015年は13人の届出があった。性別は男性7人、女性6人で、年齢階級別は50～59歳1人、70歳以上12人であった。推定感染国はすべて国内で、推定感染原因は以前からの保菌7人、院内感染3人、医療機器感染2人、不明1人であった。

⑳ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2015年第1週～2015年第53週

週	期 間	一 類							二 類						三 類					
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	12.29～1.4																			
2	1.5～1.11																			1
3	1.12～1.18															1	2	1		
4	1.19～1.25															2	2	1		
5	1.26～2.1															2	1		1	
6	2.2～2.8																1			
7	2.9～2.15															1	1			
8	2.16～2.22															2				
9	2.23～3.1															2	1			
10	3.2～3.8																1			
11	3.9～3.15																4			
12	3.16～3.22																2			
13	3.23～3.29															3		1		
14	3.30～4.5																1	1		
15	4.6～4.12																	1		
16	4.13～4.19															1	2	1		
17	4.20～4.26															3				1
18	4.27～5.3															1	1			
19	5.4～5.10															2				
20	5.11～5.17															3				
21	5.18～5.24																5	1		
22	5.25～5.31																5			1
23	6.1～6.7															4	5			
24	6.8～6.14															3	11			
25	6.15～6.21															1	16			1
26	6.22～6.28															1	16			
27	6.29～7.5															1	24			
28	7.6～7.12															3	27			
29	7.13～7.19															2	27			
30	7.20～7.26																13			
31	7.27～8.2															2	19	1		
32	8.3～8.9															2	14			
33	8.10～8.16																19			
34	8.17～8.23															2	15			
35	8.24～8.30															1	20			
36	8.31～9.6																11			1
37	9.7～9.13															2	7			
38	9.14～9.20																12	1		
39	9.21～9.27															1	7			1
40	9.28～10.4															1	2	2		
41	10.5～10.11																5	1		
42	10.12～10.18																6			
43	10.19～10.25															2	5			1
44	10.26～11.1																4			
45	11.2～11.8														1		2			
46	11.9～11.15															2	3			
47	11.16～11.22															1	4			
48	11.23～11.29															1	1	1		
49	11.30～12.6																5			1
50	12.7～12.13																2			
51	12.14～12.20																3			
52	12.21～12.27																1	1		
53	12.28～1.3																			
合 計															1	53	335	14		9

\* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2015年第1週～2015年第53週

週	期 間	四 類													
		E型 肝炎	A型 肝炎	エキ ノコ ックス 症	コク シジ オイ デス 症	チク ング ニア 熱	つ つが 虫 病	デ ン グ 熱	日 本 紅 斑 熱	ブル セラ 症	マ ラ リ ア	ライ ム 病	類 鼻 疽	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
1	12.29～1.4														
2	1.5～1.11		1					1						6	
3	1.12～1.18		1	1		1		3						2	
4	1.19～1.25							1						3	
5	1.26～2.1	1	2												
6	2.2～2.8	2						2							
7	2.9～2.15							2						1	
8	2.16～2.22		2											1	
9	2.23～3.1					1		1							
10	3.2～3.8	3						1						4	1
11	3.9～3.15	1						1			1				
12	3.16～3.22							1			1				
13	3.23～3.29		2					1						3	
14	3.30～4.5	3						4							1
15	4.6～4.12		1											3	
16	4.13～4.19	1	3					4			1			2	
17	4.20～4.26	1	1											3	1
18	4.27～5.3		1											3	1
19	5.4～5.10		2					1						1	
20	5.11～5.17		1			1		1			1			1	1
21	5.18～5.24	1	2			1		2		1				2	
22	5.25～5.31		1											2	
23	6.1～6.7	2	3					2			2			1	
24	6.8～6.14		2					1						4	
25	6.15～6.21	1	2			1		2			1			2	
26	6.22～6.28							1						2	
27	6.29～7.5	1			1			2			1			4	
28	7.6～7.12					1		1		1		1		6	
29	7.13～7.19							3						6	
30	7.20～7.26	1	2											5	
31	7.27～8.2	1									2			3	
32	8.3～8.9							1			1			1	
33	8.10～8.16							3						3	
34	8.17～8.23		1					5			1			5	
35	8.24～8.30							6					1	4	
36	8.31～9.6							4	1		1			7	
37	9.7～9.13		1					4						3	1
38	9.14～9.20		2					5						3	
39	9.21～9.27		2					2			1			7	
40	9.28～10.4		1					1						10	2
41	10.5～10.11	1	1					3			1			7	
42	10.12～10.18										1			2	
43	10.19～10.25	2						1						3	1
44	10.26～11.1				1			2						4	
45	11.2～11.8	1	1					2						3	1
46	11.9～11.15	5						5						3	
47	11.16～11.22	1						3				1		2	
48	11.23～11.29					1		1						4	
49	11.30～12.6	1	2					2						2	
50	12.7～12.13	3						2						3	
51	12.14～12.20	1						5						3	
52	12.21～12.27	5						1						3	
53	12.28～1.3							1						1	
合 計		39	40	1	2	7	14	92	1	2	16	2	1	153	10

表3-1(3) 五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2015年第1週~2015年第53週

週	期 間	五 類																			
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
1	12.29~1.4			1																	
2	1.5~1.11	5	1		4		2	2	6	1		16	3	9							
3	1.12~1.18	2			1			1	10	2	2	14		11	1					1	
4	1.19~1.25	4	2	3			1		5	2		6		15					1		
5	1.26~2.1	7		1	4	1		4	4			4		10							
6	2.2~2.8	5	1	4	1	1		1	10			4		15					1		
7	2.9~2.15	4	1	4	2			2	6			4	2	12					1		
8	2.16~2.22	1	1	1	1				7	1		7	2	16					1		
9	2.23~3.1	7	1	3	1			1	3	8		7	1	15					2		
10	3.2~3.8	2		5	1				1	8		1	7	17							
11	3.9~3.15	2		4				1	1	10		6		10	1				1		
12	3.16~3.22	2	1	2	2			1	3	8		7	1	10					2		
13	3.23~3.29	5		1	1				3	9	1	1		7		1		1			
14	3.30~4.5	4	1	4	3			1	2	9		5		16	1			2			
15	4.6~4.12	3		2				3	9			1	9	34						2	
16	4.13~4.19	3	4	4				2	15	2	1	11	1	24					1	1	1
17	4.20~4.26	3	2	6				1	10	1	2	4	2	21					1	1	
18	4.27~5.3	3		4				1	2	2		11	1	20						1	
19	5.4~5.10	1		2					7		1	8		17							
20	5.11~5.17	4	2	3	2			1	7	2		10	2	24					1		1
21	5.18~5.24	2	1	6	1				11		1	1	12	2	25						1
22	5.25~5.31	5	3	2	2			1	1	10	1	1	8	19				1		1	1
23	6.1~6.7	6	3	2					10		1	6	3	20	1					1	
24	6.8~6.14	6	2	3		1			6	1	1	5	2	24	2				1		
25	6.15~6.21	5	2	3					1	10		7	2	25					1	1	
26	6.22~6.28	6	1	4	1			1	2	12		5	2	29					2		
27	6.29~7.5	7	1	6				2	1	10	2	2		20					1		1
28	7.6~7.12	5		5	1			1	1	7	1		2	1	19				1		
29	7.13~7.19	6		11				2		6	1		4	19	1						
30	7.20~7.26	3	1	7	2				1	6		1	4	1	14	1					
31	7.27~8.2			5				4	7			4	1	21					3		
32	8.3~8.9	4		4				1	10		1	2	2	23							
33	8.10~8.16	5	1	12	2			1	2	7		1		22					1		1
34	8.17~8.23	3	1	12					1	11	1	1	1	24							
35	8.24~8.30	3	2	8	1				1	10		2		22							
36	8.31~9.6	3		12					1	7		2		24							
37	9.7~9.13	2	1	10	1			1	1	9		1		25					1		
38	9.14~9.20	4	1	5				1		12	1	3	5	33					1		
39	9.21~9.27	3		1	1				4	1	1	4		12					1		
40	9.28~10.4	2		2				1		8		1	8	1	22				1		
41	10.5~10.11	2	2	14	2					12		4	1	22	1				1		
42	10.12~10.18	4		4				1		5		6	2	21					2		
43	10.19~10.25	3	2	2	3			2	11	1	1	2		18							
44	10.26~11.1	5		2	1				1	5		7	1	30							1
45	11.2~11.8	3	2	2	1				3	6		3		21	1						
46	11.9~11.15	5	3	5	2				1	10	1	1		26		1			1		1
47	11.16~11.22	8	1	5				1	3	8		13		16							
48	11.23~11.29	4	1	6					1	8		2	1	3	3	17					2
49	11.30~12.6	5		6				1		9		3	1	23	1				1	1	
50	12.7~12.13	6	2	4					1	16		9	3	35							
51	12.14~12.20	4	1	5					1	8	1	1	1	20							2
52	12.21~12.27	6	1	6	2					9		1		24							1
53	12.28~1.3	3	1	1	1					5		5	1	12							
合 計		205	53	236	47	3	24	62	435	19	29	8	323	55	1,044	11	2	2	33	10	13

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2015年第1週～2015年第53週

	一 類							二 類						三 類					
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 *	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田															1	4			
中央区															2	2	2		
みなと															5	9	1		
新宿区															8	11	4	7	
文京															2		1	1	
台東															1	4			
墨田区															1	11	1		
江東区															1	16			
品川区																4		1	
目黒区																6			
大田区															1	23			
世田谷															2	27			
渋谷区															3	8			
中野区															4	14			
杉並																23			
池袋															1	6	1		
北区															1	2			
荒川区															1	3	1		
板橋区															3	10			
練馬区															6	11			
足立															1	6			
葛飾区																9			
江戸川														1		21	2		
八王子市																19			
町田市																4			
西多摩																11			
南多摩																9			
多摩立川															3	22			
多摩府中															6	22			
多摩小平																18	1		
島しょ																			
合 計														1	53	335	14		9

\* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2015年第1週～2015年第53週

	四 類													
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	コクシジオイデス症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	ブルセラ症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	1	1		1			1						2	
中央区							1				1		3	1
みなと		1			1	1	3			3			8	
新宿区	5	5		1	3		34	1	2	6	1	1	6	3
文京	2	4				1	5			2			5	
台東		1					2						3	
墨田区	1	1					9			1			6	2
江東区													2	
品川区	3	3					3						7	
目黒区	4		1		1		2						3	
大田区	7	5			1	1	5						9	1
世田谷						1							6	
渋谷区	4	5					2			1			4	
中野区	2	1					1						1	
杉並	1	1					4			1			1	
池袋													2	
北区	2	1				1							2	1
荒川区													3	
板橋区		3					3			2			22	1
練馬区	1						3						6	
足立	1	1				1							5	
葛飾区		1					2						4	
江戸川													4	
八王子市						1	1						2	
町田市	1	1											1	
西多摩	1					4	2						7	
南多摩	1						2						7	
多摩立川		2											8	
多摩府中	2	3			1	1	6						9	1
多摩小平							1						5	
島しょ						2								
合 計	39	40	1	2	7	14	92	1	2	16	2	1	153	10

表3-2(3) 五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2015年第1週~2015年第53週

	五 類																			
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
千代田	13	1	7				4				6	2	14						1	
中央区	14		3	2			2	1			2		12	1				1		
みなと	13	3	10		1		5	31	2	1	9		97	2				2	1	
新宿区	18	17	18	3	2	4	7	151	7	1	12	2	431	2				2	2	
文京	15	3	15	2		4	7	26	1		1	22	5	31		1		2		
台東	2		5					2			4		92							
墨田区	8		4	5			1	6			1	16	2	14					1	
江東区	8	5	7				1	1		2		1		4				1		
品川区	4	3	17			2	6	7		2		17	2	10				1		2
目黒区	5	1	10	5		2		3	1	2		21	2	7	1	1		2		
大田区	5	8	11	3		2	6	11		2		14	1	12	1			1		
世田谷	8		1	10				4		1	1	10	5	14				2		
渋谷区	11	1	14			1		89	2	3	1	8		22					2	
中野区	5		3					16			1	2		12					1	
杉並	5	1	4				1	4		1		9	1	12			1	3		
池袋	3		2	2				5				1		101				1		
北区	2			1			1	5				4	1	2						
荒川区	2		1	6				1				8	2	12				1		
板橋区	10	3	43	1		2	9	6	3	2	1	24	16	20	1			2	1	6
練馬区	11					1	1	2		5		14	1	12				2		
足立	3		13					2		1		4		4				1		1
葛飾区	1	1	3				1	7				3	1	13						1
江戸川	1		1				1	8				3		25				1		2
八王子市	8		6			1		7				11		7						
町田市	5		3					2				5	1							1
西多摩	1	1	2				1		1	1		9	1	7				1		
南多摩	5	2	3				2	4	1		1	8		5	1			3		
多摩立川	6	2	10				3	4		2		24		18				1		
多摩府中	9		11	7		4	4	22		3	1	33	10	25	2		1	2		
多摩小平	4	1	9			1	3	5				19		9				1	1	
島しょ																				
合 計	205	53	236	47	3	24	62	435	19	29	8	323	55	1,044	11	2	2	33	10	13

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2015年第1週～2015年第53週

	一 類							二 類							三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核*	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳																	2		
1～4歳															1	24	1		
5～9歳															5	23	1		
10～14歳																34			
15～19歳															2	33	2		
20～24歳															5	39			
25～29歳															5	31	6	1	
30～34歳															13	28	2	1	
35～39歳														1	4	15	1	2	
40～44歳															5	18	1	2	
45～49歳															5	15			
50～54歳															4	8		1	
55～59歳															1	12			
60～64歳															1	8		1	
65～69歳															1	14			
70歳以上															1	31			1
合 計														1	53	335	14	9	

\* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2015年第1週～2015年第53週

	四 類													
	E型 肝炎	A型 肝炎	エキ ノコ ツク ス症	コク シジ オイ デス 症	チク ング ニア 熱	つ つが 虫 病	デ ン グ 熱	日 本 紅 斑 熱	ブル セラ 症	マ ラ リ ア	ライ ム 病	類 鼻 疽	レ ジ オ ネ ラ 症	レ プ ト ス ピ ラ 症
0歳														
1～4歳							1							
5～9歳		1					2							
10～14歳		1				1	3							
15～19歳		1			1		5		1				2	
20～24歳		1					16		2					
25～29歳	3	1		1			15						1	
30～34歳	1	2		1	1	2	4		1				3	1
35～39歳	2	9			1	1	10		1				1	2
40～44歳	4	5			2	1	18		3			1	3	
45～49歳	5	2					7		4				10	1
50～54歳	4	6	1		1	1	1	2	1	1			6	
55～59歳	3	5				1	1			1			17	
60～64歳	5	1				1	3		2				22	1
65～69歳	5	2				3	4		1				20	3
70歳以上	7	3			1	3	2	1					68	2
合 計	39	40	1	2	7	14	92	1	2	16	2	1	153	10

表3-3(3) 五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2015年第1週~2015年第53週

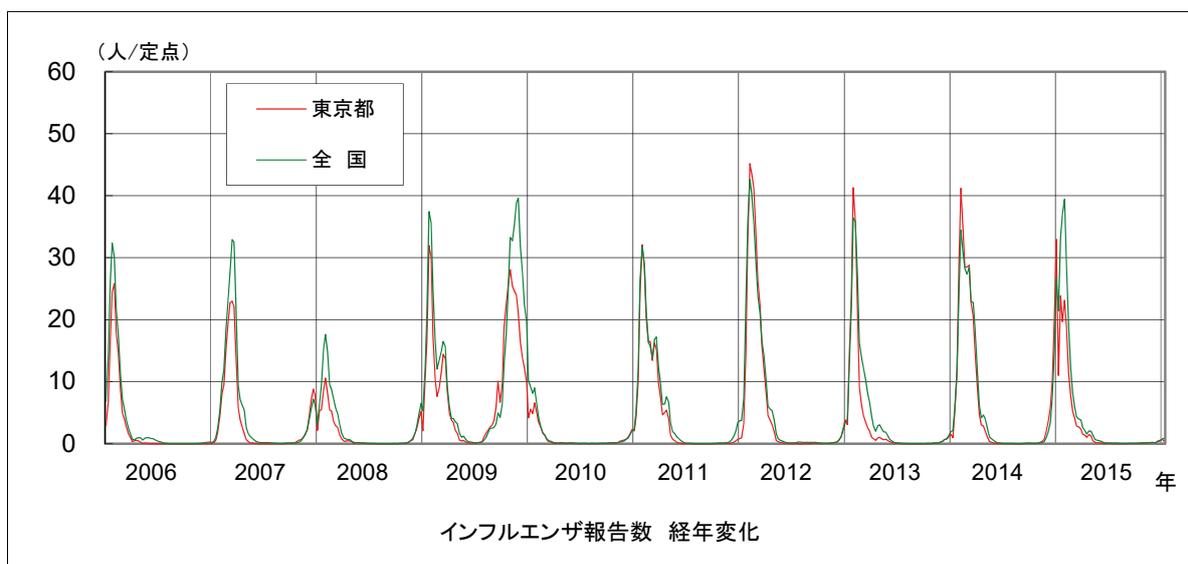
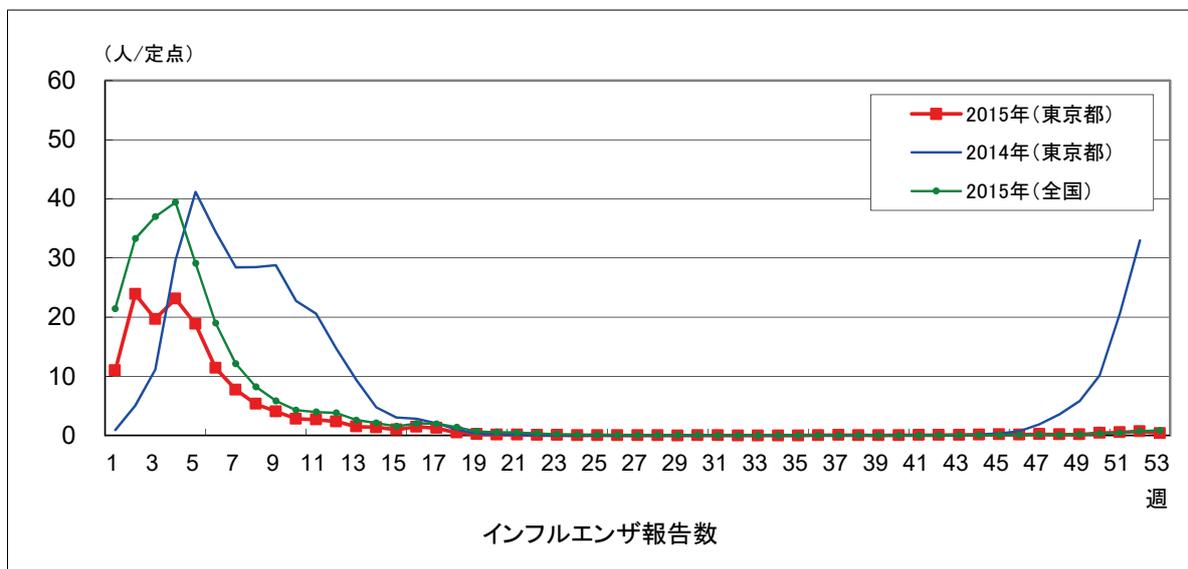
	五 類																			
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
0歳			3	3			2			1		7	2	2				2	2	
1~4歳			4	18						2	1	48	7					5		
5~9歳			2	8								3	7					2		
10~14歳			1	6			1					4	4	1				1		
15~19歳			3	1			1	1				1	2	24				2		
20~24歳		6	1	2	1			41					4	163				2		
25~29歳	9	10	2				1	101	1	4	1	3	3	177				4		
30~34歳	10	6	3	1	2			76	4			5	1	162	1			6	1	
35~39歳	23	11	4				1	66	3	1		9	8	150				3	3	
40~44歳	24	4	3				7	61	4	1	2	17	5	144	3			4	2	
45~49歳	27	6	6	1			6	41		1	1	15	3	87		1		1	1	
50~54歳	30	3	3	1		1	5	17	1			10	2	61					1	
55~59歳	25	3	11			3	4	15	4		2	12	4	34						1
60~64歳	26	2	18			1	3	10	1	1	1	26		16						
65~69歳	13	1	25	1		5	12	5		3		30		8			1			
70歳以上	18	1	147	5		14	19	1	1	15		133	3	15	7	1	1	1		12
合 計	205	53	236	47	3	24	62	435	19	29	8	323	55	1,044	11	2	2	33	10	13

## (2) 小児科・内科疾患

### ア インフルエンザ

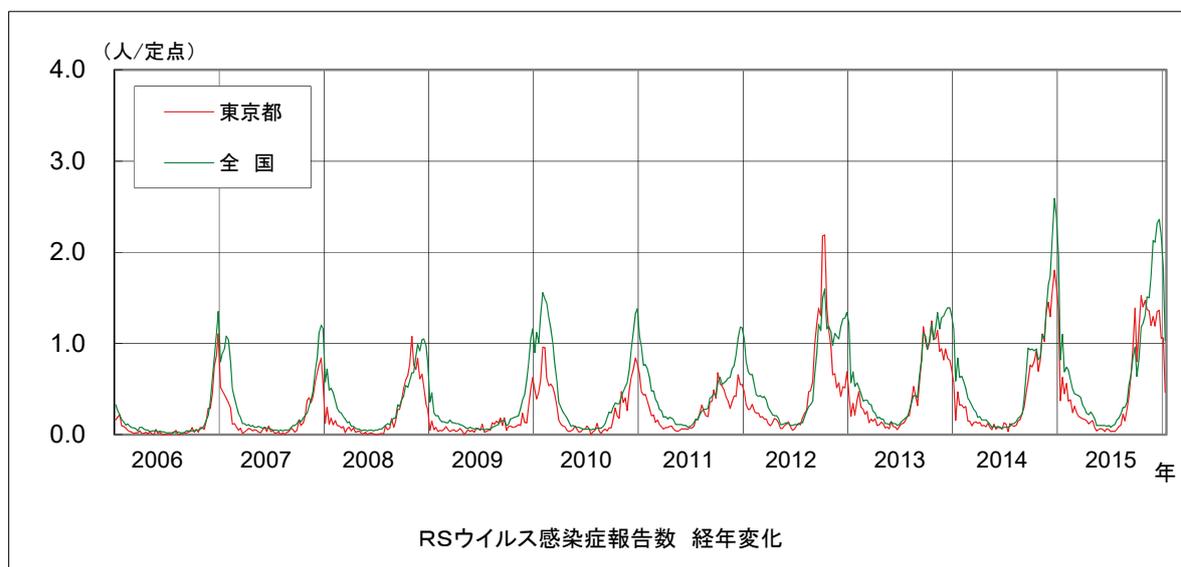
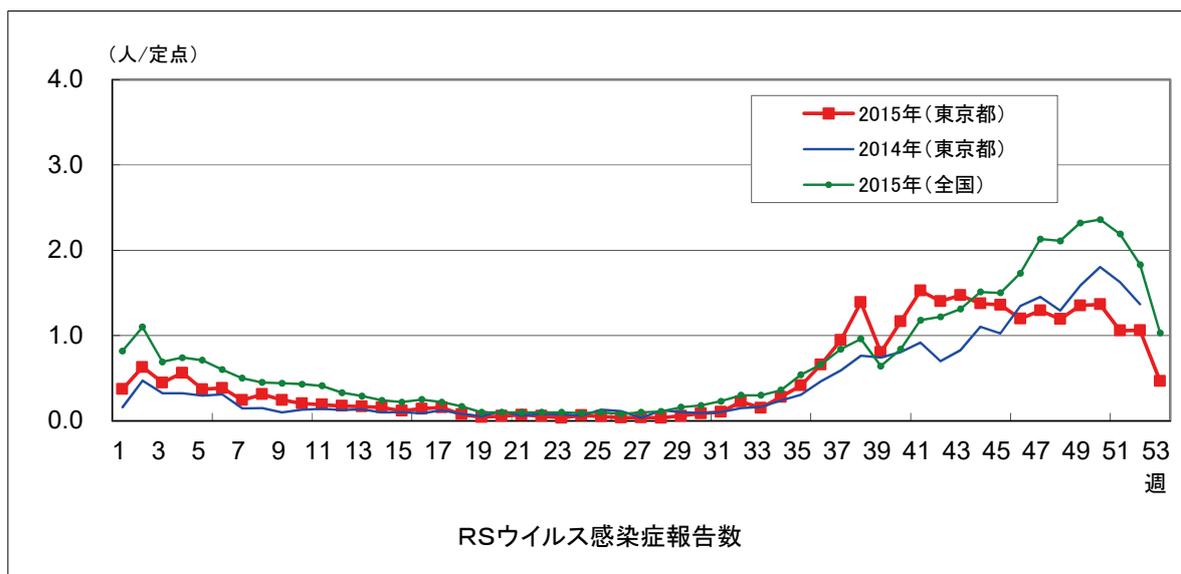
2015年の報告数は59,435件、定点当たり145.11件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は220.30件であり、例年に比べて報告数は少なかった。2014/15シーズンの流行は2014年47週(11.17～11.23)に報告数が1.92件と1.00件を超え流行が始まり、50週(12.8～12.14)には10.15件と10.00件をこえ、52週(12.22～12.28)には32.96件と30.00件を超えてピークとなった。その後漸減して2015年7週(2.9～2.15)に7.74件と10.00件を下まわり、18週(4.27～5.3)には0.50件と1.00件を割り、流行は終息した。

2015/16シーズンの流行は2015年の最終週である53週(12.28～1.3)になっても0.43件の報告数であり、流行開始の目安である1.00件に達していない。2015年の報告数が少ない原因の一つは2015/16シーズンの流行開始が遅れて2016年にずれ込んでいることによるものである。2015年1年間の保健所別定点当たりの報告数では、最多は町田市の221.59件で、最小は目黒区の79.09件であった。



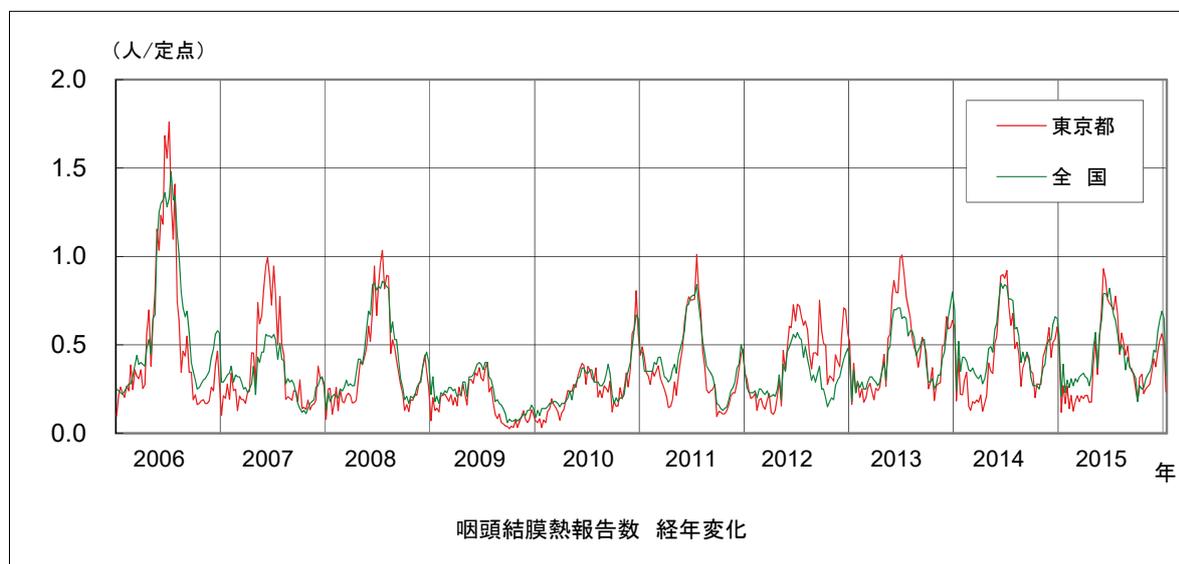
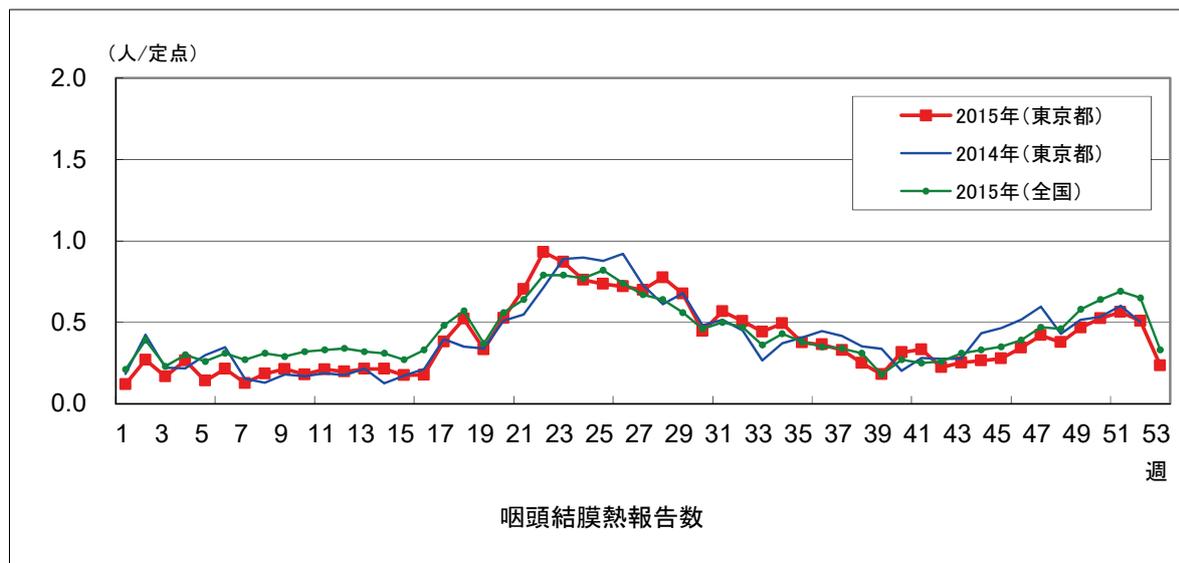
## イ RSウイルス感染症

2015年の報告数は7,197件、定点当たりの報告数は27.82件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は16.07件であり、2015年はここ10年で最大の報告数であった。週別定点当たりの報告数では38週(9.14~9.20)から52週(12.21~12.27)にかけて1.00件を超える山があり、ピークは41週(10.5~10.11)の1.52件であった。保健所別定点当たりの報告数では、最多は荒川区の98.67件であった。年齢階級別患者報告数では、6か月未満が960件(13.3%)、12か月未満が1,643件(22.8%)、1歳代が2,825件(39.3%)、2歳代が1,111件(15.4%)と2歳代以下で90.9%を占めている。



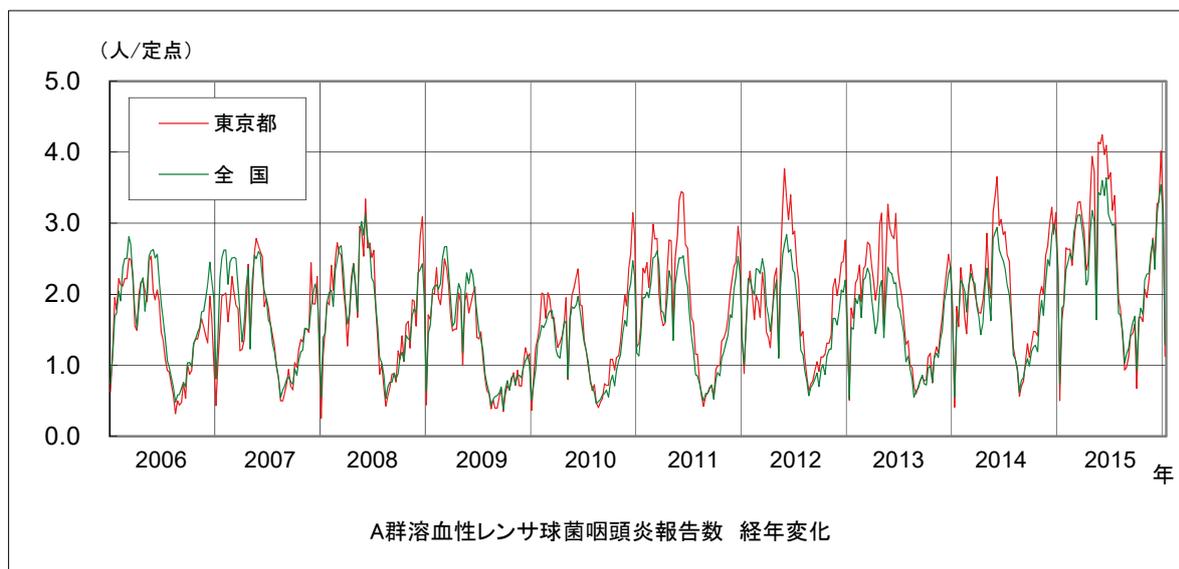
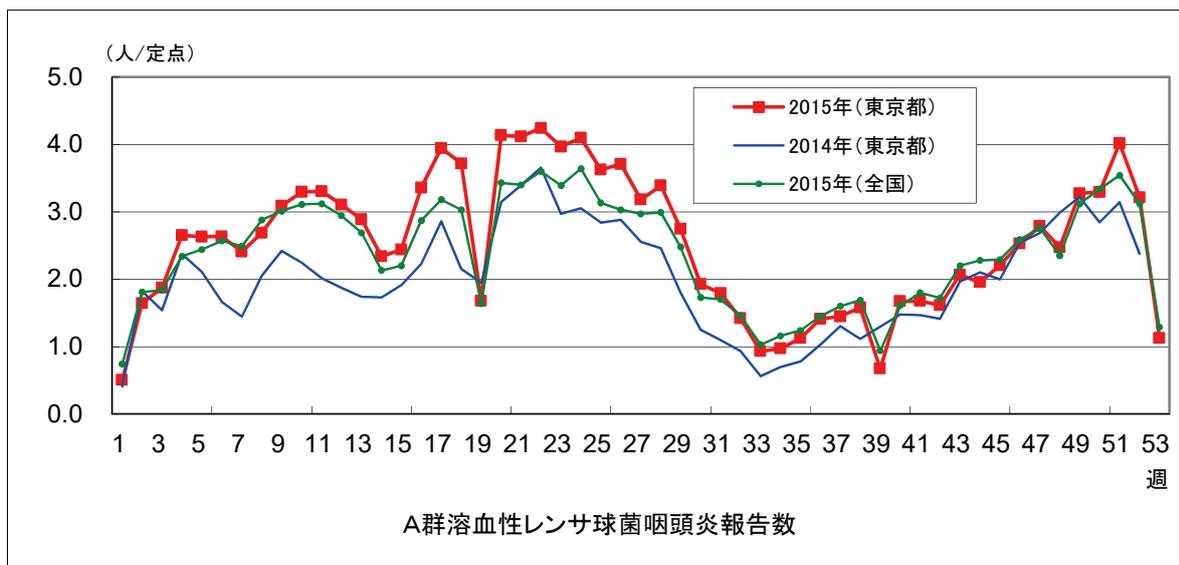
## ウ 咽頭結膜熱

2015年の報告数は5,385件定点当たりの報告数は20.77件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は19.53件であり、2015年は例年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告数では18週(4.27~5.3)から32週(8.3~8.9)にかけてと50週(12.7~12.13)から52週(12.21~12.27)にかけて0.50件を超える山があり、ピークは22週(5.25~5.31)の0.93件であった。保健所別定点当たりの報告数では、大田区が54.28件、みなとが51.74件と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が1,249件(23.2%)と最も多く、5歳代以下で80.6%を占めている。



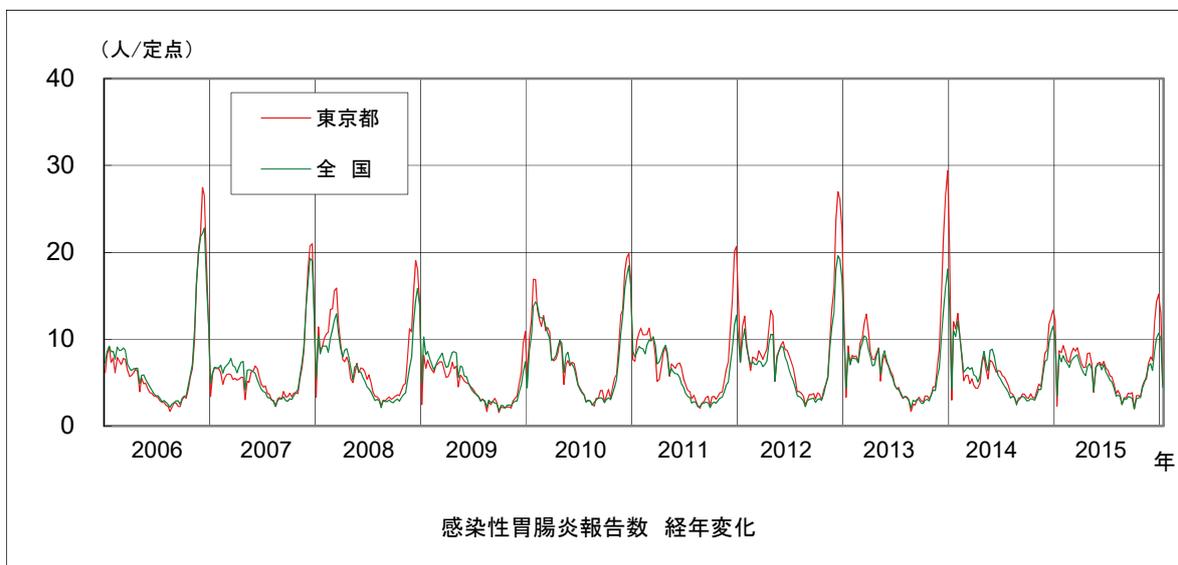
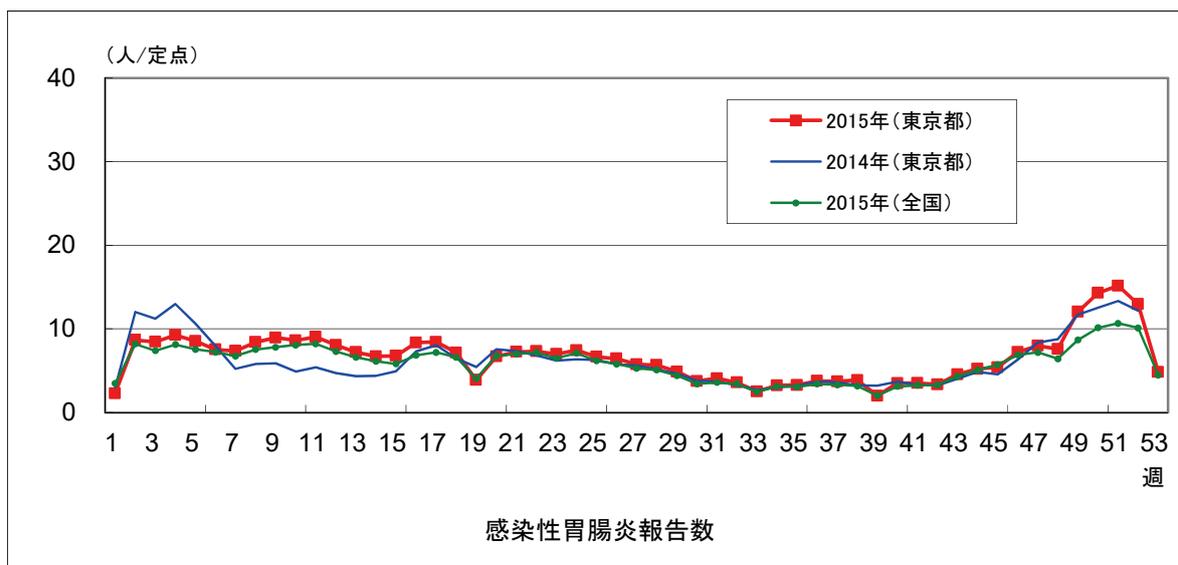
## エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2015年の報告数は35,039件、定点当たりの報告数は134.57件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は92.78件であり、2015年の報告数はここ10年で最多であった。週別定点当たりの報告数では17週(4.20~4.26)から26週(6.22~6.28)にかけてと51週(12.14~12.20)に3.5件を超える山がみられる。ピークは22週(5.25~5.31)の4.24件であった。保健所別定点当たりの報告数では、町田市が276.88件、多摩小平が271.70件と多かった。年齢階級別患者報告数では5歳代が4,822件(13.8%)と最も多く、4歳代から7歳代で50.9%を占めている。



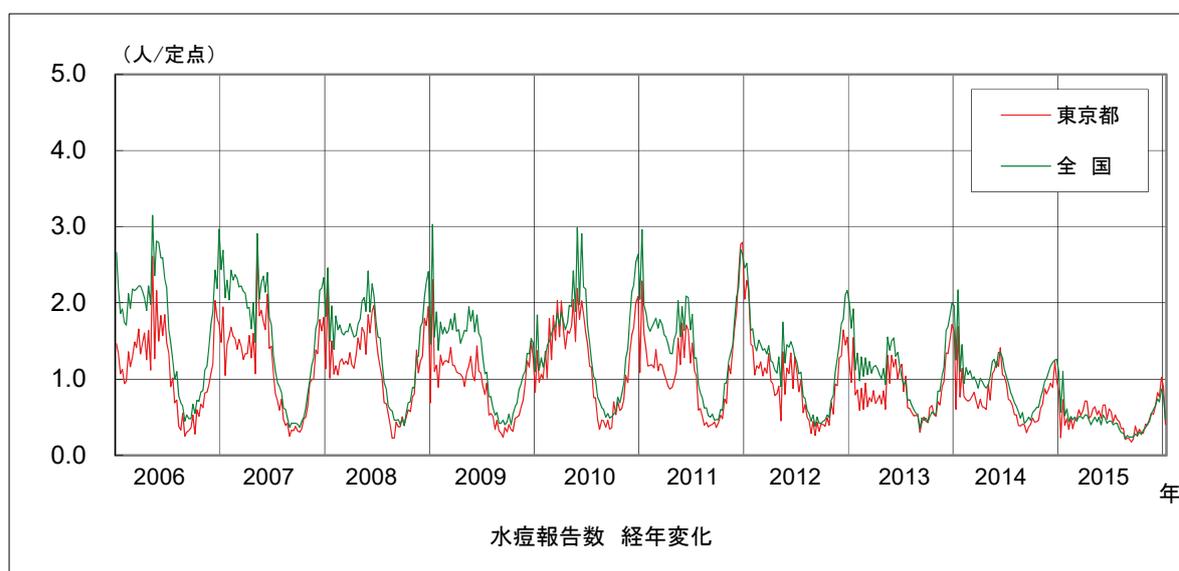
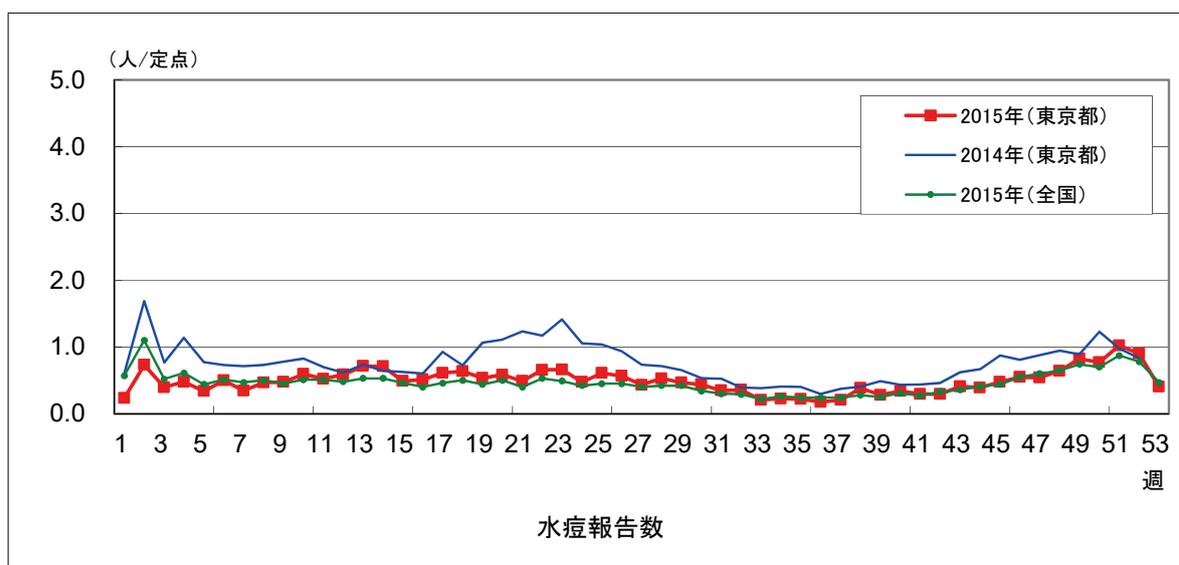
## オ 感染性胃腸炎

2015年の報告数は91,052件、定点当たりの報告数は350.13件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は365.37件であり、2015年は平年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告では49週(11.30～12.6)から52週(12.21～12.27)にかけて10.00件を超える大きな山があり、ピークは51週(12.14～12.20)の15.16件であった。保健所別定点当たりの報告数では、江東区が651.79件、八王子市が598.44件と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が12,755件(14.0%)と最も多い。



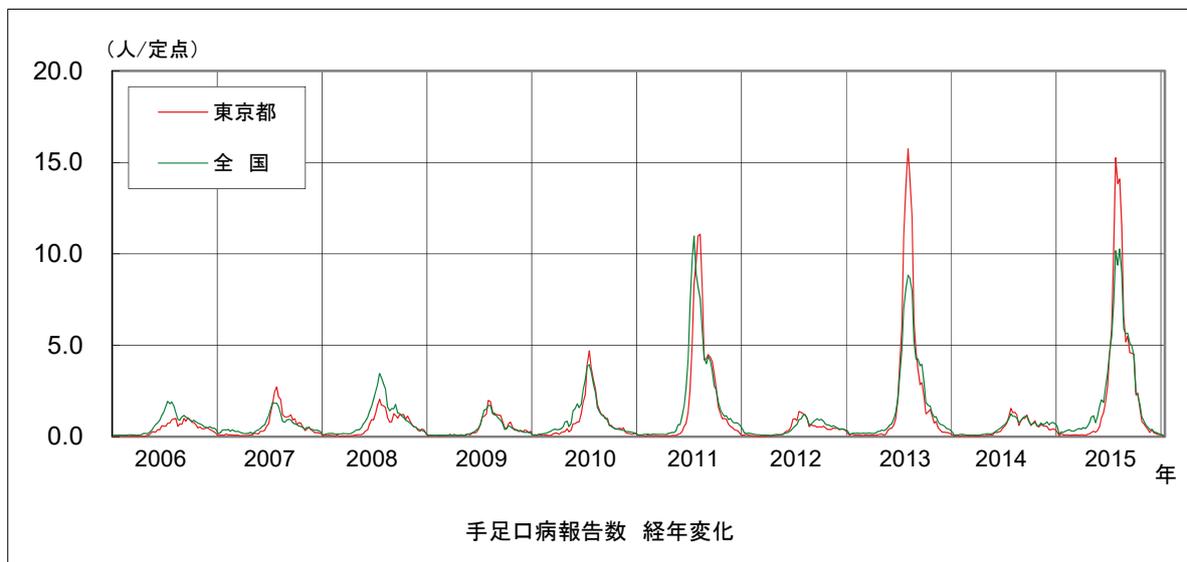
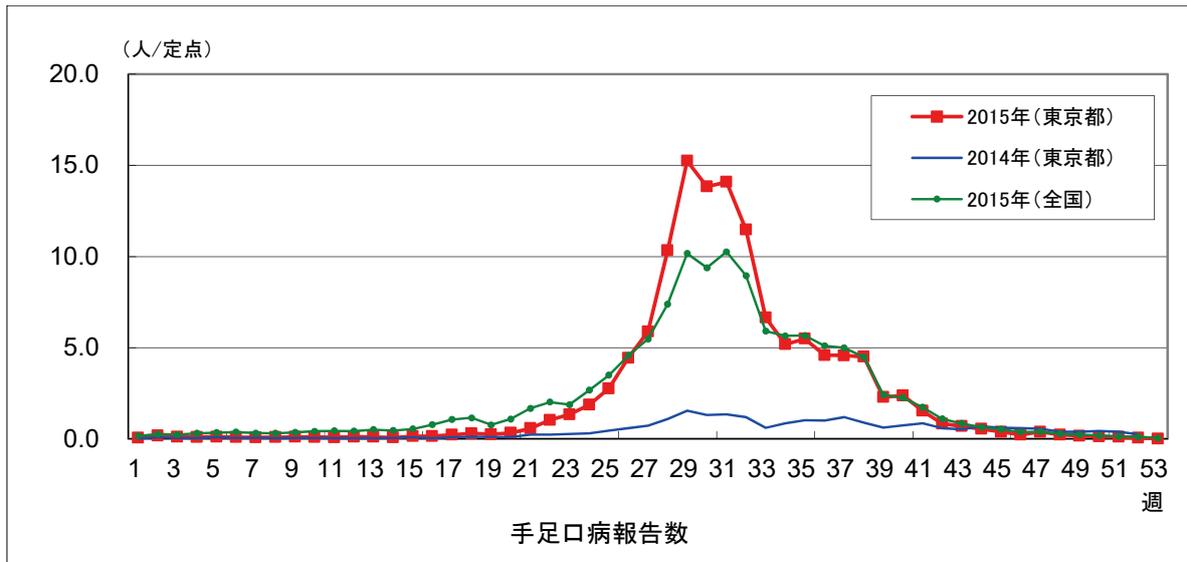
## カ 水痘

2015年の報告数は6,765件、定点当たりの報告数は26.04件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は50.99件であり、2015年はここ10年で最も少ない報告数であった。週別定点当たりの報告数は51週(12.14～12.20)で1.02件と最多となったが明らかな季節変動はみられなかった。保健所別定点当たりの報告数では、文京が53.83件、八王子市が51.61件と多かった。年齢階級別患者報告数では4歳代が1,060件(15.7%)と最も多く1歳代から5歳代で55.4%を占めている。



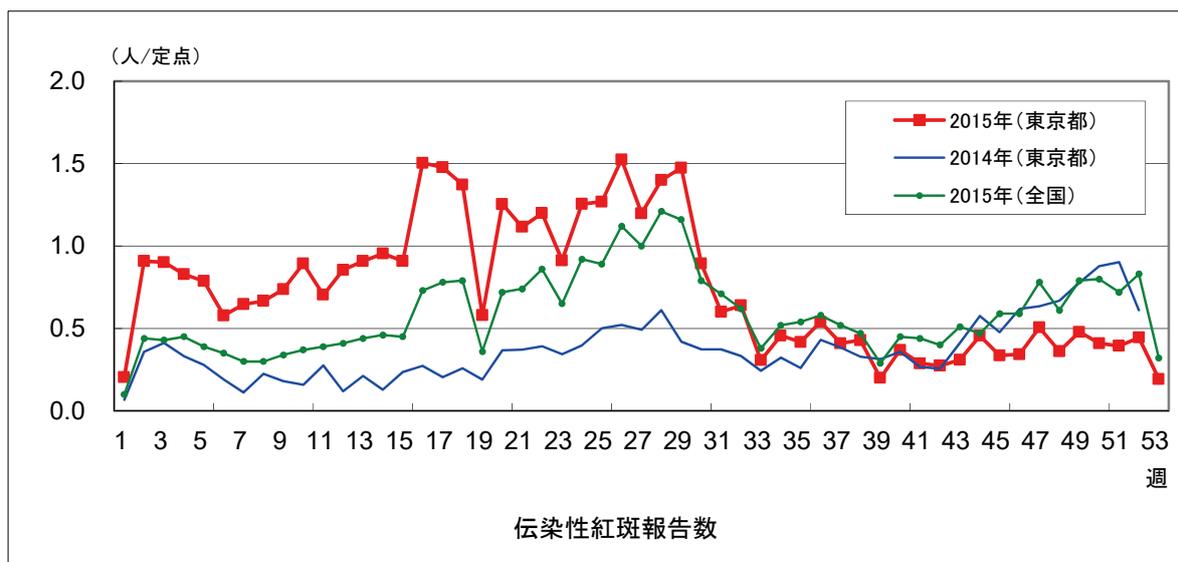
## キ 手足口病

2015年の報告数は32,599件、定点当たりの報告数は126.39件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は52.78件であり、2015年はここ10年で最大の報告数であった。週別定点当たりの報告数は27週(6.29~7.5)から35週(8.24~8.30)にかけて5.00件を超える大きな山があり、ピークは29週(7.13~7.19)の15.24件であった。保健所別定点当たりの報告数では、中央区が219.17件、江東区が217.51件、八王子市が203.01件と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が10,477件(32.1%)と最多であった。



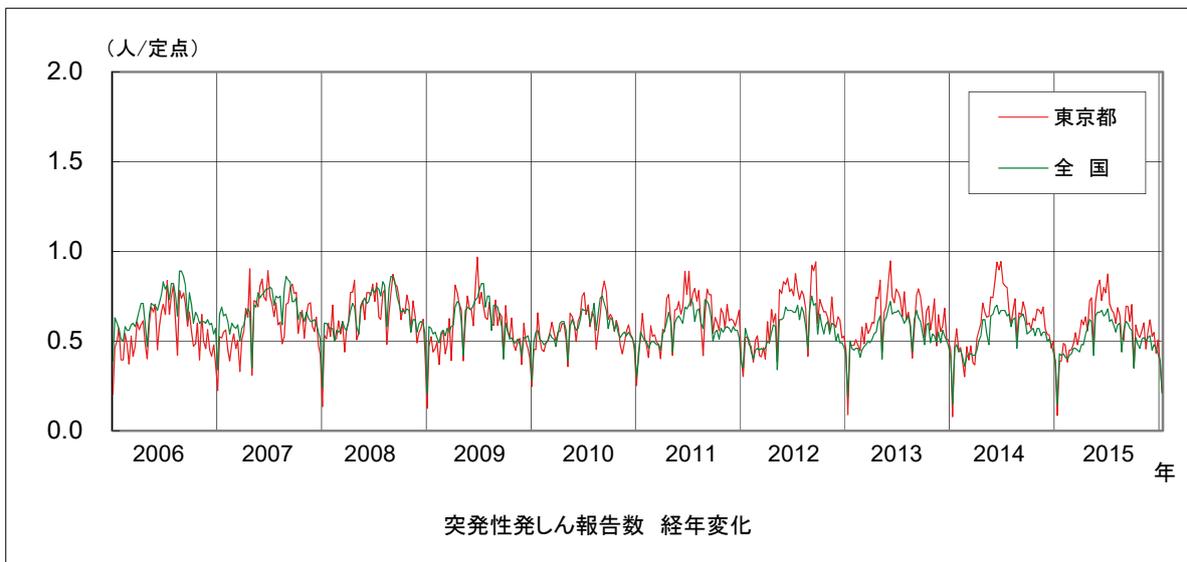
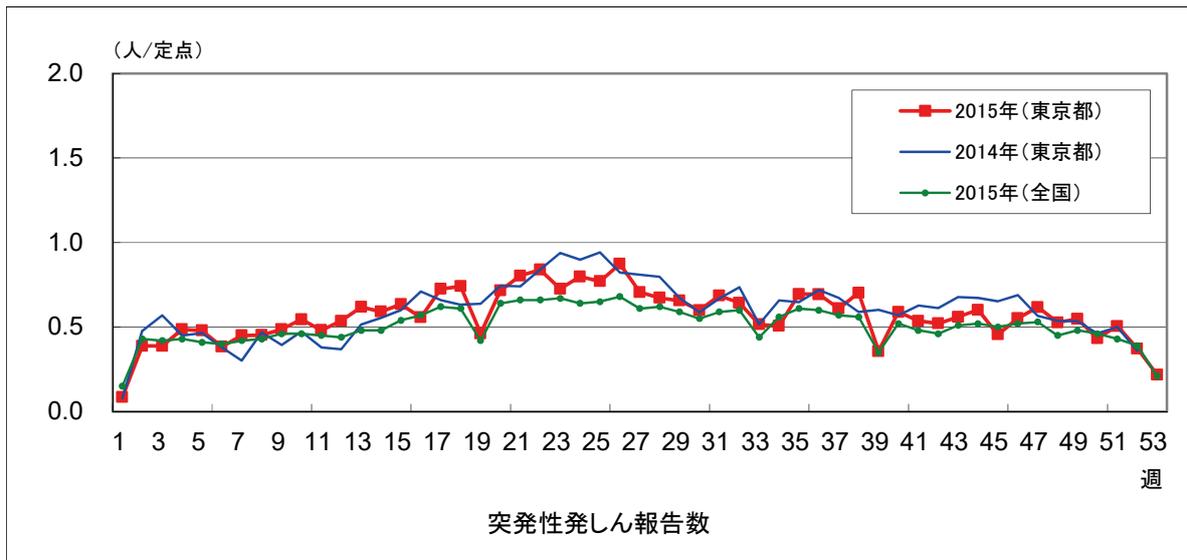
## ク 伝染性紅斑

2015年の報告数は10,174件、定点当たりの報告数は39.08件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は17.50件であり、2015年はここ10年で最も多い報告数であった。週別定点当たりの報告数では16週(4.13~4.19)から29週(7.13~7.19)にかけておおむね1.00件を超える山があり、ピークは26週(6.22~6.28)の1.52件であった。保健所別定点当たりの報告数では、荒川区が86.58件、南多摩が74.06件と多かった。年齢階級別患者報告数では5歳代が1,721件(16.9%)で最も多く、3歳代から6歳代で59.0%を占めている。



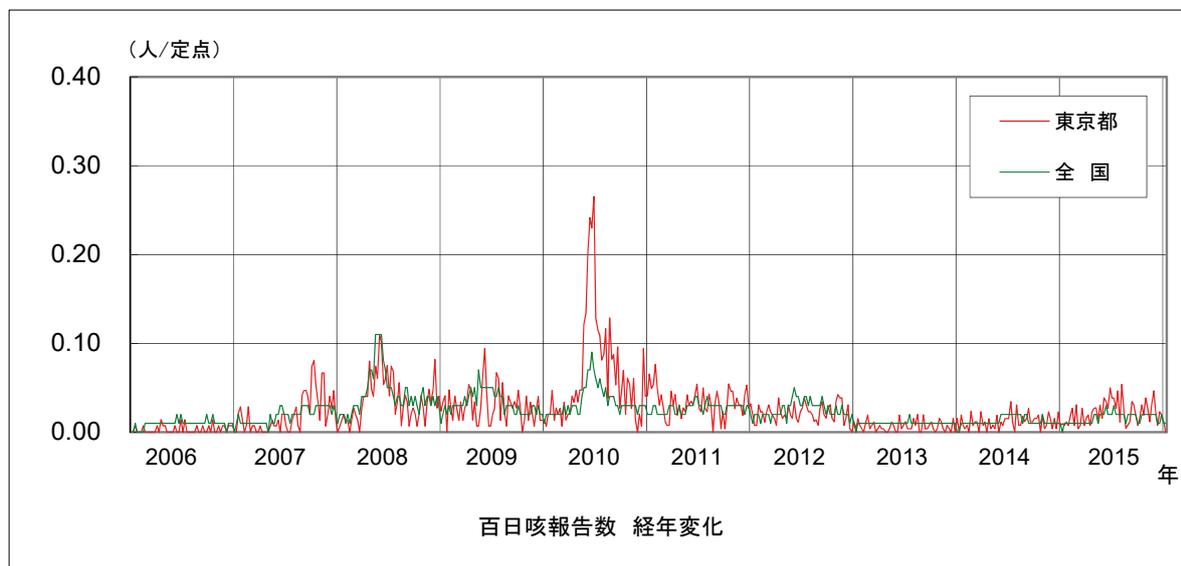
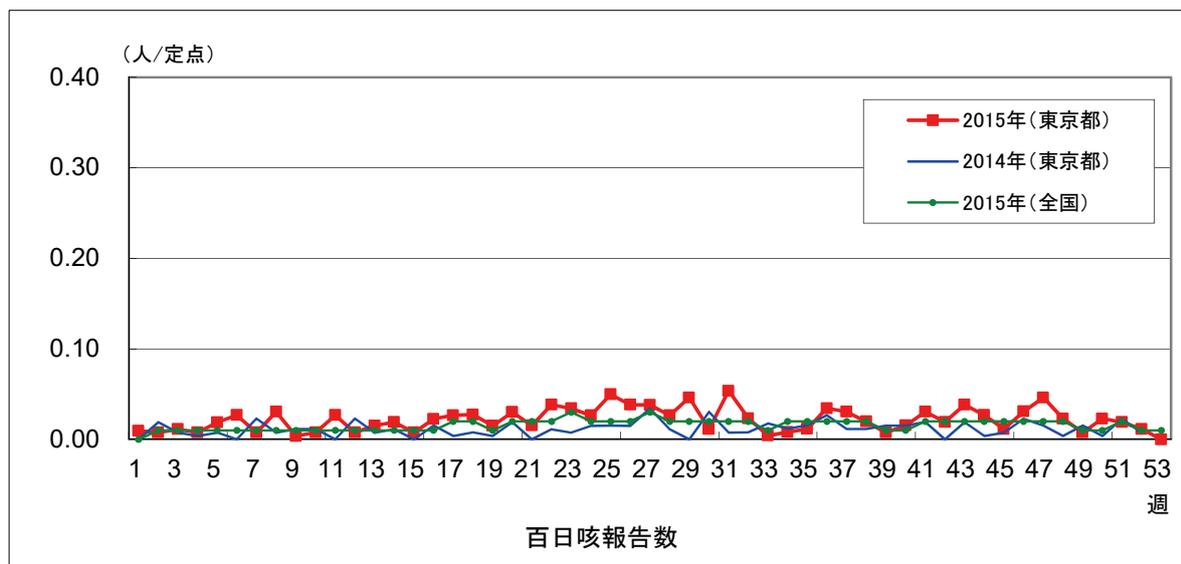
## ケ 突発性発しん

2015年の報告数は7,816件、定点当たりの報告数は30.10件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は31.30件であり、2015年は平年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告数は17週(4.20~4.26)から27週(6.29~7.5)にかけて報告数が0.70件を超える緩やかな山がみられ、ピークは26週(6.22~6.28)の0.87件であるが例年と同様季節変動は少ない。保健所別定点当たりの報告数では、荒川区が53.33件で最多、島しょが3.00件と最小であった。年齢階級別患者報告数では1歳代が3,983件(51.0%)、6か月~1歳未満が2,540件(32.5%)と両方で83.5%を占めている。



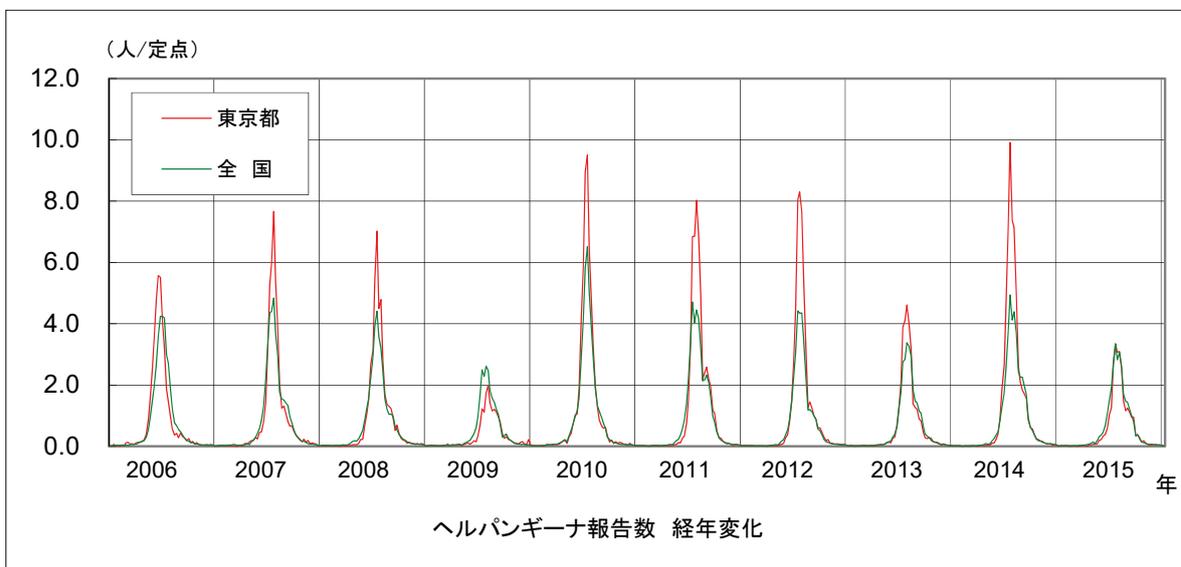
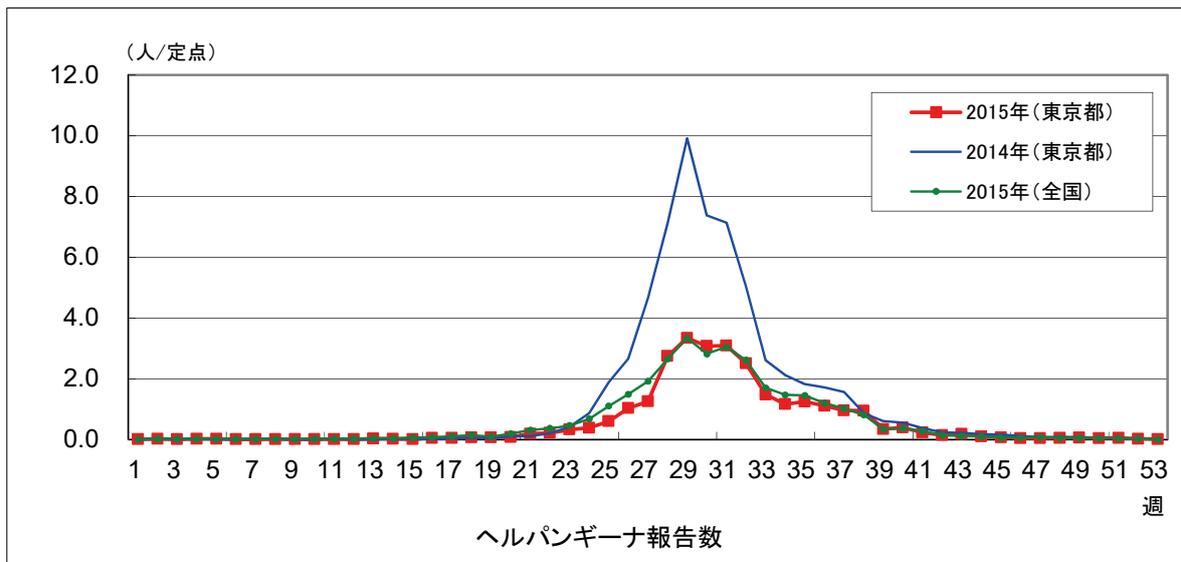
## コ 百日咳

2015年の報告数は300件、定点当たりの報告数は1.15件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.30件であり、2015年は平年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告では季節変動は明らかではない。保健所別定点当たりの報告数では、八王子市が6.17件、荒川区が5.5.0件と多かった。年齢階級別患者報告数では9歳以下が140件、10～19歳が64件、20～29歳が94件報告されている。



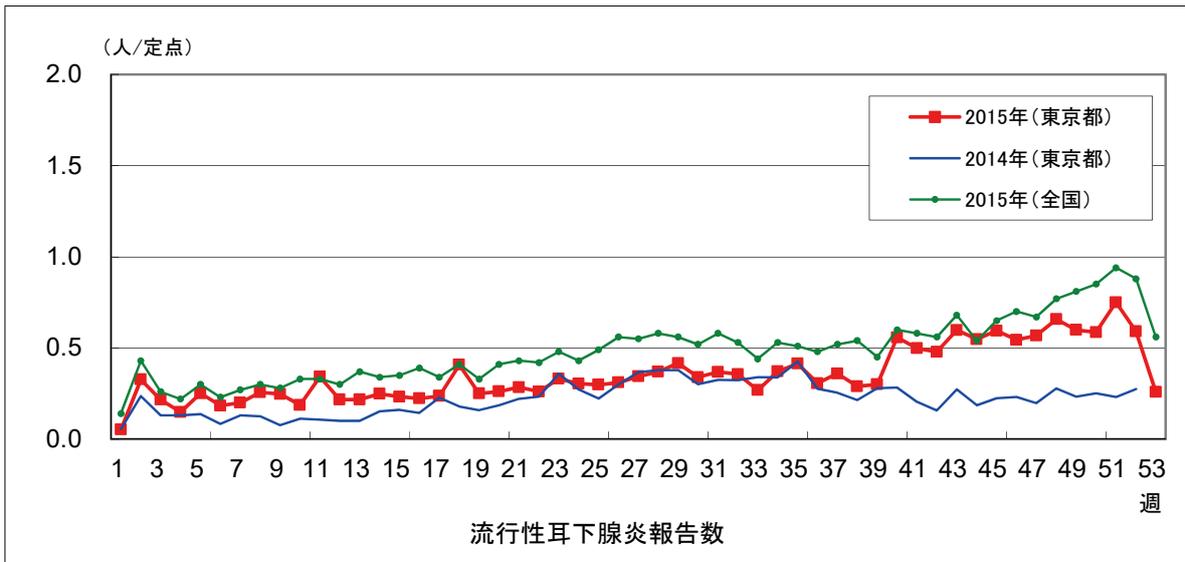
### サ ヘルパンギーナ

2015年の報告数は7,200件、定点当たりの報告数は27.91件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は43.69件であり、2015年の報告数はここ10年では2009年に次いで少ない報告数であった。週別定点当たりの報告数では26週(6.22~6.28)から36週(8.31~9.6)にかけて1.00件を超える大きな山がみられ、ピークは29週(7.13~7.19)の3.34件であった。保健所別定点当たりの報告数では、中央区が43.83件、荒川区が43.58件、町田市が40.93件と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が2,106件と最も多く5歳代以下で88.1%を占めている。



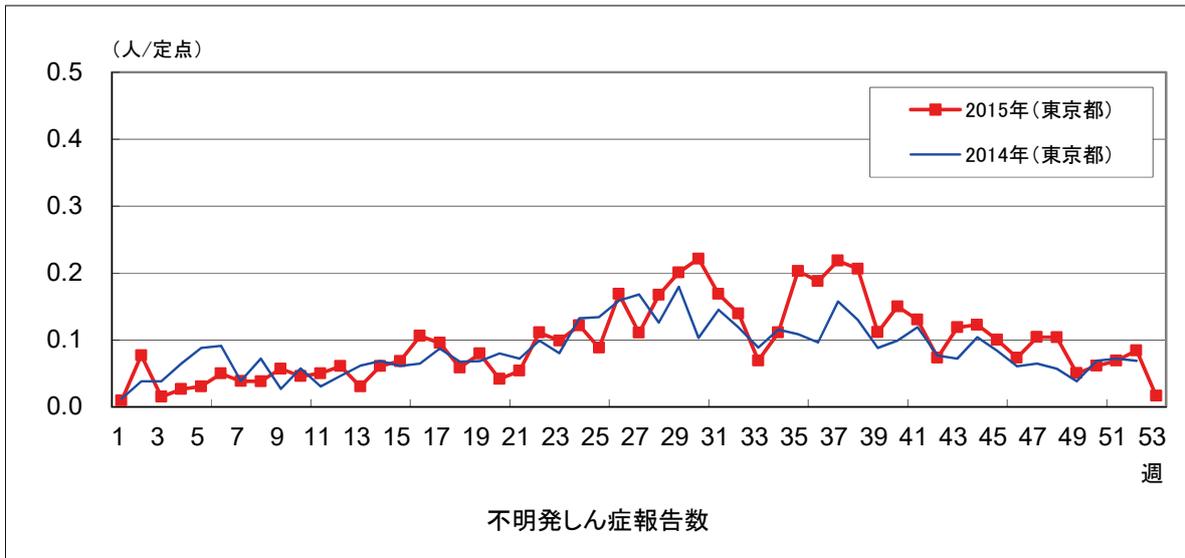
## シ 流行性耳下腺炎

2015年の報告数は4,883件、定点当たりの報告数は18.33件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は20.89件で、2015年は平年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告数は40週(9.28~10.4)から52週(12.21~12.27)にかけて0.50件を上回る山がみられ、ピークは51週(12.14~12.20)の0.75件であった。保健所別定点当たりの報告数では、江戸川区が50.22件、西多摩が44.75件と多かった。年齢階級別患者報告数では5歳代が769件(15.7%)と最も多く、6歳代以下で59.6%を占めている。



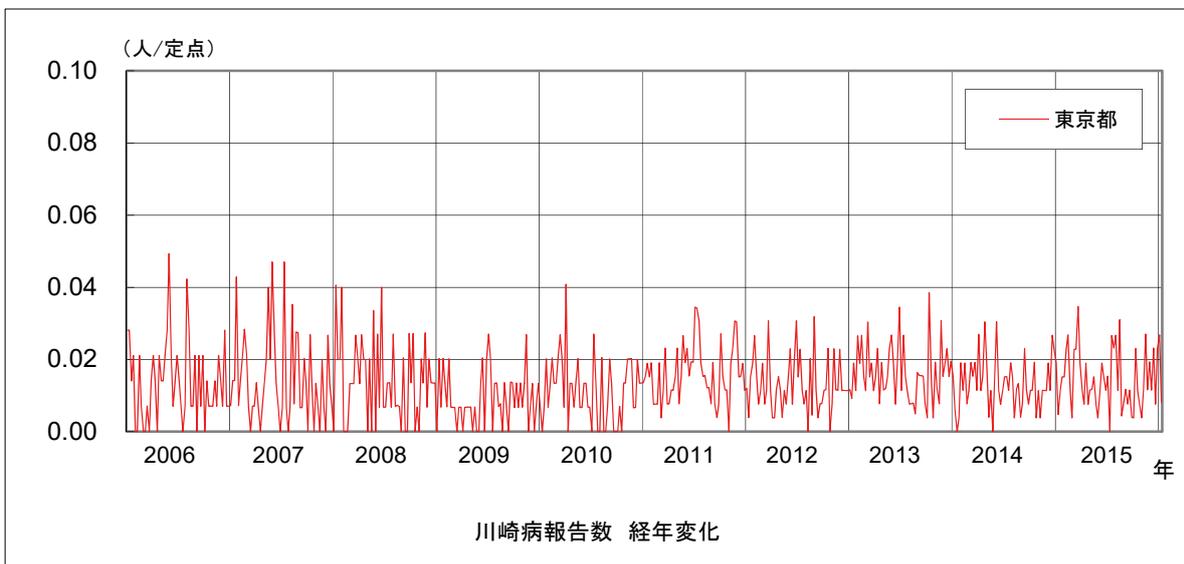
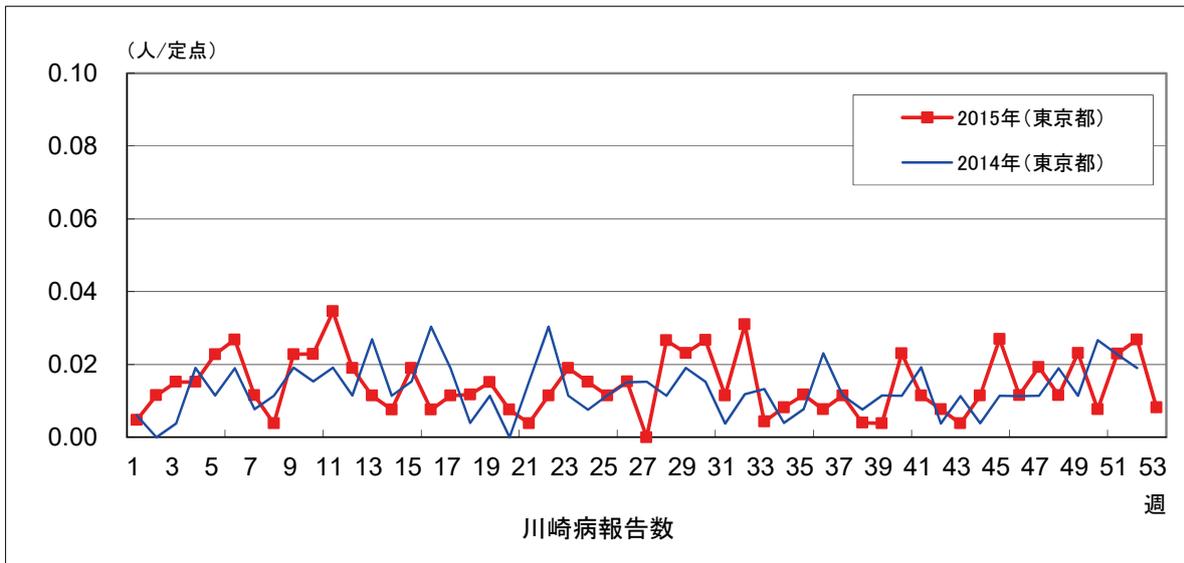
## ス 不明発しん症

2015年の報告数は1,312件、定点当たりの報告数は5.06件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は4.99件であり、2015年は平年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告数は26週(6.22～6.28)から38週(9.14～9.20)にかけて0.17件を超える二峰性の山がみられピークは30週(7.20～7.26)と37週(9.7～9.13)の0.22件であった。保健所別定点当たりの報告数では、町田市が22.98件と最多であった。年齢階級別患者報告数では1歳代が422件(32.2%)と最も多く、4歳代以下で79.3%を占めている。



## セ 川崎病

2015年の報告数は199件、定点当たりの報告数は0.77件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は0.71件であり、例年と比べやや多い報告数であった。週別定点当たりの報告数は例数が少なく季節変動は不明である。保健所別定点当たりの報告数では、新宿区が3.13件、千代田が3.00件と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳代が67件(33.7%)と最も多く、4歳代以下で88.4%を占めている。



### (3) 眼科疾患

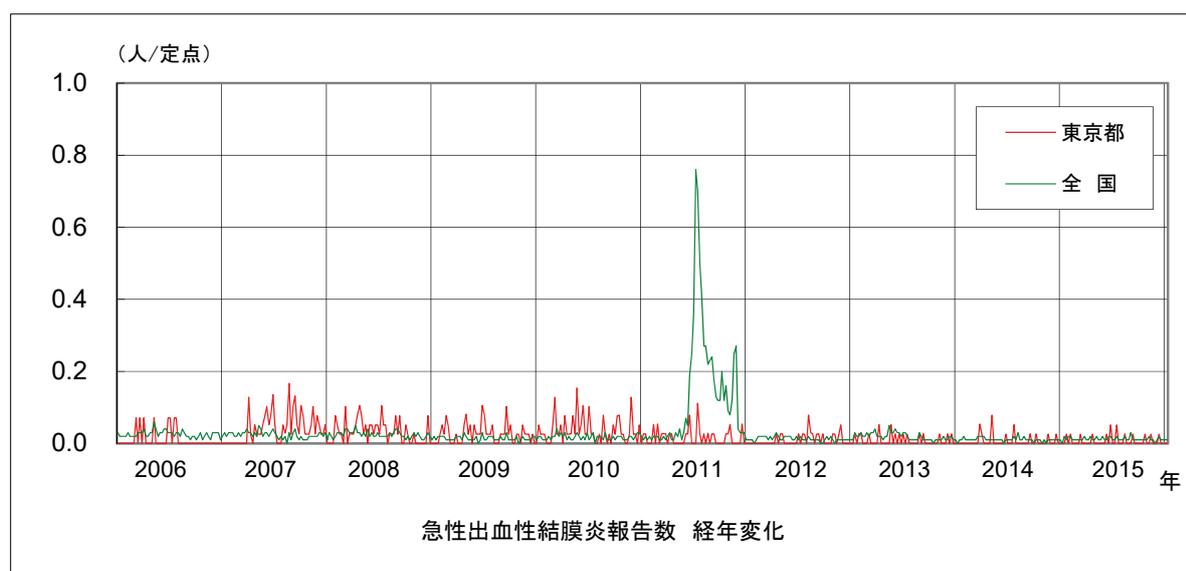
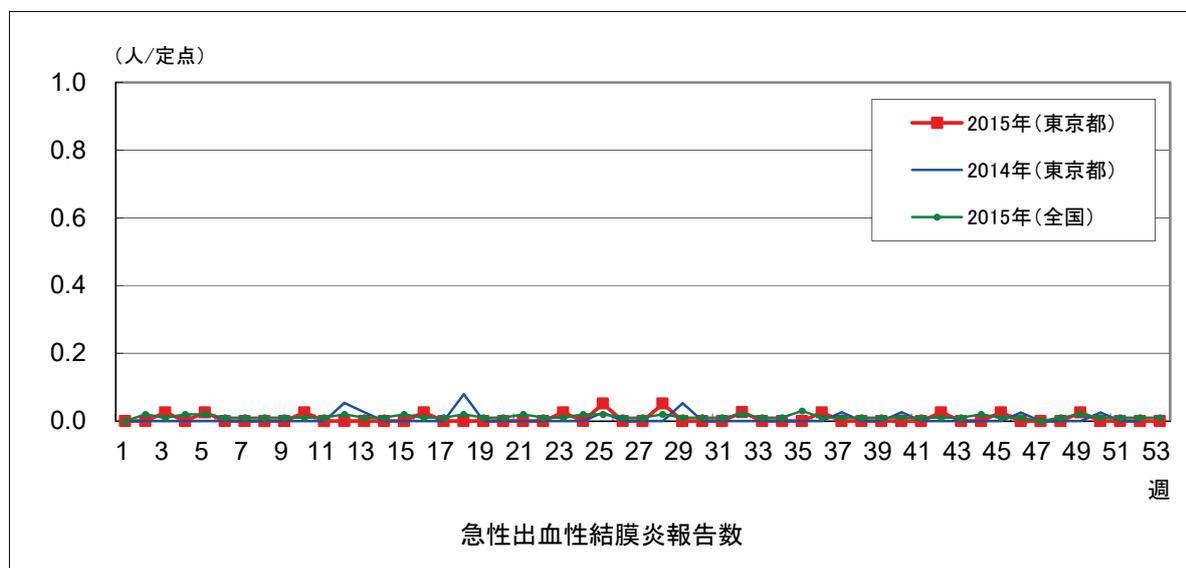
#### ア 急性出血性結膜炎

2015年の報告数は14人、定点当たり0.36人であった。眼科定点数が増加した2007年以降では最少だった2014年(0.34人)とほぼ同等の少ない報告だった。

患者発生数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、25週(6月15日～21日)と28週(7月6日～12日)に2人発生した以外は各週1人以下で、年間41週は発生がみられなかった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いており、東京も同様であった。

二次医療圏別では、眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは6医療圏で、区西北部圏、区西南部圏、区東北部圏、北多摩西部圏が多かった。

報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が10人と全体の71.4%を占めた。幼児では3歳児、7歳児に各1人(7.1%)みられた。



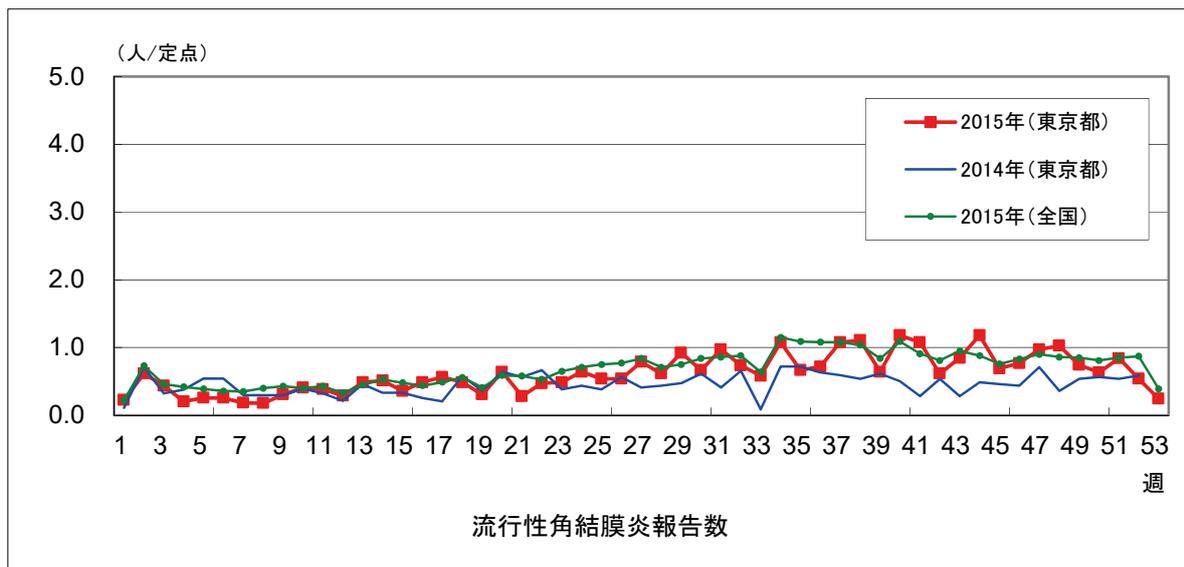
## イ 流行性角結膜炎

2015年の報告数は1,256人、定点当たり32.49人であった。眼科定点数が増加した2007年以降では2007年と2012年が多かったが、2015年は2007年や2012年と同じ位多い報告数だった。

患者発生数の推移は1～2月には少なく、8～11月には週別定点当たり報告数が1.00人を超えている週が多くみられた。全国と比較するとほぼ同等の水準であった。

二次医療圏別では、定点当たり報告数では、区中央部圏86.00人、北多摩北部圏67.50人、区東北部圏55.67人で多かった。

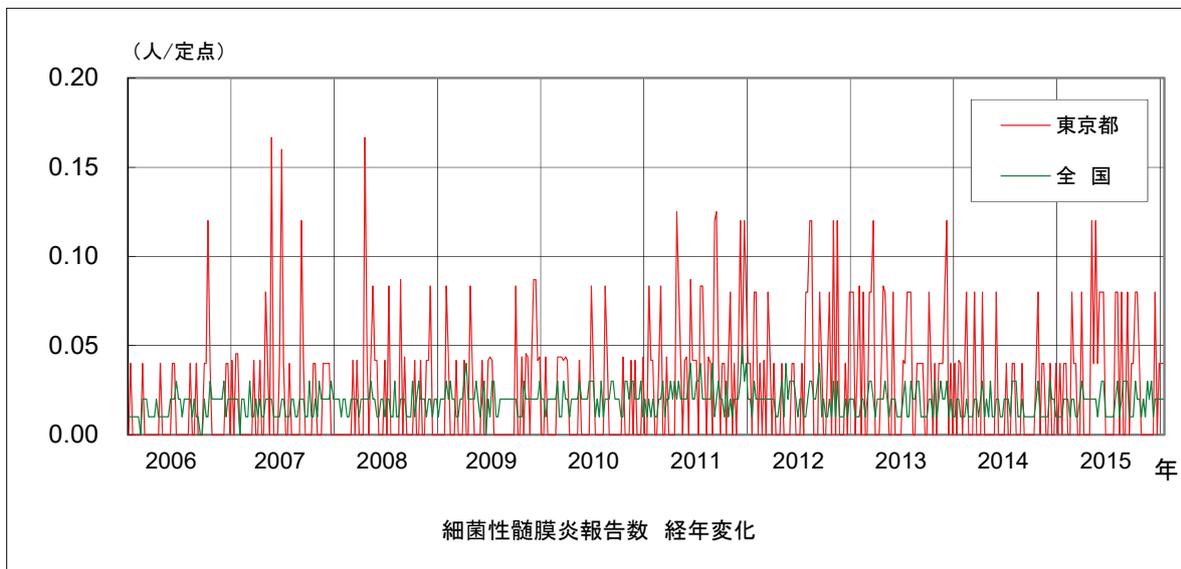
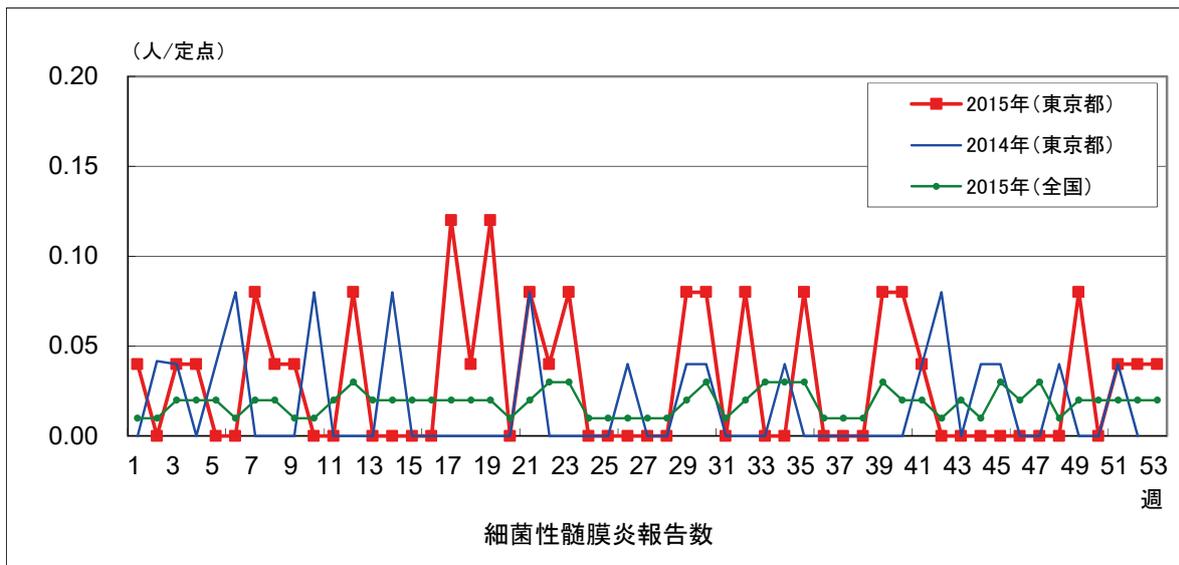
報告年齢は20歳から49歳が677人と53.9%を占め、20歳以上の成人が923人(73.5%)であった。10歳未満は264人(21.0%)で、各年齢層に分散してみられた。



(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

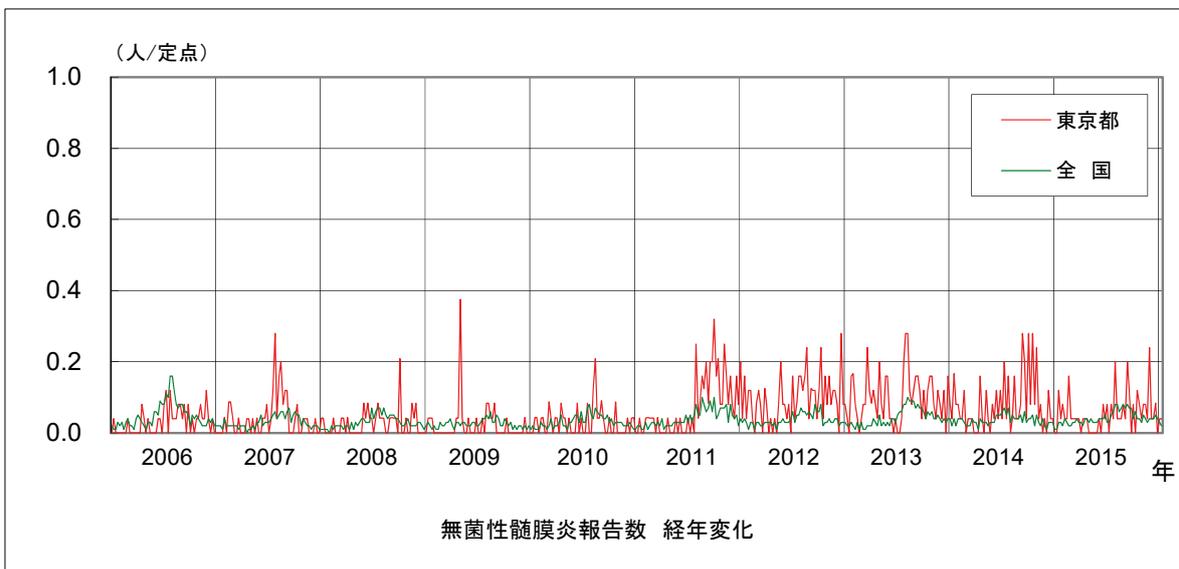
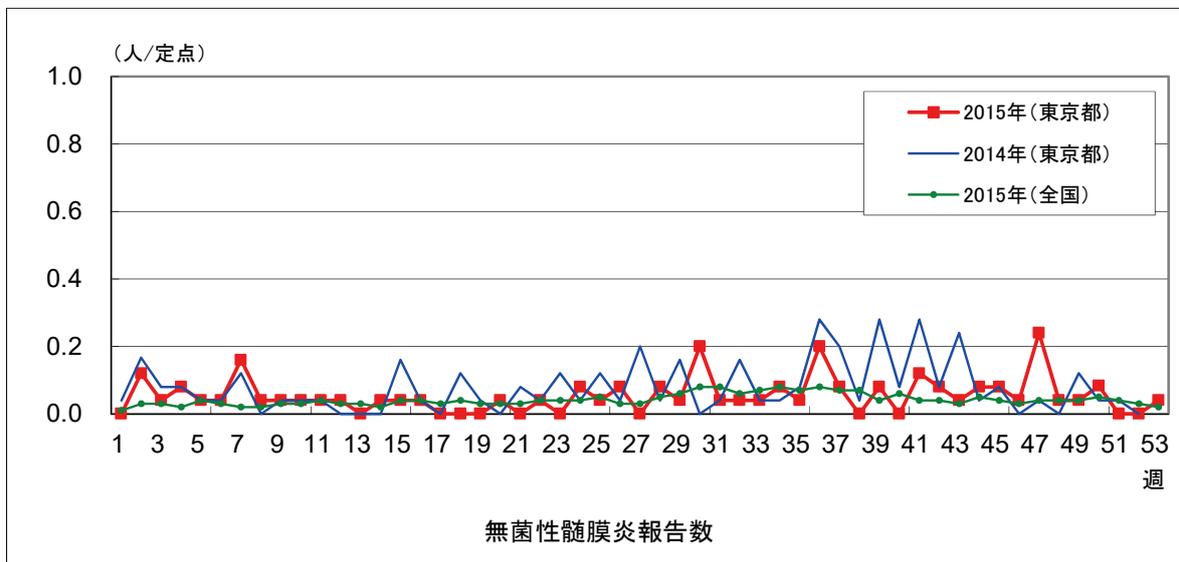
ア 細菌性髄膜炎

2015年の報告数は39件、定点当たりの報告数は1.56件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.27件であった。2015年の報告数は例年と比べてやや多かった。週別定点当たりの報告数は17週(4.20~4.26)と19週(5.4~5.10)で0.12件とやや多いが季節変動ははっきりしていない。保健所別定点当たりの報告数では、墨田区が7.00件と最多であった。年齢階級別患者報告数では1歳未満が12件(30.8%)、60歳代以上が12件(30.8%)報告された。



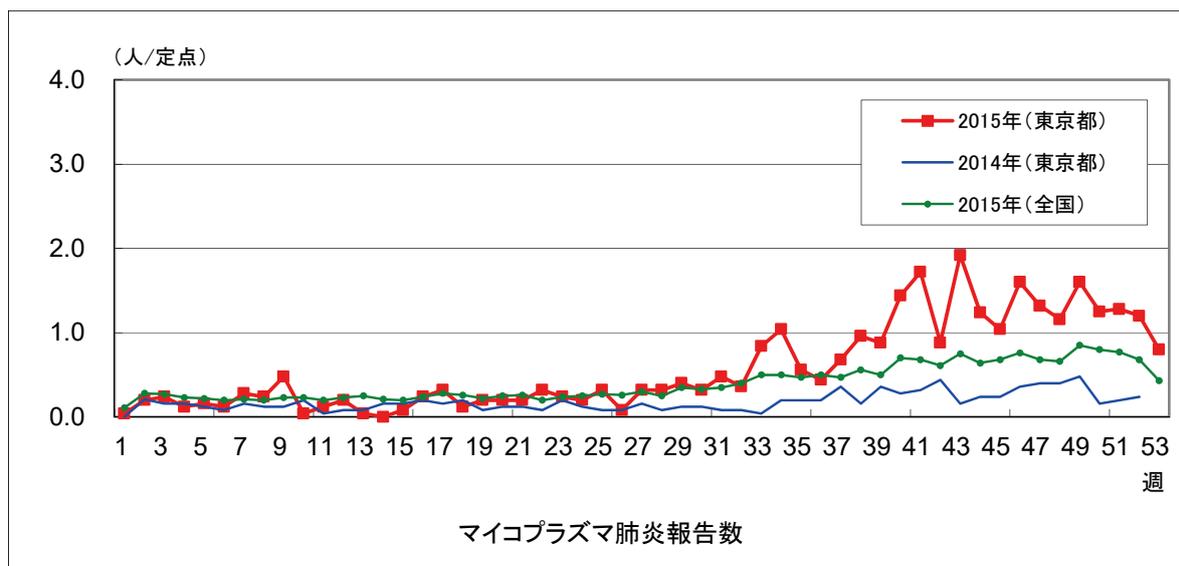
### イ 無菌性髄膜炎

2015年の報告数は72件、定点当たりの報告数は2.88件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は2.86件であり、2015年は平年並みの報告数であった。週別定点当たりの報告数は例数が少なく季節変動は不明である。保健所別定点当たりの報告数では、世田谷が13.00件と最多であった。年齢階級別患者報告数では6か月未満が28件（38.9%）であった。



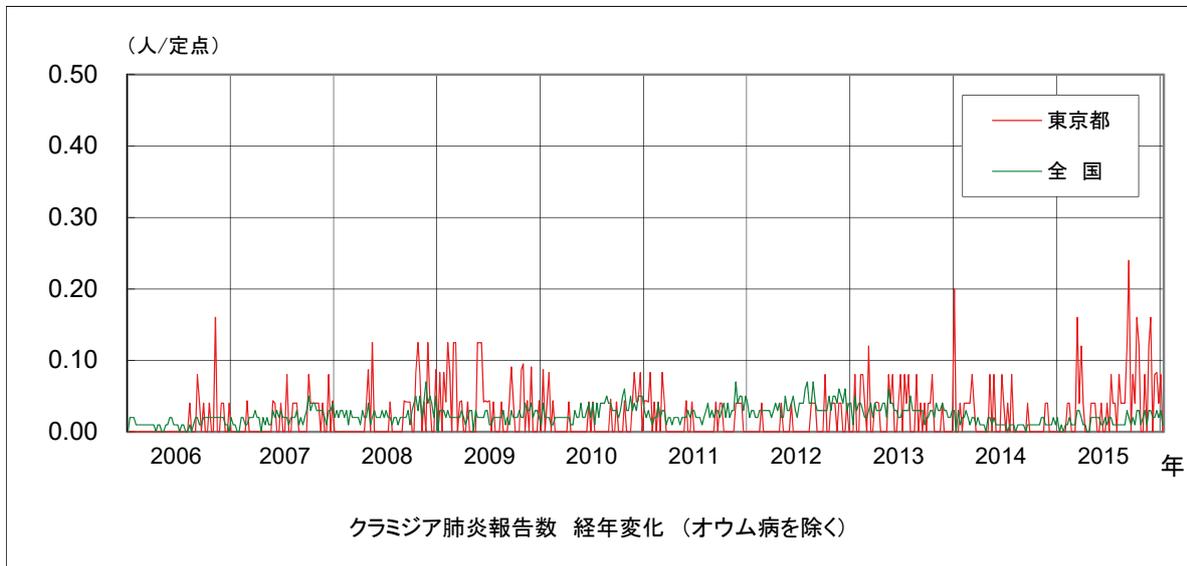
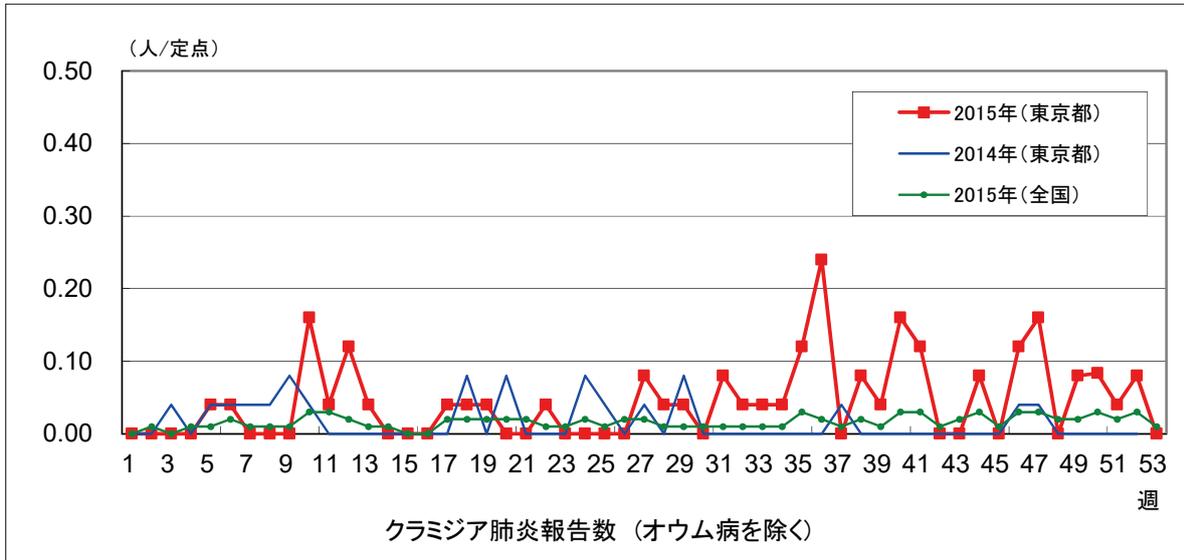
## ウ マイコプラズマ肺炎

2015年の報告数は770件、定点当たりの報告数は30.85件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は21.26件であり、2015年はここ10年では2011年、2012年に次いで3番目に多い報告数であった。週別定点当たりの報告数では40週(9.25~10.4)から52週(12.21~12.27)にかけて1.00件を超える山があり、ピークは43週(10.19~10.25)の1.92件である。保健所別定点当たりの報告数では、葛飾区が124.00件、西多摩が60.00件と多かった。年齢階級別患者報告数では9歳以下が443件(57.5%)、10~19歳が200件(26.0%)、20~59歳が88件(11.4%)、60歳以上が39件(5.1%)であった。



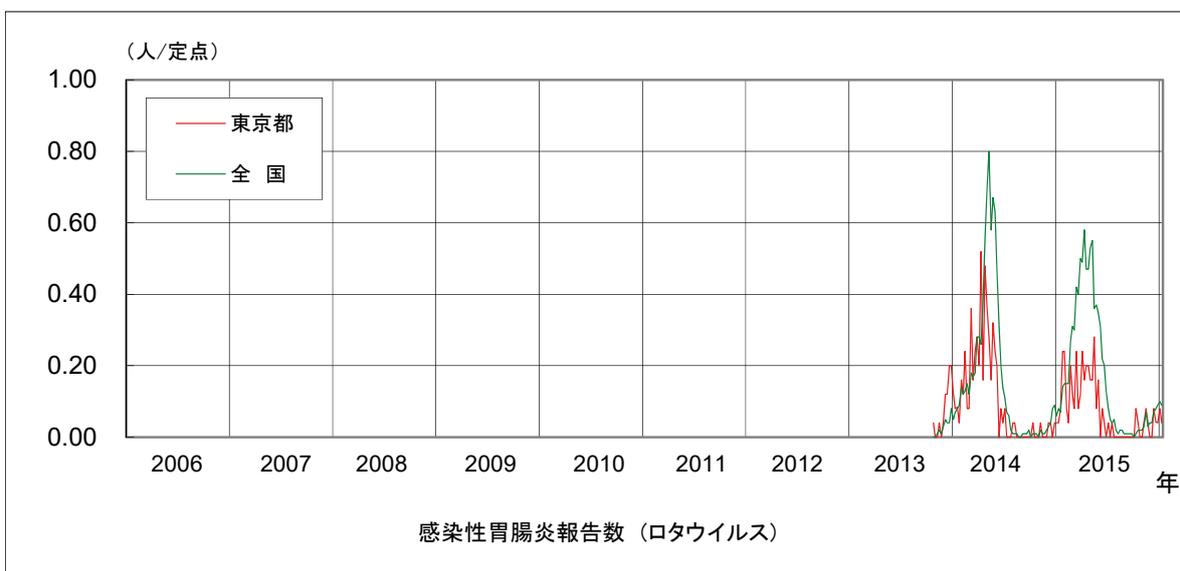
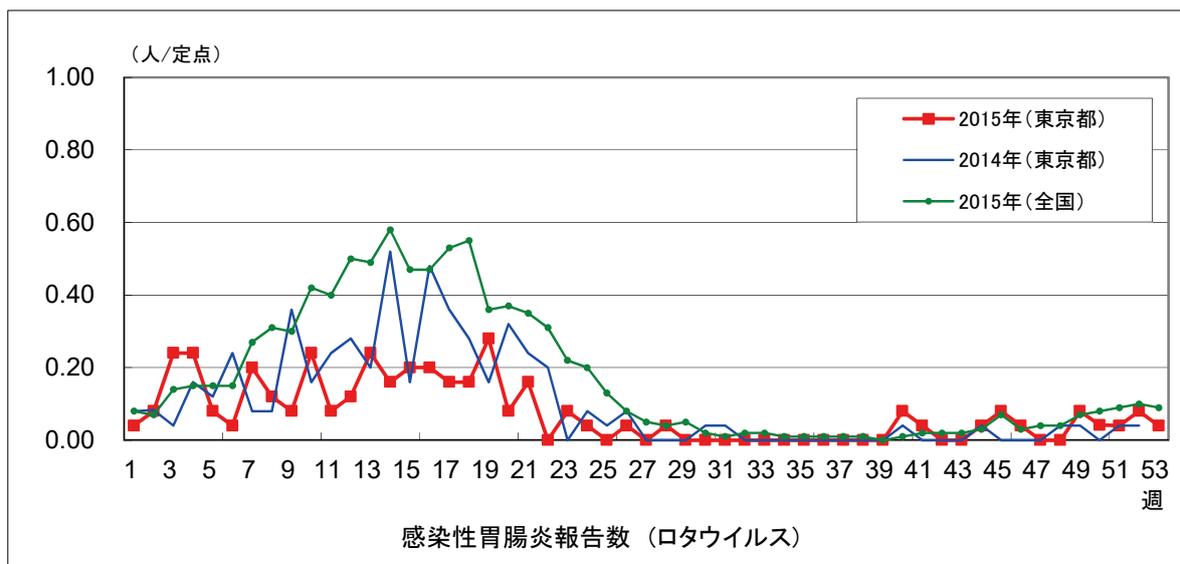
## エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2015年の報告数は59件、定点当たりの報告数は2.36件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.13件で、2015年はここ10年で最多の報告数であった。週別定点当たりの報告数は36週(8.31~9.6)で0.24件と最多となっているが季節変動は明らかではない。保健所別定点当たりの報告数では、みなとが31.00件、葛飾区が22.00件と多かった。年齢階級別患者報告数では60歳以上が41件(69.5%)であった。



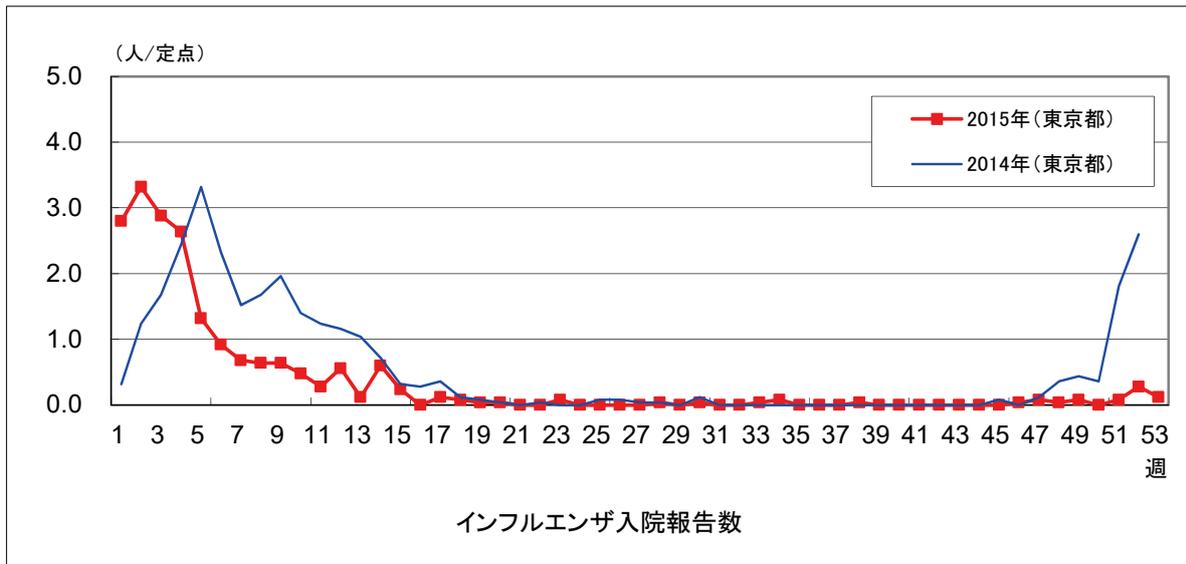
### オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2013年42週より報告対象疾患となった。2015年は99件が報告された。2014年は134件が報告されているので報告数は減少している。週別定点当たりの報告数では報告数が少ないためばらつきがあるが3週（1.12～1.18）から21週（5.18～5.24）にかけて0.16件を超える報告数がみられ、最多は19週（5.4～5.10）の0.28件であった。保健所別定点当たりの報告数では、渋谷区が25.00件、葛飾区が11.00件と多かった。年齢階級別患者報告数では1歳未満24件（24.2%）、1歳代22件（22.2%）であり4歳代以下で86.9%を占めている。



## カ インフルエンザ入院

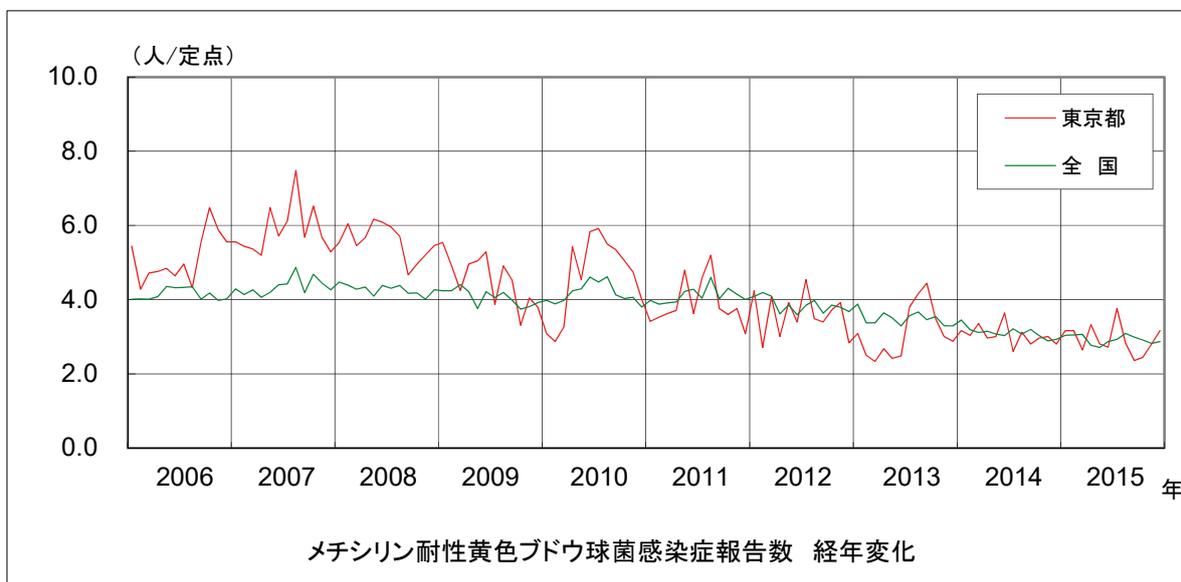
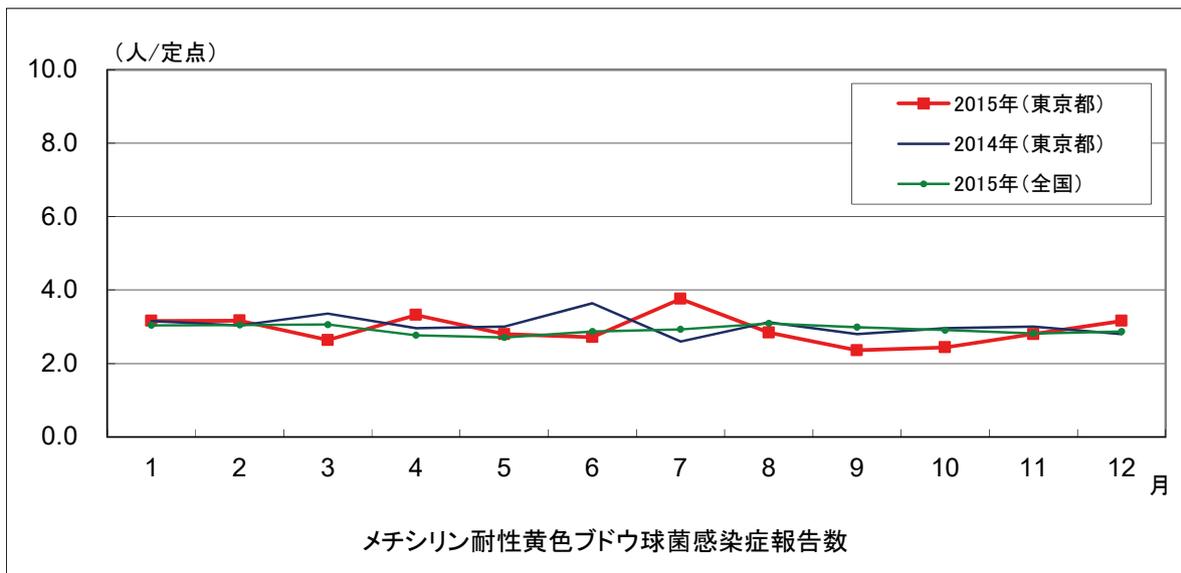
2011年36週より報告対象疾患となった。2015年の報告数は486件、定点当たりの報告数は19.44件であった。これは通年報告となった2012年以降最も少ない報告数であった。週別定点当たりの報告数は2週(1.5~1.11)がピークで3.32件であり、6週(2.2~2.8)には0.92件と1.00件を割った。保健所別定点当たりの報告数では、葛飾区が45.00件と最多であった。年齢階級別患者報告数では9歳以下97件(20.0%)、10~19歳31件(6.4%)、20~59歳44件(9.1%)、60~69歳51件(10.5%)、70~79歳98件(20.2%)、80歳以上165件(34.0%)であった。



(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患

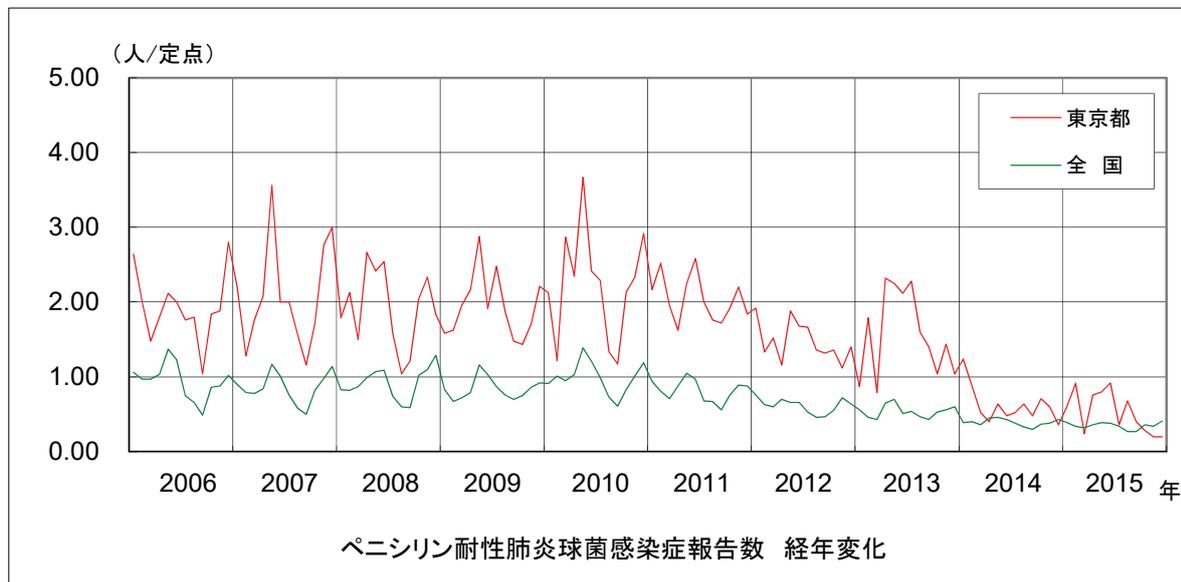
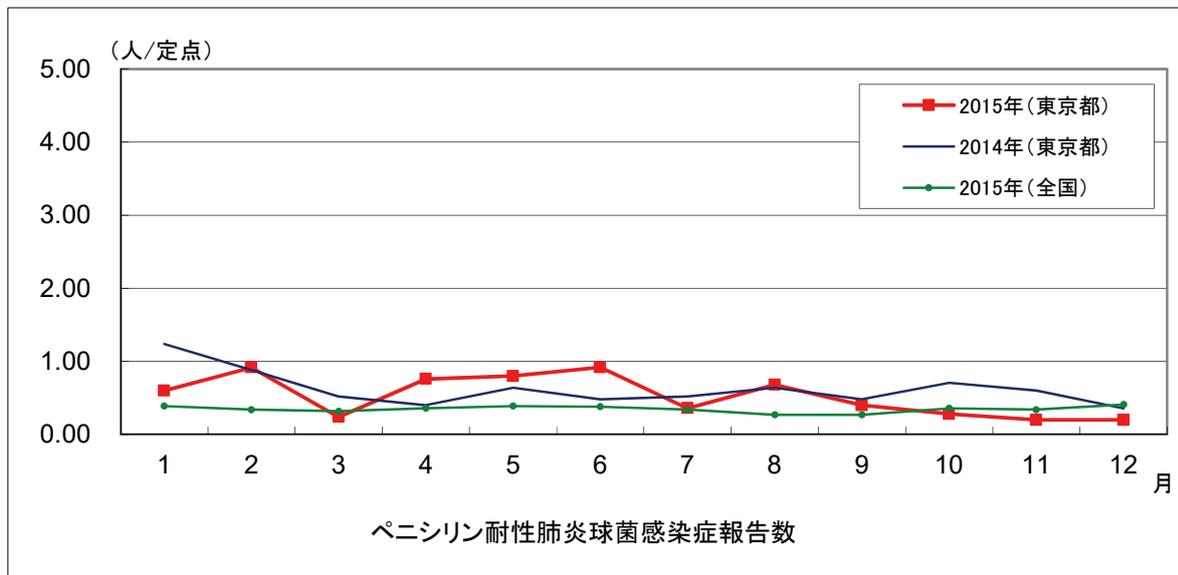
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

2015年の報告数は877件、定点当たりの報告数は35.21件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は50.75件であり、2010年以降毎年減少している。月別の報告数の変動は明らかではない。性別では男性575件(65.6%)、女性302件(34.4%)で例年と同様男性に多かった。年齢階級別報告数では9歳以下が322件(36.7%)、70歳以上が227件(38.7%)と若年者と高齢者に多くなっている。



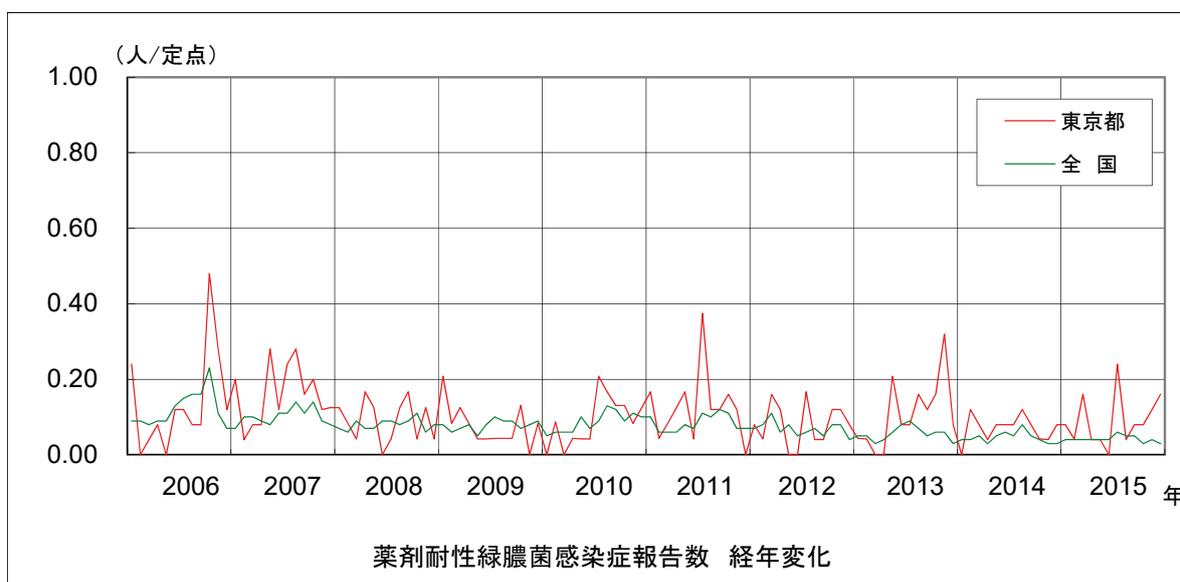
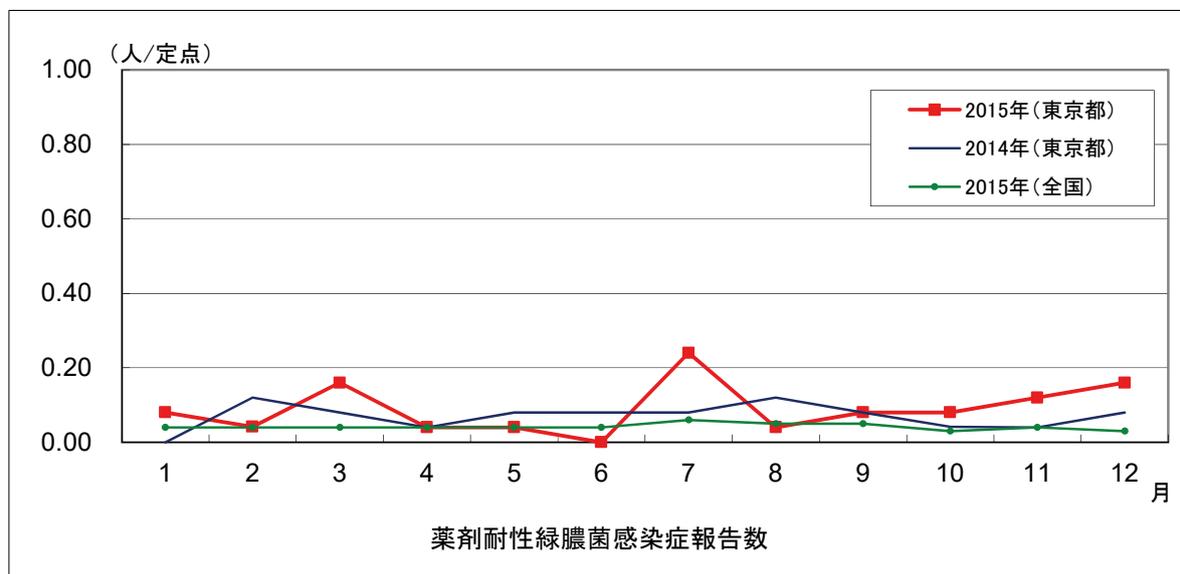
## イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2015年の報告数は158件、定点当たりの報告数は6.36件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は19.64件であった。ここ数年報告数は減少傾向にある。月別報告数では6月が23件と最多であった。性別では男性94件(59.5%)、女性64件(40.5%)と男性に多かった。年齢階級別報告数では9歳以下が158件(48.1%)、70歳以上が51件(32.3%)であった。



### ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2015年の報告数は28件、定点当たりの報告数は1.12件であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.24件であった。月別の報告数の変動は明らかではない。性別では男性17件(60.7%)、女性11件(39.3%)と男性が多かった。年齢階級別報告数では70歳以上が18件(64.3%)であった。



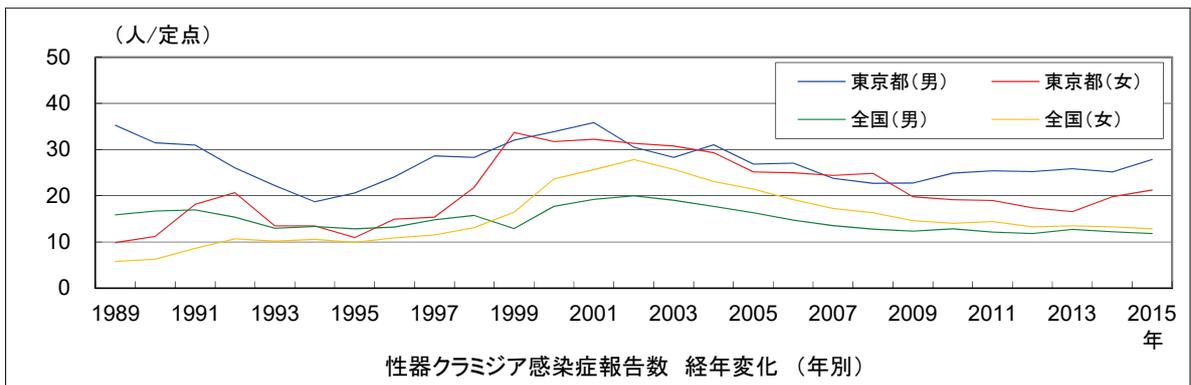
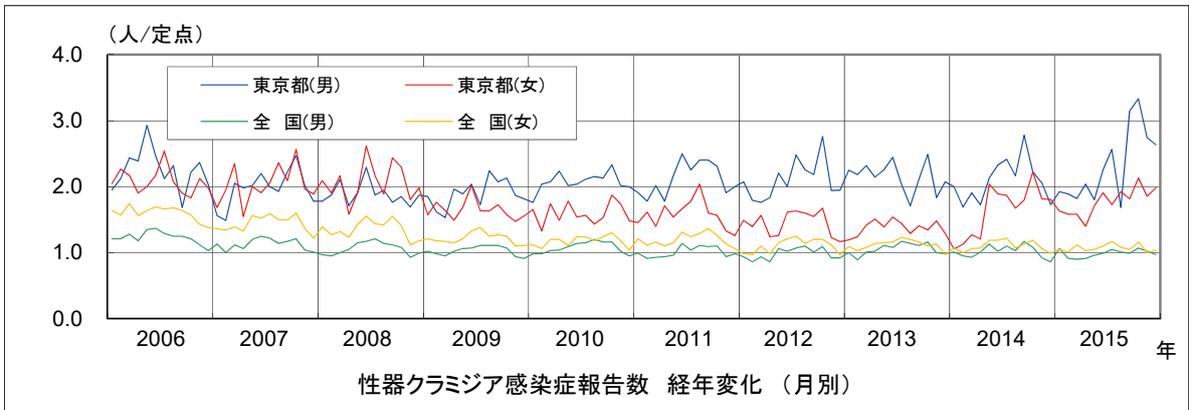
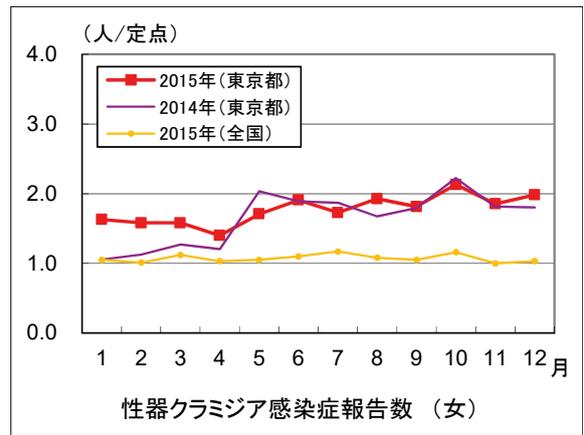
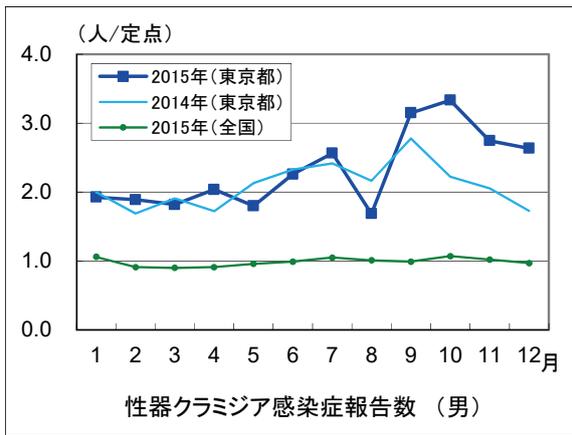
(6) 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

2015年の報告数は2,678人、定点当たり49.09人であり、男性の報告数は1,519人、定点当たり27.84人（前年比1.11）、女性の報告数は1,159人、定点当たり21.24人（前年比1.07）であった。

定点当たり報告数を月別に見ると、男性は10月が3.33人で最多、8月が1.69人で最少、女性では10月が2.13人で最多、4月が1.40人で最少であった。保健所別では、男性は江東区の65.50人、女性は台東の142.50人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の294人が最多で、20歳代と30歳代で男性全体の67.1%を占めた。女性では20～24歳の311人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の79.4%を占めた。

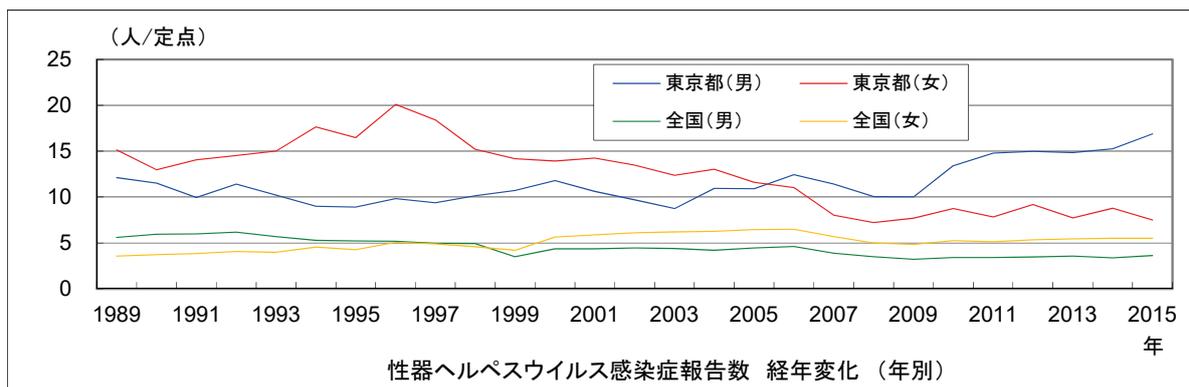
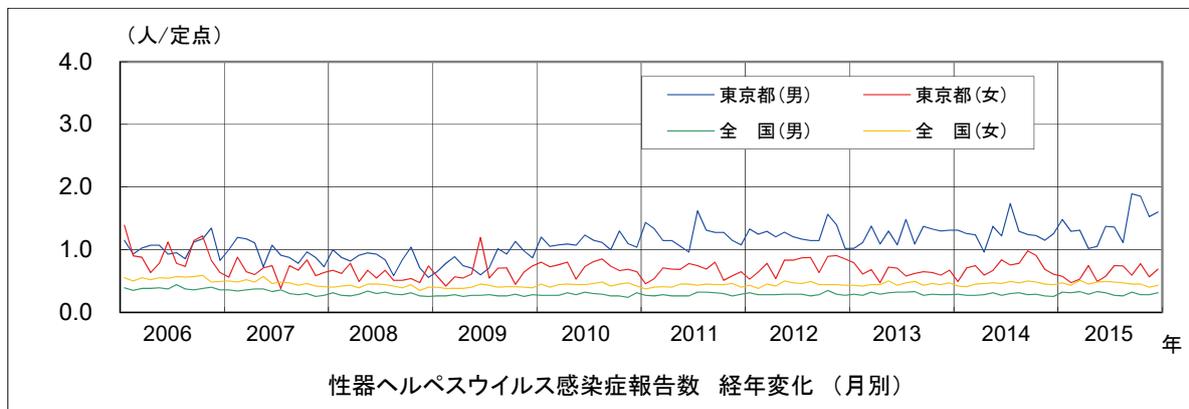
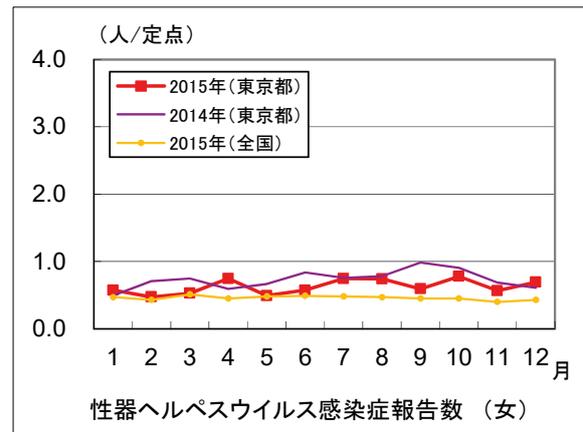
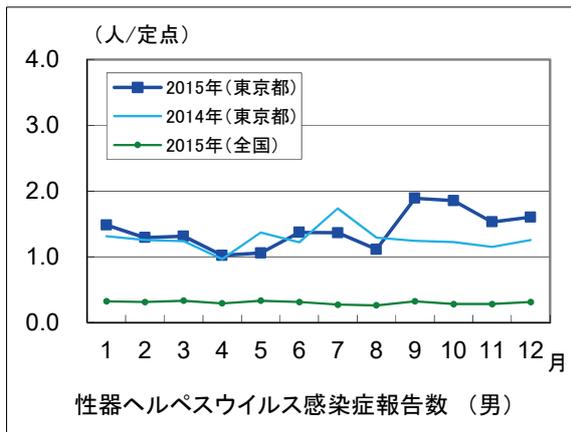


## イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2015年の報告数は1,329人、定点当たり24.36人であり、男性の報告数は920人、定点当たり16.87人（前年比1.11）、女性の報告数は409人、定点当たり7.50人（前年比0.86）で、2006年以降男性に多い状況が続いている。

月別の定点当たり報告数は、男性は9月が1.89人で最多、4月が1.02人で最少、女性は10月が0.78人で最多、2月が0.47人で最少であった。保健所別では、男女ともにみなとが最多で、男性は201.50、女性は28.00であった。

年齢階級別報告数では、男性は35～39歳の142人が最多で、30歳代と40歳代で男性全体の59.3%を占めた。女性では25～29歳の83人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の65.8%を占めた。

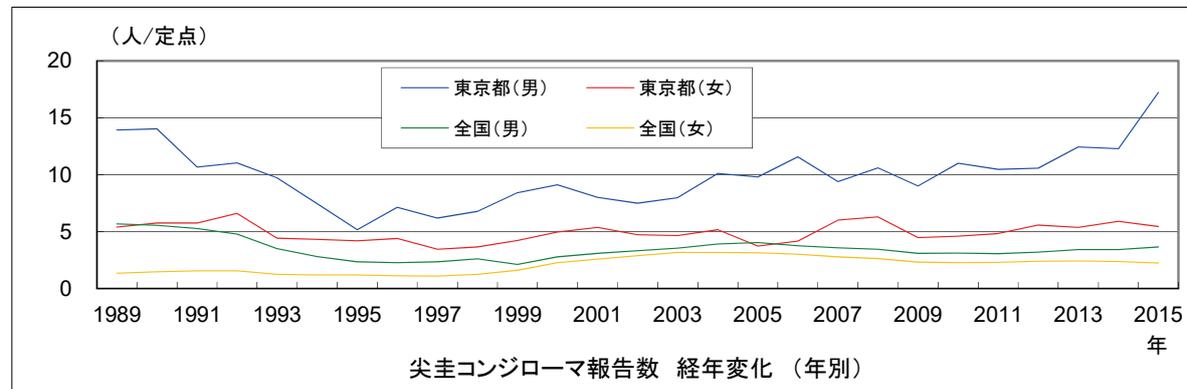
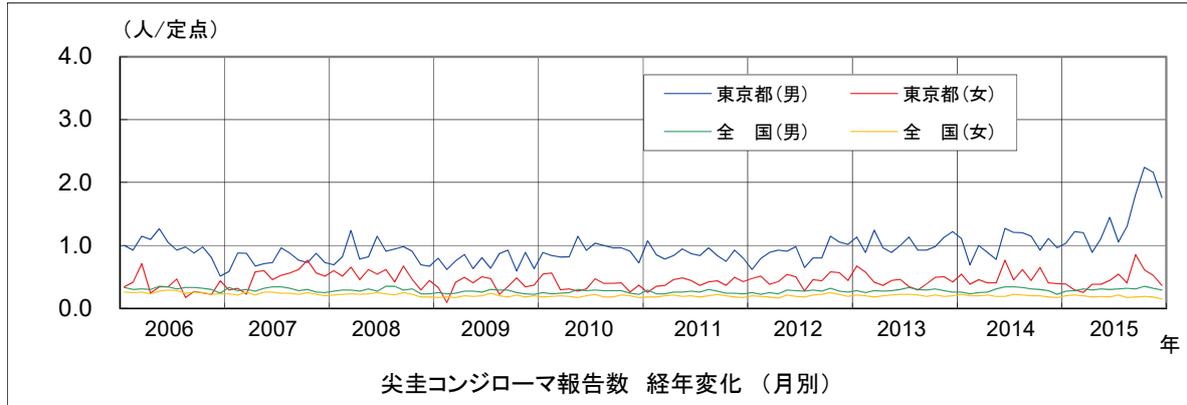
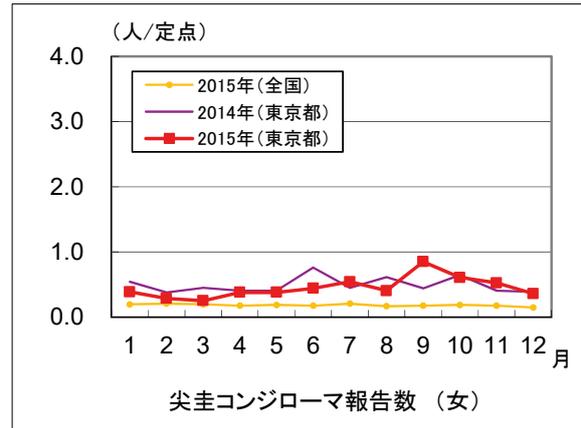
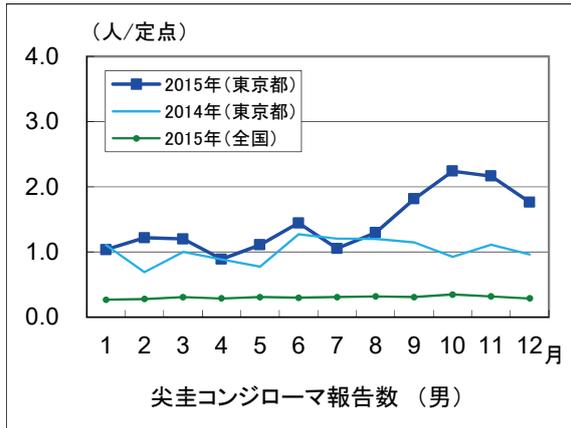


## ウ 尖圭コンジローマ

2015年の報告数は1,237人、定点当たり22.68人であり、男性の報告数は940人、定点当たり17.23人（前年比1.40）、女性の報告数は297人、定点当たり5.45人（前年比0.92）で、男性が多い。

月別定点当たり報告数は、男性は10月が2.24人で最多、4月が0.89人で最少、女性は9月が0.85人で最多、3月が0.25人で最少であった。保健所別では、男性が新宿区の64.64人、女性が台東区の20.50人がそれぞれ最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の186人が最多で、30歳代と40歳代で男性全体の64.9%を占めた。女性では20～24歳の86人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の81.1%を占めた。

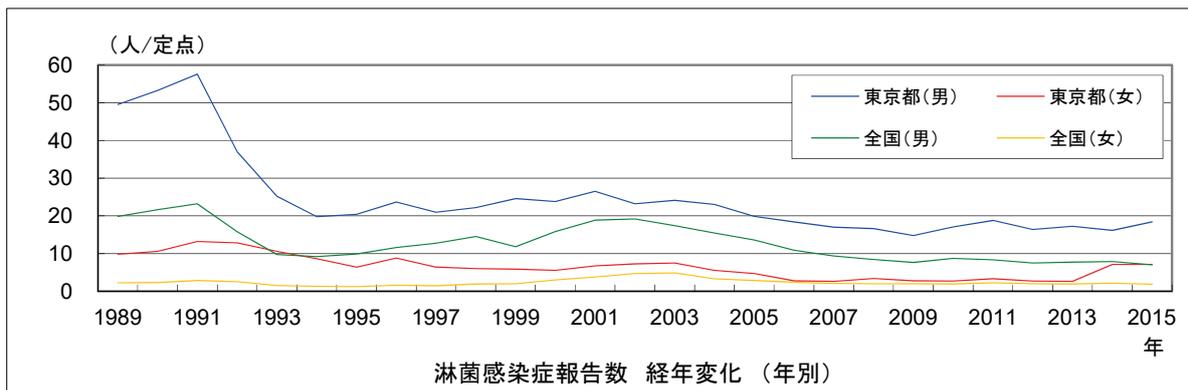
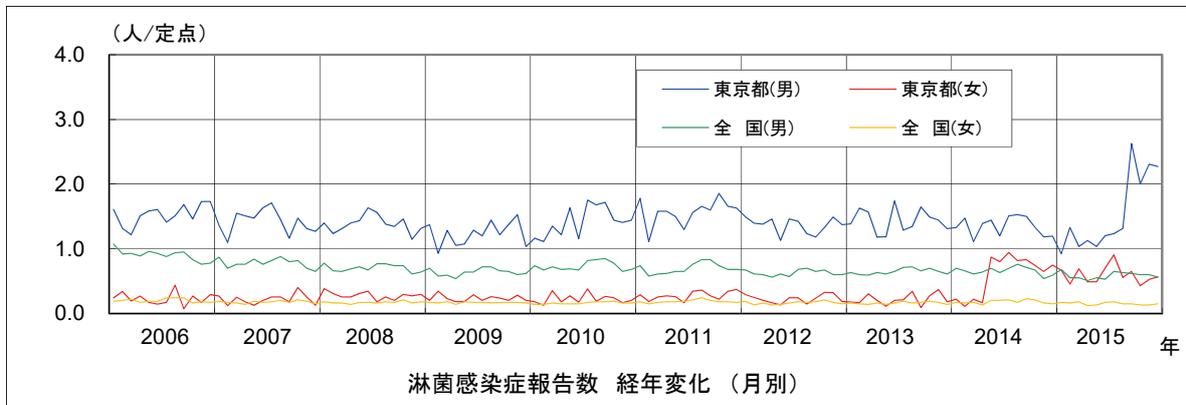
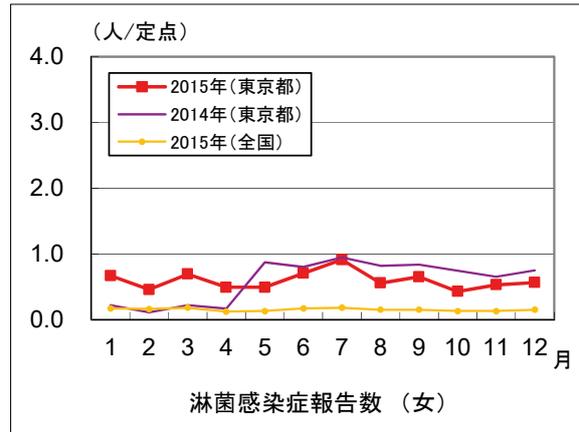
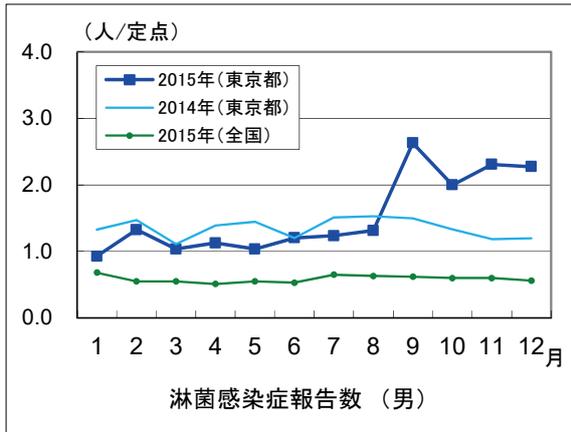


## エ 淋菌感染症

2015年の報告数は1,394人、定点当たり25.55人であり、男性の報告数は1,005人、定点当たり18.42人（前年比1.14）、女性の報告数は389人、定点当たり7.13人（前年比1.00）で、男性は女性の2倍以上の報告数が続いている。

月別定点当たり報告数は、男性は9月が2.63人で最多、1月が0.93人で最少であった。女性は7月が0.91人で最多、10月が0.43人で最少であった。保健所別では、男性は渋谷区の63.60人、女性は台東の128.00人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は25～29歳の214人が最多で、20歳代と30歳代が男性全体の71.9%を占めた。女性も25～29歳の96人が最多で、20歳代と30歳代が女性全体の75.3%を占めた。

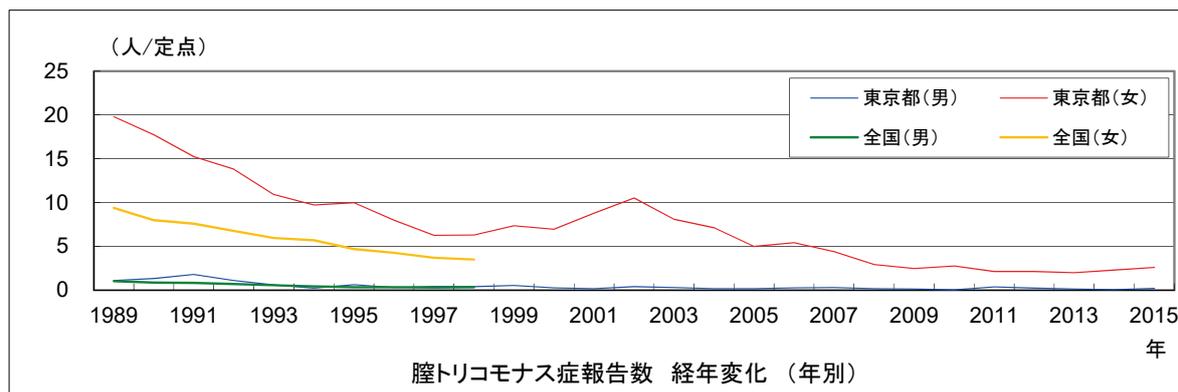
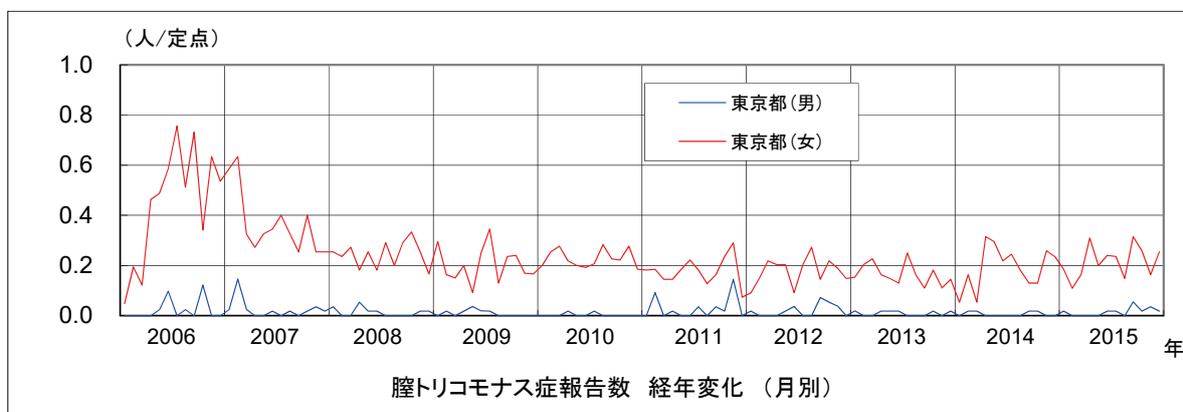
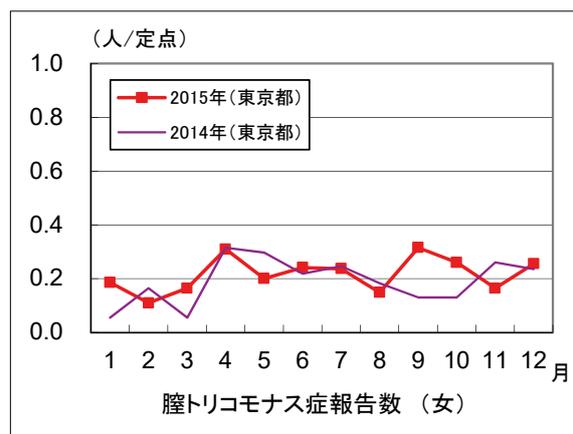
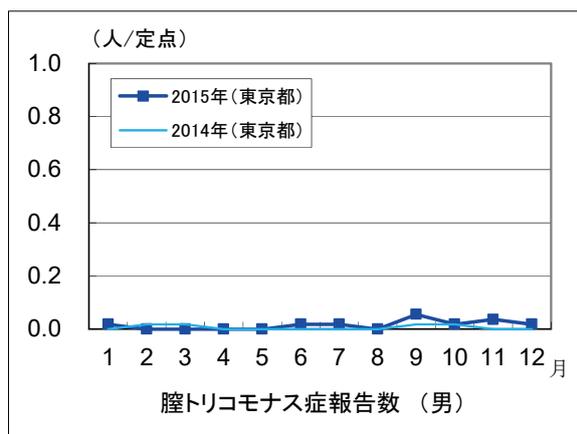


## オ 臙トリコモナス症

2015年の報告数は151人、定点当たり2.77人であり、男性の報告数は10人、定点当たり0.18人（前年比2.50）、女性の報告数は141人、定点当たり2.58人（前年比1.13）で、女性が全報告数の93.4%を占める。

男性は報告数が少なく、季節や地域的傾向等に大きな変動はみられない。女性では、月別定点当たり患者報告数は4月と9月の0.31人で最多、2月の0.11人で最少であった。保健所別では、台東の29.50人が最多であった。

年齢階級別報告数では女性で20～24歳と25～29歳の各29人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の68.8%を占めた。



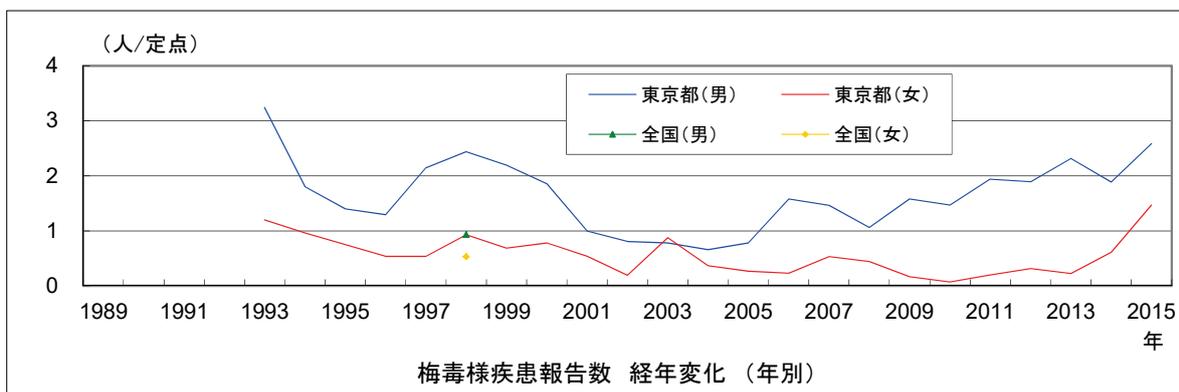
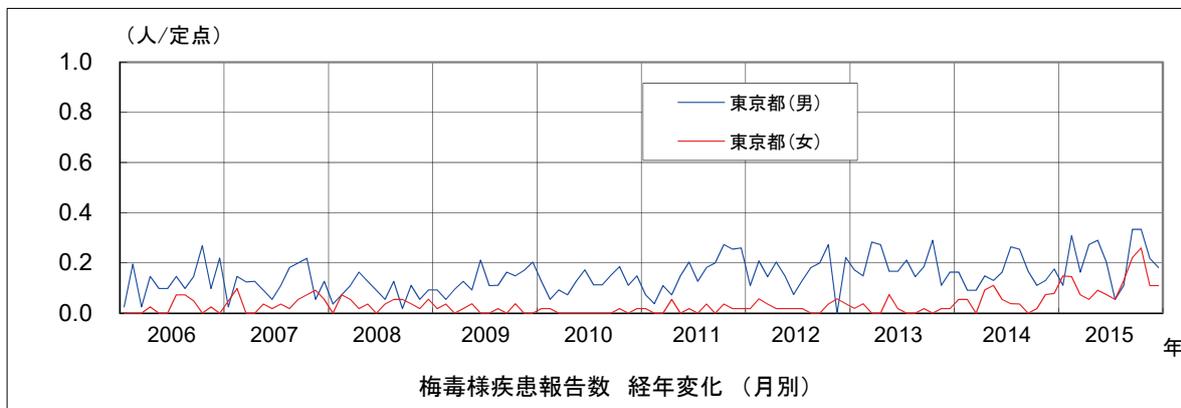
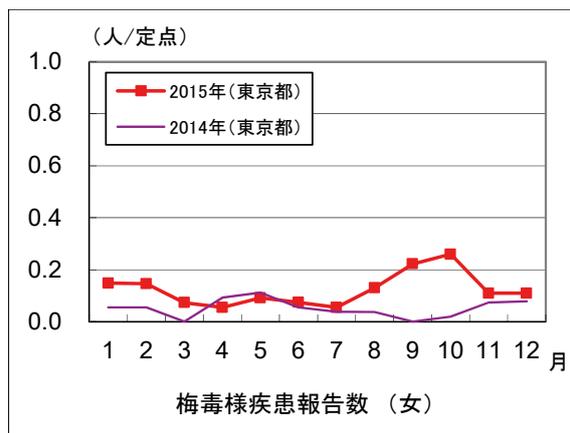
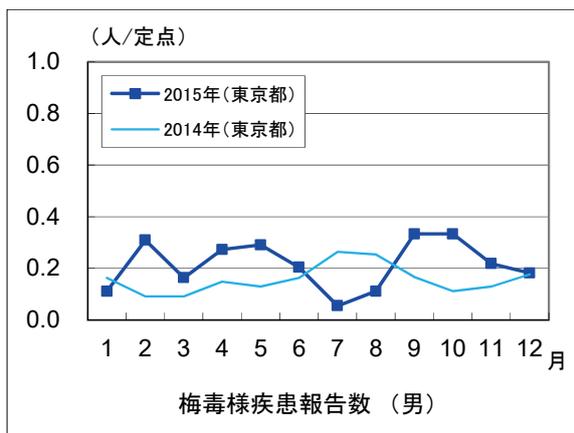
## カ 梅毒様疾患

2015年の報告数は221人、定点当たり4.05人であり、男性の報告数は141人、定点当たり2.58人（前年比1.37）、女性の報告数は80人、定点当たり1.47人（前年比2.40）であった。

過去10年の定点当たり患者報告数では、男女とも、徐々に増加傾向である。

月別定点当たり報告数では、男性は9月と10月が各0.33人で最多、1月、8月が各0.11人で最少、女性は、最多は10月の0.26人であった。保健所別では、男性は新宿区の10.62人が最多で、女性はみなとの19.00人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は35～39歳の32人が最多で、30歳代と40歳代が男性全体の63.8%を占めた。女性は25～29歳の22人が最多で、20歳代と30歳代が女性全体の83.8%を占めた。



(注) 梅毒様疾患の全国調査は1998年のみ

表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2015年第1週~第53週

週	期間	報告定点数 (インフルエンザ)	インフルエンザ	報告定点数 (小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1	12.29~1.4	345	3,809	210	78	25	106	481	49	10	43	18	2	1	11
2	1.5~1.11	414	9,892	260	164	70	427	2,254	190	46	236	101	2	6	85
3	1.12~1.18	416	8,198	263	118	44	493	2,224	104	26	237	102	3	2	57
4	1.19~1.25	416	9,625	263	148	70	697	2,432	126	24	218	128	2	5	39
5	1.26~2.1	416	7,844	263	97	37	692	2,244	89	29	207	126	5	6	66
6	2.2~2.8	415	4,743	261	100	56	687	1,968	130	22	151	100	7	1	48
7	2.9~2.15	414	3,204	260	63	33	626	1,910	90	20	168	117	2	1	52
8	2.16~2.22	415	2,213	261	81	48	702	2,196	122	23	174	118	8	3	67
9	2.23~3.1	416	1,694	263	64	56	812	2,354	125	26	194	128	1	2	65
10	3.2~3.8	414	1,175	262	53	47	863	2,259	156	25	234	143	2	1	49
11	3.9~3.15	411	1,113	260	49	55	859	2,349	136	20	183	125	7	3	89
12	3.16~3.22	414	984	263	46	52	817	2,123	154	28	225	141	2	2	57
13	3.23~3.29	415	636	262	44	56	756	1,887	187	26	238	162	4	7	57
14	3.30~4.5	414	580	262	41	56	613	1,761	186	17	250	155	5	6	65
15	4.6~4.12	411	417	263	31	46	642	1,780	129	35	239	167	2	1	61
16	4.13~4.19	414	618	264	37	47	887	2,208	135	38	397	147	6	13	59
17	4.20~4.26	416	528	262	41	100	1,033	2,209	160	58	387	190	7	12	62
18	4.27~5.3	404	202	255	19	133	948	1,825	162	75	350	189	7	18	104
19	5.4~5.10	415	96	264	11	88	443	1,024	141	64	153	122	4	18	66
20	5.11~5.17	418	71	264	15	139	1,092	1,766	154	85	331	189	8	21	69
21	5.18~5.24	412	52	260	18	183	1,070	1,882	127	148	290	209	4	50	74
22	5.25~5.31	415	36	261	15	243	1,107	1,911	171	270	313	219	10	56	68
23	6.1~6.7	414	34	263	9	229	1,043	1,836	174	351	240	191	9	86	87
24	6.8~6.14	416	8	263	17	200	1,077	1,957	125	489	330	210	7	101	80
25	6.15~6.21	414	21	261	14	192	946	1,737	159	721	331	201	13	156	78
26	6.22~6.28	414	13	261	9	188	968	1,679	148	1,158	398	228	10	269	81
27	6.29~7.5	412	10	262	10	183	833	1,511	113	1,541	314	185	10	329	90
28	7.6~7.12	416	8	263	9	204	891	1,493	139	2,720	368	177	7	721	97
29	7.13~7.19	410	7	259	15	175	712	1,263	121	3,948	382	170	12	865	108
30	7.20~7.26	413	10	262	23	117	505	982	115	3,626	234	157	3	805	89
31	7.27~8.2	410	11	261	27	148	468	1,065	91	3,678	157	179	14	807	96
32	8.3~8.9	408	3	258	58	131	367	924	92	2,960	165	166	6	647	92
33	8.10~8.16	374	4	231	35	102	215	580	48	1,535	71	119	1	342	62
34	8.17~8.23	387	4	243	68	120	236	788	55	1,260	111	123	2	282	90
35	8.24~8.30	408	2	256	106	96	288	839	56	1,404	107	178	3	319	106
36	8.31~9.6	414	20	261	172	95	368	982	46	1,198	141	181	9	289	80
37	9.7~9.13	414	30	261	247	86	378	969	54	1,193	107	159	8	249	94
38	9.14~9.20	399	25	252	350	63	398	972	97	1,133	108	177	5	239	73
39	9.21~9.27	411	16	260	209	47	175	517	73	594	52	93	2	89	78
40	9.28~10.4	412	28	260	303	82	435	909	88	618	96	153	4	102	145
41	10.5~10.11	412	36	261	398	87	438	917	77	398	75	140	8	59	130
42	10.12~10.18	410	32	259	363	58	418	867	76	215	71	135	5	36	124
43	10.19~10.25	414	49	261	384	66	539	1,189	107	180	81	146	10	48	156
44	10.26~11.1	411	59	261	359	69	510	1,359	102	141	119	157	7	27	143
45	11.2~11.8	408	77	259	352	72	571	1,397	123	98	87	118	3	18	154
46	11.9~11.15	411	61	259	310	89	655	1,871	142	57	89	143	8	10	141
47	11.16~11.22	410	99	259	335	109	722	2,063	140	97	131	160	12	11	147
48	11.23~11.29	411	75	260	310	98	643	1,974	167	56	94	137	6	13	171
49	11.30~12.6	413	79	259	350	121	848	3,117	213	42	124	142	2	15	155
50	12.7~12.13	414	181	261	356	137	859	3,734	201	30	107	113	6	11	153
51	12.14~12.20	414	231	261	276	147	1,048	3,957	267	27	103	132	5	13	196
52	12.21~12.27	413	304	261	277	133	839	3,381	235	13	116	97	3	5	154
53	12.28~1.3	391	168	243	113	57	274	1,176	98	3	47	53		2	63
合計			59,435		7,197	5,385	35,039	91,052	6,765	32,599	10,174	7,816	300	7,200	4,883

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2015年第1週～第53週

週	期 間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数 (基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院
1	12.29～1.4	210	2	1	31		7	25	1		1		1	25	70
2	1.5～1.11	260	20	3	39		24	25		3	5		2	25	83
3	1.12～1.18	263	4	4	39	1	17	25	1	1	6		6	25	72
4	1.19～1.25	263	7	4	39		8	25	1	2	3		6	25	66
5	1.26～2.1	263	8	6	39	1	10	25		1	4	1	2	25	33
6	2.2～2.8	261	13	7	39		10	25		1	3	1	1	25	23
7	2.9～2.15	260	10	3	38		7	25	2	4	7		5	25	17
8	2.16～2.22	261	10	1	39		7	25	1	1	6		3	25	16
9	2.23～3.1	263	15	6	39		12	25	1	1	12		2	25	16
10	3.2～3.8	262	12	6	39	1	16	25		1	1	4	6	25	12
11	3.9～3.15	260	13	9	39		15	25		1	3	1	2	25	7
12	3.16～3.22	263	16	5	38		11	25	2	1	5	3	3	25	14
13	3.23～3.29	262	8	3	39		19	25			1	1	6	25	3
14	3.30～4.5	262	16	2	39		20	25		1			4	25	15
15	4.6～4.12	263	18	5	39		14	25		1	2		5	25	6
16	4.13～4.19	264	28	2	39	1	19	25		1	6		5	25	
17	4.20～4.26	262	25	3	39		22	25	3		8	1	4	25	3
18	4.27～5.3	255	15	3	37		18	25	1		3	1	4	25	2
19	5.4～5.10	264	21	4	39		12	25	3		5	1	7	25	1
20	5.11～5.17	264	11	2	39		25	25		1	5		2	25	1
21	5.18～5.24	260	14	1	39		11	25	2		5		4	25	
22	5.25～5.31	261	29	3	38		18	25	1	1	8	1		25	
23	6.1～6.7	263	26	5	39	1	19	25	2		6		2	25	2
24	6.8～6.14	263	32	4	39		25	25		2	5		1	25	
25	6.15～6.21	261	23	3	39	2	21	25		1	8			25	
26	6.22～6.28	261	44	4	39		21	25		2	2		1	25	
27	6.29～7.5	262	29		38		30	25			8	2		25	
28	7.6～7.12	263	44	7	39	2	24	25		2	8	1	1	25	1
29	7.13～7.19	259	52	6	39		36	25	2	1	10	1		25	
30	7.20～7.26	262	58	7	39		26	25	2	5	8			25	1
31	7.27～8.2	261	44	3	39		38	25		1	12	2		25	
32	8.3～8.9	258	36	8	38	1	28	25	2	1	9	1		25	
33	8.10～8.16	231	16	1	36		21	25		1	21	1		25	1
34	8.17～8.23	243	27	2	39		42	25		2	26	1		25	2
35	8.24～8.30	256	52	3	39		26	25	2	1	14	3		25	
36	8.31～9.6	261	49	2	39	1	28	25		5	11	6		25	
37	9.7～9.13	261	57	3	39		42	25		2	17			25	
38	9.14～9.20	252	52	1	37		41	25			24	2		25	1
39	9.21～9.27	260	29	1	39		25	25	2	2	22	1		25	
40	9.28～10.4	260	39	6	39		46	25	2		36	4	2	25	
41	10.5～10.11	261	34	3	39		42	25	1	3	43	3	1	25	
42	10.12～10.18	259	19	2	39	1	24	25		2	22			25	
43	10.19～10.25	261	31	1	39		33	25		1	48			25	
44	10.26～11.1	261	32	3	39		46	25		2	31	2	1	25	
45	11.2～11.8	259	26	7	39	1	27	25		2	26		2	25	
46	11.9～11.15	259	19	3	39		30	25		1	40	3	1	25	1
47	11.16～11.22	259	27	5	39		38	25		6	33	4		25	2
48	11.23～11.29	260	27	3	39		40	25		1	29			25	1
49	11.30～12.6	259	13	6	39	1	29	25	2	1	40	2	2	25	2
50	12.7～12.13	261	16	2	38		24	24		2	30	2	1	25	
51	12.14～12.20	261	18	6	38		32	25	1		32	1	1	25	2
52	12.21～12.27	261	22	7	39		21	25	1		30	2	2	25	7
53	12.28～1.3	243	4	2	37		9	25	1	1	20		1	25	3
合 計		1,312	199			14	1,256		39	72	770	59	99		486

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2015年第1週～第53週

週	期間	報告 定点数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	報告 定点数 (小 児科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 咽 頭 炎 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	12.29～1.4	345	11.04	210	0.37	0.12	0.50	2.29	0.23	0.05	0.20	0.09	0.01	0.00	0.05
2	1.5～1.11	414	23.89	260	0.63	0.27	1.64	8.67	0.73	0.18	0.91	0.39	0.01	0.02	0.33
3	1.12～1.18	416	19.71	263	0.45	0.17	1.87	8.46	0.40	0.10	0.90	0.39	0.01	0.01	0.22
4	1.19～1.25	416	23.14	263	0.56	0.27	2.65	9.25	0.48	0.09	0.83	0.49	0.01	0.02	0.15
5	1.26～2.1	416	18.86	263	0.37	0.14	2.63	8.53	0.34	0.11	0.79	0.48	0.02	0.02	0.25
6	2.2～2.8	415	11.43	261	0.38	0.21	2.63	7.54	0.50	0.08	0.58	0.38	0.03	0.00	0.18
7	2.9～2.15	414	7.74	260	0.24	0.13	2.41	7.35	0.35	0.08	0.65	0.45	0.01	0.00	0.20
8	2.16～2.22	415	5.33	261	0.31	0.18	2.69	8.41	0.47	0.09	0.67	0.45	0.03	0.01	0.26
9	2.23～3.1	416	4.07	263	0.24	0.21	3.09	8.95	0.48	0.10	0.74	0.49	0.00	0.01	0.25
10	3.2～3.8	414	2.84	262	0.20	0.18	3.29	8.62	0.60	0.10	0.89	0.55	0.01	0.00	0.19
11	3.9～3.15	411	2.71	260	0.19	0.21	3.30	9.03	0.52	0.08	0.70	0.48	0.03	0.01	0.34
12	3.16～3.22	414	2.38	263	0.17	0.20	3.11	8.07	0.59	0.11	0.86	0.54	0.01	0.01	0.22
13	3.23～3.29	415	1.53	262	0.17	0.21	2.89	7.20	0.71	0.10	0.91	0.62	0.02	0.03	0.22
14	3.30～4.5	414	1.40	262	0.16	0.21	2.34	6.72	0.71	0.06	0.95	0.59	0.02	0.02	0.25
15	4.6～4.12	411	1.01	263	0.12	0.17	2.44	6.77	0.49	0.13	0.91	0.63	0.01	0.00	0.23
16	4.13～4.19	414	1.49	264	0.14	0.18	3.36	8.36	0.51	0.14	1.50	0.56	0.02	0.05	0.22
17	4.20～4.26	416	1.27	262	0.16	0.38	3.94	8.43	0.61	0.22	1.48	0.73	0.03	0.05	0.24
18	4.27～5.3	404	0.50	255	0.07	0.52	3.72	7.16	0.64	0.29	1.37	0.74	0.03	0.07	0.41
19	5.4～5.10	415	0.23	264	0.04	0.33	1.68	3.88	0.53	0.24	0.58	0.46	0.02	0.07	0.25
20	5.11～5.17	418	0.17	264	0.06	0.53	4.14	6.69	0.58	0.32	1.25	0.72	0.03	0.08	0.26
21	5.18～5.24	412	0.13	260	0.07	0.70	4.12	7.24	0.49	0.57	1.12	0.80	0.02	0.19	0.28
22	5.25～5.31	415	0.09	261	0.06	0.93	4.24	7.32	0.66	1.03	1.20	0.84	0.04	0.21	0.26
23	6.1～6.7	414	0.08	263	0.03	0.87	3.97	6.98	0.66	1.33	0.91	0.73	0.03	0.33	0.33
24	6.8～6.14	416	0.02	263	0.06	0.76	4.10	7.44	0.48	1.86	1.25	0.80	0.03	0.38	0.30
25	6.15～6.21	414	0.05	261	0.05	0.74	3.62	6.66	0.61	2.76	1.27	0.77	0.05	0.60	0.30
26	6.22～6.28	414	0.03	261	0.03	0.72	3.71	6.43	0.57	4.44	1.52	0.87	0.04	1.03	0.31
27	6.29～7.5	412	0.02	262	0.04	0.70	3.18	5.77	0.43	5.88	1.20	0.71	0.04	1.26	0.34
28	7.6～7.12	416	0.02	263	0.03	0.78	3.39	5.68	0.53	10.34	1.40	0.67	0.03	2.74	0.37
29	7.13～7.19	410	0.02	259	0.06	0.68	2.75	4.88	0.47	15.24	1.47	0.66	0.05	3.34	0.42
30	7.20～7.26	413	0.02	262	0.09	0.45	1.93	3.75	0.44	13.84	0.89	0.60	0.01	3.07	0.34
31	7.27～8.2	410	0.03	261	0.10	0.57	1.79	4.08	0.35	14.09	0.60	0.69	0.05	3.09	0.37
32	8.3～8.9	408	0.01	258	0.22	0.51	1.42	3.58	0.36	11.47	0.64	0.64	0.02	2.51	0.36
33	8.10～8.16	374	0.01	231	0.15	0.44	0.93	2.51	0.21	6.65	0.31	0.52	0.00	1.48	0.27
34	8.17～8.23	387	0.01	243	0.28	0.49	0.97	3.24	0.23	5.19	0.46	0.51	0.01	1.16	0.37
35	8.24～8.30	408	0.00	256	0.41	0.38	1.13	3.28	0.22	5.48	0.42	0.70	0.01	1.25	0.41
36	8.31～9.6	414	0.05	261	0.66	0.36	1.41	3.76	0.18	4.59	0.54	0.69	0.03	1.11	0.31
37	9.7～9.13	414	0.07	261	0.95	0.33	1.45	3.71	0.21	4.57	0.41	0.61	0.03	0.95	0.36
38	9.14～9.20	399	0.06	252	1.39	0.25	1.58	3.86	0.38	4.50	0.43	0.70	0.02	0.95	0.29
39	9.21～9.27	411	0.04	260	0.80	0.18	0.67	1.99	0.28	2.28	0.20	0.36	0.01	0.34	0.30
40	9.28～10.4	412	0.07	260	1.17	0.32	1.67	3.50	0.34	2.38	0.37	0.59	0.02	0.39	0.56
41	10.5～10.11	412	0.09	261	1.52	0.33	1.68	3.51	0.30	1.52	0.29	0.54	0.03	0.23	0.50
42	10.12～10.18	410	0.08	259	1.40	0.22	1.61	3.35	0.29	0.83	0.27	0.52	0.02	0.14	0.48
43	10.19～10.25	414	0.12	261	1.47	0.25	2.07	4.56	0.41	0.69	0.31	0.56	0.04	0.18	0.60
44	10.26～11.1	411	0.14	261	1.38	0.26	1.95	5.21	0.39	0.54	0.46	0.60	0.03	0.10	0.55
45	11.2～11.8	408	0.19	259	1.36	0.28	2.20	5.39	0.47	0.38	0.34	0.46	0.01	0.07	0.59
46	11.9～11.15	411	0.15	259	1.20	0.34	2.53	7.22	0.55	0.22	0.34	0.55	0.03	0.04	0.54
47	11.16～11.22	410	0.24	259	1.29	0.42	2.79	7.97	0.54	0.37	0.51	0.62	0.05	0.04	0.57
48	11.23～11.29	411	0.18	260	1.19	0.38	2.47	7.59	0.64	0.22	0.36	0.53	0.02	0.05	0.66
49	11.30～12.6	413	0.19	259	1.35	0.47	3.27	12.03	0.82	0.16	0.48	0.55	0.01	0.06	0.60
50	12.7～12.13	414	0.44	261	1.36	0.52	3.29	14.31	0.77	0.11	0.41	0.43	0.02	0.04	0.59
51	12.14～12.20	414	0.56	261	1.06	0.56	4.02	15.16	1.02	0.10	0.39	0.51	0.02	0.05	0.75
52	12.21～12.27	413	0.74	261	1.06	0.51	3.21	12.95	0.90	0.05	0.44	0.37	0.01	0.02	0.59
53	12.28～1.3	391	0.43	243	0.47	0.23	1.13	4.84	0.40	0.01	0.19	0.22		0.01	0.26
	平均		2.74		0.52	0.39	2.54	6.61	0.49	2.38	0.74	0.57	0.02	0.53	0.36

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2015年第1週~第53週

週	期間	報告定点数 (小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数 (眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)					報告定点数 (基幹)	インフルエンザ入院	
								細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)			
1	12.29~ 1. 4	210	0.01	0.00	31		0.23	25	0.04		0.04		0.04	25	2.80
2	1. 5~ 1.11	260	0.08	0.01	39		0.62	25		0.12	0.20		0.08	25	3.32
3	1.12~ 1.18	263	0.02	0.02	39	0.03	0.44	25	0.04	0.04	0.24		0.24	25	2.88
4	1.19~ 1.25	263	0.03	0.02	39		0.21	25	0.04	0.08	0.12		0.24	25	2.64
5	1.26~ 2. 1	263	0.03	0.02	39	0.03	0.26	25		0.04	0.16	0.04	0.08	25	1.32
6	2. 2~ 2. 8	261	0.05	0.03	39		0.26	25		0.04	0.12	0.04	0.04	25	0.92
7	2. 9~ 2.15	260	0.04	0.01	38		0.18	25	0.08	0.16	0.28		0.20	25	0.68
8	2.16~ 2.22	261	0.04	0.00	39		0.18	25	0.04	0.04	0.24		0.12	25	0.64
9	2.23~ 3. 1	263	0.06	0.02	39		0.31	25	0.04	0.04	0.48		0.08	25	0.64
10	3. 2~ 3. 8	262	0.05	0.02	39	0.03	0.41	25		0.04	0.04	0.16	0.24	25	0.48
11	3. 9~ 3.15	260	0.05	0.03	39		0.38	25		0.04	0.12	0.04	0.08	25	0.28
12	3.16~ 3.22	263	0.06	0.02	38		0.29	25	0.08	0.04	0.20	0.12	0.12	25	0.56
13	3.23~ 3.29	262	0.03	0.01	39		0.49	25			0.04	0.04	0.24	25	0.12
14	3.30~ 4. 5	262	0.06	0.01	39		0.51	25		0.04			0.16	25	0.60
15	4. 6~ 4.12	263	0.07	0.02	39		0.36	25		0.04	0.08		0.20	25	0.24
16	4.13~ 4.19	264	0.11	0.01	39	0.03	0.49	25		0.04	0.24		0.20	25	
17	4.20~ 4.26	262	0.10	0.01	39		0.56	25	0.12		0.32	0.04	0.16	25	0.12
18	4.27~ 5. 3	255	0.06	0.01	37		0.49	25	0.04		0.12	0.04	0.16	25	0.08
19	5. 4~ 5.10	264	0.08	0.02	39		0.31	25	0.12		0.20	0.04	0.28	25	0.04
20	5.11~ 5.17	264	0.04	0.01	39		0.64	25		0.04	0.20		0.08	25	0.04
21	5.18~ 5.24	260	0.05	0.00	39		0.28	25	0.08		0.20		0.16	25	
22	5.25~ 5.31	261	0.11	0.01	38		0.47	25	0.04	0.04	0.32	0.04		25	
23	6. 1~ 6. 7	263	0.10	0.02	39	0.03	0.49	25	0.08		0.24		0.08	25	0.08
24	6. 8~ 6.14	263	0.12	0.02	39		0.64	25		0.08	0.20		0.04	25	
25	6.15~ 6.21	261	0.09	0.01	39	0.05	0.54	25		0.04	0.32			25	
26	6.22~ 6.28	261	0.17	0.02	39		0.54	25		0.08	0.08		0.04	25	
27	6.29~ 7. 5	262	0.11		38		0.79	25			0.32	0.08		25	
28	7. 6~ 7.12	263	0.17	0.03	39	0.05	0.62	25		0.08	0.32	0.04	0.04	25	0.04
29	7.13~ 7.19	259	0.20	0.02	39		0.92	25	0.08	0.04	0.40	0.04		25	
30	7.20~ 7.26	262	0.22	0.03	39		0.67	25	0.08	0.20	0.32			25	0.04
31	7.27~ 8. 2	261	0.17	0.01	39		0.97	25		0.04	0.48	0.08		25	
32	8. 3~ 8. 9	258	0.14	0.03	38	0.03	0.74	25	0.08	0.04	0.36	0.04		25	
33	8.10~ 8.16	231	0.07	0.00	36		0.58	25		0.04	0.84	0.04		25	0.04
34	8.17~ 8.23	243	0.11	0.01	39		1.08	25		0.08	1.04	0.04		25	0.08
35	8.24~ 8.30	256	0.20	0.01	39		0.67	25	0.08	0.04	0.56	0.12		25	
36	8.31~ 9. 6	261	0.19	0.01	39	0.03	0.72	25		0.20	0.44	0.24		25	
37	9. 7~ 9.13	261	0.22	0.01	39		1.08	25		0.08	0.68			25	
38	9.14~ 9.20	252	0.21	0.00	37		1.11	25			0.96	0.08		25	0.04
39	9.21~ 9.27	260	0.11	0.00	39		0.64	25	0.08	0.08	0.88	0.04		25	
40	9.28~10. 4	260	0.15	0.02	39		1.18	25	0.08		1.44	0.16	0.08	25	
41	10. 5~10.11	261	0.13	0.01	39		1.08	25	0.04	0.12	1.72	0.12	0.04	25	
42	10.12~10.18	259	0.07	0.01	39	0.03	0.62	25		0.08	0.88			25	
43	10.19~10.25	261	0.12	0.00	39		0.85	25		0.04	1.92			25	
44	10.26~11. 1	261	0.12	0.01	39		1.18	25		0.08	1.24	0.08	0.04	25	
45	11. 2~11. 8	259	0.10	0.03	39	0.03	0.69	25		0.08	1.04		0.08	25	
46	11. 9~11.15	259	0.07	0.01	39		0.77	25		0.04	1.60	0.12	0.04	25	0.04
47	11.16~11.22	259	0.10	0.02	39		0.97	25		0.24	1.32	0.16		25	0.08
48	11.23~11.29	260	0.10	0.01	39		1.03	25		0.04	1.16			25	0.04
49	11.30~12. 6	259	0.05	0.02	39	0.03	0.74	25	0.08	0.04	1.60	0.08	0.08	25	0.08
50	12. 7~12.13	261	0.06	0.01	38		0.63	24		0.08	1.25	0.08	0.04	25	
51	12.14~12.20	261	0.07	0.02	38		0.84	25	0.04		1.28	0.04	0.04	25	0.08
52	12.21~12.27	261	0.08	0.03	39		0.54	25	0.04		1.20	0.08	0.08	25	0.28
53	12.28~ 1. 3	243	0.02	0.01	37		0.24	25	0.04	0.04	0.80		0.04	25	0.12
平均			0.10	0.01		0.01	0.61		0.03	0.05	0.58	0.04	0.07		0.37

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2015年第1週~第53週

	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	4	480	3	33	13	27	265	24	140	53	33	2	34
中央区	5	695	3	61	98	281	980	54	640	58	122		122
みなと	9	1,057	6	351	312	717	1,852	106	796	161	212	15	137
新宿区	12	1,196	8	471	110	651	1,562	84	712	108	187	6	151
文京	7	736	4	45	74	200	923	212	487	104	161	1	53
台東	7	876	4	72	151	367	2,178	102	697	199	167	2	121
墨田区	8	1,351	5	143	62	687	1,069	100	580	173	155		179
江東区	14	1,896	9	302	121	1,548	5,836	367	1,921	363	366	4	340
品川区	12	1,011	8	143	136	810	2,688	126	869	134	254	3	222
目黒区	8	626	5	166	87	536	1,780	72	817	115	132		164
大田区	21	2,548	13	512	696	2,098	6,413	314	1,767	468	436	26	460
世田谷	25	3,837	16	419	357	2,292	5,726	462	1,650	387	354	3	432
渋谷区	7	645	4	35	14	109	986	77	365	71	85		26
中野区	11	1,174	7	66	40	330	2,828	87	810	296	183		165
杉並	16	2,042	10	143	132	813	2,885	121	788	286	186	1	137
池袋	8	940	5	192	41	210	612	42	258	57	28	3	67
北区	11	1,554	7	73	45	492	2,145	96	1,048	261	244		145
荒川区	7	1,066	4	394	197	927	1,444	178	738	341	212	22	161
板橋区	16	1,532	10	66	36	333	1,990	147	715	450	202	19	144
練馬区	21	2,366	13	226	179	1,952	3,561	360	1,709	669	373	1	363
足立	20	2,714	13	319	253	1,526	5,176	317	1,420	537	349	6	338
葛飾区	13	2,515	8	104	97	725	3,245	187	545	264	250	3	248
江戸川	19	2,995	12	256	333	1,856	4,652	259	1,306	342	313	28	439
八王子市	18	3,706	11	649	315	2,458	6,530	562	2,208	619	417	67	339
町田市	13	2,711	8	84	27	2,157	3,989	344	979	353	254		309
西多摩	14	2,091	8	102	150	661	1,840	142	647	182	144	8	111
南多摩	14	2,618	9	347	140	1,473	2,728	260	1,509	665	330	3	224
多摩立川	21	3,047	14	344	103	2,134	3,933	375	1,326	641	292	12	342
多摩府中	33	5,251	21	411	481	2,586	6,119	613	2,424	1,015	784	44	706
多摩小平	23	3,753	15	661	578	4,065	5,117	535	2,671	802	588	21	516
島しょ	2	406	1	7	7	18		40	57		3		5
合計	419	59,435	264	7,197	5,385	35,039	91,052	6,765	32,599	10,174	7,816	300	7,200
定点当たり報告数		145.11		27.82	20.77	134.57	350.13	26.04	126.39	39.08	30.10	1.15	27.91
前年定点当たり報告数		367.55		23.70	21.54	105.60	322.84	39.69	23.44	19.44	31.18	0.61	61.25
当年/前年		0.39		1.17	0.96	1.27	1.08	0.66	5.39	2.01	0.97	1.89	0.46

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2015年第1週~第53週

	小児科				眼科			基幹						
	設置定点数	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
千代田	3	17	8	9				2			43		3	25
中央区	3	24		2	1		116							
みなと	6	114	10	17				1	5		48	31		33
新宿区	8	36	23	25	2		32	2	4	10	88	1	8	42
文京	4	64	2	1	1		56	1			4			18
台東	4	101	42	2										
墨田区	5	175	69	2	1		21	1	7	1	34		2	24
江東区	9	277	22	14	1		48							
品川区	8	53	18	1	1	1	14							
目黒区	5	22	19	4	1		2							
大田区	13	94	95	12	2		86	1						
世田谷	16	108	121	13	2	3	46	2	8	26	24		17	47
渋谷区	4	9	1		1		65	1	1		47		25	38
中野区	7	33	29	2	1		20							
杉並	10	26	20	22	1		43	2						
池袋	5	43	4	3	1	1	45	1	1	3	32	1		9
北区	7	162	16	3	1		19							
荒川区	4	129	11	4	1		60							
板橋区	10	174	43	1	2	4	57	1			40		7	22
練馬区	13	347	34	7	2		48							
足立	13	311	29	1	2	1	119							
葛飾区	8	90	54	6	1	1	43	1	1		124	22	11	45
江戸川	12	580	41	10	2		38							
八王子市	11	441	163	2	2		59	1			30			22
町田市	8	99	179	5	1									
西多摩	8	358	7	2	1		11	1			60			1
南多摩	9	134	11	4	1		9							
多摩立川	14	134	31	5	2	2	16	1			32	4	6	5
多摩府中	21	329	111	13	3	1	48	3	8	24	108		20	88
多摩小平	15	395	99	7	2		135	2	4	8	56			66
島しょ	1	4						1						1
合計	264	4,883	1,312	199	39	14	1,256	25	39	72	770	59	99	486
定点当たり報告数		18.83	5.06	0.77		0.36	32.49		1.56	2.88	30.85	2.36	3.96	19.44
前年定点当たり報告数		11.57	4.45	0.69		0.34	23.79		0.88	4.09	9.37	0.84	5.36	29.40
当年/前年		1.63	1.14	1.12		1.05	1.37		1.77	0.70	3.29	2.81	0.74	0.66

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2015年第1週~第53週

	設置定点数(インフルエンザ)	インフルエンザ	設置定点数(小児科)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	4	120.00	3	11.00	4.33	9.00	88.33	8.00	46.67	17.67	11.00	0.67	11.33
中央区	5	150.75	3	20.83	33.00	95.33	328.17	18.33	219.17	19.50	41.17		43.83
みなと	9	117.44	6	58.48	51.74	119.19	307.83	17.60	131.64	26.69	35.24	2.48	22.71
新宿区	12	99.67	8	58.98	13.79	81.61	195.43	10.52	89.41	13.61	23.50	0.75	18.96
文京	7	105.14	4	11.25	18.58	50.17	231.50	53.83	121.75	26.08	40.58	0.25	13.25
台東	7	126.21	4	18.00	37.60	91.20	541.90	25.40	174.25	49.50	41.55	0.50	30.25
墨田区	8	168.88	5	28.60	12.40	137.40	213.80	20.00	116.00	34.60	31.00		35.80
江東区	14	135.43	9	33.98	13.67	172.54	651.79	41.19	217.51	40.54	40.96	0.44	38.96
品川区	12	84.26	8	17.91	17.07	101.41	336.50	15.75	108.89	16.79	31.82	0.38	27.82
目黒区	8	79.09	5	33.35	17.45	107.50	357.55	14.60	165.25	23.05	26.65		33.25
大田区	21	130.51	13	40.01	54.28	162.62	498.41	24.32	141.05	36.31	34.02	2.03	36.53
世田谷	25	153.62	16	26.70	22.61	144.53	361.24	29.05	106.96	24.52	22.46	0.22	27.71
渋谷区	7	92.56	4	8.75	3.50	27.25	246.50	19.25	91.25	17.75	21.25		6.50
中野区	11	117.40	7	11.00	6.67	55.00	471.33	14.50	135.00	49.33	30.50		27.50
杉並	16	128.14	10	14.01	12.46	75.98	274.11	11.36	74.67	26.70	17.68	0.09	12.78
池袋	8	120.58	5	47.30	9.92	49.20	141.43	9.75	64.53	13.40	6.45	0.70	16.67
北区	11	143.28	7	10.60	6.48	70.44	308.24	13.71	151.14	37.39	35.25		20.83
荒川区	7	152.29	4	98.67	49.25	232.67	363.25	44.75	194.42	86.58	53.33	5.50	43.58
板橋区	16	95.75	10	6.60	3.60	33.30	199.00	14.70	71.50	45.00	20.20	1.90	14.40
練馬区	21	115.80	13	18.26	14.04	151.31	276.65	27.74	135.95	52.04	29.15	0.08	29.23
足立	20	138.10	13	24.72	19.77	118.55	401.92	24.51	111.18	41.60	27.11	0.51	26.43
葛飾区	13	202.23	8	13.04	12.25	90.67	409.42	23.42	69.50	33.42	31.38	0.38	31.46
江戸川	19	161.45	12	22.21	28.85	158.54	397.99	22.33	113.86	29.41	26.91	2.44	38.33
八王子市	18	213.36	11	59.46	29.13	225.39	598.44	51.61	203.01	56.73	38.37	6.17	31.20
町田市	13	221.59	8	11.67	3.41	276.88	521.23	44.60	129.33	45.51	33.03		40.93
西多摩	14	149.36	8	12.75	18.75	82.63	230.00	17.75	80.88	22.75	18.00	1.00	13.88
南多摩	14	194.82	9	38.83	15.56	164.06	303.78	29.00	167.67	74.06	36.72	0.33	24.89
多摩立川	21	145.10	14	24.57	7.36	152.43	280.93	26.79	94.71	45.79	20.86	0.86	24.43
多摩府中	33	167.44	21	21.18	24.57	131.16	310.54	31.11	123.01	51.27	39.83	2.23	35.53
多摩小平	23	163.20	15	44.26	38.57	271.70	342.00	35.78	178.60	53.64	39.36	1.40	34.51
島しょ	2	203.00	1	7.00	7.00	18.00		40.00	57.00		3.00		5.00
定点当たり報告数		145.11		27.82	20.77	134.57	350.13	26.04	126.39	39.08	30.10	1.15	27.91
前年定点当たり報告数		367.55		23.70	21.54	105.60	322.84	39.69	23.44	19.44	31.18	0.61	61.25
当年/前年		0.39		1.17	0.96	1.27	1.08	0.66	5.39	2.01	0.97	1.89	0.46

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2015年第1週～第53週

	設置定点数(小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	インフルエンザ入院
千代田	3	5.67	2.67	3.00				2			21.50		1.50	12.50
中央区	3	8.33		0.67	1		116.00							
みなの	6	18.95	1.67	2.83				1	5.00		48.00	31.00		33.00
新宿区	8	4.52	2.88	3.13	2		16.00	2	2.00	5.00	44.00	0.50	4.00	21.00
文京	4	16.25	0.50	0.25	1		56.00	1			4.00			18.00
台東	4	25.25	10.50	0.50										
墨田区	5	35.00	13.80	0.40	1		21.00	1	7.00	1.00	34.00		2.00	24.00
江東区	9	31.04	2.44	1.57	1		48.00							
品川区	8	6.63	2.25	0.13	1	1.00	14.00							
目黒区	5	4.45	3.80	0.80	1		2.00							
大田区	13	7.31	7.39	0.94	2		43.50	1						
世田谷	16	6.82	7.69	0.81	2	1.50	23.50	2	4.00	13.00	12.00		8.50	23.50
渋谷区	4	2.25	0.25		1		65.00	1	1.00		47.00		25.00	38.00
中野区	7	5.50	4.83	0.33	1		20.00							
杉並	10	2.48	1.92	2.04	1		43.00	2						
池袋	5	10.25	1.00	0.75	1	1.00	45.00	1	1.00	3.00	32.00	1.00		9.00
北区	7	23.17	2.29	0.43	1		19.00							
荒川区	4	32.75	2.75	1.00	1		60.00							
板橋区	10	17.40	4.30	0.10	2	2.00	28.50	1			40.00		7.00	22.00
練馬区	13	27.04	2.67	0.54	2		24.00							
足立	13	24.19	2.26	0.08	2	0.50	59.50							
葛飾区	8	11.29	6.75	0.75	1	1.00	43.00	1	1.00		124.00	22.00	11.00	45.00
江戸川	12	50.22	3.55	0.87	2		19.00							
八王子市	11	40.38	14.95	0.18	2		29.50	1			30.00			22.00
町田市	8	12.81	22.98	0.66	1									
西多摩	8	44.75	0.88	0.25	1		11.00	1			60.00			1.00
南多摩	9	14.89	1.22	0.44	1		9.00							
多摩立川	14	9.57	2.21	0.36	2	1.00	8.00	1			32.00	4.00	6.00	5.00
多摩府中	21	16.85	5.65	0.66	3	0.33	16.33	3	2.67	8.00	36.00		6.67	29.33
多摩小平	15	26.38	6.62	0.47	2		67.50	2	2.00	4.00	28.00			33.00
島しょ	1	4.00						1						1.00
定点当たり報告数		18.83	5.06	0.77		0.36	32.49		1.56	2.88	30.85	2.36	3.96	19.44
前年定点当たり報告数		11.57	4.45	0.69		0.34	23.79		0.88	4.09	9.37	0.84	5.36	29.40
当年/前年		1.63	1.14	1.12		1.05	1.37		1.77	0.70	3.29	2.81	0.74	0.66

表6 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹) 2015年第1週～第53週

	インフルエンザ	R 感染症 S ウイルス	咽頭結膜熱	A 球菌 溶血性 咽頭炎 レンサ	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
6か月未満	171	960	24	14	811	68	259	9	130	14	50
12か月未満	641	1,643	407	123	5,749	255	3,235	121	2,540	19	738
1歳	2,303	2,825	1,249	938	12,755	508	10,477	484	3,983	18	2,106
2歳	2,522	1,111	741	1,770	9,022	510	6,469	693	774	9	1,387
3歳	2,521	380	778	3,149	8,291	692	4,089	1,203	206	9	912
4歳	3,315	171	666	4,544	8,035	1,060	2,885	1,698	89	6	687
5歳	3,598	60	473	4,822	6,843	976	1,860	1,721	36	10	461
6歳	3,815	19	324	4,605	5,525	874	1,012	1,383	21	9	278
7歳	3,455	6	192	3,866	4,695	704	620	949	10	15	171
8歳	2,858	4	112	2,898	4,152	461	446	718	10	11	112
9歳	2,488	2	87	2,180	3,362	238	250	467	5	22	87
10～14歳	8,790	8	148	3,831	8,620	338	440	535	7	53	109
15～19歳	2,919	1	19	318	2,036	22	50	7		11	16
20～29歳	3,622	7	165	1,981	11,156	59	507	186	5	94	86
30～39歳	5,125										
40～49歳	5,344										
50～59歳	2,741										
60～69歳	1,593										
70～79歳	1,046										
80歳以上	568										
合計	59,435	7,197	5,385	35,039	91,052	6,765	32,599	10,174	7,816	300	7,200

	流行性 耳下腺炎	不明 発しん 症	川崎 病	急性 出血性 結膜炎	流行 性角 結膜炎	細菌 性髄 膜炎	無菌 性髄 膜炎	マイ コプラ ズマ 肺炎	ク ラミジ ア肺炎 (オ ウム 病を除 く)	感 染性 胃腸 炎 (ロ タウ イル ス)	イン フル エン ザ入 院
6か月未満	3	42	9		10	10	28	2	1	11	15
12か月未満	15	198	32		13	2	1			13	8
1歳	121	422	67		44	1	3	19		22	16
2歳	230	171	26		44	1	2	32		14	10
3歳	439	105	24	1	25		1	42		14	9
4歳	689	102	18		27		1	54		12	7
5歳	769	63	4		31	1	1	42		7	8
6歳	644	47	3		27			68		2	7
7歳	636	42	8	1	16	1	1	59		1	8
8歳	464	33	2		17		2	62			4
9歳	301	13	2	1	10		1	63		1	5
10～14歳	435	39	3	1	32	3	5	169	1		25
15～19歳	34	5	1		37		1	31	2	1	6
20～29歳	103	30		4	152		8	32			9
30～39歳				3	304	2	7	31	3		11
40～49歳				1	221	4	3	20	7		7
50～59歳					108	2	2	5	4		17
60～69歳				1	63	10		14	3		51
70～79歳				1	75	1	4	15	20	1	98
80歳以上						1	1	10	18		165
合計	4,883	1,312	199	14	1,256	39	72	770	59	99	486

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2015年第1週～第53週

	設置 定点 数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	設置 定点 数 (小 児 科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 咽 頭 炎 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
1 区中央部圏	32	3,844	20	562	648	1,592	6,198	498	2,760	575	695	20	467
2 区南部圏	33	3,559	21	655	832	2,908	9,101	440	2,636	602	690	29	682
3 区西南部圏	40	5,108	25	620	458	2,937	8,492	611	2,832	573	571	3	622
4 区西部圏	39	4,412	25	680	282	1,794	7,275	292	2,310	690	556	7	453
5 区西北部圏	56	6,392	35	557	301	2,987	8,308	645	3,730	1,437	847	23	719
6 区東北部圏	40	6,295	25	817	547	3,178	9,865	682	2,703	1,142	811	31	747
7 区東部圏	41	6,242	26	701	516	4,091	11,557	726	3,807	878	834	32	958
8 西多摩圏	14	2,091	8	102	150	661	1,840	142	647	182	144	8	111
9 南多摩圏	45	9,035	28	1080	482	6,088	13,247	1,166	4,696	1,637	1,001	70	872
10 北多摩西部圏	21	3,047	14	344	103	2,134	3,933	375	1,326	641	292	12	342
11 北多摩南部圏	33	5,251	21	411	481	2,586	6,119	613	2,424	1,015	784	44	706
12 北多摩北部圏	23	3,753	15	661	578	4,065	5,117	535	2,671	802	588	21	516
13 島しょ圏	2	406	1	7	7	18		40	57		3		5
合 計	419	59,435	264	7,197	5,385	35,039	91,052	6,765	32,599	10,174	7,816	300	7,200

	設置 定点 数 (小 児 科)	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点 数 (眼 科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点 数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	(オ ウ ム 病 を 除 く) ク ラ ミ ジ ア 肺 炎	(ロ タ ウ イ ル ス に よ る) 感 染 性 胃 腸 炎	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	320	62	31	2		172	4	5		95	31	3	76
2 区南部圏	21	147	113	13	3	1	100	1						
3 区西南部圏	25	139	141	17	4	3	113	3	9	26	71		42	85
4 区西部圏	25	95	72	49	4		95	4	4	10	88	1	8	42
5 区西北部圏	35	726	97	14	6	5	169	2	1	3	72	1	7	31
6 区東北部圏	25	530	94	11	4	2	222	1	1		124	22	11	45
7 区東部圏	26	1,032	132	26	4		107	1	7	1	34		2	24
8 西多摩圏	8	358	7	2	1		11	1			60			1
9 南多摩圏	28	674	353	11	4		68	1			30			22
10 北多摩西部圏	14	134	31	5	2	2	16	1			32	4	6	5
11 北多摩南部圏	21	329	111	13	3	1	48	3	8	24	108		20	88
12 北多摩北部圏	15	395	99	7	2		135	2	4	8	56			66
13 島しょ圏	1	4						1						1
合 計	264	4,883	1,312	199	39	14	1,256	25	39	72	770	59	99	486

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2015年第1週～第53週

	設置 定点数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	設置 定点数 (小児 科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 咽 頭 炎 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
1 区中央部圏	32	121.31	20	28.13	32.42	79.64	309.97	24.94	138.13	28.70	34.80	1.00	23.40
2 区南部圏	33	112.65	21	31.59	39.97	139.21	436.24	21.08	128.16	28.83	33.22	1.39	33.12
3 区西南部圏	40	128.42	25	25.11	18.50	118.18	341.80	24.59	115.93	23.10	23.09	0.13	25.38
4 区西部圏	39	117.63	25	28.15	11.46	72.80	297.33	11.89	93.94	27.95	22.60	0.29	18.42
5 区西北部圏	56	116.65	35	16.48	8.88	87.53	243.96	18.98	110.97	42.02	24.97	0.67	21.43
6 区東北部圏	40	161.51	25	33.13	22.13	127.91	398.37	27.47	110.32	46.22	32.75	1.27	30.52
7 区東部圏	41	153.70	26	27.55	20.24	159.18	450.16	28.45	150.57	34.26	32.59	1.26	37.97
8 西多摩圏	14	149.36	8	12.75	18.75	82.63	230.00	17.75	80.88	22.75	18.00	1.00	13.88
9 南多摩圏	45	209.78	28	39.29	17.49	219.80	479.51	42.28	170.96	59.04	36.29	2.52	31.69
10 北多摩西部圏	21	145.10	14	24.57	7.36	152.43	280.93	26.79	94.71	45.79	20.86	0.86	24.43
11 北多摩南部圏	33	167.44	21	21.18	24.57	131.16	310.54	31.11	123.01	51.27	39.83	2.23	35.53
12 北多摩北部圏	23	163.20	15	44.26	38.57	271.70	342.00	35.78	178.60	53.64	39.36	1.40	34.51
13 島しょ圏	2	203.00	1	7.00	7.00	18.00		40.00	57.00		3.00		5.00

	設置 定点数 (小児 科)	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点数 (眼 科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く)	感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス に よ る)	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	16.04	3.11	1.55	2		86.00	4	1.25		23.75	7.75	0.75	19.00
2 区南部圏	21	7.05	5.42	0.63	3	0.33	33.50	1						
3 区西南部圏	25	5.59	5.70	0.69	4	0.75	28.50	3	3.00	8.67	23.67		14.00	28.33
4 区西部圏	25	3.93	2.92	2.02	4		24.00	4	1.00	2.58	22.58	0.25	2.00	10.50
5 区西北部圏	35	21.42	2.85	0.41	6	0.83	28.37	2	0.50	1.50	36.00	0.50	3.50	15.50
6 区東北部圏	25	21.44	3.78	0.44	4	0.50	55.67	1	1.00		124.00	22.00	11.00	45.00
7 区東部圏	26	40.46	5.17	1.02	4		26.75	1	7.00	1.00	34.00		2.00	24.00
8 西多摩圏	8	44.75	0.88	0.25	1		11.00	1			60.00			1.00
9 南多摩圏	28	24.38	12.74	0.40	4		17.00	1			30.00			22.00
10 北多摩西部圏	14	9.57	2.21	0.36	2	1.00	8.00	1			32.00	4.00	6.00	5.00
11 北多摩南部圏	21	16.85	5.65	0.66	3	0.33	16.33	3	2.67	8.00	36.00		6.67	29.33
12 北多摩北部圏	15	26.38	6.62	0.47	2		67.50	2	2.00	4.00	28.00			33.00
13 島しょ圏	1	4.00						1						1.00

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2015年1月~12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症
1月	25	79	15	2
2月	24	76	22	1
3月	25	66	6	4
4月	25	83	19	1
5月	25	70	20	1
6月	25	68	23	
7月	25	94	9	6
8月	25	71	17	1
9月	25	59	10	2
10月	25	61	7	3
11月	25	71	5	3
12月	25	79	5	4
合計		877	158	28

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2015年1月~12月

	報告定点数	黄色ブドウ球菌感染症 メチシリン耐性	肺炎球菌感染症 ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症
1月	25	3.16	0.60	0.08
2月	24	3.17	0.92	0.04
3月	25	2.64	0.24	0.16
4月	25	3.32	0.76	0.04
5月	25	2.80	0.80	0.04
6月	25	2.72	0.92	
7月	25	3.76	0.36	0.24
8月	25	2.84	0.68	0.04
9月	25	2.36	0.40	0.08
10月	25	2.44	0.28	0.12
11月	25	2.84	0.20	0.12
12月	25	3.16	0.20	0.16
平均		2.93	0.53	0.09

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2015年1月~12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	56	23	8	7	1	1
2月	49	27	18	4	1	
3月	47	19	5	1	2	2
4月	58	25	10	9	1	
5月	45	25	11	9		1
6月	44	24	13	10		
7月	60	34	6	3	3	3
8月	45	26	11	6	1	
9月	34	25	4	6	2	
10月	35	26	2	5	1	2
11月	44	27	4	1	3	
12月	58	21	2	3	2	2
合計	575	302	94	64	17	11

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2015年1月~12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	120	48	11	6		
1~4歳	61	67	27	23	1	
5~9歳	17	9	7	2		
10~14歳	21	3	3			
15~19歳	12	3				
20~24歳	3	2	6	1	2	1
25~29歳	2	1	2		1	
30~34歳	6	3		1		
35~39歳	7	5		2		
40~44歳	8	6	1	1	1	
45~49歳	22	4		2		
50~54歳	9	7		1		
55~59歳	20	4	3			
60~64歳	15	8	3		2	
65~69歳	25	20	3	2		2
70歳以上	227	112	28	23	10	8
合計	575	302	94	64	17	11
定点当たり報告数	23.08	12.13	3.79	2.57	0.68	0.44
前年定点当たり報告数	21.81	14.63	4.85	2.62	0.64	0.20
当年/前年	1.06	0.83	0.78	0.98	1.07	2.18

表9-1 月別患者報告数(性感染症)

2015年1月~12月

報告定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	
1月	54	192	111	77	86	11	14
2月	55	191	97	83	98	6	25
3月	55	187	101	80	95	9	13
4月	55	189	97	70	89	17	18
5月	55	193	85	82	84	11	21
6月	54	225	105	102	103	14	15
7月	55	236	116	88	118	14	6
8月	54	195	100	92	101	8	13
9月	54	268	134	144	177	20	30
10月	54	295	142	154	131	15	32
11月	55	253	115	148	156	11	18
12月	55	254	126	117	156	15	16
合計		2,678	1,329	1,237	1,394	151	221

表9-2 月別定点あたり患者報告数(性感染症)

2015年1月~12月

報告定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	臍トリコモナス症	梅毒様疾患	
1月	54	3.56	2.06	1.43	1.59	0.20	0.26
2月	55	3.47	1.76	1.51	1.78	0.11	0.45
3月	55	3.40	1.84	1.45	1.73	0.16	0.24
4月	55	3.44	1.76	1.27	1.62	0.31	0.33
5月	55	3.51	1.55	1.49	1.53	0.20	0.38
6月	54	4.17	1.94	1.89	1.91	0.26	0.28
7月	55	4.29	2.11	1.60	2.15	0.25	0.11
8月	54	3.61	1.85	1.70	1.87	0.15	0.24
9月	54	4.96	2.48	2.67	3.28	0.37	0.56
10月	54	5.46	2.63	2.85	2.43	0.28	0.59
11月	55	4.60	2.09	2.69	2.84	0.20	0.33
12月	55	4.62	2.29	2.13	2.84	0.27	0.29
平均		4.09	2.03	1.89	2.13	0.23	0.34

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2015年1月~12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	54	104	88	80	31	56	21	50	36	1	10	6	8
2月	55	104	87	71	26	67	16	73	25		6	17	8
3月	55	100	87	72	29	66	14	57	38		9	9	4
4月	55	112	77	56	41	49	21	62	27		17	15	3
5月	55	99	94	58	27	61	21	57	27		11	16	5
6月	54	122	103	74	31	78	24	65	38	1	13	11	4
7月	55	141	95	75	41	58	30	68	50	1	13	3	3
8月	54	91	104	60	40	70	22	71	30		8	6	7
9月	54	170	98	102	32	98	46	142	35	3	17	18	12
10月	54	180	115	100	42	121	33	108	23	1	14	18	14
11月	55	151	102	84	31	119	29	127	29	2	9	12	6
12月	55	145	109	88	38	97	20	125	31	1	14	10	6
合計		1,519	1,159	920	409	940	297	1,005	389	10	141	141	80

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2015年1月~12月

	報告 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	54	1.93	1.63	1.48	0.57	1.04	0.39	0.93	0.67	0.02	0.19	0.11	0.15
2月	55	1.89	1.58	1.29	0.47	1.22	0.29	1.33	0.45		0.11	0.31	0.15
3月	55	1.82	1.58	1.31	0.53	1.20	0.25	1.04	0.69		0.16	0.16	0.07
4月	55	2.04	1.40	1.02	0.75	0.89	0.38	1.13	0.49		0.31	0.27	0.05
5月	55	1.80	1.71	1.05	0.49	1.11	0.38	1.04	0.49		0.20	0.29	0.09
6月	54	2.26	1.91	1.37	0.57	1.44	0.44	1.20	0.70	0.02	0.24	0.20	0.07
7月	55	2.56	1.73	1.36	0.75	1.05	0.55	1.24	0.91	0.02	0.24	0.05	0.05
8月	54	1.69	1.93	1.11	0.74	1.30	0.41	1.31	0.56		0.15	0.11	0.13
9月	54	3.15	1.81	1.89	0.59	1.81	0.85	2.63	0.65	0.06	0.31	0.33	0.22
10月	54	3.33	2.13	1.85	0.78	2.24	0.61	2.00	0.43	0.02	0.26	0.33	0.26
11月	55	2.75	1.85	1.53	0.56	2.16	0.53	2.31	0.53	0.04	0.16	0.22	0.11
12月	55	2.64	1.98	1.60	0.69	1.76	0.36	2.27	0.56	0.02	0.25	0.18	0.11

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2015年1月~12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	123	9	13	5	40	2	64				4		244	16
中央区	3	81	24	49	6	13		29	3		1	3	1	175	35
みなと	2	130	25	403	56	67	38	38			3	3	38	641	160
新宿区	7	282	109	126	78	444	134	231	41		8	72	9	1,155	379
文京	1	61		16		8		25				2		112	
台東	2	18	285	2	18	6	41	19	256	1	59	10	22	56	681
墨田区	2	20	25	10	2	5		12	2		1	1	2	48	32
江東区	2	131	5	37	3	34	2	77		1	2	8	1	288	13
品川区	1	57	5	40	2	15	2	22				2		136	9
大田区	2	41	75		1			18			4			59	80
渋谷区	5	303	75	163	92	228	29	318	16	7	11	11	4	1,030	227
中野区	2	35	9	7			6	10	2	1	2	5	1	58	20
杉並	2	45	9	7		10		28	2			3		93	11
池袋	3	120	108	41	67	33	13	70	26		15	9	1	273	230
北区	1	10		2		25		6						43	
荒川区	1		13		7		1	5			5				31
板橋区	2	19	31	2	9	6	4	17	4		2	3		47	50
足立	2	11	41		1			2	2		3			13	47
江戸川	2	21	55	2	8	4	3	15	4		1	5		47	71
八王子市	4	3	66		14		4		5		9		1	3	99
町田市	1		49		23		10				4				86
多摩立川	2	3	137		15		6		20		10			3	188
多摩府中	3	5	1			2	2	4						11	3
多摩小平	1		3		2				1		1				7
合 計	55	1,519	1,159	920	409	940	297	1,005	389	10	141	141	80	4,535	2,475
定点当たり報告数		27.84	21.24	16.87	7.50	17.23	5.45	18.42	7.13	0.18	2.58	2.58	1.47	83.13	45.37
前年定点当たり報告数		25.14	19.76	15.24	8.76	12.29	5.92	16.19	7.11	0.07	2.28	1.89	0.61	70.83	44.45
当年/前年		1.11	1.07	1.11	0.86	1.40	0.92	1.14	1.00	2.50	1.13	1.37	2.40	1.17	1.02

区中央部圏	10	413	343	483	85	134	81	175	259	1	63	22	61	1,228	892
区南部圏	3	98	80	40	3	15	2	40			4	2		195	89
区西南部圏	5	303	75	163	92	228	29	318	16	7	11	11	4	1,030	227
区西部圏	11	362	127	140	78	454	140	269	45	1	10	80	10	1,306	410
区西北部圏	6	149	139	45	76	64	17	93	30		17	12	1	363	280
区東北部圏	3	11	54		8		1	2	7		8			13	78
区東部圏	6	172	85	49	13	43	5	104	6	1	4	14	3	383	116
南多摩圏	5	3	115		37		14		5		13		1	3	185
北多摩西部圏	2	3	137		15		6		20		10			3	188
北多摩南部圏	3	5	1			2	2	4						11	3
北多摩北部圏	1		3		2				1		1				7

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2015年1月~12月

	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		臙トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	61.50	4.50	6.50	2.50	20.00	1.00	32.00				2.00		122.00	8.00
中央区	3	27.00	8.00	16.33	2.00	4.33		9.67	1.00		0.33	1.00	0.33	58.33	11.67
みなと	2	65.00	12.50	201.50	28.00	33.50	19.00	19.00			1.50	1.50	19.00	320.50	80.00
新宿区	7	41.33	15.95	18.55	11.43	64.64	20.26	33.67	5.98		1.24	10.62	1.31	168.81	56.17
文京	1	61.00		16.00		8.00		25.00				2.00		112.00	
台東	2	9.00	142.50	1.00	9.00	3.00	20.50	9.50	128.00	0.50	29.50	5.00	11.00	28.00	340.50
墨田区	2	10.00	12.50	5.00	1.00	2.50		6.00	1.00		0.50	0.50	1.00	24.00	16.00
江東区	2	65.50	2.50	18.50	1.50	17.00	1.00	38.50		0.50	1.00	4.00	0.50	144.00	6.50
品川区	1	57.00	5.00	40.00	2.00	15.00	2.00	22.00				2.00		136.00	9.00
大田区	2	20.50	37.50		0.50			9.00			2.00			29.50	40.00
渋谷区	5	60.60	15.00	32.60	18.40	45.60	5.80	63.60	3.20	1.40	2.20	2.20	0.80	206.00	45.40
中野区	2	17.50	4.50	3.50			3.00	5.00	1.00	0.50	1.00	2.50	0.50	29.00	10.00
杉並	2	22.50	4.50	3.50		5.00		14.00	1.00			1.50		46.50	5.50
池袋	3	40.00	36.00	13.67	22.33	11.00	4.33	23.33	8.67		5.00	3.00	0.33	91.00	76.67
北区	1	10.00		2.00		25.00		6.00						43.00	
荒川区	1		13.00		7.00		1.00		5.00		5.00				31.00
板橋区	2	9.50	15.50	1.00	4.50	3.00	2.00	8.50	2.00		1.00	1.50		23.50	25.00
足立	2	5.50	20.50		0.50			1.00	1.00		1.50			6.50	23.50
江戸川	2	12.00	27.50	1.00	4.00	3.00	1.50	9.50	2.00		0.50	2.50		28.00	35.50
八王子市	4	0.75	16.50		3.50		1.00		1.25		2.25		0.25	0.75	24.75
町田市	1		49.00		23.00		10.00				4.00				86.00
多摩立川	2	1.50	68.50		7.50		3.00		10.00		5.00			1.50	94.00
多摩府中	3	1.67	0.33			0.67	0.67	1.33						3.67	1.00
多摩小平	1		3.00		2.00				1.00		1.00				7.00
合 計	55	1,519	1,159	920	409	940	297	1,005	389	10	141	141	80	4,535	2,475
定点当たり報告数		27.84	21.24	16.87	7.50	17.23	5.45	18.42	7.13	0.18	2.58	2.58	1.47	83.13	45.37

区中央部圏	10	41.30	34.30	48.30	8.50	13.40	8.10	17.50	25.90	0.10	6.30	2.20	6.10	122.80	89.20
区南部圏	3	32.67	26.67	13.33	1.00	5.00	0.67	13.33			1.33	0.67		65.00	29.67
区西南部圏	5	60.60	15.00	32.60	18.40	45.60	5.80	63.60	3.20	1.40	2.20	2.20	0.80	206.00	45.40
区西部圏	11	33.40	11.74	12.96	7.20	41.75	13.17	24.77	4.15	0.09	0.95	7.43	0.92	118.73	37.27
区西北部圏	6	24.83	23.17	7.50	12.67	10.67	2.83	15.50	5.00		2.83	2.00	0.17	60.50	46.67
区東北部圏	3	3.67	18.00		2.67		0.33	0.67	2.33		2.67			4.33	26.00
区東部圏	6	30.17	14.33	8.47	2.20	7.57	0.87	18.20	1.00	0.17	0.70	2.37	0.57	63.83	19.33
南多摩圏	5	0.60	23.00		7.40		2.80		1.00		2.60		0.20	0.60	37.00
北多摩西部圏	2	1.50	68.50		7.50		3.00		10.00		5.00			1.50	94.00
北多摩南部圏	3	1.67	0.33			0.67	0.67	1.33						3.67	1.00
北多摩北部	1		3.00		2.00				1.00		1.00				7.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2015年1月~12月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		臙トリコモナス症		梅毒様疾患		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1~4歳														
5~9歳														
10~14歳		3		2				1						6
15~19歳	14	78	1	8	5	11	14	8		7	1		35	112
20~24歳	196	311	56	73	70	86	183	79		29	9	20	514	598
25~29歳	278	276	87	83	122	72	214	96	1	29	23	22	725	578
30~34歳	294	199	140	73	186	48	189	57	4	21	22	13	835	411
35~39歳	252	134	142	40	137	35	137	61	3	18	32	12	703	300
40~44歳	213	67	138	50	169	19	122	42		10	21	3	663	191
45~49歳	154	52	126	27	118	12	79	28		15	15	5	492	139
50~54歳	54	27	88	18	63	7	38	13	1	6	10	4	254	75
55~59歳	28	7	68	12	35	2	11	4		3	5	1	147	29
60~64歳	26	1	30	5	19	3	12				3		90	9
65~69歳	9	2	23	6	9		5		1	1			47	9
70歳以上	1	2	21	12	7	2	1			2			30	18
合計	1,519	1,159	920	409	940	297	1,005	389	10	141	141	80	4,535	2,475

表10 検査結果別報告数(基幹) 2015年1月~12月

病原体	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	合計
<i>Streptococcus agalactiae</i>	6					6
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	2					2
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	2					2
other bacteria	2					2
<i>Escherichia coli</i> k1	1					1
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>	1					1
<i>Serratia</i> sp.	1					1
<i>Staphylococcus aureus</i>	1					1
Enterovirus nt.		7				7
Candida		1				1
coxsackievirus a9		1				1
echovirus 9		1				1
herpes simplex virus nt		1				1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>			715			715
<i>Chlamydia pneumoniae</i>				57		57
rotavirus group unknown					85	85
rotavirus group a nt.					4	4
記載無し	23	61	55	2	10	151
合計	39	72	770	59	99	1,039

表11 疑似症サーベイランス報告数 2015年第1週～第53週

週	期 間	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱	保健所	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱	年齢階級	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
1	12.29～1.4	443	4		千代田	4			0歳	12	6
2	1.5～1.11	443	7		中央区	5			1歳	26	6
3	1.12～1.18	443	7	1	みなと	9	2		2歳	12	3
4	1.19～1.25	443	4		新宿区	13			3歳	7	1
5	1.26～2.1	443	3		文京	8			4歳	8	
6	2.2～2.8	443	1		台東	7			5歳	2	1
7	2.9～2.15	443	2		墨田区	9			6歳	1	
8	2.16～2.22	443	8	1	江東区	14			7歳	1	1
9	2.23～3.1	443	2	1	品川区	13			8歳	1	1
10	3.2～3.8	443	1		目黒区	8			9歳	4	
11	3.9～3.15	443			大田区	22			10～14歳		
12	3.16～3.22	443	2	1	世田谷	28			15～19歳	2	
13	3.23～3.29	443			渋谷区	9	32	2	20～29歳	8	1
14	3.30～4.5	443	2		中野区	11			30～39歳	5	
15	4.6～4.12	443			杉並	16			40～49歳	6	1
16	4.13～4.19	443	1		池袋	9			50～59歳	3	
17	4.20～4.26	443	1		北区	11			60～69歳	6	
18	4.27～5.3	443	2	1	荒川区	7			70～79歳	19	
19	5.4～5.10	443			板橋区	18	71	17	80歳以上	3	
20	5.11～5.17	443	2	1	練馬区	21			合 計	126	21
21	5.18～5.24	443		1	足立	21					
22	5.25～5.31	443	1		葛飾区	13					
23	6.1～6.7	443	3	1	江戸川	19					
24	6.8～6.14	443	3		八王子市	19					
25	6.15～6.21	443	2		町田市	13					
26	6.22～6.28	443	1		西多摩	15					
27	6.29～7.5	443			南多摩	15					
28	7.6～7.12	443	3		多摩立川	23	3				
29	7.13～7.19	443	3		多摩府中	36	18				
30	7.20～7.26	443	1		多摩小平	24		2			
31	7.27～8.2	443	1		島しょ	3					
32	8.3～8.9	443	6	1	合 計	443	126	21			
33	8.10～8.16	443	4	2							
34	8.17～8.23	443	1	1							
35	8.24～8.30	443	3	2							
36	8.31～9.6	443	3								
37	9.7～9.13	443	2	5							
38	9.14～9.20	443	1	1							
39	9.21～9.27	443	2								
40	9.28～10.4	443	8								
41	10.5～10.11	443	1								
42	10.12～10.18	443	2	1							
43	10.19～10.25	443	2								
44	10.26～11.1	443	1								
45	11.2～11.8	443	2								
46	11.9～11.15	443	3								
47	11.16～11.22	443	1								
48	11.23～11.29	443	4								
49	11.30～12.6	443	3								
50	12.7～12.13	443	2								
51	12.14～12.20	443	1								
52	12.21～12.27	443	4								
53	12.28～1.3	443	3								
合 計			126	21							



## 第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報



感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

## 1 ウイルス検査結果

### (1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

#### ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2015年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科及び基幹病原体定点より1,411件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液941件、鼻汁81件、髄液158件、糞便176件、結膜拭い液39件、血液5件及びその他（皮膚病巣等）11件であった（表1）。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診断名		検 体 種							
		総計	咽頭拭い液	鼻汁	髄液	糞便	結膜拭い液	血液	その他
呼吸器系疾患	上気道炎	120	111	7	1	1			
	下気道炎	111	93	16		1	1		
	インフルエンザ	106	63	40	1				2
	咽頭結膜熱	76	75				1		
	RS感染症	13	2	11					
	不明熱	26	21	4		1			
感染性胃腸炎		154	8			146			
神経系疾患	無菌性髄膜炎	209	32	2	153	21		1	
	けいれん	3	2		1				
発疹性疾患	手足口病	191	191						
	伝染性紅斑	54	53						1
	突発性発疹	37	34	1		1			1
	ヘルパンギーナ	31	31						
	水痘	14	10						4
	川崎病	5	5						
	不明発疹症	130	122			4	1	1	2
流行性耳下腺炎		65	64						1
流行性角結膜炎		36					36		
その他		30	24		2	1		3	
計		1,411	941	81	158	176	39	5	11

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 452 件（上気道炎 120 件、下気道炎 111 件、インフルエンザ 106 件、咽頭結膜熱 76 件、RS ウイルス感染症 13 件、不明熱 26 件）、感染性胃腸炎 154 件、神経系疾患 212 件（無菌性髄膜炎 209 件、けいれん 3 件）、発しん性疾患 462 件（手足口病 191 件、伝染性紅斑 54 件、突発性発しん 37 件、ヘルパンギーナ 31 件、水痘 14 件、川崎病 5 件、不明発しん症 130 件）、流行性耳下腺炎 65 件、流行性角結膜炎 36 件、「その他」 30 件であった。

## イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 1,411 件のうち、血液を除く 1,406 件を対象に、細胞培養（HeLa、HEp-2、RD-A、MDCK、Vero、A549、B95a、C6/36 細胞等）によるウイルス分離試験と、酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った。その結果、ウイルス分離試験では 182 件、酵素抗体法では 14 件のロタウイルスが検出され、合計 196 件のウイルスが分離検出された（表 2）。分離された 182 件のウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス 62 株、アデノウイルス 57 株、コクサッキーウイルス 33 株、エコーウイルス 11 株、ライノウイルス 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 型 6 株、ムンプスウイルス 12 株であった。

表 2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	水痘	川崎病	不明発疹症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	その他	
インフルエンザ	AH1pdm09	5			5														
	AH3亜型	39	1	1	37														
	B型(Victoria)	3			3														
	B型(Yamagata)	15		1	14														
アデノ	1型	15	2		1	6	2	1		1					1	1			
	2型	18	1		1	8		1	1		1				3		1	1	
	3型	8	1			5											2		
	4型	12				10											2		
	5型	1								1									
	31型	1						1											
	37型	1															1		
	41型	1						1											
コクサッキー	A群5型	1										1							
	A群6型	2										1	1						
	A群10型	1	1																
	A群14型	1							1										
	A群16型	20							19			1							
	B群2型	2							2										
	B群3型	4	1					1	1						1				
	B群5型	2						1	1										
エコー	3型	3	1						1										
	9型	4							4										
	18型	2							1						1				
	25型	1										1							
	33型	1							1										
ライノ	1								1										
単純ヘルペス	1型	6	1		1			1								2		1	
ムンプス		12														11		1	
A群ロタ		14																	
総計	196	9	2	62	29	2	20	13	21	2	1	4	1	1	5	14	6	4	

注：1検体から検出されるウイルスは、複数となる場合がある。

2015 年最も多く分離されたウイルスは、インフルエンザ AH3 亜型（39 株）で、多くがインフルエンザ患者検体（37 株）から分離されたが、下気道炎（1 株）、上気道炎（1 株）の患者検体からも分離されている。

コクサッキーウイルスでは、A群16型(20株)が最も多く分離され、主に手足口病(19株)の患者検体から分離されたが、ヘルパンギーナ(1株)の患者検体からも分離された。

### ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を図1及び表3に示した。

搬入された1,411検体を対象に3,359件の遺伝子検索を実施した結果、796検体から884件のウイルス遺伝子が検出された(複数種のウイルス遺伝子の同時検出例を含む)。陽性例の内訳をみると、エンテロウイルスが291件と最も多く、以下アデノウイルス176件、インフルエンザウイルス88件、ライノウイルス66件、ノロウイルス62件、ヒトヘルペスウイルス52件、パルボウイルスB19 42件、ムンプスウイルス32件、EBウイルス18件、ヒトメタニューモウイルス14件、サポウイルス10件、単純ヘルペスウイルス7件、水痘帯状疱疹ウイルス7件、サイトメガロウイルス5件、麻しんウイルス5件、RSウイルス5件、風しんウイルス2件、パレコウイルス2件であった。

エンテロウイルス遺伝子が陽性となった検体については、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の塩基配列を決定し、遺伝子データベースを利用して相同性検索を行った。291検体を解析した結果は、コクサッキーウイルスA群207件、エコーウイルス29件、エンテロウイルスD68型26件、コクサッキーウイルスB群10件、型別不明19件であった。

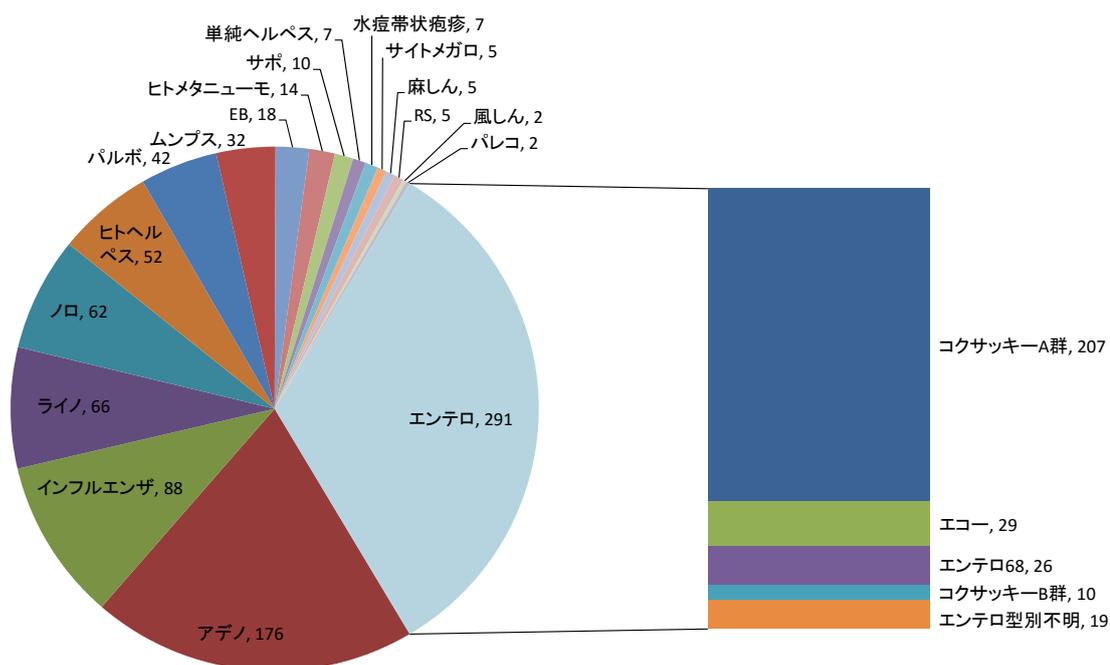


図1. ウイルス遺伝子検出数 (陽性例 884 件)

表3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	咽頭結膜熱	RS感染症	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	けいれん	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	水痘	川崎病	不明発疹症	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	その他
インフルエンザ																				
H1pdm09	5			5																
AH3亜型	62	1	2	59																
B型	21		1	20																
アデノ	176	19	18	9	49	1	7	20	2		1	11	2			1	12	6	17	1
A群2型	2		1											1						
A群4型	1													1						
A群5型	3	1												2						
A群6型	131	5	1					1	1	2	102			15	1		3			
A群9型	19	1					1	7			4	1	1				4			
A群10型	4	1									2			1						
A群14型	2										2									
A群16型	45		1								42			1			1			
B群2型	3								3											
B群3型	3	1						1								1				
B群5型	4								3							1				
3型	3	1							1											1
6型	1								1											
9型	17	1					1	15									1			1
18型	5							3												
25型	2							1						1						
33型	1							1												
エンテロ																				
D68	26	8	7	1		2	1	1	1		4						1			1
型別不明	19	1	2	2	1			4	4	4	2		1				2			
パレコ	2							2												
ライノ	66	14	20	2		1	2	2		10	3			1	1	1	5	2		2
単純ヘルペス																				
1型	6	1		1				1												1
2型	1							1												
EB	18	5					1											10		2
サイトメガロ	5	1															1	3		
ヒトヘルペス																				
6型	48		1	1			3			1	1	23					18			
7型	4											1					3			
水痘帯状疱疹	7									1					6					
バルボウイルス																				
B19	42			2								32						8		
麻しん													1					3		
A型	4																			
型別不明	1																			
風しん	2																		2	
ムンプス	32								6									25		1
RS	5		3			2														
ヒトメタニューモ	14	1	13																	
ノロ								14												
G I	14																			
G II	48							48												
サボ	10							10												
総計	884	62	70	102	50	6	16	94	55	2	173	51	28	24	8	4	64	48	17	10

注: 1検体から検出されるウイルスは、複数となる場合がある。

この解析の結果、2015年の手足口病患者検体から検出されたウイルスはコクサッキーウイルスA群6型が多いことが判明した。次いでコクサッキーウイルスA群16型も多く検出された。またヘルパンギーナ患者検体からも、コクサッキーウイルスA群6型が最も多く検出された。

無菌性髄膜炎患者からは、エコーウイルス9型を中心に、コクサッキーウイルスA群9型、ムンプスウイルスやコクサッキーウイルスB群2型、同5型など多様なウイルスが検出された。

ライノウイルスは一般的に鼻風邪の原因ウイルスとされているが、下気道炎から最も多く検出され、上気道炎、手足口病からも多く検出されていた。

ヒトヘルペスウイルスは突発性発疹の原因ウイルスとされているが、不明発疹症患者からも多く検出された。

## エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

### ① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から多く検出されたウイルスのうちインフルエンザウイルスの検出状況を図2、アデノウイルス、エンテロウイルス、ライノウイルス、ヒトメタニューモウイルス、RSウイルスの月別の検出状況を図3に示した。

インフルエンザウイルス AH3 亜型の検出は1月の流行期をピークに4月にかけて減少し、6月には検出されなくなったが、10月から11月にかけて再度検出された。B型は4月を検出のピークとし、5月まで検出された。AH1pdm09は、2月と12月に検出された。本年は6月、7月、9月を除きほぼ一年を通してインフルエンザウイルスが検出された。

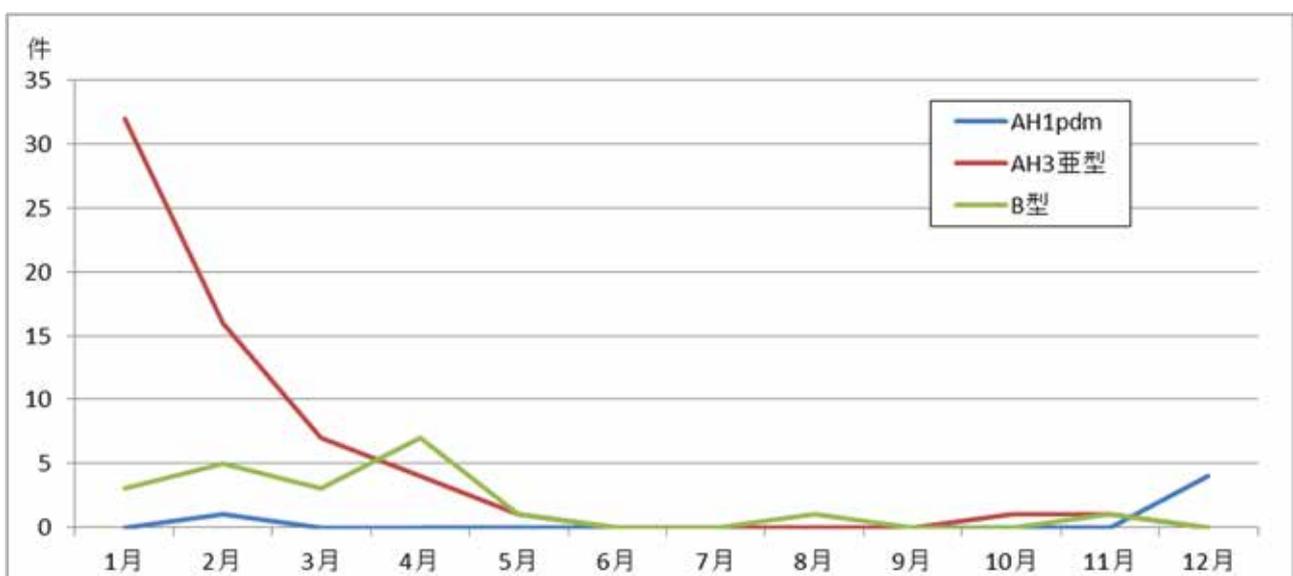


図2. 呼吸器感染症患者検体からのインフルエンザウイルスの月別検出状況

毎年咽頭結膜熱の原因ウイルスとして夏に多く検出されるアデノウイルスは、1、5、6月に検出数が多く一年を通して検出されていた。夏風邪の原因とされるエンテロウイルスは5月から検出が増え、9月をピークとして12月まで検出が続いた。遺伝子解析の結果、9月のピーク時に検出されたエンテロウイルス16検体のうち15検体がエンテロウイルスD68であった。また、ライノウイルスはほぼ一年を通して検出が続いた。春から初夏に検出されることの多いヒトメタニューモウイルスは3月から4月にかけて検出された。一方、秋から冬にかけて流行がみられる事が多いRSウイルスは1月と3月に検出され、その後は12月まで検出されなかった。

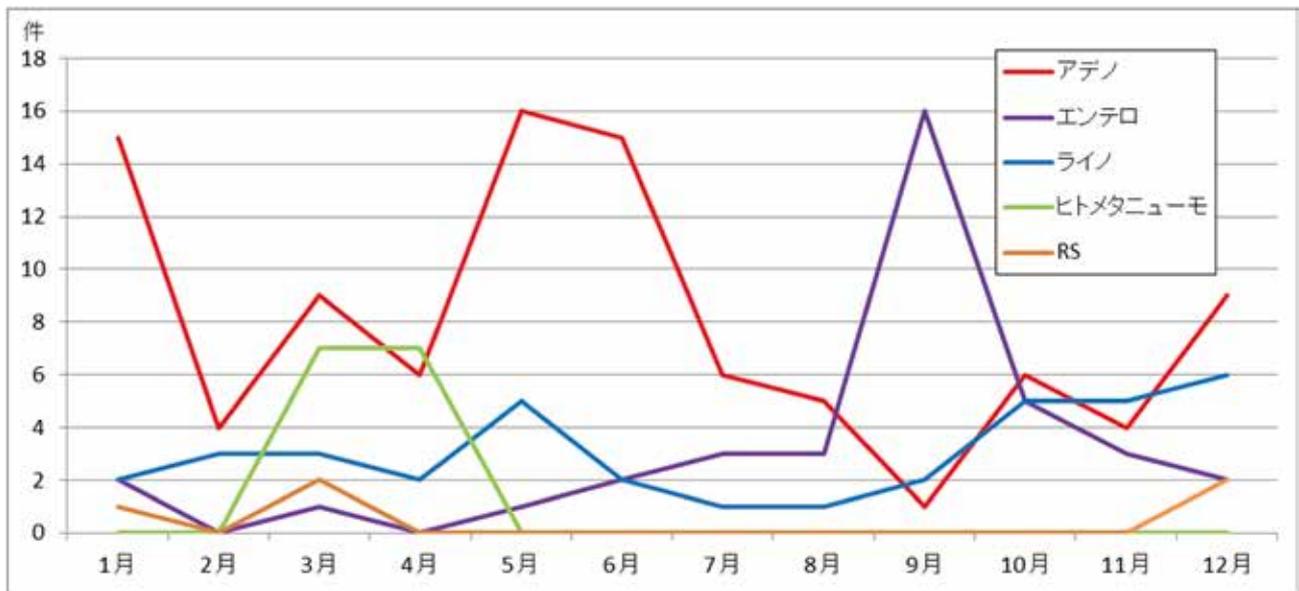


図3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス、ムンプスウイルス及びパレコウイルスについて月別の検出状況を図4に示した。

2015年は41件のエンテロウイルスが10月をピークとして7月から12月まで検出され、検出されたウイルスの半数以上を占めた。ムンプスウイルスは、1年を通して断続的に6件検出され、パレコウイルスは6月と7月にそれぞれ1件検出された。

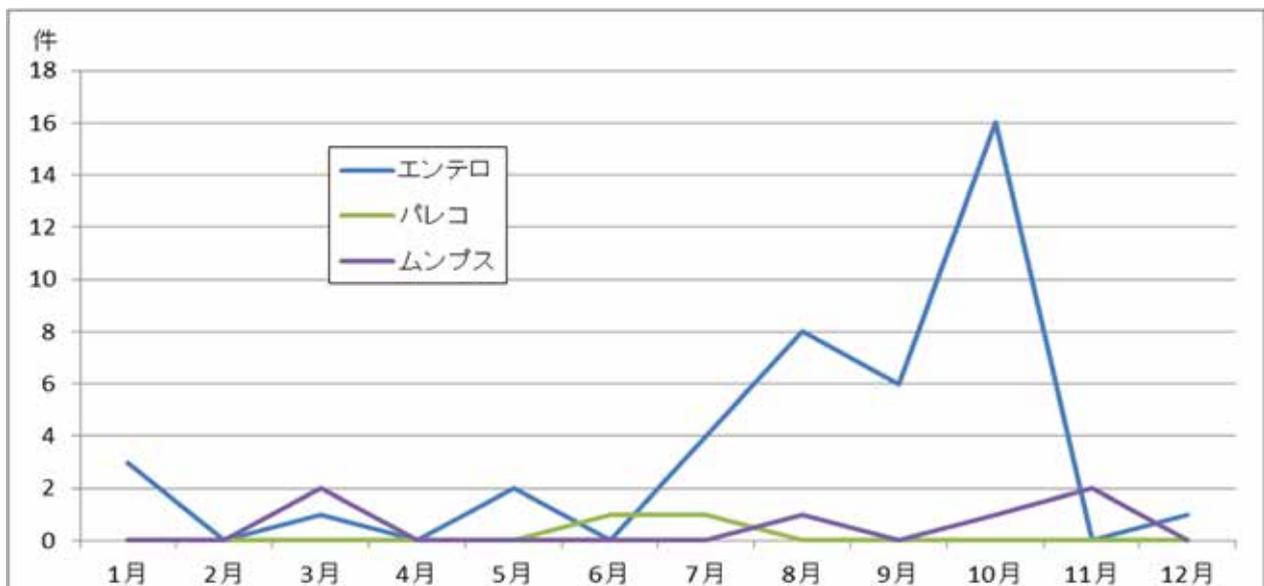


図4. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

### ③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から遺伝子検索、抗原検出（酵素抗体法）によって検出されたウイルスの検出数を図5に示した。

ノロウイルスは前年から続く流行で2月をピークに多く検出されていたが、8月にかけて検出数が減少し、9月から再び増加した。ノロウイルスが検出されなかったのは8月のみであった。毎年、春先に流行のみられることが多いロタウイルスは、2月から7月まで検出され、3、4月の検出数が最多であった。サポウイルスは2、3月にも検出されたが、6月にピークがみられ7月まで検出された。アデノウイルスは、一年を通じて断続的に検出されていた。

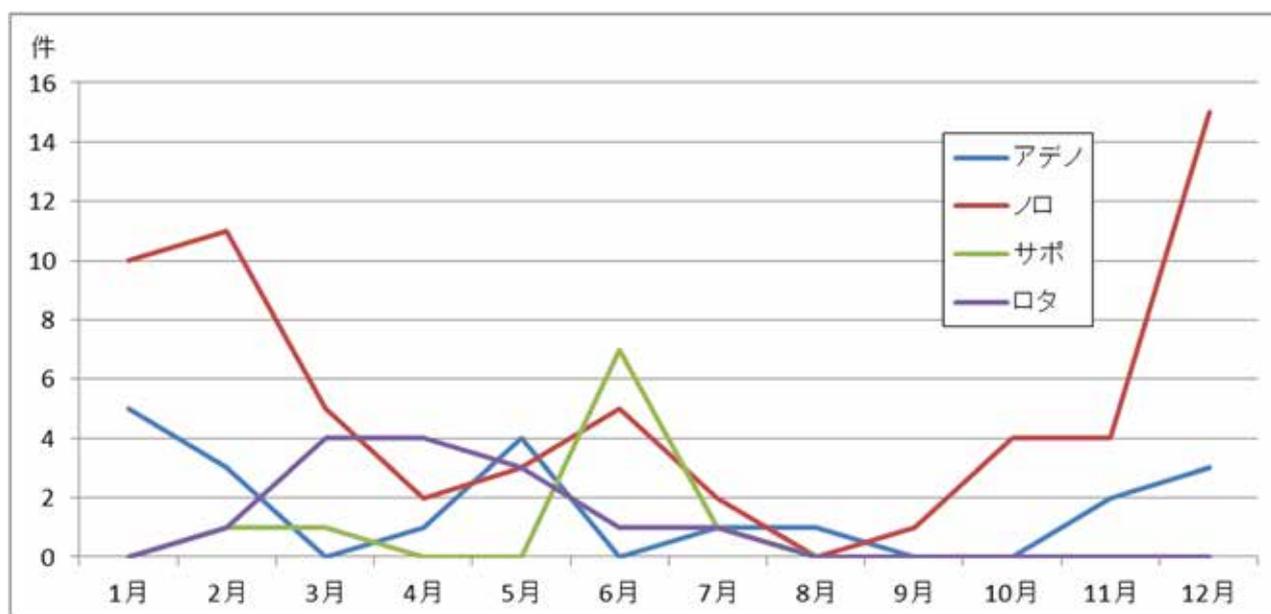


図5. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

### ④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

遺伝子検出状況を図6に示す。エンテロウイルス 192 件（遺伝子解析結果；コクサッキーウイルス A 群 176 件、同ウイルス B 群 4 件、エコーウイルス 1 件、エンテロウイルス D68 型 4 件、型別不明 7 件）、パルボウイルス B19 32 件、ヒトヘルペスウイルス 26 件（ヒトヘルペスウイルス 6 型 25 件、同 7 型 1 件）、ライノウイルス 17 件、アデノウイルス 16 件、水痘帯状疱疹ウイルス 7 件、麻しんウイルス 2 件の計 292 件が検出された。

コクサッキーウイルス A 群は、夏季に多く流行する手足口病やヘルパンギーナの原因ウイルスとされている。2015 年の発しん性患者検体から同ウイルスは 176 件検出され、中でも 6 型が 118 件、16 型が 43 件と多数検出された。

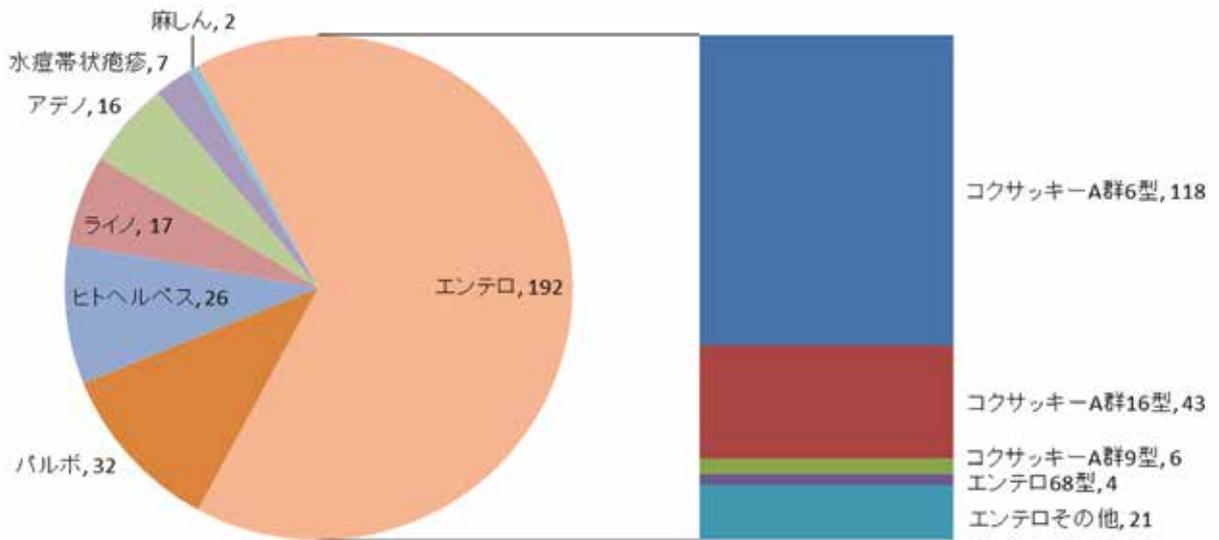


図6. 発しん性疾患患者検体からの主な月別ウイルス検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

遺伝子検出状況は図7に示した。陽性例 64 件の内、ヒトヘルペスウイルスは 21 件と最も多く検出された。さらにアデノウイルス 12 件、コクサッキーウイルス A 群 8 件、パルボウイルス B19 8 件、ライノウイルス 5 件、麻疹ウイルス 3 件、エンテロウイルス型別不明 2 件、風しんウイルス 2 件、サイトメガロウイルス、エコーウイルス、エンテロウイルス D68 がそれぞれ 1 件 (0.5%) 検出された。

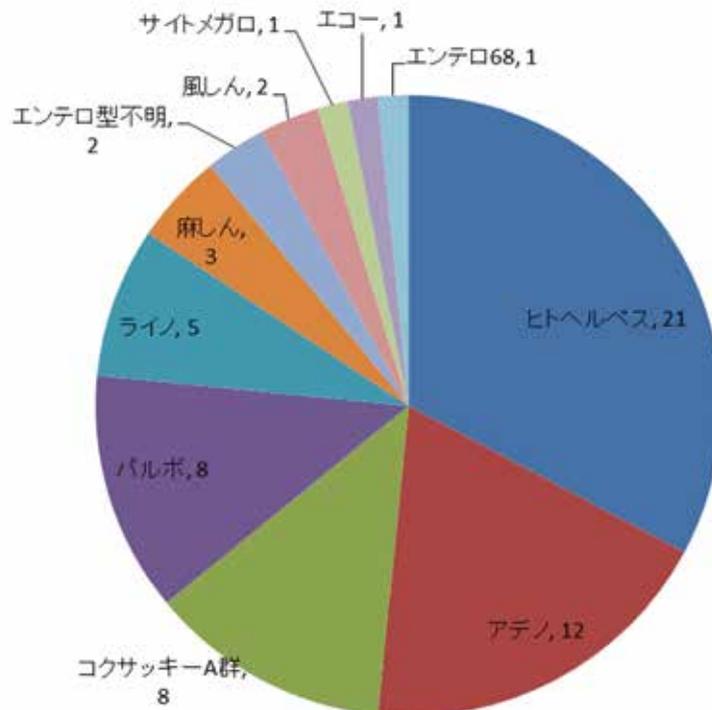


図7. 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況

## ⑥ 川崎病患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）再掲

川崎病患者検体 5 検体から 4 件のウイルス遺伝子が検出され、アデノウイルス、ライノウイルス、コクサッキーウイルス B 群 3 型、コクサッキーウイルス B 群 5 型がそれぞれ 1 件であった。

## オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

臨床診断でリケッチア及び関連感染症として都内 2 医療機関から 13 件の検査依頼があった。これらについて紅斑熱群リケッチア（Spotted fever : Rickettsia japonica、R. rickettii 等）、発疹熱群リケッチア（R. typhi、R. prowazackii 等）、ツツガムシ病リケッチア（Orientia tsutsugamushi）、Q 熱（Coxiella burnetii I 相菌、II 相菌）、ライム病（Borrelia burgdorferi）、重症熱性血小板減少症候群（SFTS : SFTS ウイルス）等の検査を行った。臨床診断名別にみると、日本紅斑熱・発疹熱などのリケッチア症（疑い例を含む、以下同様）で搬入されたもの 6 件、つつが虫病 1 件、Q 熱 2 件、ライム病 2 件、SFTS 1 件、不明熱 1 件であった。このうち海外渡航歴のあったものは 5 件あった。つつが虫病疑いの検体では、IgM 抗体が検出されたものが 1 件あったが、他の診断名で搬入された検体の検査結果はいずれも陰性であった。

## （2）内科病原体定点医療機関から搬入された検体の検査結果

### ア 2014/2015 年シーズンのウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月（第 36 週）を境にシーズン分けされており、2015 年の前半は 2014/2015 年シーズン、2015 年の後半は 2015/2016 年シーズンとなる。2015 年は第 1 週から第 35 週までに 139 検体が搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 1 件、AH3 亜型 89 件、B 型 49 件（Victoria 系統 2 件、Yamagata 系統 47 件）の計 139 件が検出され（図 8）、ウイルス分離試験では AH1pdm09 型 1 株、AH3 亜型 89 株、B 型 46 株（Victoria 系統 2 株、Yamagata 系統 44 株）の計 136 株が検出された。2014/2015 年シーズンを通して遺伝子検出状況をみると、AH1pdm09 1 件（0.5%）、AH3 亜型 145 件（73.9%）、Victoria 系 B 型 2 件（1.0%）、Yamagata 系 B 型 48 件（24.5%）が検出され（図 9）、流行の大部分を AH3 亜型が占めていた。

### イ 2015/2016 年シーズンのウイルス検出状況

2015/2016 年シーズンは、第 36 週（2015 年 8 月 31 日～9 月 6 日）からはじまり、2015 年 12 月までに 58 検体が搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 2 件、AH3 亜型 8 件、Yamagata 系 B 型 1 件の計 11 件、ウイルス分離試験では AH1pdm09 1 件、AH3 亜型 8 株、Yamagata 系 B 型 1 株の計 10 株が検出された。2015/2016 年シーズンは、2015 年 12 月末現在、インフルエンザの流行に至っていない。

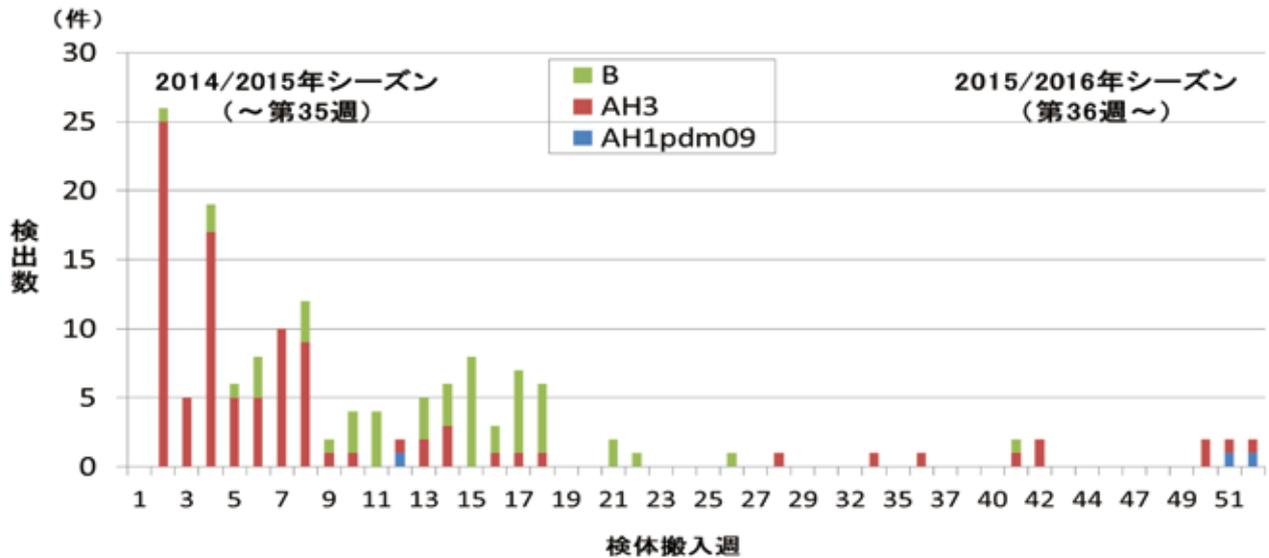


図 8. 内科病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス遺伝子検出数

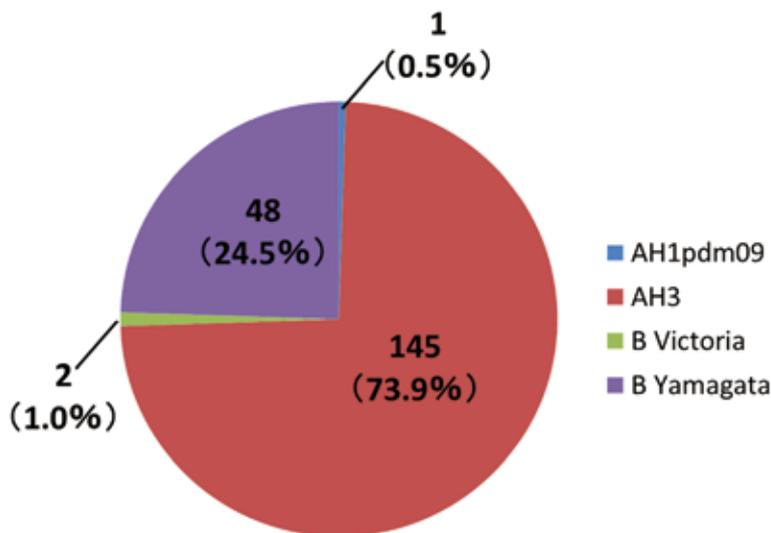


図 9. 2014/2015 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

### ウ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、2014/2015 年シーズンに流行したインフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested PCR 検査によって得られた HA (ヘマグルチニン) 遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験 (1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用) により行った。

2014/2015 年シーズンの AH1pdm09 検出株とワクチン株 (A/California/07/2009) との比較したところ、遺伝子変異は 11 塩基、相同性は 97.6%であり (図 10)、HI 試験においてワクチン株と同等の反応性がみられたことから、分離株もワクチン株と同等の抗原性を有していたと考えられる。

AH3 亜型流行株は、2014/2015 年シーズンワクチン株 (A/New York/39/2012) と比較すると 2~12 塩

基の変異がみられ、相同性は96.4%~99.2%であった(図11)。系統樹上では2つのグループに分かれたが、変異がみられた株においても、ワクチン株と同等の反応性がみられ、抗原性に大きな変異はないと推察された。

B型では、Victoria系統の検出株は2011/2012年シーズンのワクチン株であったB/Brisbane/60/2008株との変異は5塩基であり、相同性は98.6%であった(図12)。また、分離株はB/Brisbane/60/2008株抗血清に対して同等の反応性があることから抗原性に大きな変異はないものと推察された。Yamagata系統の流行株は、2013/2014/2015年シーズンワクチン株(B/Massachusetts/2/2012)よりも2012/2013年シーズンワクチン株(B/Wisconsin/01/2010)に近縁な株が多くみられ、2014/2015年シーズンのワクチン株と比較すると、変異は9~13塩基であり、相同性は95.2%~96.5%であった(図12)。また、分離株の大半はB/Massachusetts/02/2012株抗血清に対する反応性が低く、B/Wisconsin/01/2010株抗血清に対する反応性の方が高かった。

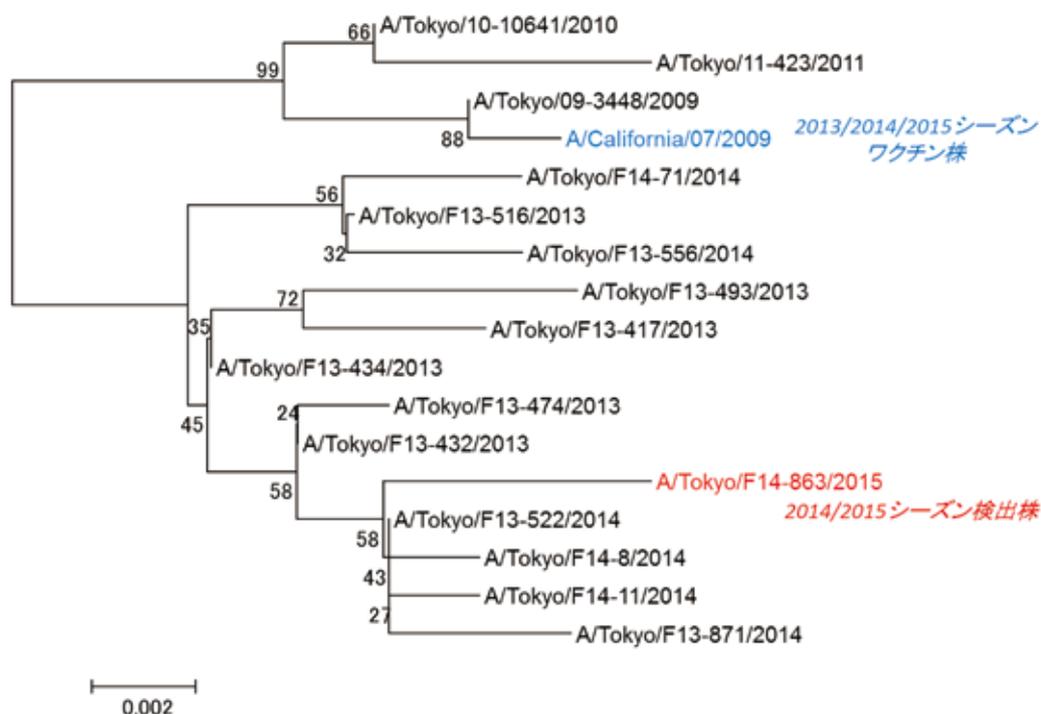


図10. 東京都におけるAH1pdm09インフルエンザウイルスのHA分子系統樹

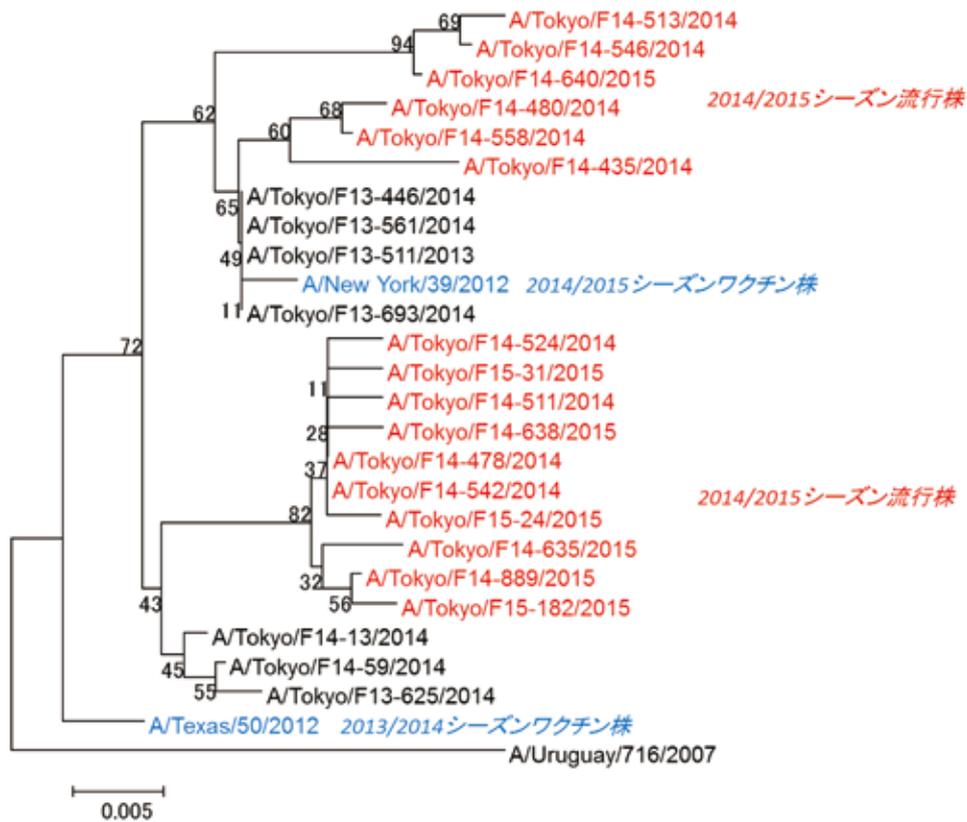


図 11. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

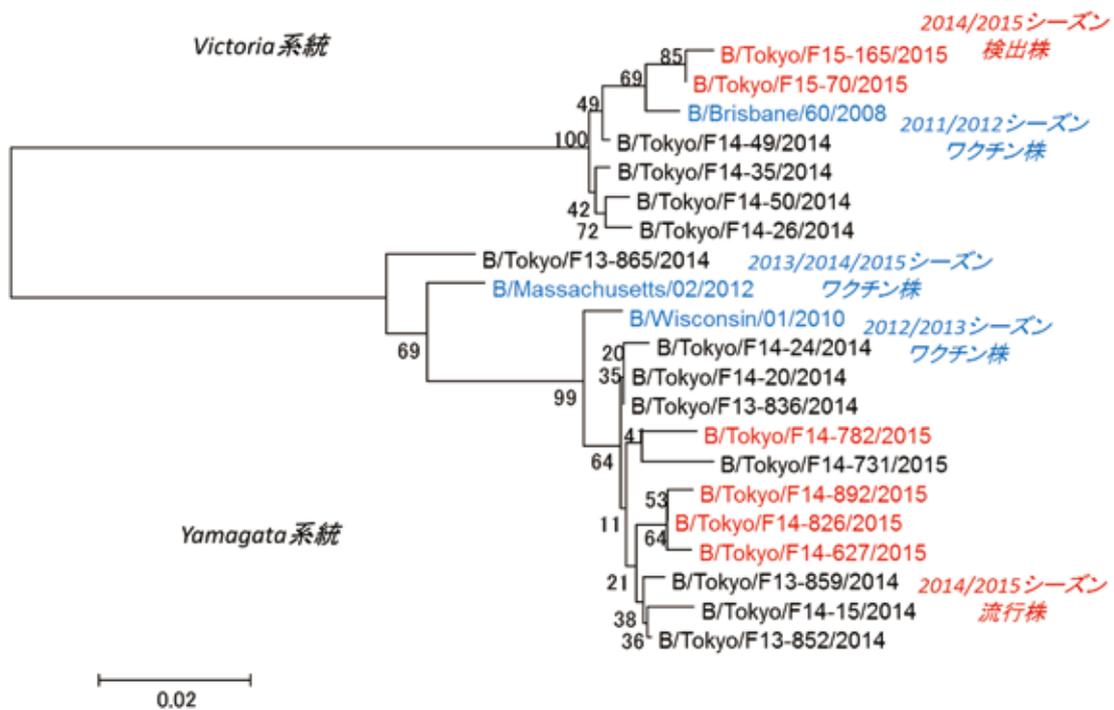


図 12. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

## 2 細菌検査結果

### (1) 二類感染症の病原体検索

#### ア ジフテリア

当センターにジフテリア疑い患者の喀痰から分離された菌株 2 株が搬入され、菌種の同定及び毒素原性試験と毒素遺伝子の確認を行った。その結果、毒素非産生のジフテリア菌であることが判明した。

### (2) 三類感染症の病原体検索

当センターに搬入された胃腸炎患者の糞便 8 件についてコレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症の病原体検索を行ったが、いずれも検出されなかった。

### (3) 四類感染症の病原体検索

#### ア レジオネラ症

レジオネラ症 17 事例、36 件の検体が搬入された。その内訳は、患者喀痰 3 件、患者由来株 17 株及び患者関連環境由来株 16 株であった。患者由来株についての血清型別試験を実施した結果、15 株が 1 群であり、2 群と 5 群が 1 株ずつであった。喀痰については、レジオネラ属菌の遺伝子検査及び分離培養を実施した結果、すべて陰性であった。

また、2 事例について患者由来株と環境由来株についてパルスフィールド電気泳動法による遺伝子解析を実施した。その結果、いずれの事例も患者由来株と同一パターンを示した環境由来株が認められた。

### (4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

#### ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

搬入された患者由来株は 48 株(48 事例)で、A 群レンサ球菌が 31 株、B 群レンサ球菌が 9 株、C 群レンサ球菌が 2 株、G 群レンサ球菌が 6 株であった。A 群レンサ球菌 31 株のうち 30 株が *Streptococcus pyogenes* であり、その T 血清型は、1 型:10 株、3 型:2 株、6 型:3 株、12 型:3 株、B3264 型:6 株、4 型、13 型、28 型、14/49 型がそれぞれ 1 株ずつ、型別不能は 2 株であった。M タンパクをコードする遺伝子により型別を行う emm 型別を実施した結果、1 型が 10 株と最も多く、次いで 89 型が 6 株であった。

B 群レンサ球菌 9 株の血清型を実施した結果、Ib 型:4 株、III 型:2 株、VI 型、VII 型及び型別不能がそれぞれ 1 株ずつであった。

また、*S.pyogenes* ではなかった A 群レンサ球菌の 1 株、及びすべての G 群レンサ球菌(6 株)は、*S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であり、C 群レンサ球菌のうち 1 株の菌種は、*S.anginosus* であった。

#### イ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

搬入された患者由来株は 9 株であり、インフルエンザ菌の莢膜抗原血清型 f 型は 1 株であり、残りの 8 株はすべて型別不能であった。

#### ウ 侵襲性髄膜炎菌感染症

本疾患の患者由来菌株は 9 株搬入され、PCR 法による型別を実施した結果、B 群が 1 株、C 群が 1 株、Y 群が 5 株、W135 群が 2 株であった。

## エ 侵襲性肺炎球菌感染症

搬入された患者由来株は 72 株 (63 事例) であり、肺炎球菌の莢膜抗原血清型別及びペニシリンに対する薬剤感受性試験を実施した。その結果、血清型については、24F 型と 15A 型が最も多くそれぞれ 11 株、次いで 12F 型が 9 株、19A 型が 7 株、3 型、10A 型、35B 型が各 5 株ずつであり、34 型、11A 型、18C 型、24B 型、7F 型が、それぞれ 2 株ずつ、その他の型が 9 株あった。また、ペニシリンに対する薬剤感受性試験の結果、ペニシリン耐性肺炎球菌 (PRSP) は、72 株中 24 株であった。

## オ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症

搬入された菌株は患者由来株 4 株であり、いずれも *Enterococcus faecium* で *vanB* 遺伝子を保有していた。

## カ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

平成 27 年 10 月から全数確保となった本疾患患者由来株は、4 株搬入された。そのうち 3 株が、*Acinetobacter baumannii* であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結果、OXA-51-like  $\beta$ -ラクタマーゼをコードする遺伝子とプロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (ISAba1) を保有していた。

また、残りの 1 株は *A. calcoaceticus* であり、PCR 法により検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった。

## キ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

平成 27 年 10 月から全数確保となった本疾患患者由来株は 22 株搬入され、保菌者由来株が 5 株搬入された。菌株の内訳は、*Enterobacter* 属が最も多く 16 株、次いで *Escherichia coli* が 5 株、*Serratia marcescens* が 3 株、*Klebsiella pneumoniae*、*K. oxytoca*、*Providencia rettgeri* が各 1 株ずつであった。

PCR 法による 17 種類の耐性遺伝子の検出を実施した結果、IMP-1 遺伝子のみを保有している株が最も多く 8 株であり、次いで EBC 遺伝子のみ保有株が 5 株、NDM-5 遺伝子のみ保有株が 2 株、NDM-5 及び CTX-M-1 遺伝子保有株が 2 株であった。また、NDM-1 遺伝子のみ保有、CTX-M-1 及び IMP-1 遺伝子保有、TEM・CTX-M-2g 及び IMP-1 遺伝子保有、SHV・CTX-M-9 及び DHA 遺伝子保有株はそれぞれ 1 株ずつであり、いずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 6 株であった。

## (5) 五類感染症 (定点把握対象) の病原体検索

### ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌感染症患者由来検体は 102 件であった。その内訳は咽頭スワブが、73 件、皮膚スワブが 1 件、菌株 28 株であった。

搬入されたスワブから分離された A 群溶血性レンサ球菌は 44 株であり、菌株で搬入された 28 株を合わせた合計 72 株について T 血清型別試験を実施した。その結果、T4 型が 25 株と最も多く、次いで T3 型:14 株、T1 型:11 株、T12 型:9 株、T28 型:4 株であった。また、T6 型と B3264 型はそれぞれ 3 株ずつであり、T11 型、T25 型及び型別不能株がそれぞれ 1 株ずつであった。

### イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 8 件について細菌検査を実施した。その結果、4 件 (50.0%) から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、全てカンピロバクター (*C. jejuni*) であった。患者年齢階級別の病原体検出状況を表 4 に示した。

表4. 感染性胃腸炎患者からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検出病原菌
		カンピロバクター
1歳未満	0	
1 - 4歳	3	1
5 - 9歳	2	1
10 - 14歳	1	1
15 - 19歳	0	
20歳以上	2	1
不明	0	
計	8	4
(%)	(100)	(50.0)

#### ウ 百日咳

都内の定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁または咽頭拭い液が27検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、2検体から百日咳菌遺伝子が検出されたが、百日咳菌は分離培養されず、*Moraxella catarrhalis* 8株、肺炎球菌5株、黄色ブドウ球菌3株、A群溶血性レンサ球菌2株が分離された。

#### エ マイコプラズマ肺炎

都内の定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が39検体及び髄液1検体が搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、21検体から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、16株の肺炎マイコプラズマが分離された。

#### オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

都内の定点医療機関から6株のMRSAが搬入され、コアグララーゼ型別（コ型と略す）、エンテロトキシン（SEと略す）産生性及びToxic shock syndrome toxin-1（TSST-1と略す）産生性の試験を実施した。その結果、4株がコ型Ⅲであり、そのうちSEC+TSST-1産生性株が3株であり、残りの1株はSEA産生株であった。その他は、コ型がV型とⅦ型が1株ずつであり、V型は毒素非産生株、Ⅶ型株はSEA+SEB産生株であった。

### 3 性感染症の病原体検索

2015年1月から12月に都内4ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI定点）より搬入された検体について、クラミジア、淋菌、梅毒トレポネーマ、膣トリコモナス、パピローマウイルスおよびヘルペスウイルス等の病原体の検出を行うとともに、遺伝子型、血清型等の検出状況を解析した。

#### （1）クラミジア・トラコマチス、淋菌、梅毒トレポネーマ及び膣トリコモナス検査

##### ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌の検査

STI定点より搬入された449例について検査を実施した。搬入検体の内訳は、男性では陰部擦過物（スワブ）104例、尿313例の合計417例、女性ではスワブ23例、尿0例の合計23例、性別不明例ではスワブ1例、尿8例の合計9例であった。

クラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査は、Transcription Mediated Amplification: TMA法（パンサー、ホロジック社）で実施した。クラミジア・トラコマチスについては、男性108例（25.9%）、

女性 18 例（78.3%）、性別不明 1 例（11.1%）から遺伝子が検出された。淋菌は男性 70 例（16.8%）から検出されたが、女性からは検出されなかった。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出された例は、男性で 11 例（2.6%）あった。

年齢階級別にみた検査結果では（表 5）、男性 20～40 歳代でクラミジア・トラコマチス遺伝子が 94 例（87.0%）検出され、淋菌遺伝子が 61 例（87.1%）検出された。

淋菌およびその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地およびサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。淋菌については薬剤感受性試験を行った。

淋菌遺伝子が検出された 70 例のうち男性 28 例から淋菌が分離され、淋菌分離率は 40.0%であった。その他の病原体として、髄膜炎菌が男性から 4 例（1.0%）、カンジダ・アルビカンスが男性から 2 例（0.5%）分離された。

### イ 梅毒トレポネーマ検査

2 例の男性のスワブについて、梅毒トレポネーマの *polA*, TPN47 領域を標的とした PCR による遺伝子検査を行った結果、2 例からトレポネーマ遺伝子が検出された。

### ウ 膣トリコモナス検査

4 例の女性のスワブについて、膣トリコモナスの ITS1, 5.8S rRNA, ITS2 領域を標的とした PCR による遺伝子検査を行った結果、3 例から膣トリコモナス遺伝子が検出された。

表 5. 性別および年齢階級別の病原体検査成績

年齢階級	検査数	遺伝子検査				分離培養		
		クラミジア・ トラコマチス	淋菌	梅毒	膣トリコモナス	淋菌	髄膜炎菌	カンジダ・ アルビカンス
10歳代	3		1					
20歳代	94	31	21			10	2	1
30歳代	129	32	25	2		9	1	
40歳代	113	31	15			6	1	
50歳代	47	9	7			3		1
60歳代	19	5	1					
70歳以上	10							
不明	2							
計	417	108	70	2	0	28	4	2
10歳代	4	4			1			
20歳代	10	8			1			
30歳代	5	3						
40歳代	4	3		1				
計	23	18	0	0	3	0	0	0
20歳代	1							
30歳代	1	1						
40歳代	2							
50歳代	1							
60歳代	1							
70歳以上	1							
不明	2							
計	9	1	0	0	0	0	0	0
合計	449	127	70	2	3	28	4	2

### エ 性別および臨床診断別の性感染症病原体検査結果

臨床診断別の病原体検査成績を表 6 に示した。男性では、尿道炎と診断された 364 例中 101 例

(27.7%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。また、29 例 (8.0%) から淋菌遺伝子が検出され、うち 6 例から淋菌が分離された。さらに 2 例から髄膜炎菌 (0.5%) が分離され、2 例 (0.5%) からカンジダ・アルビカンスが分離された。淋菌性尿道炎と診断された 47 例中 40 例 (85.1%) から淋菌遺伝子が検出され、うち 22 例から淋菌が分離された。また、6 例 (12.8%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、2 例から髄膜炎菌 (0.5%) が分離された。さらに陰茎潰瘍、梅毒と診断された各 1 例から梅毒遺伝子がそれぞれ検出 (100%) された。

女性では、性器クラミジアと診断された 19 例中 17 例 (89.5%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、膣トリコモナスと診断された 3 例中 3 例 (100%) から膣トリコモナス遺伝子が検出された。また、性器クラミジア+子宮頸管炎と診断された 1 例からクラミジア・トラコマチス遺伝子と膣トリコモナス遺伝子が検出 (100%) された。

性別不明例では、尿道炎と診断された 9 例中 2 例 (22.2%) からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。

表 6. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

臨床診断 (疑い例含む)	検査数	遺伝子検査				分離培養		
		クラミジア・ トラコマチス	淋菌	梅毒	膣トリコモナス	淋菌	髄膜炎菌	カンジダ・ アルビカンス
尿道炎	364	101	29			6	2	2
淋菌性尿道炎	47	6	40			22	2	
前立腺炎	3	1	1					
膀胱炎	1							
陰部潰瘍	1			1				
梅毒	1			1				
計	417	108	70	2	0	28	4	2
性器クラミジア	19	17						
性器クラミジア+淋菌感染症	1							
性器クラミジア+膣トリコモナス	1	1			1			
膣トリコモナス	2				2			
計	23	18	0	0	3	0	0	0
不明	尿道炎	9	2					
計	9	2	0	0	0	0	0	0
合計	449	128	70	2	3	28	4	2

## オ クラミジア・トラコマチスの血清型別遺伝子検査の結果

クラミジア・トラコマチスは、血清型に基づいて A~L 型に分類され、アフリカやアジア等のトラコーマ流行地において多く検出されるトラコーマ型の A~C 型、トラコーマ非流行地で主に検出される性器クラミジア感染症型の D~K 型、鼠径リンパ肉芽腫症の起因菌となる L 型にそれぞれ分けられている。

TMA 法により陽性となった検体を対象に、クラミジア・トラコマチス血清型の遺伝子検査を行った。検体よりゲノム DNA を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子 (*omp1*) の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI (米国生物工学情報センター) の核酸データベースにおける BLAST 検索および解析により血清型を判定した。

遺伝子検査陽性の 128 例のうち、遺伝子解析により 119 例の血清型が同定出来た。血清型別判定の内訳を表 7 に示した。

D、E、F の 3 つの型の合計で 68.9% であり、2014 年と同様に過半数を占めていた。またトラコーマ型の B および Ba 型が 2 例検出された。この他、性器クラミジア感染症型の G~K 型

もそれぞれ検出されたが、鼠径リンパ肉芽腫症型である L 型は検出されなかった。なお、9 例については、血清型別に用いるターゲット部位の核酸増幅が行えず、血清型が不明となった。

表 7. クラミジア・トラコマチスの血清型別結果

検体数	血清型								
	B 及び Ba	D 及び D/Da	E	F	G	H	I, Ia 及び I/Ia	J 及び Ja	K
119	2	30	27	25	12	5	4	9	5
(%)	1.7	25.2	22.7	21.0	10.1	4.2	3.4	7.6	4.2

### カ 淋菌分離株の薬剤感受性

分離された淋菌 28 株の薬剤耐性試験の結果を表 8 に示した。ペニシリンに対する最小発育阻止濃度が中等度 (0.12µg/ml) 以上の耐性株は 27 株 (96.4%) であった。テトラサイクリンに対する中等度 (0.5µg/ml) 以上の耐性株は 4 株 (85.7%) であった。シプロフロキサシンに対する耐性株 (≧1µg/ml) は 22 株 (78.6%) であった。セフロキシムに対する中等度 (2µg/ml) 以上の耐性株は 13 株 (56.4%) であった。セフトアキシム、セフトリアキソンおよびスペクチノマイシンにおいてはすべての株が感受性を示した。

表 8. 淋菌分離株 (28 株) の薬剤感受性

薬剤感受性	ペニシリン	テトラ サイクリン	シプロフロ キサシン	セフロ キシム	セフト タキシム	セフトリ アキソン	スペクチノ マイシン
	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性 (%)	4 14.3	2 7.1	22 78.6	5 17.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
中等度耐性 (%)	23 82.1	22 78.6	0 0.0	8 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
感受性 (%)	1 3.6	4 14.3	6 21.4	15 53.6	28 100.0	28 100.0	28 100.0

### (2) ヒトパピローマウイルス (HPV) の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 75 検体 (陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料) が搬入された。

キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法による HPV 遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価に基づいて分類した (High リスク、Low リスク及びリスク未分類)。

その結果、75 検体中 64 検体 (85.3%) から HPV 遺伝子が検出された。1 検体から 1 種類の HPV 遺伝子型が検出されたのは 43 検体 (57.3%) で、リスク評価による分類でみると、52、56、58 型などの High リスク群に分類されたものは 3 検体 (4.0%)、6、11、90、91 型などの Low リスク群に分類されたものは 39 検体 (52.0%)、リスク未分類のものが 1 検体 (1.3%) であった。また、21 検体 (28.0%) から同時に 2 種類の HPV 遺伝子型が検出された (High-Low リスク : 12 検体、Low-Low リスク : 8 検体、Low-リスク未分類 : 1 検体)。

### (3) 単純ヘルペスウイルス (HSV : HSV-1 型および HSV-2 型) の遺伝子検査

STI 病原体定点医療機関から 122 検体 (主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、又は水泡内容物) が搬入された。

キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、122 検体中 15 検体 (12.3%) から HSV-1 型、25 検体 (20.5%) から HSV-2 型の遺伝子が検出された。



## 第 3 章

### 資 料



## 2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2015年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家 施設長
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所長
○ 武 隈 孝 治	総合病院 厚生中央病院 (東京小児科医会)
永 井 英 明	独立行政法人 国立病院機構東京病院外来診療部長
尾 形 英 雄	結核予防会 複十字病院副院長
山 川 博 之	江戸川保健所長
大 井 洋	町田市保健所長
今 村 顕 史	東京都立駒込病院感染症科部長
澁 谷 智 晃	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
阿 保 満 *	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員
西 塚 至	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長谷川 道 彦	蒲田医師会 (東京泌尿器科医会)
北 村 邦 夫	一般社団法人 日本家族計画協会理事長 (東京産婦人科医会)
黒 澤 サト子	北多摩医師会 (東京小児科医会)
井 上 賢 治	神田医師会 (東京都眼科医会)
遠 藤 弘 良	東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授
平 山 宗 宏	東京大学名誉教授
池 田 忠 生	公益社団法人 東京都獣医師会監事

角 田 徹 **	東京都医師会理事 (疾病担当)
----------	-----------------

\* :平成27年9月30日まで、\*\* :平成27年6月21日まで

◎委員長 ○副委員長

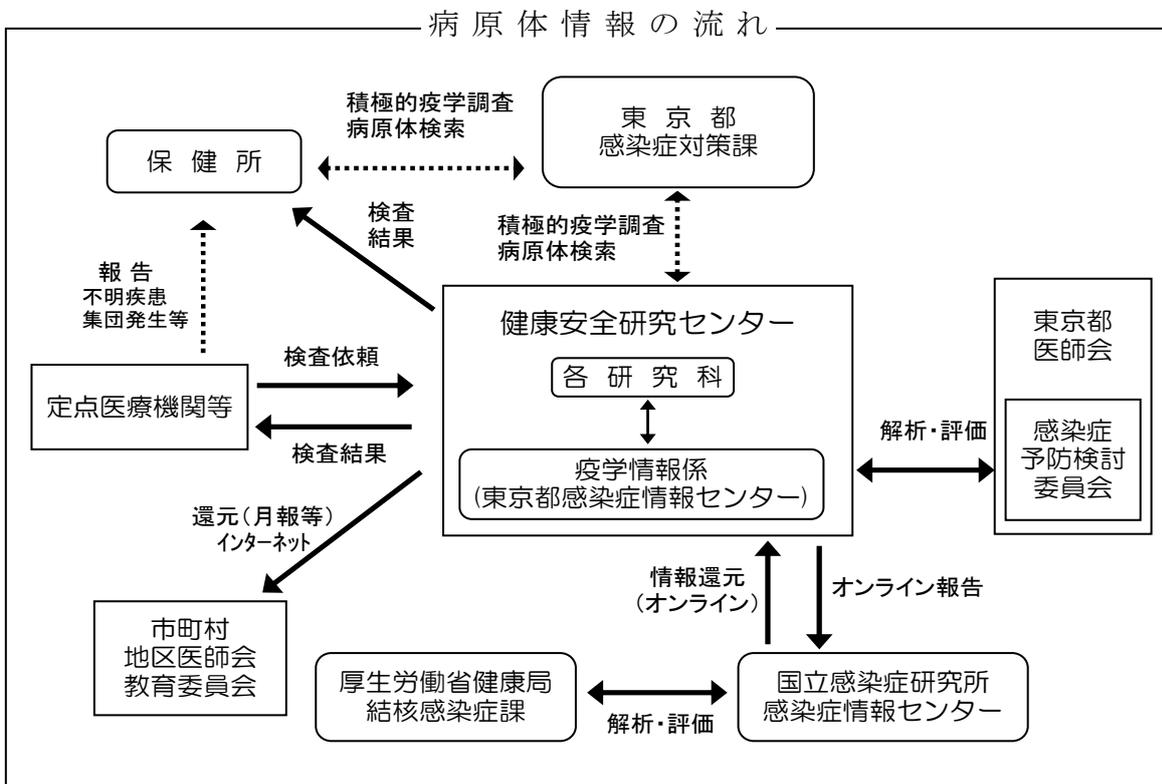
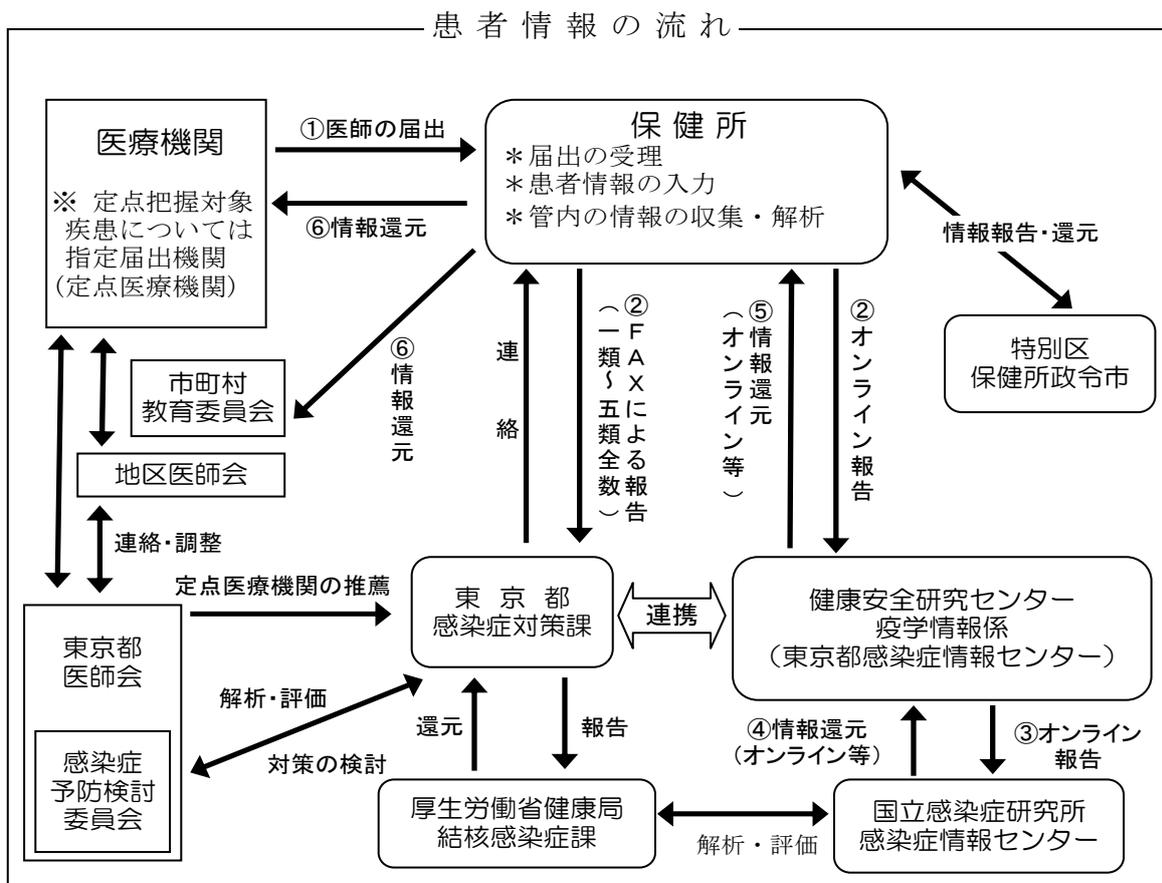
平成27年6月21日から

鳥 居 明	東京都医師会理事 (疾病担当)
-------	-----------------

平成27年11月11日から

寺 田 千 草	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長代理
---------	---

### 3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



# 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 27 福保健感第1108号

平成28年3月22日

## 第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生状況の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施するものとする。

## 第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

## 第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

## 第4 実施体制

### 1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

### 2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

（1）東京都は、定点把握対象の感染症についての、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感

感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。

- (2) 東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

### 3 検査施設

東京都内における本事業に係る検体等の検査については、健康安全研究センターにおいて実施する。健康安全研究センターは、検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

## 第5 事業の実施

### 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の74及び84に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

#### (1) 調査単位及び実施方法

##### ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の74及び84に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成28年2月12日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から2-1、2-3から4-4、5-11並びに本要綱の別記様式8及び10を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

##### イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあつては、検体等を提供する。

##### ウ 保健所

(ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

## エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

## 2 全数把握対象の五類感染症（別表1の74及び84に掲げるものを除く。）

### (1) 調査単位及び実施方法

#### ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（別表1の74及び84に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5-1から5-10、5-12から5-20及び5-22を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

#### イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

#### ウ 保健所

- (ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。  
また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。
- (イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

## エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあつては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

## 3 定点把握対象の五類感染症

### (1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

### (2) 定点の選定

#### ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

#### (ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の86から98までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

#### (イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の99に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

#### (ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の100及び101に掲げるものについては、眼科を標ぼうす

る医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の102から106までに掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の99に掲げるインフルエンザ（届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される）、別表1の107から114までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの(ア)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とし、別表1の86から98までを対象感染症とする。

(ウ) アの(ア)及び(イ)により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とし、別表1の99を対象感染症とする。また、インフルエンザ病原体定点を、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定する。

(エ) アの(ウ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定し、別表1の100及び101を対象感染症とする。

(オ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定し、別表1の102から106を対象感染症とする。

(カ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表1の99に掲げるインフルエンザ（入院患者に限る。）、別表1の107から114までを対象感染症とする。

(3) 調査単位等

ア 患者情報

調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

イ 病原体情報

病原体情報のうち、(2)のイの(ウ)により選定された病原体定点に関するものについては、別表1の99に掲げるインフルエンザの流行期（(2)のアの(イ)により選定された患者定点あたりの患者発生数が東京都全体で1を超えた時点から1を下回るまでの間）には1週間（月曜日から日曜日）を調査単位とし、非流行期（流行期以外の期間）には各月を調査

単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

#### (4) 実施方法

##### ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

##### イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等采取する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式1の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

(ウ) (2) のイの(イ)により選定された病原体定点においては、別表1の86から96までの対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を送付するものとする。

(エ) (2) のイの(ウ)により選定された病原体定点においては、別表1の99に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付するものとする。

##### ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

##### エ 保健所

(ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

(イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

(ウ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

##### オ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

#### 4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

##### (1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

##### (2) 定点の選定

###### ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

###### (ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

###### (イ) 疑似症単独定点

##### (3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

##### (4) 実施方法

###### ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式9に記載する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式2又は別記様式3による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第7条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位でK-netへの入力による報告を行う。

###### イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-netへ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康

安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集し、症候群サーベイランスシステムに入力する。また、当該情報を分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

## 5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的のために用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の規定に従い行うものとする。
- (3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

## 6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成20年7月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成23年9月5日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成25年5月22日から施行し、同年5月6日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成25年10月14日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成26年6月12日から施行し、同年5月12日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成26年8月13日から施行し、同年7月26日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成26年9月19日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成27年2月25日から施行し、同年1月21日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成27年5月21日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成28年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成28年2月15日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成28年4月1日から施行する。

## 感染症法に基づく感染症の分類

## 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
一類	1 エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2 クリミア・コンゴ出血熱					
	3 痘そう					
	4 南米出血熱					
	5 ペスト					
	6 マールブルグ病					
	7 ラッサ熱					
二類	8 急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9 結核	○	○	△※		
	10 ジフテリア	○	—	○		
	11 重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12 中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	13 鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
14 鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○			
三類	15 コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	16 細菌性赤痢	○	—	○		
	17 腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18 腸チフス	○	—	○		
	19 パラチフス	○	—	○		
四類	20 E型肝炎	○	—	○	全数	直ちに
	21 ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22 A型肝炎	○	—	○		
	23 エキノコックス症	○	—	○		
	24 黄熱	○	—	○		
	25 オウム病	○	—	○		
	26 オムスク出血熱	○	—	○		
	27 回帰熱	○	—	○		
	28 キヤサナル森林病	○	—	○		
	29 Q熱	○	—	○		
	30 狂犬病	○	—	○		
	31 コクシジオイデス症	○	—	○		
	32 サル痘	○	—	○		
	33 ジカウイルス感染症	○	—	○		
	34 重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	—	○		
	35 腎症候性出血熱	○	—	○		
	36 西部ウマ脳炎	○	—	○		
	37 ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	38 炭疽	○	—	○		
	39 チクングニア熱	○	—	○		
40 つつが虫病	○	—	○			
41 デング熱	○	—	○			
42 東部ウマ脳炎	○	—	○			
43 鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○			
44 ニバウイルス感染症	○	—	○			

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
四 類	45 日本紅斑熱	○	—	○	全数	直ちに
	46 日本脳炎	○	—	○		
	47 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	48 Bウイルス病	○	—	○		
	49 鼻疽	○	—	○		
	50 ブルセラ症	○	—	○		
	51 ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	52 ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	53 発しんチフス	○	—	○		
	54 ボツリヌス症	○	—	○		
	55 マラリア	○	—	○		
	56 野兎病	○	—	○		
	57 ライム病	○	—	○		
	58 リッサウイルス感染症	○	—	○		
	59 リフトバレー熱	○	—	○		
	60 類鼻疽	○	—	○		
61 レジオネラ症	○	—	○			
62 レプトスピラ症	○	—	○			
63 ロッキー山紅斑熱	○	—	○			
指定感染症	—	—	—	—	—	

※平成28年3月22日現在、政令に基づく指定感染症なし。

## 2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
64	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
65	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	—	—		
67	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
68	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
69	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
70	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
71	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
72	ジアルジア症	○	—	—		
73	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—		
74	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—	全数	直ちに
75	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—	全数	7日以内
76	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	○	—	—		
77	先天性風しん症候群	○	—	—		
78	梅毒	○	—	○		
79	播種性クリプトコックス症	○	—	—		
80	破傷風	○	—	—		
81	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
82	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
83	風しん	○	—	—		
84	麻しん	○	—	—		
85	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—	全数	7日以内

### 3 新型インフルエンザ等感染症

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別	時期
115	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
116	再興型インフルエンザ	○	○	○		

### 4 五類感染症（定点把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出種別 (定点)	時期
86	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
87	咽頭結膜熱	○	—	—		
88	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
89	感染性胃腸炎	○	—	—		
90	水痘	○	—	—		
91	手足口病	○	—	—		
92	伝染性紅斑	○	—	—		
93	突発性発しん	○	—	—		
94	百日咳	○	—	—		
95	ヘルパンギーナ	○	—	—		
96	流行性耳下腺炎	○	—	—		
97	不明発しん症（都単独）	○	—	—		
98	川崎病（都単独）	○	—	—		
99	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
100	急性出血性結膜炎	○	—	—		
101	流行性角結膜炎	○	—	—		
102	性器クラミジア感染症	○	—	—		
103	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
104	尖圭コンジローマ	○	—	—		
105	淋菌感染症	○	—	—		
106	膣トリコモナス症（都単独）	○	—	—		
107	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）	○	—	—		
108	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	○	—	—		
109	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)	○	—	—		
110	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
111	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
112	無菌性髄膜炎	○	—	—		
113	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
114	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

### 5 疑似症

	届出対象	届出対象者			調査単位 (期間)	時期
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
117	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	—	○	—	別表3参照	
118	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

## 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科 定点 ※	RSウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膺トリコモナス症 (都単独)		
基幹 定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	月単位	翌月初日
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

## 疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

番号	件名等
別記様式 1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式 2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 3	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 6 - 1、6 - 2	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分）
別記様式 8	麻しん発生届
別記様式 9	疑似症定点報告票
別記様式 10	結核発生届

## 感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】

医療機関名		医師名	【患者報告】 月 日 ~ 月 日 分で報告
患者報告を行った <b>該当する1種類の診断名</b> にのみ○をつけてください。 （定点把握疾患の病原体の動向把握を目的とした検査ですので、下記の診断名の疾患を対象としています） ※発生動向調査事業の趣旨をご説明いただき、本人等の同意をとったうえで、検体採取をお願いいたします。			
診断名	小児科	・RSウイルス感染症 ・咽頭結膜熱 ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ・感染性胃腸炎 ・水痘 ・手足口病 ・伝染性紅斑 ・突発性発しん ・百日咳 ・ヘルパンギーナ ・流行性耳下腺炎 ・川崎病 ・インフルエンザ ※インフルエンザ様疾患含む（迅速診断キット検査結果： A型陽性 B型陽性 陰性 ） ・不明発しん症（発熱及び発しん又は水疱を呈し、医療機関で実施可能な検査において病原体同定が困難なもの）	
	内科	・インフルエンザ ※インフルエンザ様疾患含む（迅速診断キット検査結果： A型陽性 B型陽性 陰性 ）	
	眼科	・流行性角結膜炎 ・急性出血性結膜炎	
	性感染症	・性器クラミジア感染症 ・性器ヘルペスウイルス感染症 ・尖圭コンジローマ ・淋菌感染症 ・陰トリコモナス症	
	基幹	・クラミジア肺炎（オウム病を除く） ・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスに限る） ・マイコプラズマ肺炎 ・細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とするものを除く） ・無菌性髄膜炎 ・インフルエンザ ※入院患者のみ（迅速診断キット検査結果： A型陽性 B型陽性 陰性 ） ・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 ・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 ・薬剤耐性緑膿菌感染症	
ID（イニシャル）		居住地 区市町村	
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日 性別 男・女 年齢 歳 月
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・髄液 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・陰部尿道頸管擦過物／分泌物 ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂） ・血液（全血、血清、血漿） ・その他 [ ]		
	・発熱（最高 ℃） ・口内・咽頭所見（ ） ・頭痛 ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹（部位 ） ・発疹（丘疹、紅斑、バラ疹、水疱） ・胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・上気道/下気道炎（咽頭炎、扁桃炎、肺炎、気管支炎） ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・筋肉痛、関節痛 ・腎機能障害 ・神経系症状（脳炎、脳症、髄膜炎、意識障害） ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・尿路生殖器症状（排尿時痛、かゆみ、膿、下腹部痛、コンジローマ）		
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡（原因 ）		
基礎疾患			
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生（保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 [ ]）		
最近の海外渡航歴	国名	期間	年 月 日 ~ 年 月 日
ワクチン接種歴 （当該疾患に係るもの）	（ 無、有、不明 ） 最近の接種年月日 ワクチン名 年 月 日		

センター記入欄につき  
ここには記入しないでください。

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ~ 月 日(日) 医療機関名: \_\_\_\_\_

疾患名	年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合計
	男	女															
RSウイルス感染症	男																
	女																
咽頭結膜熱	男																
	女																
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男																
	女																
感染性胃腸炎	男																
	女																
水痘	男																
	女																
手足口病	男																
	女																
伝染性紅斑	男																
	女																
突発性発しん	男																
	女																
百日咳	男																
	女																
ヘルパンギーナ	男																
	女																
流行性耳下腺炎	男																
	女																
不明発しん症	男																
	女																
川崎病	男																
	女																

注1) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です。  
 注2) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

疾患名	年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
	男	女														
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症を のぞく)	男															
	女															
	男	30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合計								
	女															

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
※			

- ※注
- 1週間の疑似症発症件数を全て記入してください。
  - 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

週報

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフ ルエンザ等感染症 をのぞく)	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	月												合計								
				2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39		40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上			
男																								
女																								

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状		2. 発熱及び 発しん・水泡		合計
	※				

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生动向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計	
																					男
急性出血性 結膜炎																					
流行性角結膜炎																					

定点医療機関 からのコメント
-------------------



感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾病名*	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法**	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

\* 疾病名

- 1: 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。)
- 2: 無菌性髄膜炎 (真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)
- 3: マイコプラズマ肺炎
- 4: クラミジア肺炎 (全数届出疾患のオウム病を除く)
- 5: 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)

\*\* 病原体検査方法

- 1: 分離・同定
- 2: 抗原検出
- 3: 核酸検出 (PCR・LAMP等)
- 4: 塗抹検鏡
- 5: 電顕
- 6: 抗体検出
- 7: その他

<記載上の注意>

- ・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は、その病原体名 (複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載)、その結果を得た病原体検査方法 (複数の場合は、最も根拠となった方法一つを選択) 及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください (病原体検査欄の記載は不要)。
- ・マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法 (1, 2, 3, 6, 7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。
- ・クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法 (1, 2, 3, 6, 7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。
- ・感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。): 病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法 (1, 2, 3, 7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。 ※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

感染症発生動向調査(基幹定点)  
(インフルエンザによる入院患者の報告)

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であげてください。

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名

ID番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応				備考	
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)		脳波検査 (予定含む)
1	男・女							
2	男・女							
3	男・女							
4	男・女							
5	男・女							
6	男・女							
7	男・女							
8	男・女							
9	男・女							
10	男・女							
11	男・女							
12	男・女							
13	男・女							
14	男・女							
15	男・女							

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者(院内感染を含む)を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ~ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢	疾 病 名 *	検体採取部位 **
		(0歳は月齢)		
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

\* 疾病名 (番号を○で囲む)  
 1 : メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症  
 2 : ペニシリン耐性肺炎球菌感染症  
 3 : 薬剤耐性緑膿菌感染症

\*\* 検体採取部位  
 複数部位から検出された場合は、  
 最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-21

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_  
 （署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称 \_\_\_\_\_

上記病院・診療所の所在地(※) \_\_\_\_\_

電話番号(※) ( ) - ( ) (※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断（検案）した者（死体）の類型					
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体					
2 当該者氏名	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業	
	男・女	年 月 日	歳 ( 月)		
7 当該者住所					
電話 ( ) -					
8 当該者所在地					
電話 ( ) -					
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)				
	電話 ( ) -				

病 型		13 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例）		①感染原因・感染経路（ 確定・推定 ）
3) 修飾麻しん（検査診断例）		1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：
11 症状	・発熱（ 月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血	（ ）
	・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹（ 月 日出現）	2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：
12 診断方法	・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クルーズ	（ ）
	・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ）	3 その他（ ）
	陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。	②感染地域（ 確定 ・ 推定 ）
	(ア) 分離・同定による病原体の検出	1 日本国内（ 都道府県 市区町村）
	検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ）	2 国外（ 国
	検体採取日（ 月 日 ）	詳細地域（ ） 渡航期間（ ）
	結果（ 陽性・陰性 ） 遺伝子型：（ ）	③麻しん含有ワクチン接種歴
	(イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出	1回目 有（ 歳）・無・不明
	検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ）	ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明）
	検体採取日（ 月 日 ）	接種年月日（ S・H 年 月 日・不明）
結果（ 陽性・陰性 ） 遺伝子型：（ ）	製造会社/Lot番号（ / ・不明）	
(ウ) 血清IgM抗体の検出	2回目 有（ 歳）・無・不明	
検体採取日（ 月 日 ）	ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明）	
結果（ 陽性・陰性・判定保留 ） 抗体価：（ ）	接種年月日（ S・H 年 月 日・不明）	
(エ) ペア血清での抗体の検出	製造会社/Lot番号（ / ・不明）	
検体採取日（1回目 月 日 2回目 月 日）	14 初診年月日 平成 年 月 日	
抗体価（1回目 2回目）	15 診断（検案(※)）年月日 平成 年 月 日	
結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇	16 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	
検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ）	17 発病年月日（*） 平成 年 月 日	
(オ) その他の検査方法（ ）	18 死亡年月日(※) 平成 年 月 日	
検体（ ）	19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のため	
検体採取日（ 月 日 ）	に医師が必要と認める事項	
結果（ ）		
(カ) 臨床決定（ ）		

(1, 3, 11 から 13 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 14 から 18 欄は年齢、年月日を記入すること。(※) 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(\*) 欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。)

診断した医師の方へのお願い

感染症法第15条により、積極的疫学調査を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な感染拡大防止のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、下記及び裏面調査票により情報提供をお願い致します。

ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ）	))
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ）	))
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ）	))

保健所への裏面調査票記載の情報提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。  
質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

所属名（保育園、学校、勤務先等）	
連絡先（保育園、学校、勤務先）	（            ）            —
同居している家族の構成	

-----

質問1 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間：    月    日～    月    日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（            ）、期間    月    日～    月    日）
- 3) 咳：無、不明、有（    月    日～    月    日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（    月    日～    月    日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（    月    日～    月    日）

質問2 患者の周囲の方についてお聞きします。

- 1) 患者家族や周囲の方で、最近、麻しんに罹患した人はいますか。  
無、有（患者との関係：            、年齢：    歳）
- 2) 患者家族などで麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいますか。  
無、有（患者との関係：            、年齢：    歳）

質問3 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きします。発熱初日の2週間前から解熱3日後までの期間についてお答えください。

- 1) 海外渡航歴 無、有    渡航先（            ）、渡航期間（    月    日～    月    日）
- 2) 最終登園・登校・出勤日：（    月    日）
- 3) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所：            時期：            ）

## 感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日

医療機関名: \_\_\_\_\_

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
2	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
3	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
4	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
5	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
6	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
7	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
8	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
9	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
10	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）  
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

**結 核 発 生 届**

東京都知事 (保健所) } 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条  
特別区長 (保健所) } 殿 第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。  
保健所政令市長 (保健所) } 報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 \_\_\_\_\_ 印 (署名又は記名押印のこと)  
従事する病院(科)・診療所の名称 \_\_\_\_\_  
上記病院・診療所の所在地(※) \_\_\_\_\_  
電話番号(※) ( ) - \_\_\_\_\_  
(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

この届出は診断後直ちに行ってください

1 診断(検案)した者(死体)の類型					
1) 患者(確定例)	2) 無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)	3) 疑似症患者	4) 感染症死亡者の死体	5) 感染症死亡疑い者の死体	
2 当該者氏名(ふりがな)	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業(具体的に)	
( )	男・女	年 月 日	歳 ( か月)		
7 当該者住所					
電話 ( ) -					
8 当該者所在地					
電話 ( ) -					
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)				
	電話 ( ) -				

病 型		18 感染原因・感染経路・感染地域																			
1) 肺結核 2) その他の結核 ( )		① 感染原因・感染経路 (確定・推定) 1 飛沫核・飛沫感染 (感染源の種類・状況) [ ] 2 その他 ( ) ② 感染地域 (確定・推定) 1 日本国内 ( 都道府県 市町村) 2 国外 ( 国 詳細地域 ) 19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項 1) 診断時の入院在宅の別 入院(予定)日: 月 日 ・ 在宅 (医療機関名: ) 2) 当該者の同居者数 人(うち乳幼児 有・無) ・ 単身 3) その他 [ ]																			
11 症状	・せき ・たん ・発熱 ・胸痛 ・呼吸困難 ・その他 ( ) ・なし																				
12 診断方法	遺病原子体の検出原																				
	1) 塗抹検査 ( - ± 1+ 2+ 3+ ) 又はG 号 検体: 喀痰・その他 ( )																				
	2) 培養検査 - + ( 個 ) 検査中 検体: 喀痰・その他 ( )																				
	3) 核酸増幅法 - + 未実施 検体: 喀痰・その他 ( )																				
4) 病理検査における特異的所見の確認 検体: ( ) 所見: ( )																					
5) ツベルクリン反応検査 月 日判定 x x ( x ) (発赤・硬結・水泡・壊死)																					
6) リンパ球の菌特異蛋白刺激による放出インターフェロンγ試験 月 日実施(陽性・判定保留・陰性)																					
7) 画像検査における所見の確認 学会分類 ※○で囲む。 その他 <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>病側</td> <td>r</td> <td>l</td> <td>b</td> <td>該当なし</td> </tr> <tr> <td>病型</td> <td>I</td> <td>II</td> <td>III</td> <td>IV</td> <td>V</td> <td>H</td> <td>Pl</td> <td>Op</td> <td>O</td> </tr> <tr> <td>拡がり</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>該当なし</td> </tr> </table> ( )			病側	r	l	b	該当なし	病型	I	II	III	IV	V	H	Pl	Op	O	拡がり	1	2	3
病側	r	l	b	該当なし																	
病型	I	II	III	IV	V	H	Pl	Op	O												
拡がり	1	2	3	該当なし																	
8) その他の方法 ( ) 検体 ( ) 結果 ( )																					
9) 臨床決定 ( )																					
13 初診年月日	平成 年 月 日	(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(*)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)																			
14 診断(検案(※))年月日	平成 年 月 日																				
15 感染したと推定される年月日	平成 年 月 日																				
16 発病年月日(*)	平成 年 月 日																				
17 死亡年月日(※)	平成 年 月 日																				

感染症発生動向調査事業報告書  
平成 27 年（2015 年）

平成 28 年 7 月

登録番号 (28) 4

編集・発行 東京都健康安全研究センター  
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-24-1  
電 話 (03) 3363-3231  
印刷所 有限会社 雄久社  
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷 1-24-7  
電 話 (03) 5451-7030

